# 南小泉遺跡

第30·31次発掘調查報告書

1998年3月

仙台市教育委員会

# 南小泉遺跡

第30·31次発掘調查報告書

1998年3月

仙台市教育委員会

# 序 文

仙台市若林区にある南小泉遺跡は、昭和初めの霞ノ目飛行場の拡張工事によってその存在が知られるようになりました。遺跡は仙台バイパスを挟んで東西に広がっており、弥生・古墳時代の集落遺跡として仙台を代表する遺跡として知られています。

近年までは田畑が広がる田園地帯でしたが、急速に宅地開発が進みそうした面 影もなくなりつつあります。

南小泉遺跡での調査は今回で第31次を数えるまでになりましたが、今回特に注目される発見として、第30次調査では古墳時代中期の大規模な集落の存在が確認され、第31次調査では古墳時代や平安時代の良好な遺物の出土がありました。

先人たちの遺した貴重な文化遺産を次の世代に継承していくことは、現代に生きる私達の大きな責務であると考えます。文化財保護につきましては、地域の皆様の深い御理解と御協力が必要となります。その意味でも今回の発見が、地域の歴史を説き明かしていくための貴重な資料となり、この報告書が学術研究のみならず学校教育や生涯学習の場で活用されれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査や報告書の作成に際しまして御協力いただきました地元の皆様はじめ、関係された方々に心より御礼申し上げます。

1998年3月

仙台市教育委員会 教育長 堀 籠 克 彦

# 例 言

- 1 本書は、仙台市若林区遠見塚・南小泉地区での宅地造成工事に伴う、南小泉遺跡第30・31次調査の発掘調査報告書である。
- 2 報告書作成のための遺物整理は、工藤信一郎・渡部 紀・根本光一が担当し、工藤哲司が協力した。本書の編集は工藤・渡部が行い、執筆については、第30次調査については工藤が、第31次調査については根本が、遺物については渡部がそれぞれ分担した。
- 3 陶器・磁器の鑑定は当課の佐藤 洋がおこなった。
- 4 本調査における出土遺物・実測図・写真等の資料は、仙台市教育委員会文化財課で保管しているので活用されたい。
- 5 本遺跡の調査成果については、現地説明会での発表資料および概要報告についての刊行物があるが、本書の記載内容がそれらに優先されるものである。

# 凡 例

- 1 本書中で使用した地形図は、建設省国土地理院発行の1:25,000「仙台市東南部」の一部を使用している。
- 2 本書中で使用した航空写真は、建設省国土地理院(1947年米軍撮影)のものを使用している。
- 3 本書中の土色については「新版標準土色帳」(小山・竹原1973)を使用した。
- 4 調査区は、平面直角座標系Xに位置付けている。
- 5 実測図中の水糸高は標高で統一している。
- 6 実測図中の方位は磁北で統一している。仙台市において磁北は真北に対して西偏約7°20′である。
- 7 本書で使用した遺構略号は次のとおりである。
  - SB:建物跡 SI:竪穴住居跡・竪穴遺構 SD:溝跡 SK:土坑 P:ピット・柱穴
  - SX:性格不明遺構
- 8 竪穴住居跡内のスクリーントーン部分は、焼土・炭の分布範囲を示している。
- 9 本書で使用した遺物略号は次のとおりで、それぞれ種類別に番号を付した。
  - B:弥生土器 C:土師器(ロクロ不使用) D:土師器(ロクロ使用) E:須恵器 G:平瓦 I:陶器
  - J:磁器 K:石器·石製品 N:金属製品 P:土製品
- 10. 土器・石器の実測図中スクリーントーンを貼付したものは次の状態を示している。



内黑



藝面



敲打面

- 11. 遺物の「長さ・幅」は、図化した位置での縦・横の長さを計測した。「厚さ」は最大厚である。土玉は、上面観の図における縦横を「長さ・幅」に、側面観の長さを「厚さ」として計測した。石匙は刃部長を長さとした。
- 12 石器の石材同定は、職員の肉眼観察による。

# 

1 対象遺跡 南小泉遺跡(宮城県遺跡登録番号01021 仙台市登録番号C-102)

2 遺跡の所在地 第30次調査 仙台市若林区遠見塚1丁目242-4他

第31次調查 仙台市若林区南小泉 4 丁目27-1他

3 調査主体 仙台市教育委員会

仙台市教育局生涯学習部文化財課調査第二係 4 調査担当

主事 工藤信一郎 主事 渡部 紀(遺物整理のみ) 文化財教諭 根本光一 5 担当職員

野外調査 第30次調査 1996年5月7日~9月13日 (実働81日) 調査期間

第31次調査 1996年9月17日~11月14日 (実働36日)

室内整理 1996年11月18日~97年3月25日 (実働74日・高砂埋蔵文化財整理室)

第30次調査 調査対象面積 約4,130m² 発掘調査面積 約400m² 7 調査面積

第31次調查 調查対象面積 約2,130m² 発掘調查面積 約150m²

8 発掘調査参加者

伊藤 房江 泉 美恵子 永野 泰治 (桜井 芳子) 小林 悦子 (日下 啓子) 高橋 勝恵 (鈴木みよ子) (小沼ちえ子) (佐藤 利子) 佐藤 愛子 佐藤ゆう子 根岸 ゆみ 佐藤リキ子 三浦 市子 佐藤よし子 横山美智子 (鈴木美代子) 水戸 智 佐藤 久栄 (山並 明夫) (村田 健三) 関口 国夫 渡辺 純子 相沢 守 ※ ( )30次調査のみ参加

9 整理作業参加者

伊藤 房江 泉 美恵子 高橋 勝恵 佐藤 愛子 横山美智子 根岸 ゆみ 水戸 佐藤 久栄 渡辺 純子 相沢 青山 諒子 伊藤 幸子 智 守 高橋 美香 山田やす子 鈴木 峰子 千葉 恭子 境 一美 相沢美佐子 雫石 良子

10 調査協力 合資会社 泉屋商店(30次調査)

大垣建設株式会社 (31次調査)

# 本 文 目 次

I		:至る経過····································	
	1. 第	₹30次調査⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯1	
	2. 第	§31次調査·······1	
II		)位置と環境	
	1. 谴	貴跡の位置と立地	
	2. 周	引辺の歴史的環境·······1	
III		<b>マ調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</b>	
		<b>3</b> 査の方法と調査経過	
		香区の設定	
		3査の概要	
	4. 羞	\$本層序····································	
	5. 新	<b>&amp;見された遺構と出土遺物1</b> 2	2
	(1)	古墳時代	2
		①竪穴住居跡・竪穴遺構	
		②竪穴住居跡・土坑出土石製模造品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	(2)	古 代	1
		①竪穴住居跡	1
		②掘立柱建物跡	)
		③小溝状遺構群	3
	(3)	中世~近世·····	1
		①屋敷跡	1
		(a)区画溝跡	
		(b)掘立柱建物跡	
		(c)30次調査区周辺の中世の屋敷跡・城館の変遷について	
		②墓 壙89	)
		③階段付地下式坑	9
		<b>④</b> 溝 跡·······99	3
		⑤土坑・その他の遺構	ō
		(a)土坑	
		(b)ピット	
	(4)	遺構外出土遺物	3
		①弥生土器	3
		②弥生時代の石器10;	3

IV	第31	次調査109
	1.	調査の方法と調査経過109
	2.	調査区の設定109
	3.	調査の概要109
		基本層序
	5.	発見された遺構と出土遺物
	(1)	古墳時代~奈良時代
		①竪穴住居跡・竪穴遺構110
	(2)	古 代
		①鍛冶遺構
		②小溝状遺構群
	(3)	中世~近世
		①溝 跡
		②土坑・その他の遺構 ·······139
		(a)土坑
		(b)ピット
	(4)	遺構外出土遺物
V	考	察
	1. H	出土遺物の検討 ····································
	(1)	第30次調査
		①古墳時代の土師器について ·······150
		②須恵器の技法の認められる土師器について
		③平安時代の遺物について
		④黒曜石石器 ···································
	(2)	第31次調査
	. ,	①古墳時代の土師器について ········151
		②平安時代の遺物について
		3 鍛冶遺構の出土遺物について
	2. 検	: 352 注出された遺構の検討
		第30次調査
	(1)	①竪穴住居跡について ·······152
		②屋敷跡について ·······152
		③墓壙群と階段付地下式坑について
	(2)	第31次調査
	(4)	①竪穴住居跡について ····································
		<u> Фэг</u> /\ <u>L/Пијук</u> С J V 2 С
VI	まとめ	155

# 挿 図 目 次

第1図	南小泉遺跡と周辺の遺跡2	第35図	SI25 竪穴住居跡平面図·断面図 ······36
第2図	第30・31次調査区とこれまでの調査区	第36図	SI25 竪穴住居跡出土遺物37
	5	第37図	SI13 竪穴住居跡平面図・断面図38
第3図	第30次調査区配置図6	第38図	SI13 カマド平面図・断面図39
第4図	第30次調査区と周辺の調査7	第39図	SI13 竪穴住居跡出土遺物40
第5図	調査区基本層序8	第40図	SI32 竪穴住居跡平面図・断面図41
第6図	第1トレンチ平面図・断面図8	第41図	SI32 竪穴住居跡出土遺物(1)43
第7図	下層調査区平面図・断面図9	第42図	SI32 竪穴住居跡出土遺物(2)44
第8図	第30次調查遺構配置図(1)竪穴住居跡10	第43図	SI14 竪穴住居跡平面図・断面図46
第9図	第30次調查遺構配置図(2)中近世遺構11	第44図	SI14 カマド平面図・断面図47
第10図	SI01 竪穴住居跡平面図・断面図12	第45図	SI14 竪穴住居跡出土遺物(1)48
第11図	SI01 竪穴住居跡出土遺物13	第46図	SI14 竪穴住居跡出土遺物(2)49
第12図	SI30 竪穴住居跡平面図・断面図14	第47図	SI14 竪穴住居跡出土遺物(3)50
第13図	SI30 竪穴住居跡出土遺物14	第48図	SI35 竪穴住居跡・出土遺物51
第14図	SI02 竪穴住居跡平面図・断面図15	第49図	SI15 竪穴遺構平面図・断面図52
第15図	SI02 竪穴住居跡出土遺物16	第50図	SI15 竪穴遺構出土遺物53
第16図	SI03・04 竪穴住居跡平面図・	第51図	SI16 竪穴住居跡 · 出土遺物54
	断面図·出土遺物 ······17	第52図	SI23 竪穴遺構平面図・断面図55
第17図	SI06・07 竪穴遺構平面図・断面図18	第53図	SI31 竪穴住居跡平面図・断面図55
第18図	SI06・07 竪穴遺構出土遺物19	第54図	SI31 竪穴住居跡出土遺物56
第19図	SI08 竪穴遺構平面図・断面図・出土遺物	第55図	SI34 竪穴遺構平面図・断面図57
	20	第56図	SI18 竪穴住居跡 · 出土遺物58
第20図	SI05 竪穴住居跡平面図・断面図22	第57図	SI19 竪穴住居跡平面図・断面図59
第21図	SI05 カマド平面図・断面図23	第58図	SI19 竪穴住居跡出土遺物60
第22図	SI05 竪穴住居跡出土遺物24	第59図	SI21 竪穴住居跡・出土遺物61
第23図	SI09・10 竪穴住居跡平面図・断面図25	第60図	SI24 竪穴住居跡 · 出土遺物 · · · · · · 62
第24図	SI09 竪穴住居跡出土遺物26	第61図	SI26 竪穴住居跡平面図・断面図63
第25図	SI10 竪穴住居跡出土遺物27	第62図	SI26 竪穴住居跡出土遺物(1)65
第26図	SI22 竪穴住居跡平面図・断面図28	第63図	SI26 竪穴住居跡出土遺物(2)66
第27図	SI27・29 竪穴住居跡平面図・断面図29	第64図	SI26 竪穴住居跡出土遺物(3)67
第28図	SI27 竪穴住居跡出土遺物30	第65図	SI20 竪穴住居跡平面図・断面図68
第29図	SI28 竪穴住居跡平面図・断面図30	第66図	住居跡・土坑出土石製模造品(1)70
第30図	SI33 竪穴遺構平面図・断面図31	第67図	住居跡・土坑出土石製模造品(2)71
第31図	SI11 竪穴住居跡平面図・断面図32	第68図	SI17 竪穴住居跡平面図·断面図 ······75
第32図	SI11 竪穴住居跡出土遺物33	第69図	SI17 床面検出遺構・断面図76
第33図	SI12 竪穴住居跡平面図・断面図34	第70図	SI17 焼土遺構・断面図76
第34図	SI12 竪穴住居跡出土遺物35	第71図	SI17 掘り方検出遺構・断面図77

第72図	SI17 竪穴住居跡出土遺物(1)78		第103図	SI02 竪穴住居跡出土遺物(1)114
第73図	SI17 竪穴住居跡出土遺物(2)79		第104図	SI02 竪穴住居跡出土遺物(2) ······115
第74図	SI17 竪穴住居跡出土遺物(3)80		第105図	SI02 竪穴住居跡出土遺物(3)116
第75図	SB01・04 建物跡平面図・断面図81		第106図	SI07 竪穴住居跡平面図・断面図117
第76図	SB01・04 建物跡平面図・断面図82		第107図	SI07 竪穴住居跡出土遺物118
第77図	小溝状遺構群平面図 ·····83		第108図	SI11 竪穴住居跡平面図・断面図119
第78図	屋敷区画溝跡第30·17次調査区合成図		第109図	SI03 竪穴住居跡・出土遺物120
	84		第110図	SI09 竪穴住居跡平面図・断面図121
第79図	SD01 屋敷区画溝跡平面図・断面図85		第111図	SI09 竪穴住居跡・出土遺物122
第80図	SD01 屋敷区画溝跡出土遺物86		第112図	SI04 竪穴住居跡平面図·断面図 ······123
第81図	SB02 • 03 建物跡平面図 • 断面図87		第113図	SI04 竪穴住居跡出土遺物124
第82図	第30次調査区周辺で確認された中世屋敷跡		第114図	SI08 竪穴遺構・出土遺物125
	88		第115図	SI05 竪穴住居跡平面図・断面図126
第83図	墓壙・階段付地下式坑配置図90		第116図	SI05 カマド平面図・断面図127
第84図	墓壙平面図・断面図90		第117図	SI05 竪穴住居跡出土遺物129
第85図	墓壙出土遺物91		第118図	SI01 床面土壌サンプル採取グリッド配置図
第86図	階段付地下式坑平面図・断面図92			130
第87図	SD02 溝跡平面図 • 断面図 · · · · · 93		第119図	SI01 竪穴遺構平面図·断面図131
第88図	SD02 溝跡出土遺物94		第120図	SI01 竪穴遺構出土遺物132
第89図	SD02 • 10 溝跡出土遺物95		第121図	鍛冶遺構関連ピット群平面図132
第90図	土坑平面図·断面図(1)·····98		第122図	鍛冶遺構関連ピット群出土遺物133
第91図	土坑平面図·断面図(2)·····99		第123図	小溝状遺構群平面図·断面図······133
第92図	土坑・ピット出土遺物100		第124図	SD02・16 溝跡平面図・断面図135
第93図	遺構外出土遺物(1)104		第125図	SD03・11・12 溝跡平面図・断面図136
第94図	遺構外出土遺物(2)105		第126図	溝跡出土遺物(1)138
第95図	弥生土器(1)106		第127図	溝跡出土遺物(2)139
第96図	弥生土器(2)107		第128図	土坑平面図·断面図(1)······142
第97図	<b>剝片石器 ······108</b>		第129図	土坑平面図·断面図(2)·····143
第98図	第31次調査区配置図109		第130図	土坑・ピット出土遺物(1)145
第99図	第31次調査区と周辺の調査110		第131図	土坑・ピット出土遺物(2)146
第100図	基本層序110		第132図	遺構外出土遺物149
第101図	第31次調査遺構配置図 ······111 • 112			
第102図	SI02 竪穴住居跡平面図・断面図113			
	表	目	次	
第1表	南小泉遺跡次数別調査成果一覧(1)3		第5表	石製模造品集計表(2)73
第2表	南小泉遺跡次数別調査成果一覧(2)4		第6表	石製模造品集計表(3)74
第3表	第30次調査石製模造品遺構別集計表69		第7表	第30次調查小溝状遺構集計表83
第4表	石製模造品集計表(1)72		第8表	第30次調査土坑集計表96

第10表	第30次調査ピット集計観察表(1)101	第16表	第31次調査ピット集計観察表(1)147
第11表	第30次調査ピット集計観察表(2)102	第17表	第31次調査ピット集計観察表(2)148
第12表	第31次調査小溝状遺構集計表134	第18表	第31次調査ピット集計観察表(3)149
第13表	第31次調査土坑集計表140	第19表	第31次調査石製模造品遺構別集計表149
第14表	第31次調査土坑埋土註記表(1)144	第20表	黒曜石の出土状況151
	写真図	版目次	
写真 1	南小泉遺跡航空写真157	写真29	SI-13 カマド(南から) ······162
「30次割	調査遺構写真」	写真30	SI-32 全景(南から) ······163
写真 2	調査区遠景(西から)158	写真31	SI-32 遺物出土状況(東から) ······163
写真 3	II区中近世遺構全景(東から)158	写真32	SI-32 遺物出土状況(北から)163
写真 4	I 区住居跡群全景(西から)159	写真33	SI-14 全景(南から) ······163
写真 5	II・III区住居跡群全景(東から)159	写真34	SI-14 カマド(南から)163
写真 6	SI-01 全景(西から) ······160	写真35	SI-14 遺物出土状況(南から)163
写真7	SI-30 全景(西から) ·····160	写真36	SI-15 全景(西から) ·····163
写真8	SI-02 全景(西から) ······160	写真37	SI-16 全景(南から) ·····163
写真9	SI-03・04 全景(西から)160	写真38	SI-23 全景(東から) ······164
写真10	SI-06・07 全景(東から)160	写真39	SI-31 全景(北から) ·····164
写真11	SI-08 全景(西から) ·····160	写真40	SI-31 遺物出土状況(北から)164
写真12	SI-05 全景(南から)160	写真41	SI-34 全景(南から) ·····164
写真13	SI-05 カマド(南から)160	写真42	SI-18 全景(北から) ······164
写真14	SI-05 カマド遺物出土状況(北から)	写真43	SI-18・SK-1 (北から)164
	161	写真44	SI-19 全景(南から) ······164
写真15	SI-09 全景(南から) ·····161	写真45	SI-21 全景(南から) ······164
写真16	SI-10 全景(南から) ······161	写真46	SI-24 床面検出状況(北から)165
写真17	SI-22 床面検出状況(南から)161	写真47	SI-26 全景(南から) ······165
写真18	SI-27 全景(南から) ······161	写真48	SI-26 遺物出土状況(西から)165
写真19	SI-29 床面検出状況(東から)161	写真49	SI-20 全景(南から) ······165
写真20	SI-28 床面検出状況(南から)161	写真50	SI-17 全景(南から) ······165
写真21	SI-33 全景(南から) ·····161	写真51	SB-01 全景(北から)165
写真22	SI-11 全景(南西から)162	写真52	SK-17 全景(西から)165
写真23	SI-11 遺物出土状況(東から)162	写真53	SK-18・19 全景(西から)165
写真24	SI-12 床面検出状況(南から)162	写真54	SK-19 遺物出土状況(南から)166
写真25	SI-12 遺物出土状況(南から)162	写真55	SK-24 全景(北から)166
写真26	SI-25 床面検出状況(南から)162	写真56	SK-26 全景(北から)166
写真27	SI-25 遺物出土状況(南から)162	写真57	SK-28 全景(南から)166
写真28	SI-13 全景(南から) ······162	写真58	SK-23 全景(南から)166

第 9 表 第 30次調査土坑埋土註記表············97 第 15表 第 31次調査土坑埋土註記表(2) ··········145

SD-01 全景(北から)166	写真94 SI-07 床面検出状況(西から)188
SD-01 北壁セクション(南から)166	写真95 SI-11 全景(西から)188
SB-02・03 全景(南から)166	写真96 SI-03 全景(西から)188
SD-02 全景(南西から)167	写真97 SI-09 全景(西から)188
SD-02 北壁セクション(南から)167	写真98 SI-09 遺物出土状況(西から)188
SD-02 集石部(南から)167	写真99 SI-04 全景(西から)189
SK-21・22 全景(南から)167	写真100 SI-08 床面検出状況(西から)189
SK-21 全景(南から)167	写真101 SI-05 全景(西から)189
SK-22 全景(南から)167	写真102 SI-05 カマド(南から)189
下層調査区西壁セクション(東から)	写真103 SI-05カマド(南から)189
167	写真104 SI-05 遺物出土状況(南から)189
第30次調査参加者167	写真105 SI-01 全景(西から)189
調査出土遺物写真」	写真106 SI-01 遺物出土状況(西から)190
土師器(1)168	写真107 SD-02 全景(西から)190
土師器(2)169	写真108 SD-02 西壁セクション(東から)190
土師器(3)170	写真109 SD-16 全景(西から)190
土師器 (4)171	写真110 SD-16 セクション(東から)190
土師器 (5)172	写真111 SD-03・11・12 全景(南から)190
土師器(6)173	写真112 SD-03・11 全景(西から)190
土師器 (7)174	写真113 SD-03・11 西壁セクション(東から)
土師器(8)175	190
土師器(9)176	写真114 SD-12 セクション(西から)190
土師器・須恵器177	「31次調査出土遺物写真」
須恵器・土師質土器・磁器178	写真115 土師器・須恵器191
古銭・陶磁器・瓦179	写真116 土師器(2)192
礫石器180	写真117 土師器 (3)193
礫石器・石製品・土製品181	写真118 土師器・陶磁器・瓦・弥生土器194
鉄製品182	写真119 礫石器・石臼・羽口・鉄滓など195
石製模造品183	写真120 土製品・石製品・鉄製品・古銭196
弥生土器184	
弥生土器・剝片石器・管玉・ガラス玉	
185	
黒曜石の石器・鉄滓186	
調査遺構写真」	
Ⅱ・Ⅲ区中近世遺構全景(北から)187	
I ・II 区住居跡群全景(南から)187	
SI-02 全景(東から)188	
SI-02 遺物出土状況(西から)188	
	SD-01 北壁セクション(南から) 166 SB-02・03 全景(南から) 167 SD-02 全景(南西から) 167 SD-02 北壁セクション(南から) 167 SD-02 集石部(南から) 167 SK-21・22 全景(南から) 167 SK-21 全景(南から) 167 SK-21 全景(南から) 167 SK-22 全景(南から) 167 FM30次調査を加者 167 調査出土遺物写真」 168 土師器(1) 168 土師器(2) 169 土師器(3) 170 土師器(4) 171 土師器(6) 173 土師器(6) 173 土師器(7) 174 土師器(8) 175 土師器(9) 176 土師器・須恵器 177 須恵器・土師質土器・磁器 178 古銭・陶磁器・瓦 179 礫石器 180 礫石器・石製品・土製品 181 鉄製品 182 石製模造品 183 弥生土器 184 弥生土器・剝片石器・管玉・ガラス玉 185 黒曜石の石器・鉄滓 186 調査遺構写真」 187 I・II区住居跡群全景(南から) 187 I・II区住居跡群全景(南から) 187 I・II区住居跡群全景(南から) 187 I・II区住居跡群全景(南から) 187

# Ⅰ 調査に至る経過

#### 1. 第30次調査

南小泉遺跡内の若林区遠見塚一丁目地内において、菅原輝雄氏により宅地造成工事が計画されたことから事前協議を行い、その後平成6年11月9日付けで発掘届が提出された。計画では盛り土工法となっていることから、調査は道路部分を対象として行い、必要に応じて拡張することとした。平成8年3月に造成計画及び設計の変更と、申請者を及川善夫氏にしたい旨の申し入れがあったことから再度協議を行い、当初の調査対象区を分割して I 期工区分について事前調査を行なうこととなった。

調査は、平成8年5月から約4ヵ月の予定で開始した。

# 2. 第31次調查

南小泉遺跡内の若林区南小泉四丁目地内において、加藤万太氏により集合住宅建築工事が計画されたことから事前協議を行い、その後平成7年7月24日付けで発掘届が提出された。平成7年8月試掘調査を行なった結果、多数の遺構が確認されたことから再び協議を行い、翌年事前調査を行なうこととなった。計画では建物部分は盛り土工法となっていることから、調査は既存道路の拡張部分を対象として行い、必要に応じて拡張することとした。

調査は、平成8年9月から約1ヵ月の予定で開始した。

# II 遺跡の位置と環境

# 1. 遺跡の位置と立地

南小泉遺跡は、JR 仙台駅の南東約3.5kmに位置し、仙台市若林区南小泉、遠見塚、古城、霞ノ目の各地区を含む 東西約2km、南北約1kmを範囲とする。約135ha の面積を有する仙台市内でも最大級の面積をもつ遺跡である。

南小泉遺跡の位置する仙台市東部は「宮城野海岸平野」と呼ばれ、北は宮城郡七ヶ浜町から南は亘理郡山元町まで約40kmにわたって三日月形に広がっている。またこの平野は、地理的条件や成因、地質などから地形区分がなされており、広瀬川と名取川の合流点付近では、川間低地を郡山低地、広瀬川以北を霞ノ目低地、名取川以南を名取低地と呼んでいる。南小泉遺跡は、これらの低地のなかの霞ノ目低地に所在し、主に自然堤防上に立地している。遺跡内の標高は7~14mである。

#### 2. 周辺の歴史的環境

南小泉遺跡は、東北地方における古墳時代中期の土師器の標識遺跡として著名である。本遺跡が広く認識されるようになったのは、昭和10年代前半に行なわれた霞ノ目飛行場拡張工事に際し、弥生時代から古墳時代にかけての多くの遺構や遺物が発見されたことに始まる。その後、昭和52年より当教育委員会において本格的な調査が始まり、これまでに29次を数える発掘調査が実施され、それに伴って遺跡の範囲も西側へと拡大してきている。

これまでの発掘調査地点とその調査概要は第2図と第1・2表に示した通りで、縄文時代から近世に至るまでの幅広い時代の遺構・遺物が発見されている。遺跡範囲の広さとも関わって時期的な地点の違いも認められている。

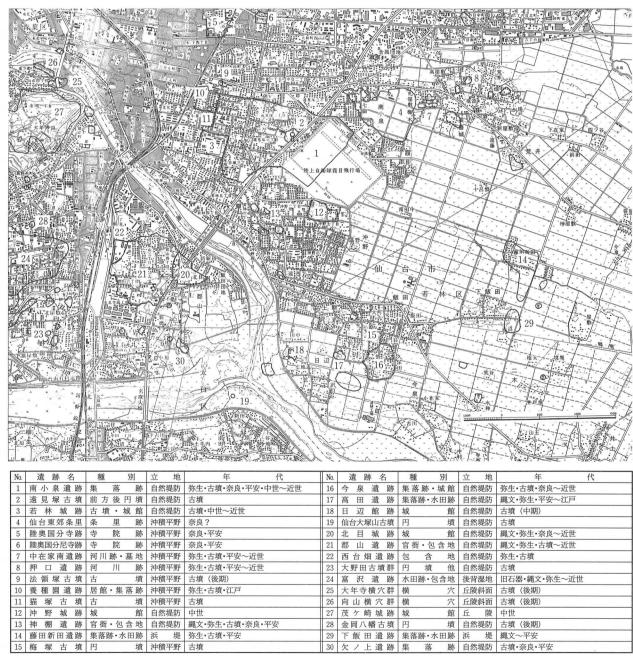
時期的にみると、弥生時代の遺構は、前述の飛行場拡張工事の際に15基以上の合口土器棺が発見された以後は、遺物は出土するものの、第12次調査で溝跡1条が発見されたほかは遺構は発見されていない。南小泉遺跡周辺の広瀬川北岸の沖積地にある中在家南遺跡からは、中期の土壙墓4基と土器棺1基が発見され、旧河道からは弥生時代中期から中世にいたる各時期の農具等の木製品が出土している。

南小泉遺跡は、古墳時代前期末から中期の集落遺跡として位置付けられているが、周辺の遺跡ではこの時期の集落は発見されていない。遺跡内には幾つかの古墳が知られているが、そのうち最古・最大のものが遠見塚古墳である。二段築成で主軸110mの規模をもち、2基の粘土槨が発見されている。このほかに、埴輪を有する円墳の若林城

内古墳、後期の横穴式石室をもつ円墳である法領塚古墳、猫塚古墳がある。7世紀後半頃から、広瀬川対岸の郡山 低地に官衙遺跡とその付属寺院からなる郡山遺跡が造営されると、この時期の集落の中心地域は郡山低地に移り、 南小泉遺跡では住居跡が減少している。8世紀初頭、郡山遺跡が廃されるのと前後して多賀城が造営されると、南 小泉遺跡の北側に隣接して陸奥国分寺・同尼寺が建立される。奈良時代末から平安時代になると南小泉遺跡でも再 び住居跡が増加し、ほぼ9世紀代を中心とする集落が営まれている。この時期の遺跡としては、神栅遺跡・今泉遺 跡等がある。神栅遺跡では、郡・郷に関連した施設と考えられる掘立柱建物跡・掘立柱塀が発見されている。

中世の遺跡としては今泉城跡・沖野城跡・長喜城跡等の沖積地の城跡がある。南小泉遺跡からもこの頃の掘立柱 建物跡や溝跡が発見されている。特に第16次調査などで大規模な堀と土塁をもつ城館跡や溝によって区画された屋 敷跡などが発見され、屋敷から城館への変遷過程がとらえられている。

近世初頭に政宗の隠居所としての若林城が築城されると、南小泉遺跡の西半部はその城下町としての性格をもつようになり、それに伴う遺構も発見されている。



第1図 南小泉遺跡と周辺の遺跡

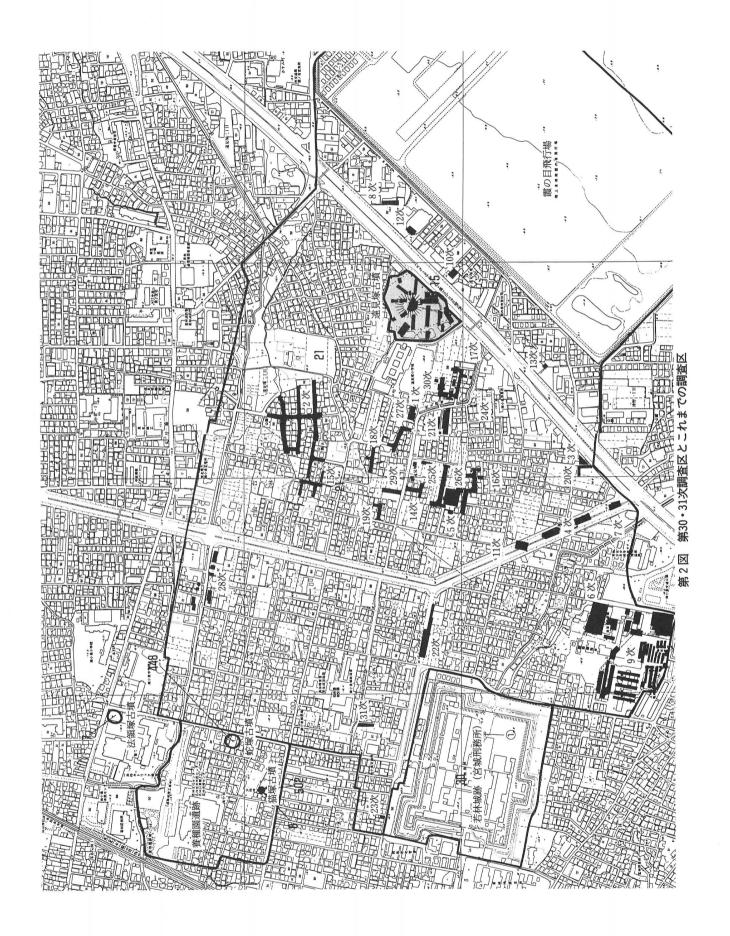
# 第1表 南小泉遺跡次数別調査成果一覧表(1)

調査次数(調査年)	遺構時期	検 出 遺 構	出 土 遺 物	文献
(昭和14年〜16年) ※遺構の詳細は不明	弥生時代中期 古 墳 時 代	住居跡?。合口土器棺(15基以上) 住居跡	弥生土器 (桝形囲式)。石器 (石斧・石ノミ・石包丁・石鏃・石匙・多頭石斧・石錐・凹石・錘石・石枡)。土師器 (塩釜式・南小泉式)。石製模造品。	仙台市史 3 (昭和25年)
第1次(昭和52年)	平 安 時 代 不 明	溝状遺構 小溝状遺構	弥生土器(桝形囲式)。土飾器(南小泉式・表杉ノ入式)。須恵器。陶磁器。 瓦。石器(剣片)。石製品。石製模造品。 鉄製品。	仙文報第13集
第2次(昭和53年)			弥生土器。土師器(南小泉式)。須恵器。	南小泉遺跡調査団
第3次(昭和55年)	平安時代	住居跡 (1軒)	土師器(表杉ノ入式)。須恵器。	仙文報第28集
第 4 次(昭和56年)	平 安 時 代中 世	遺構。溝跡 住居跡(10軒)。土坑。溝跡。 掘立柱建物跡(4棟)。土坑。溝跡。ビット。	弥生時代(大泉式?・十三塚式)。土師器(南小泉式・表杉ノ入式)。須恵器。 陶磁器(中・近世)。瓦(古代)。土製品(土玉・羽口等)。石器(石鏃・スクレイパー等)。石製品(管玉・小玉・紡錘車・砥石・硯等)。石製模造品。鉄製品(鎌・刀子・鏃・釘等)。銅製品(中国銭)。	仙文報第35集
第 5 分 (四形の4年)	不明不明	ピット 竪穴状遺構。土坑。溝跡。	土師器(南小泉式・栗囲式・表杉ノ式)。	仙文報第41集
第 5 次(昭和56年)			本部語 (南小泉式・米西式・※20/ 式/)。	加入软织织来
第6次(昭和56年 ~57年)	平安時代以前 代 安 時 代 以 所 世 以 降 不	講師。 住居跡 (2軒)。掘立柱建物跡 (4棟)。 土坑。 土戸跡。 掘立柱建物跡。土坑。井戸跡。講跡。	要書土器含一)。赤焼土器。須恵器。土師質土器。陶磁器(中世・近世)。瓦 (古代)。土製品(土玉等)。石製品(石庖丁・石帯・砥石等)。風字硯。鉄製 品(鋤先、鏃、刀子、鉄滓等)。銅製品(古銭等)。動植物遺体。	仙文報第55集
第7次(昭和57年)	平安時代以前平 安 時 代	土坑。小海状遺構。遺構。 住居跡(2軒)。土坑。性格不明遺構。ピット。 満跡。	弥生土器(桝形囲式)。土師器(南小泉〜引田式・表杉ノ入式)。須恵器。陶器(近世)。瓦(古代・近世)。土製品(羽口)。石器(石鏃等)。石製品(紡錘車・石臼等)。鉄製品(鋤先・釘?・鉄滓等)。動植物遺体。	仙文報第52集
	近 世不明	井戸跡。   土坑。溝跡。ピット。		
第 8 次(昭和57年)	- 4	土坑。	弥生時代。土師器(南小泉式)	仙文報第57集
33 0 0 (MINIO)	平安時代		土師器 (表杉ノ入式)。須惠器。土師質土器。陶器 (中世·近世初頭)。瓦 (古	IMP (INDIA)
第9次(昭和57年)	中 世 桃山~江戸初頭 不 明	溝跡。 掘立柱建物跡 (2棟)。井戸跡。 土坑。井戸跡。溝跡	代)。石製品(砥石・石鉢)。金属製品(中国銭)。漆器	県教委
第10次(昭和57年)	古墳時代中期 不 明	住居跡 (5軒)。 掘立柱建物跡?。土坑。溝跡。ピット。	弥生土器(桝形囲式・十三塚式)。土師器(南小泉式)。須恵器。石器(石鏃等)。石製品(紡錘車・砥石等)。石製模造品。	仙文報第60集
第11次(昭和58年)	古 墳 時 代 規 平 安 時 代 中 株山~江戸初	住居跡 (4 軒)。土坑。溝跡。 住居跡 (1 軒)。 住居跡 (3 軒)。掘立柱建物跡 (2 棟)。 土坑。 掘立柱建物跡(3 棟)。土坑。溝跡。墓壙。 土倉跡。土坑。溝跡。	弥生土器(大泉式)。土師器(住社式・住社式併行・国分寺下層式・表杉/式-墨書土器含一)。須恵器。土師質土器。陶磁器(中世・近世)。瓦。土製品(土 錘)。石器(石鏃・石錐・石箆・スクレイバー・石核等)。石製品(勾玉・石 庖丁・砥石等)。石製模造品。板碑。鉄製品(刀子・釘・鉄海等)。銅製品(箱・ 煙管・中国銭)。骨(加工痕)。炭化米。動植物遺体。	仙文報第68集
第12次(昭和59年)	弥生時代中期 弥生時代後期 古墳時代中期 奈 良 時 代 不	満跡。 土坑。 住居跡 (1軒)。土坑。満跡。ピット 土坑。ピット 溝跡。ピット	弥生土器(桝形囲式・十三塚式・天王山式併行)。土師器(南小泉式・国分寺 下層式)。須恵器。陶磁器(中世・近世)。瓦(近世)。土製品(羽口)。石器 (石鏃・石錐・不定形石器・石核・剝片等)。石製品(石庖丁?・砥石等)。鉄 製品(鏃・刀子・鉄滓等)。	仙文報第80集
第13次(昭和59年)	古墳 時代不明	住居跡 (1軒、建て替えあり)。 溝跡。	土師器(南小泉式)。須恵器。陶磁器。石器(剝片)。石製模造品。鉄製品(鏃)。 植物遺体。	仙文報第81集
第14次(昭和61年)	古墳時代中期平 安 時 代中 世中 世	基)。河川跡 (1条)。 住居跡 (3軒)。溝跡 (1条)。土坑 (3 基)。掘立柱建物跡(1棟)。畝状遺構(3 ケ所)。 溝跡 (3条)。	土師器 (南小泉式)。須恵器。土製品 (土錐)。石器 (磨石・蔵石)。石製品 (紡錘車・石製模造品・砥石)。鉄製品 (刀子・釘)。古銭。瓦 (古瓦・煉瓦・金箔瓦)。陶器 (美濃灰釉碗・美濃灰釉丸皿・唐津鉄釉擂鉢)。	仙文報第109集
第15次(昭和63年)	古墳時代中期	住居跡 (3軒)。土坑 (1基)。性格不明 遺構 (1基)。 溝跡 (3条)。	土師器 (南小泉式)。須恵器。石製品 (紡錘車・石製模造品)。瓦。鉄滓。石器 (剝片)。	仙文報第131集
第16次(昭和63年)	古墳時代中 世近不 明	住居跡 (9軒)。竪穴遺構 (1基)。土坑 (5基)。溝跡 (2条)。 〈城館と屋敷〉溝跡 (11条)。掘立柱建物 跡 (5棟以上)。土坑 (4基)。土塁 (1 本)。橋脚跡 (1基)。集石 (1基)。	弥生土器(青木畑式・桝形囲式・十三塚式・天王山式)。土師器(南小泉式・引田式・表杉ノ入式)。須恵器(古墳〜平安)。土製品(羽口)。石器(スクレイパー・石鏃)。石製品(砥石・石製模造品・硯・紡錘車)、鉄製品(刀子・鉄鍋・釘)。銅製品(金具・煙管)。中国銭。瓦(古代・近世)。陶磁器(山茶碗・瓦器碗他)。土師質土器。鉄滓(5c代)。漆器碗。馬歯。骨片。炭化米。	仙文報第140集
第17次(昭和63年)	中 近 世	住居跡 (3軒)。溝跡 (2条)。	縄文土器(大木10式~南境式)。弥生土器(青木畑式・桝形囲式・十三塚式)。 土節器(南小泉式~住社式・表杉ノ入式)。須恵器(5 c ~平安)。土製品(坩 場・羽口・土玉)。石器(スクレイパー・石鏃・石錐・敵石)。石製品(石製 模造品・管玉・勾玉・砥石・茶臼)。 鉄製品(釘・刀子)。 銅製品(金具・捩 文鏡?)。 鉛製鉄砲玉。 中国銭。 瓦(古代・近世)。 陶磁器(瓦質土器)。 土師 質土器。 馬歯。 鉄滓(中世~近世)。	仙文報第140集

# 第2表 南小泉遺跡次数別調査成果一覧表(2)

調査次数 (調査年)	遺構時期	検 出 遺 構	出 土 遺 物	文献
	弥生時代中期以前 古墳時代中期以降 古墳時代 後期	埋没河川跡 (1条)。 埋没河川跡 (4条)。 住居跡 (2軒)。竪穴遺構 (1基)。土坑 (9基)。溝跡(3条)。畝状遺構(2ケ所)。	弥生土器 (桝形囲式以前・十三塚式・天王山式)。土師器 (南小泉式〜住社式・国分寺下層式〜表杉ノ入式)。須惠器 (5 c 〜平安)。石器 (スクレイパー)。石製品 (石製模造品・琥珀製切子玉)。瓦 (古代・近世)。陶磁器。土師質土器。	
第18次(昭和63年)		性格不明遺構 (2基)。 住居跡 (1軒)。土坑 (1基)。溝跡 (4 条)。畝状遺構 (4カ所)。		仙文報第140集
	近 世	掘立柱建物跡 (6 棟)。土坑 (2 基)。溝 跡 (6 条)。柱穴列 (1 列)。 塚 (1 基 – 径 5 m)。		
		住居跡(1軒-古墳時代?)。土坑(2基)。		
第19次(平成元年)	中 世	性格不明遺構 (2基)。	縄文土器 (大洞 A')。土節器 (南小泉式・表杉ノ入式)。須恵器。石器 (剣片石器)。石製品 (石製模造品)。鉄製品 (鏃、釘)。平瓦。 陶磁器。土飾質土器。	仙文報第141集
		土坑 (4基)。 溝跡 (1条)。 性格不明遺構 (3基)。		
第20次(平成 2 年)	古墳時代前期 平 安 時 代 不 明	住居跡 (3軒)。掘立柱建物跡 (1棟)。	土師器(塩釜式・表杉ノ入式)。須恵器。石器(有角石斧・石斧片・石匙)。 鉄製品(斧刃状・棒状)。土製品(紡錘車)。陶器。	仙文報第153集
		住居跡 (7軒)。土坑 (3基)。 溝跡 (15条)。土坑 (4基)。性格不明遺	弥生土器 (桝形囲式)。石器 (石鏃・刹片石器)。土師器 (塩釜式・南小泉式・住社式・表杉ノ入式)。須恵器 (5 c~平安)。石製品 (石製模造品・管玉・	
第21次(平成3年)	中 世	構 (1基)。 掘立柱建物跡 (1棟)。柱穴列 (1列)。 竪穴遺構 (3基)。溝跡 (1条)。土坑 (3 基)。	小玉)。鉄製品(釘)。中国銭。瓦(古代)。陶磁器。	仙文報第164集
		溝跡 (1条)。 溝跡 (5条)。土坑 (5基)。		
	古墳~奈良時代 平 安 時 代	住居跡 (11軒)。竪穴状遺構 (2基)。溝 跡 (1条)。土坑 (1基)。 住居跡 (12軒)。掘立柱建物跡 (1棟)。	弥生土器 (天王山式)。安産岩製石器。土師器 (南小泉式・住社式・栗囲式・国分寺下層式・表杉ノ入式)。須恵器。瓦 (古代・中近世)。陶器 (平安・中近世)。磁器 (中近世)。金属製品 (鉄鏃・鉄斧・刀子・鎌・紡錘車)。石器。	
第22次(平成 4 年)	中世・近世	溝跡(4条)。区画施設(2条)。土坑(2 基)。	石製品 (石製模造品・砥石・臼玉)。土製品 (土玉・土製紡錘車)。土師質土 器。	仙文報第192集
	不明	(9基)。性格不明遺構 (1基)。 区画施設 (1条)。溝跡 (5条)。土坑 (6 基)。		
第23次(平成 4 年)	古墳時代後期 不 明	住居跡(1軒) 小溝状遺構(4条)	上節器(栗囲式)	仙文報第192集
第24次 (平成 5 年)	古墳時代中期	住居跡 (3軒)。土坑 (1基)。	土師器(南小泉式)。石製模造品	仙文報第189集
第25次(平成 6 年)	平 安 時 代 中 世	住居跡 (5 軒)。濤跡 (2 条)。土坑 (2 基)。 小溝状遺構 (2 ケ所) 溝跡 (1 条) 住居跡 (1 軒)。溝跡 (15条)。井戸跡 (2 基)。土坑 (11基)。	弥生土器(桝形囲式・十三塚式・天王山式以降)。土師器(南小泉式)。須恵器。石製品(石製模造品・すり石)。石器(石鏃・石錐・石錘・剝片石器)。 赤焼土器。土製品(土玉)。	仙文報第196集
第26次(平成7年)		埋没河川跡 (1条)。 住居跡 (7軒)。 小溝状遺構群 掘立柱建物跡 (5棟)。溝跡 (3条)。	弥生土器(桝形囲式)。土師器(塩釜式・南小泉式)。須恵器(5 c代)。石器 (石斧・石鏃・板状石器・剝片石器・黒曜石)。石製品(玉・小玉・石製模造品)。土製品(土玉・土鈴)。鉄製品(釘・刀子)。陶器(常滑・中世)。青磁。 白磁。	仙文報第225集
第27次(平成7年)	古墳時代後期	小溝状遺構(11条)。ピット。	弥生土器。土師器(南小泉式以降)。石製模造品。鉄製品。磁器皿。	仙文報第212集
第28次(平成 8 年) 〈	奈 良 時 代 近 世	住居跡(12軒)。堅穴状遺構(2軒)。掘立柱建物跡(6棟以上)。溝跡(7条)。 土坑(1基)。 溝跡(1条)。井戸跡(1条)。		
第29次(平成8年)			土師器(南小泉式)。	仙文報第224集
第30次(平成8年)	古墳時代中期 平 安 時 代	住居跡。(1軒)。土坑(1基)。 住居跡。 住居跡。握立柱建物跡。 溝跡(2条)。建物跡。墓壙。井戸跡?	工即器 (南小泉式)。 弥生土器。土師器 (南小泉式)。須恵器。土師質土器。瓦質土器。石製品 (石 製模造品・管玉)。石器。土製品 (土玉等)。金属製品 (釘?・刀子・鉄滓)。 瓦。銅製品 (中国銭)。陶磁器。人骨。動植物遺体。	川人市(明2/24朱
第31次(平成8年)	古墳時代中期	住居跡。 住居跡。竪穴状遺構。溝跡(1条)。	弥生土器。土師器(南小泉式・住社式・栗囲式)。須恵器。土製品(羽口)。 「製品(石製模造品・石臼)。石器(剝片)。金属製品(釘・鉄淬)。銅製品(中 国銭)。瓦(古代)。胸磁器(中・近世)。動植物遺体。	

※第28次調査は現在調査継続中。



# III 第30次調査

# 1. 調査の方法と調査経過

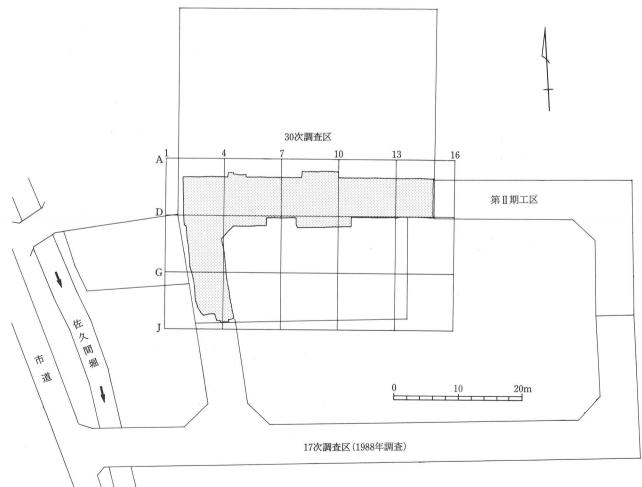
今回の調査地点は、南小泉遺跡のほぼ中央部、仙台市立遠見塚小学校の南側に隣接するところである。調査区の現状は南に向かって緩やかな傾斜をもつ標高 $11\sim12$ m 前後の畑地であり、開発対象面積は約4,130m²である。このうち I 期工区分の道路予定地約400m²を調査した(第 3 図)。

表土の排除は重機によって行い、その後人力により遺構検出作業を行ないながら、一部調査区を拡張するととも に、中世の屋敷地を区画する溝跡の北辺を検出する目的で第1トレンチを設定した(第6図)。

発掘調査は平成8年5月7日に開始された。このうちI区とした東側では、天地返しによる撹乱が著しく、遺構の残存状況は良好ではない。またIII区とした西側では、調査区内にあった駐車場工事による撹乱が深く遺構面は失われていた。遺構調査終了後、調査区中央部に基本層序の確認と下層調査を目的として6×6mのグリットを設定し、掘り下げを行ない9月13日に調査を終了した。

## 2. 調査区の設定

対象区は、第3図のように設定した。調査区の北西部を原点として、これから調査区の方向にあわせて基準線を設け、これを元にして調査区内に $3\times3m$  のグリットを設定し、遺構実測を行なったほか、基準線で3m に区画されるグリットを遺構外遺物の取り上げ単位とした。グリット名称は、原点から東に1、2、3……、南にA、B、C……とした。南北基準線は、真北に対してN-5°-W である。また、便宜的に調査区を区分するために4ラインを境として西側をIII区、東側をII区とし、さらにII区のを境にしてII区の表し、II区の東の東側をII区としている。



第3回 第30次調査区配置図

その後基準点測量を委託し、国家座標に位置付けている。

B-13 X = -195950.780878 km

Y = 7224.432938 km

B-3 X = -195945.165008 km

Y = 7198.022522 km

# 3. 調査の概要

今回の調査区は南小泉遺跡のほぼ中心部にあたり、遠見塚古墳の南西約300m に位置している。これまでに、南側に隣接して第17次調査、西側で佐久間堀を挟んで第21次調査が行なわれている(第4回)。

調査区は畑地であったこともあり、東側の約1/3については遺構確認面におよぶ深い天地返しを受けていたほか、西側のIII区では工事等による撹乱により遺構面が失われていた。しかし、調査区中央部では耕作等による影響が少なく、遺構面が良好な形で検出された。

検出された遺構は、古墳時代中期と平安時代の竪穴住居跡及び竪穴遺構35軒、鎌倉時代の屋敷跡、古代から近世 にかけての掘立柱建物跡4棟、溝跡2条、土坑40基、墓壙6基、小溝状遺構群、ピット約160基があった。この他、 県内では数少ない調査例である階段付地下式坑2基が並んで検出されている(第8・9図)。

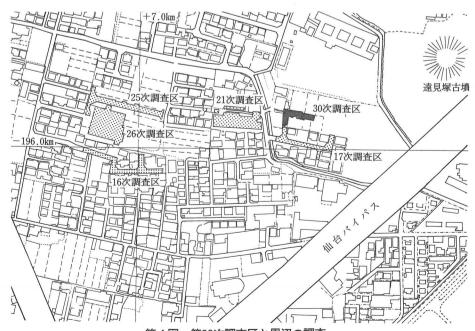
鎌倉時代の屋敷跡については、以前行なわれた第17次調査で検出されていた屋敷地を区画している溝跡の西辺を 検出し、屋敷跡が約半町(55m)規模であったことが確認された。

遺物は、平箱で約70箱出土している。ほとんどは土師器の破片であるが、遺構には伴わないものの、弥生時代の 遺物も小量認められる。また、仙台市内では初めて南小泉式期の竪穴住居跡から黒曜石製のランドスクレイパーが 出土しているほか、ガラス小玉なども出土している。

今回の調査は、南小泉遺跡において1977年の第1次調査以来30次を数える調査であり、今後とも本遺跡内において開発行為に伴う発掘調査が予想されることから、地域住民の文化財への理解と協力が求められている。そこで調査途中ではあったが、今回の調査概要とあわせてこれまでの約10年間の調査成果について、一般市民対象の現地説明会を7月7日(土)に行ない、約200名の参加者があった。

また、8月2日(金)には市立仙台高等学校社会研究部の生徒6名と引率教諭2名による発掘体験学習を行い、 竪穴住居跡の床面検出作業などを行なっている。

調査は、予想以上の竪穴住居跡が検出されたことから、当初予定していた期間を越えて9月中旬までとなった。

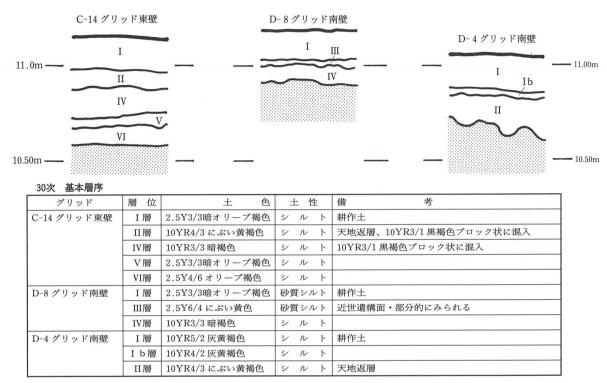


第4図 第30次調査区と周辺の調査

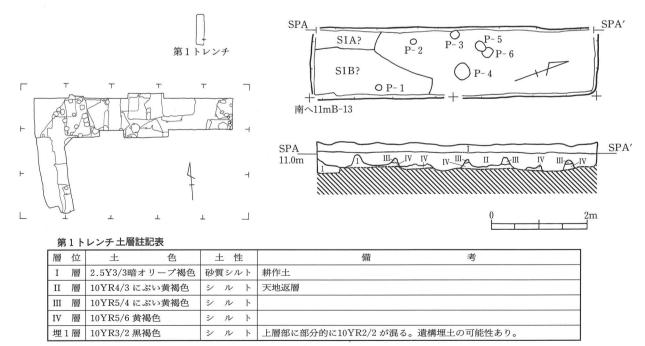
# **4. 基本層序** (第5~7図)

南小泉遺跡の立地する地域は、一般的にはシルト質の土壌が主体をなしている。調査区の現況は畑地であり、 I a・b 層は耕作土、II 層は天地返し層であり、調査区全域に共通した層である。

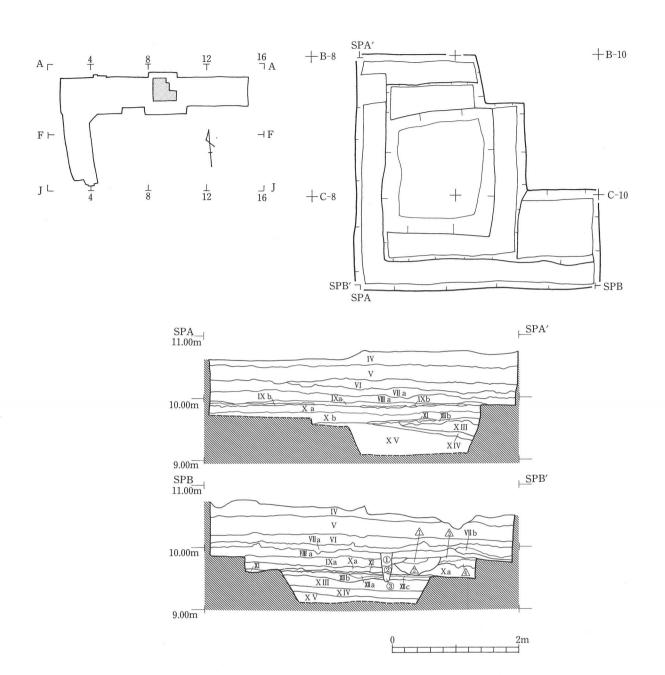
 $I \sim II$ 区東にかけてIII層とした黄褐色土がみられるが部分的で、IV層上面が遺構検出面である。下層については、 $B \cdot C - 8 \cdot 9$  区に下層調査区を設定して観察を行なった。にぶい黄褐色~にぶい黄橙色のシルト層と砂質シルトが 互層になって連続しておりグライ化もよわい。遺構検出面下1.8m(標高 9~m)でも礫層には達しなかった(第 7~m)。



第5図 調査区基本層序

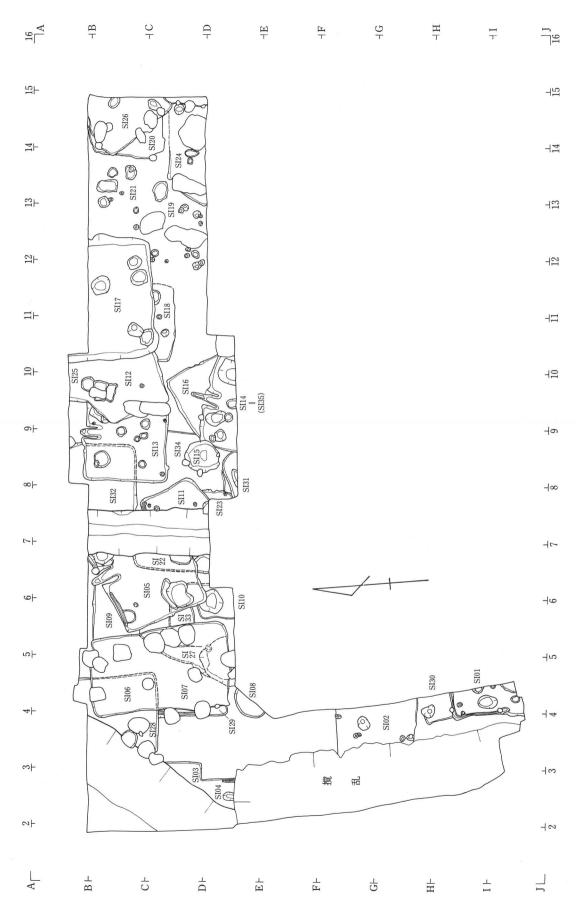


第6図 第1トレンチ平面図・断面図

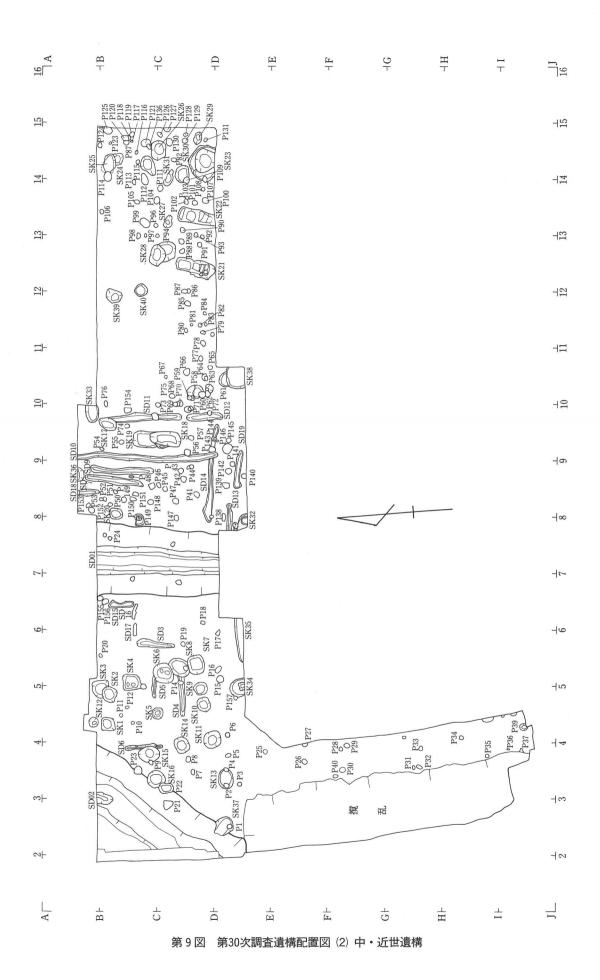


層位	土 色	土 性	備考	層位	土 色	土 性	備考
IV 層	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	10YR3/2 ブロック状に混入	Шα層	2.5Y3/1 黒褐色	砂	7.5Y5/3 砂ブロック状に混入
V 層	2.5Y3/3暗オリーブ褐色	粘質シルト		ΣΙΙb層	2.5Y3/1 黒褐色	砂	7.5Y5/3 との互層
VI 層	2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘質シルト		XIIC層	2.5Y3/1 黒褐色	砂	XII a 層と同層
VII a 層	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト		涎 層	7.5Y5/3 灰オリーブ	砂	5 Y3/2 との互層
VII b 層	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	2.5Y5/3 ブロック状に混入	XIV 層	7.5 Y5/3 灰オリーブ	砂	5 Y3/2 との互層
VⅢa層	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト		XV 層	7.5Y5/3 灰オリーブ	砂	
VIII b 層	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	10YR2/2 砂の混合層	埋①層	5 Y3/2 オリーブ黒色	砂質シルト	
IXa層	5 Y4/2 灰オリーブ色	砂質シルト		埋②層	5 Y4/2 灰オリーブ色	砂質シルト	
IXb層	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄混層	埋③層	5 Y4/3 暗オリーブ色	砂質シルト	
Xa層	5 Y4/3 暗オリーブ色	砂質シルト		埋心層	2.5Y5/3 黄褐色	粘質シルト	
Xb層	5 Y4/2 灰オリープ色	砂質シルト		埋止層	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト	北側上面に2.5Y6/2 との混合層
XI 層	10YR5/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	酸化鉄斑混	▲層	2.5Y5/3 黄褐色	粘質シルト	酸化鉄混層
				<b>企</b> 層	2.5Y5/4 黄褐色	粘質シルト	酸化鉄混層

第7図 下層調査区平面図・断面図



第8図 第30次調査遺構配置図(1)竪穴住居跡



# 5. 発見された遺構と出土遺物

前述のとおり I 区は天地返しによる影響が大きく、ほとんどの遺構は壁面が失われており、床面の一部が残存するだけのものもあった。II 区は中央部に検出された SD01 で東西に分けている。東側は遺構の密度が濃く、しかも遺存状況も良好であった。西側では、後世の遺構による影響が大きく遺存状況はよくなかった。III 区は調査区西側半分が近年の工事による撹乱をうけ遺構は失われていた。

#### (1) 古墳時代

古墳時代に属する遺構としては、竪穴住居跡28軒、竪穴遺構7基、土坑1基等がある。

#### ①竪穴住居跡・竪穴遺構

#### SI 01 竪穴住居跡 (第10·11図)

【位置】Ⅲ区(H・I-4)に位置し、SI30を切っている。

【平面形・規模】北壁と西壁の一部を検出したのみで、そのほとんどは調査区外にかかっているが平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁140cm、西壁350cm以上を計る。方向は西壁で $N-0^\circ-W$ である。

【堆積土】埋土は4層に分けられた。

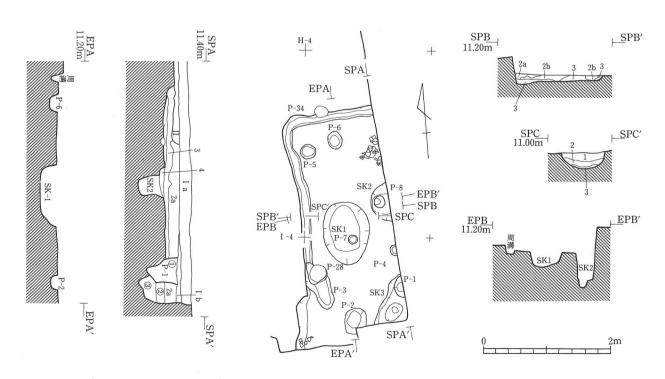
【壁・床面】床面の南西壁側約40cmの範囲で焼土が検出されている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は 北壁  $7 \sim 12.6$ cm、西壁  $5 \sim 8$  cmである。

【柱穴・ピット】ピットは8基検出された。 $P-1 \cdot 7 \cdot 8$ はこの住居よりは新しいピットである。

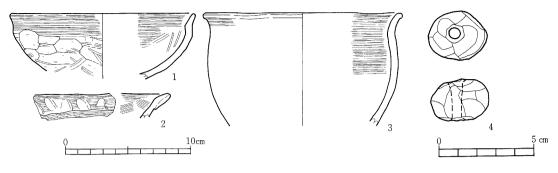
【周溝】周溝は、北壁側で幅 $10\sim12$ cm、深さ $4\sim8$ cm、西壁側で幅 $12\sim18$ cm、深さ $5\sim10$ cmを計る。

【床面施設】土坑は3基検出されている。このうち SK1 は貯蔵穴と考えられるもので、平面形は長楕円形を呈し、 規模は長軸100×短軸76cm、深さ29cmを計る。

【出土遺物】堆積土、床面より土師器(非ロクロ)・須恵器・土製品・石製模造品・弥生土器が出土している。出土量は少ない。



第10図 SIO1 竪穴住居跡平面図・断面図



番号	地区・層	立 種	重別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	外 面	内 面	備	ぎ	登録	写真
1	埋	£ ±	師器	坏	(15.0)			1/4	(□)ヨコナデ (体)ヘラナデ→ヘラミガキ	(口)ヨコナデ (体)ナデ→ミガキ			C 1	
2	床	直土	師器	壷?					(□)オサエ→ヨコナデ	(口)ナデ			C 2	
3	床	直 土	師器	甕	(16)			1/4	(口)ヨコナデ	(口)ヨコナデ (体)ナデ			C 3	

1	番号	地区・層位	種別	器	種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	特 徵	登録	写真
Г	4	床直	土製品	土	玉	26.0	31.0	21.5	15.4	孔径6.0mm	P 1	83-16

# 第11図 SIO1 竪穴住居跡出土遺物

# SI01 埋土註記表

0.01 -111			
層位	土 色	土 性	備考
基本Ia層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
Ib層	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	
II層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	天地返層
2 a 層	10YR3/1 黒褐色	シルト	
2 b層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色を斑状に混入
3層	10YR2/2 黒褐色	シルト	
4 層	10YR2/3 黒褐色	シルト	
①層	10YR2/1 黒 色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色をブロック状に混入
②層	10YR2/2 黒褐色	シルト	
③層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色とのブロック層

## SI01 床面検出遺構観察表

2101	ишжши	包件批宗衣							
	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ (cm)	層	位	土 色	土 性	備考
	SK 1	長楕円形	100×76	-28.7	1	層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR6/6 明黄褐色とのブロック層   10YR6/2 灰黄褐色をブロック状に混・炭混
					2	層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物混入
					3	層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物混入
土坑	SK 2		60×(30)	-56.2	1	層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色をブロック状に混入
	SK 3		$(75) \times (52)$	-58.3	1	層	10YR2/2 黒褐色	シルト	
					2	層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色とのブロック層
	P - 1	円形(?)	35×(13)	-30.4			10YR2/1 黒 色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色ブロック状に含む
	P-2	方 形	$35 \times (30)$	-11.0			10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入   10YR4/3 にぶい黄褐色斑状に混入
	P - 3	円 形	28×28	-13.3			10YR3/2 黒褐色	シルト	2.5Y5/6 黄褐色斑状に混入
柱穴	P - 4	円形?	18×(10)	-22.3			10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
(ピット)	P - 5	円 形	$24 \times 22$	-23.5			10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
	P - 6	楕 円 形	$30 \times 25$	-14.7			10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
	P - 7	円 形	15×15	-30.8			10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
	P - 8	円 形	20×18	-15.1			10YR3/3 暗褐色	シルト	

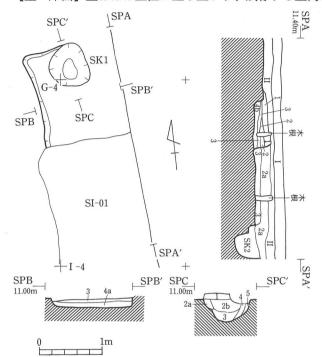
# SI 30 竪穴住居跡 (第12·13図)

【位置】III区  $(G \cdot H - 3 \cdot 4)$  に位置し、SI01 に切られている。

【平面形・規模】北壁から西壁にかけてのコーナー部を検出したのみであるが、平面形は方形を呈すると考えられる。方向は西壁で  $N-10^\circ-W$  である。

【堆積土】埋土は4層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁  $5\sim 8\,\mathrm{cm}$ 、西壁  $8\sim 13\,\mathrm{cm}$ である。



【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【床面施設】土坑1基が検出された。平面形は不整円形を呈し、規模は長軸70×短軸60cm、深さ35cmを計る。

【出土遺物】堆積土、土坑より土師器(非ロクロ)が出土している。第13図1・2は、SK1土坑出土の土師器である。

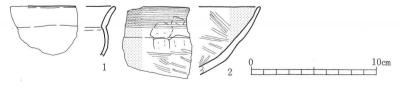
SI30 埋土註記表

層	位	土	色	土	性	備	考	
	1層	2.5Y3/1	黒褐色	シバ	レト			
	2層	10YR2/2	黒褐色	シバ	レト			
	3層	10YR3/2	黒褐色	シバ	レト	10YR5/4 にぶい黄褐色を斑状に混入		
	4 a 層	10YR3/3	暗褐色	シバ	レト			
4	4 b層	10YR2/2	黒褐色	シバ	レト	10YR4/3 にぶい黄褐色をブロックに混入		

# SI30 床面検出遺構観察表

	3130	小田农田八	岛门丹町	17.1X									
		遺構名	平面	面形	規 (cm)	深 さ (cm)	層	位	土 色	,	土 性	備	考
=	上坑	SK 1	円	形	$70 \times 60$	-34.7	1	層	10YR3/2 黒褐	色	シルト		
							2 8	a 層	10YR3/3 暗褐	色	シルト		
ı							2 1	層	10YR2/3 黒褐	色	シルト		
							3	層	10YR2/3 黒褐	色	シルト	10YR5/6 黄褐色をブロ	コック状に混入
							4	層	10YR5/6 黄褐	色	シルト		
L							5	層	10YR4/6 褐	色	シルト		

第12図 SI30 竪穴住居跡平面図・断面図



番号	地区・層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	外面	内 面	備考	登録	写真
1	SK 1	土師器	坏								C 12	
2	SK 1	土師器	坏			2		(口)ヨコナデ (体)ヘラケズリ、ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ 黒色処理		C 14	

第13図 SI30 竪穴住居跡出土遺物

# SI 02 竪穴住居跡 (第14·15図)

【位置】III区( $F \cdot G - 3 \cdot 4$ )に位置している。西側は撹乱により失われ、東側は調査区外にかかる。

【平面形・規模】北壁と南壁の一部と想定されるプランを検出したのみで、平面形は不明である。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

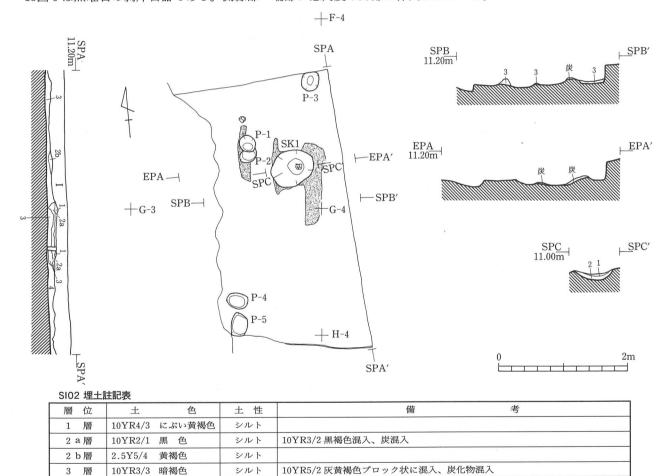
【壁・床面】撹乱と天地返しにより床面の一部しか残存していない。床面北側 SK1 土坑を中心として焼土と炭化材が検出されている。壁はほとんど残っていない。

【柱穴・ピット】ピットは5基検出された。

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】焼土に伴う土坑が検出されている。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸67×短軸67cm、深さ17cmを計る。上面の炭化材を取り除いたところ検出され、埋土中に焼土ブロックを含んでいる。第15図1の高坏が埋土上面から出土している。

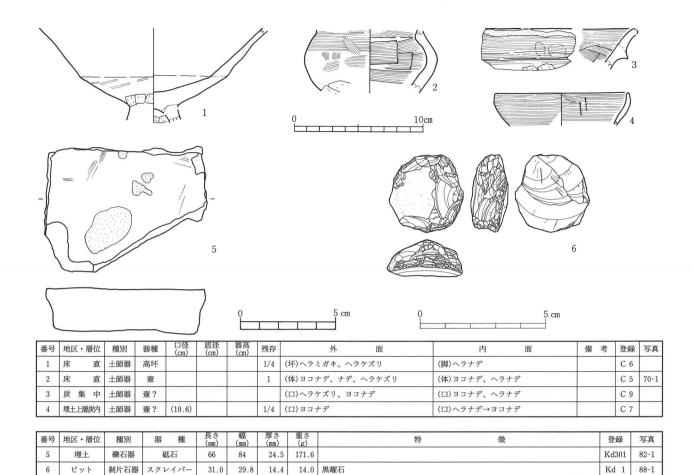
【出土遺物】堆積土・床面より土師器(非ロクロ)・礫石器・石製模造品・剝片石器・弥生土器が出土している。第 15図 6 は黒曜石の剝片石器である。側縁部・端部に急角度の刃部が作出されている。



# SI02 床面検出遺構観察表

0.00	产四大四人	CZ  177 PA	7073424									
	遺構名	7	西形	規模(cm)	深さ(cm)	層	位	土	色	土性	備	考
土坑	SK 1	円	Я	57×58	-17	1	層	炭集積層			焼土ブロック粒状混入	
						2	層	10YR4/2灰i	黄褐色	シルト	炭化物混入	
	P - 1	円	Я	27×26	-26			10YR3/2 黒	褐色	シルト	炭化物粒子混入 10YR5/6 黄褐色混入	
	P - 2	円形	纟(推定	28×(17)	-31			10YR3/1 黒	褐色	シルト		
柱穴(ピット)	P - 3	方	Я	(30)×26	-20			10YR3/1 黒	褐色	シルト		
(E)h)	P - 4	楕	円 刑	34×25	<b>-</b> 2			10YR3/1 黒	褐色	シルト		
	P - 5	方	Я	35×27	-3.5			10YR3/2 黒	褐色	シルト		

第14図 SI02 竪穴住居跡平面図·断面図



第15図 SIO2 竪穴住居跡出土遺物

# SI 03 竪穴住居跡 (第16図)

【位置】 $III区(C-2\cdot3)$  に位置し、SI04 と重複しているが新旧関係は不明である。

【平面形•規模】南壁と東壁の一部を検出したのみでそのほとんどは SD02 に切られているが、平面形は方形を呈すると考えられる。方向は東壁で  $N-11^\circ-E$  である。

【堆積土】埋土は単層であった。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は東壁7~13cm、南壁6cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【出土遺物】土師器(非ロクロ)がごく少量出土している。図示できる遺物はない。

#### SI O4 竪穴住居跡 (第16図)

【位置】III区 (D-2) に位置し、SI03 と重複しているが新旧関係は不明である。

【平面形・規模】東壁の一部を検出したのみで、西側を SD02 に切られ、南側は撹乱により失われている。方向は東壁で  $N-10^{\circ}-E$  である。

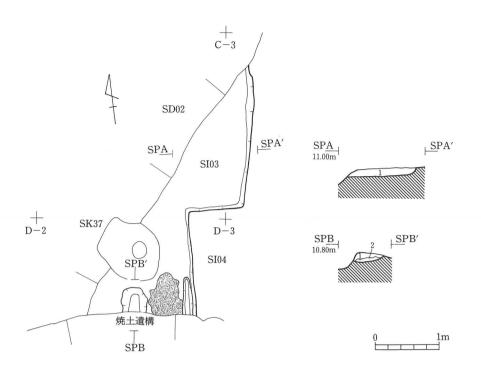
【堆積土】埋土は単層であった。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は $4\sim7$  cmである。

【柱穴・周溝】柱穴は検出されなかった。周溝の一部が検出された。幅10~17cm、深さ10cmを計る。

【床面施設】床面南側で焼土を伴う土坑が検出された。径40cm以上のもので、その東側に炭が拡がっていた。

【出土遺物】土師器(非ロクロ)がごく少量出土している。第16図1は焼土出土の土師器甕である。



SI03 埋土註記表

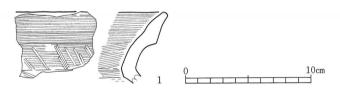
層	位	土 色	土 性	備考
1	層	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色を混入、炭化物混入

SI04 埋土註記表

層	位	土 色	土 性	備	考
1	層	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色を混入	

# SI04 焼土遺構埋土註記表

	0.0	, ,,,,,,,,,	S ILL.TTHTHOTA				
Γ	層	位	土	色	土 性	備	考
	1	層	10YR2/2 黒褐	色	シルト	焼土ブロック・炭化物混入	
Ī	2	層	10YR3/4 暗褐	色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒混入	



番号	地区・層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	外 面	内 面	備	考	登録	写真
1	SI04·焼土中	土師器	壷?					(口)ヨコナデ (体)ヨコナデ、ヘラミガキ	(口)ヨコナデ (体)ヘラケズリ			C 23	

第16図 SIO3·04 竪穴住居跡平面図·断面図·出土遺物

# SI 06 · 07 竪穴遺構 (第17 · 18図)

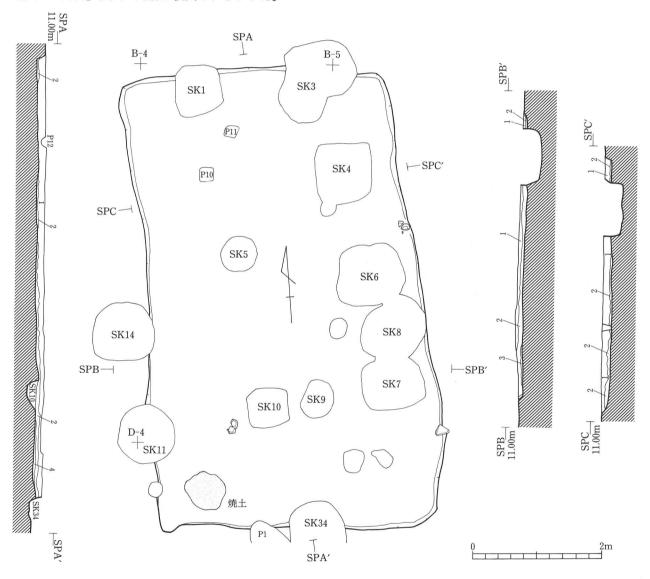
【位置】II区西(B $\sim$ D $-3\sim$ 5)に位置し、SB01 $\cdot$ 04 に切られている。当初は遺構の重複と考え調査に入ったが、埋土 $\cdot$ 壁面の状況により同一の遺構と判断した。

【平面形・規模】平面形は長方形を呈する。 規模は南北軸長で約 7 m、東西軸長で約 4 m を計る。 方向は東壁で N – 5° – W である。

【堆積土】埋土は4層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁10~14cm、西壁 2~11cm、南壁 2~11cm、東壁 4~12 cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。



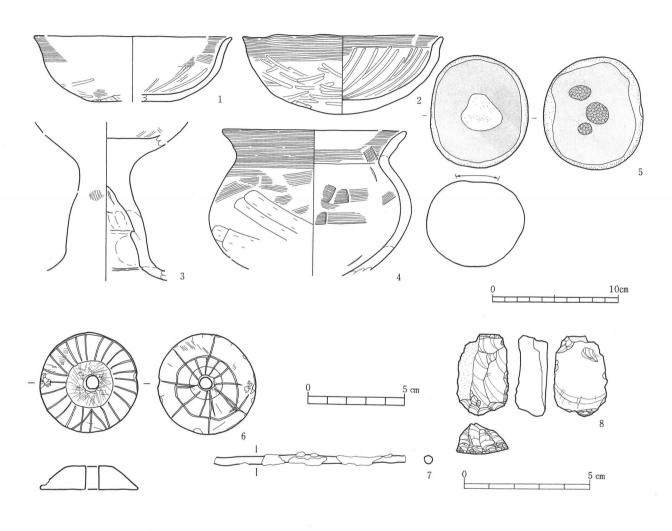
SI06 • 07 埋土註記表

層	位	土	色	土 性	備考
1	層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子を若干混入
2	層	2.5YR3/2	黒褐色	シルト	若干砂質シルトに近い
3	層	2.5YR4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	
4	層	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物粒子を若干混入

第17図 SI06·07 竪穴遺構平面図。断面図

【床面施設】床面南西コーナー部に径40cmの範囲で焼土が検出された。

【出土遺物】堆積土・床面より、土師器(非ロクロ)・須恵器・礫石器・石製品・鉄製品・石製模造品・剝片石器・弥生土器が出土している。第18図 6 は石製紡錘車で、7 はその軸と考えられる鉄製品である。8 は黒曜石の剝片石器で、端部に急角度の刃部が作出されている。



番号	地区・層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	外 面	内 面	備	考	登録	写真
1	P 2	土師器	坏	(15.8)		5.2	1/4	(口)ヨコナデ (体)ナデ、ヘラミガキ (底)ヘラケズリ				C 75	
2	埋土	土師器	坏	15.9		5.4	3/4	(口)ヨコナデ (体)ヘラミガキ、ヘラケズリ	(口)ヨコナデ (体)ヘラミガキ(放射状)			C74	70-2
3	床直	土師器	高坏				1/4	(脚)ナデ	(坏)ヘラミガキ (脚)シボリメ、オサエ			C 82	
4		土師器	甕	14.6			口1/2 胴 1	(口)ヨコナデ (体)ナデ、ヘラケズリ	(口)ヨコナデ→ヘラナデ (体)ヘラナデ			C 81	70-3

番号	地区・層位	種別	器 種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	特 徴	登録	写真
5		礫石器	磨+凹	90	78	69.3	717.7		Kd302	82-2
6	埋土	石製品	紡錘車	52.3	50.0	12.0	45.2	孔径 4 mm	Kd 37	83-8
7		鉄製品	紡錘車	(100)	径 4		4.7	両端欠損	N 2	84-1
8	埋土	剝片石器	スクレイパー	31.7	20.4	11.7	8.4	黒曜石	Ka 45	88-2

第18図 SI06·07 竪穴遺構出土遺物

# SI 08 竪穴遺構 (第19図)

【位置】III区 (D-4) に位置し、南半部分が調査区外にかかっている。

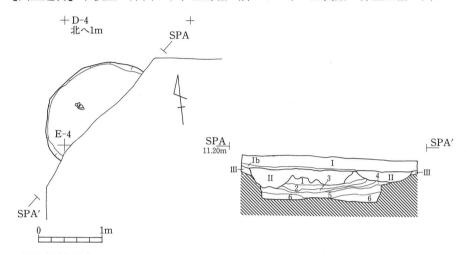
【平面形・規模】平面形は円形を呈する。規模は南北軸長約80cm、東西軸長約200cmを計る。

【堆積土】埋土は6層に分けられた。下層部の4~6層にかけて炭化物が多く混入していた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は23~38cmである。床面は平坦で固くしまっていた。

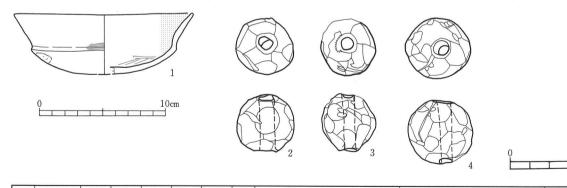
【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【出土遺物】堆積土・床面より、土師器 (非ロクロ)・土製品・弥生土器が出土している。



## SI08 埋土註記表

3100 1	主工社記衣							
層位	土	色	土 性	,	備考			
I層	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	耕作土				
Ib層	10YR5/2	灰黄褐色	シルト		基本層			
II層	10 YR5/3	にぶい黄褐色		天地返層				
III層	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	,				
1層	10 YR4/3	にぶい黄褐色	シルト					
2層	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	炭化物粒子混	Х			
3層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子混	Х			
4層	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR6/4 にふ	10YR6/4 にぶい黄橙色ブロック状に混入、炭化物粒子混入			
5層	10YR2/3	黒褐色	シルト	炭化物粒子混	入、土器混入層			
6層	10YR3/4	暗褐色	シルト	炭化物粒子混	入、南側上層部分で10YR7/2 にぶい黄橙色がブロック状に混入			



番号	地区・僧位	種別	器種	口径cm	低径cm	器局cm	残存	外	血	内	血	備考	登録	写真
1	床直	土師器	坏	(14.4)		4.9	1/3	(口)ヨコナデ	(体)ヘラケズリ	(体)ヘラミガキ			C18	70-4

番号	地区•層位	種別	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さ	特 徴	登録	写真
2	埋土上層	土製品	土玉	30	30	29	21.9	孔径7.5mm	P2	83-17
3	埋土上層	土製品	土玉	29.5	28.5	30	22.2	孔径6.5mm	P3	83-18
4	床埋層下	土製品	土玉	32	34	33.5	33.9	孔径8.0mm	P4	83-19

第19図 SIO8 竪穴遺構平面図・断面図・出土遺物

#### SI O5 竪穴住居跡 (第20~22図)

【位置】II 区西(B・C-5・6)に位置し、東壁側を SD01 に切られている。SI09・10・22・33 を切っている。 【平面形・規模】平面形は方形を呈する。規模は北壁440cm以上、西壁460cmを計る。方向は西壁で N-17°-W である。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁15~18cm、西壁12~18cm、南壁15~19cmである。

【柱穴・ピット】北西コーナー部でピット2基が検出された

【周溝】周溝は北壁沿いカマドの両側で検出された。幅18~20cm、深さ6~8cmを計る。

【床面施設】土坑は7基検出された。カマド東側で貯蔵穴と考えられる $SK1 \cdot 2$ を検出した。SK1は南北軸長80cm、東西70cm以上で平面形は方形を呈すると思われ、SK2を切っている。ほぼ同じ位置で下面から $SK6 \cdot 7$ が検出されており、何度か造り替えが行なわれている可能性がある。 $SK3 \cdot 5$ は平面形が不整形で掘り込みの浅い凹地状のもので、底面には凹凸がみられる。

【カマド】北壁のほぼ中央部で燃焼部と煙道の一部が検出された。天井部はなく、両側壁が残存している。規模は幅82cm、長さ109cmである。煙道部は幅35cm、長さ35cmである。カマド内から土師器の甕が横位の状態で出土しており、支脚にのせられていた可能性がある。カマド周辺東西200cm、南北100cmの範囲に焼土・炭化物が広がっていた。カマド西側に焼土1があり、その下に径45cmの円形の浅い掘り込みがみられた。

【出土遺物】堆積土・床面・土坑・カマドより、土師器(非ロクロ)・須恵器・石製模造品・剝片石器・弥生土器が出土している。第22図11は堆積土出土の坏である。体部中央に段を持ち、内面は黒色処理される。 $2 \cdot 3 \cdot 7 \sim 10$ は床面出土の遺物である。カマドからは $4 \cdot 5$ の甕が出土している。 $1 \cdot 6$ は土坑出土の遺物で、1の坏は有段で、内面は黒色処理される。12は黒曜石の剝片石器である。長軸の両端にツブレがみられる。

#### SI05 埋土註記表

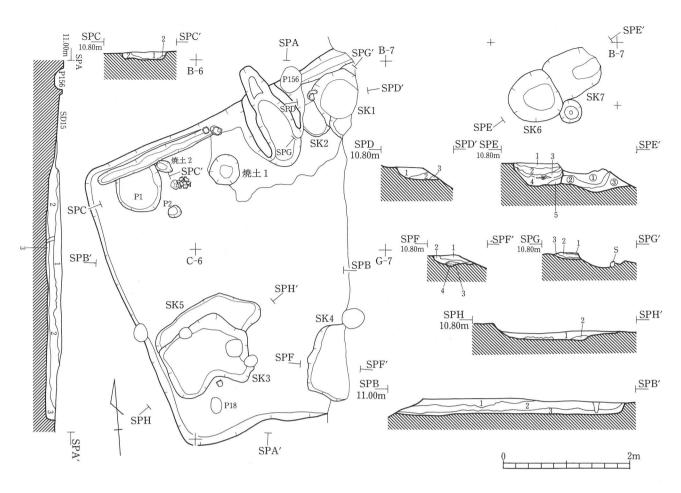
層位	土 色	土 性	備考
1層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR4/3 にぶい黄褐色ブロック状に混入
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒若干混入
3層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒若干混入、10YR6/4 にぶい黄橙色が斑状に混入

#### SI05 周溝埋土註記表

_										
1	遺構名	平面形	規模	深さ	層位	土	色	土性	備	考
Ī	北壁周溝		440㎝以上	-6∼-8cm		10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物混入	

# SI05 焼土 2 埋土註記表

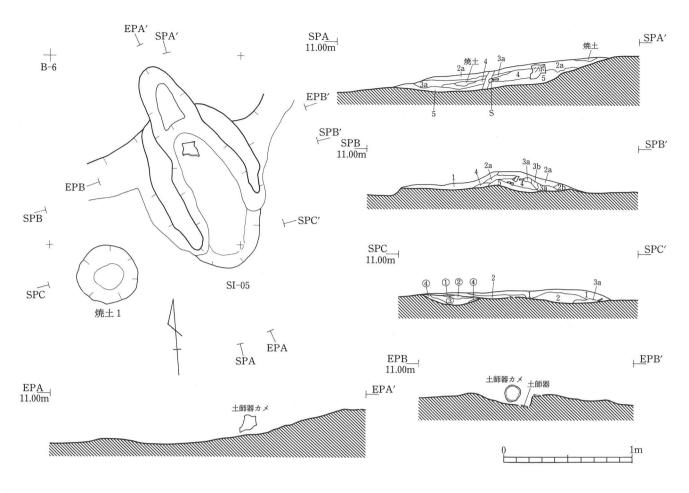
層位	土 色	土 性	備考
1層	2.5YR3/6 暗赤褐色	シルト	焼土
2層	2.5YR2/2 極暗赤褐色	シルト	焼土、炭化物混入、2.5Y3/2 黒褐色混入



SI05 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備考
	SK 1	隅丸方形	(80×70)	-17.8~-25.5	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
					2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
					3層	10YR2/2 黒褐色	シルト	埋1層に比べ暗い色調
	SK 2	円形	60×(36)	-9.5~-13.1	1層	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	炭化物粒子混入
					2層	10YR2/1 黒 色	シルト	焼土・炭混入
					3層	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	焼土粒子、隅化物粒子混入
	SK 3	不整形	140×90	-42~-11	1層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
					2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
土坑	SK 4	不整形	120×(60)	-11.2~-13.8	1層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
					2層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック状に混入
					3層	5YR2/3 極暗赤褐色	シルト	焼土層
					4層	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	
	SK 6	不整形	$180 \times (70)$	-1.8~-7	1層	7.5Y2/2 黒褐色	シルト	焼土、炭化物混入
					2層	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
					3層	10YR4/1 褐灰色	シルト	遺物包含、炭化物混入
					4層	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	
					5層	2.5Y8/2 灰白色	粘土質シルト	酸化鉄混入
	SK 7				①層	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	2.5Y3/1 黒褐色土をブロック状に混入
					②層	2.5Y8/1 灰白色	粘土質シルト	
					③層	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
柱穴	P - 1	隅丸方形	74×(64)	-11.5	1層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	
(ピット)			5		2層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	2.5Y5/4 黄褐色ブロック状に混入
	P-2	円形	20×20	-46.5		10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入

第20図 SIO5 竪穴住居跡平面図・断面図



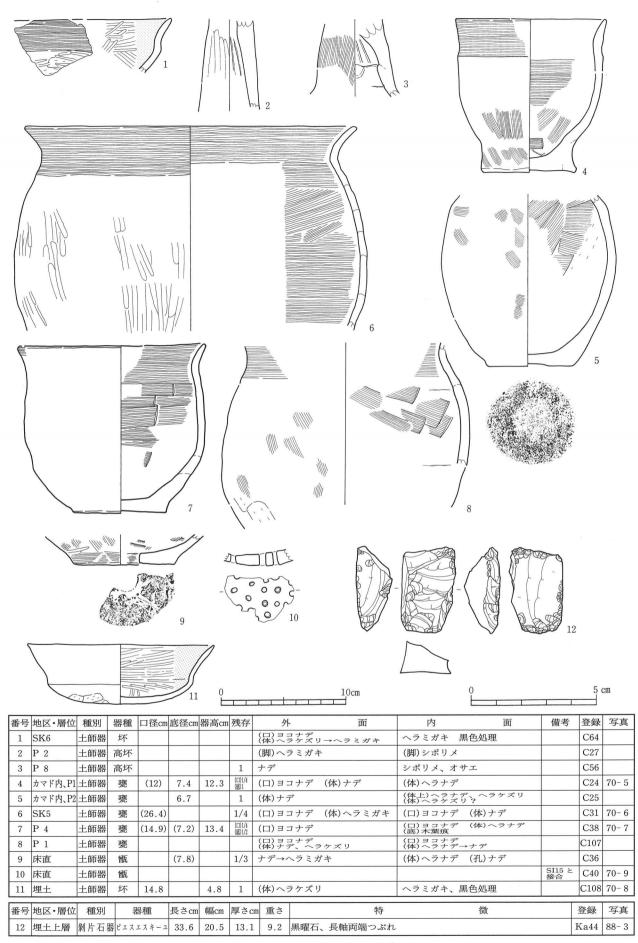
## SI05 カマド埋土註記表

層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	焼土若干混入、炭化物粒子混入
2a 層	7.5YR3/2	黒褐色	シルト	焼土、炭化物粒子混入
2b 層	10YR3/3	暗褐色	シルト	焼土粒子、炭化物粒子混入
3a 層	7.5YR3/2	黒褐色	シルト	焼土粒子、炭化物粒子混入
3b 層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	
4層	7.5YR2/3	極暗褐色	シルト	焼土ブロック混入、炭化物粒子混入
5 層	7.5YR2/2	黒褐色	シルト	焼土、炭化物粒子混入

# SI05 焼土 1 埋土註記表

層位	土	色	土 性	備考
①層	2.5YR3/6	暗赤褐色	シルト	焼土
②層	2.5YR3/3	暗赤褐色	シルト	焼土粒、炭化物粒子混入
3層	2.5Y3/2	暗赤褐色	シルト	焼土粒、炭化物粒子混入
4層	7.5YR2/2	黒褐色	シルト	

第21図 SI05 カマド平面図・断面図



第22図 SI05 竪穴住居跡出土遺物

# SI 09 竪穴住居跡 (第23・24図)

【位置】II区西(B・C-5・6)に位置し、SI05・06・07に切られている。

【平面形・規模】北東コーナー部と南壁の一部を検出しているが、平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁320cm、南壁80cmを計る。

【堆積土】埋土は2層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁11~15cm、南壁 5 cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

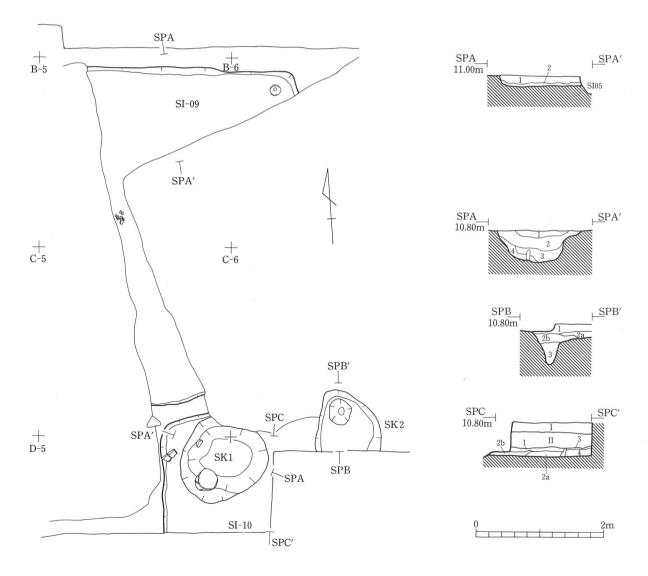
【出土遺物】堆積土より、土師器(非ロクロ)・須恵器・礫石器・石製模造品・弥生土器が出土している。

# SI 10 竪穴住居跡 (第23·25図)

【位置】II区西( $C \cdot D - 5 \cdot 6$ )に位置し、SI05に切られている。ほとんどは調査区外にかかっている。

【平面形・規模】北西コーナー部のみが検出されたが、平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁80cm、西壁170cmを計る。

【堆積土】埋土は4層に分けられた。



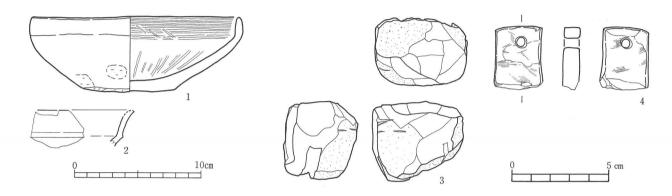
第23図 SI09・10 竪穴住居跡平面図・断面図

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁  $7 \sim 9 \, \text{cm}$ 、西壁  $3 \sim 7 \, \text{cm}$ である。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【床面施設】土坑 2 基が検出された。SK1 は径125cmで、平面形はほぼ円形を呈しており、埋土上面から第25図 1 の 坏と 5 の甕が出土している。SK2 の平面形は不整形を呈し、底面に $40 \times 35$ cmのピットがあった。

【出土遺物】堆積土・床面・ピット・土坑から、土師器(非ロクロ)・土製品・石製模造品・弥生土器が出土している。第25図5の甕は、外面はハケメの後ナデ調整されており、所々にハケメがかすかに見られる。内面は大部分をヘラ状の工具で調整しているが、木目痕が明瞭な部分とそうでない部分とがある。前者をハケメ、後者をヘラナデとして図示している。



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	埋土	土師器	坏	16.4	7.4	5.0	1	(体)ヘラケズリ (底)ヘラケズリ		(口)ヨコナデ (体)ヘラミガキ	(放射状)		C41	70-10
2	埋土上~中層	須恵器						ロクロナデ		ロクロナデ			E80	79-10

番号	地区•層位	種別	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重さ g	特 徵	登録	写真
3	埋土中層	礫石器	砥石	41	42	41	28.5	]	Kd204	82-3
4	埋土	礫石器	砥石	33.8	25.9	9	11.8		Kd42	82-4

## 第24図 SI09 竪穴住居跡出土遺物

## SI09 埋土註記表

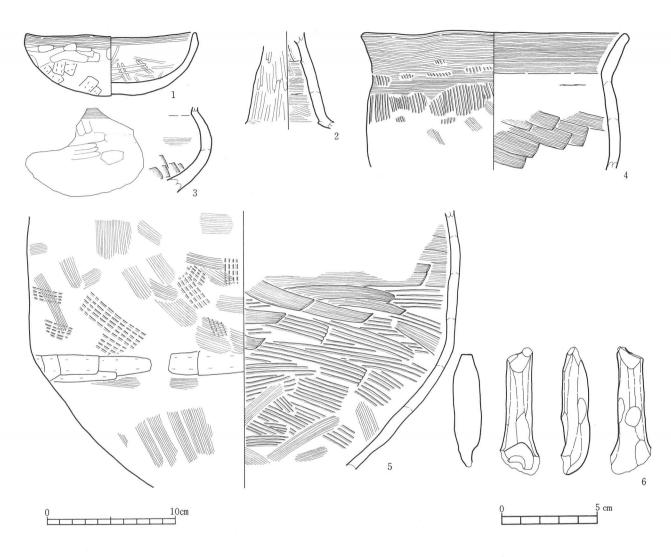
層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	色	シルト	炭化物粒子若干混入
2層	10YR3/2 黒褐色	色	シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色がブロック状に混入、若干砂質

### SI10 埋土註記表

層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色土ブロック状に混入、2.5Y8/1 灰白土斑状に混入
2 a 層	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色土とのブロック層
2 b 層	10YR3/2	黒褐色	シルト	
3層	2.5Y8/1	灰白色	シルト	
4層	10YR6/6	明黄褐色	シルト	

## SI10 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備考
	SK 1	円形	140 × (140)	-36.8 ∼ -46.6	1層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
					2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	若干砂っぽい、10YR6/3 にぶい黄橙色土斑状に 混入、炭化物粒子混入
					3層	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
土坑					4層	10YR2/3 黒褐色	シルト	10YR5/8 黄褐色土とのブロック層
	SK 2	長楕円形	100×(100)	-8.9~-27.5	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	下層部に薄く炭の集積層が部分的に入る
					2 a 層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色土ブロック状に混入、2.5Y7/1 灰白色土斑状に混入
					2 b層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物混入、2.5Y7/1 灰白色土斑状に混入
					3層	10YR2/2 黒褐色	シルト	



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	P 2	土師器	坏	13.4		5.0	1	(口)ヨコナデ	(体上)ヘラミガキ (体下)ヘラケズリ	(口)ヨコナデ	(体)ヘラミガキ		C46	70-11
2	SK2 床面 ピット	土師器	高坏					ヘラミメ	ブキ	オサエ、ナデ			C48	
3	SK1·1 層	土師器	壺?					(口)ヨニ(体)へき		(体)ナデ、へ	ラナデ	内外赤彩	C49	
4	P 1	土師器	甕	21			1/2	(保)ハタ	rメ→ヨコナデ rメ→ナデ	(口)ヨコナデ (体)ヘラナデ			C45	70-12
5	P 3	土師器	甕					ハケメー	<b>→ナデ、ヘラケズリ、ナデ</b>	ハケメ→ナデ	、ヘラナデ		C47	70-13
_														
番号	地区•層位	種別	7	器種	長さmm	幅mm	厚さm	m重さg	特		徴		登録	写真
6		上制具	スプ	ーン状	67.5	19.0	14	13.8					P12	83-15

第25図 SI10竪穴住居跡出土遺物

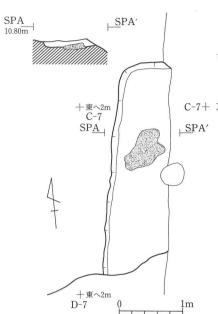
#### SI 22 竪穴住居跡 (第26図)

【位置】II区西( $C \cdot D-6$ )に位置し、SI05の床面下で検出された。床面のほとんどがSD01に切られている。

【平面形・規模】北西コーナー部が検出されたが、平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁70cm、西壁320 cmを計る。方向は西壁で  $N-10^{\circ}-E$  である。

【堆積土】埋土は単層であった。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁  $5\sim 8\,\mathrm{cm}$ 、西壁  $7\sim 10\,\mathrm{cm}$ である。



【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【床面施設】床面北側で炭化物が集中して検出されたが、焼土は伴っていない。

【出土遺物】堆積土より土師器(非ロクロ)・石製模造品・弥生土器がごく少 C-7+ 量出土している。図示できる遺物はない。

SI22 埋土註記表

層位	土	色	土 性	備	考
1層	10YR3/2 黒袖	曷色	シルト	2.5Y5/4 黄褐色をブロック状に混入	

第26図 SI22 竪穴住居跡平面図・断面図

#### SI 27 竪穴住居跡 (第27·28図)

【位置】II区西 (B~D-4・5) に位置し、SI06・07 の床面下で検出された。

【平面形・規模】北西コーナー部が検出されたが、平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁60cm、西壁570cmを計る。方向は西壁で  $N-30^{\circ}-E$  である。

【堆積土】埋土は4層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁 2 cm、西壁  $2 \sim 6 \text{ cm}$ である。

【柱穴・ピット】ピットは 3 基検出された。P-1 は不整形で、長軸 $75 \times$  短軸60cm、深さ50cmを計る。底面から第28 図 1 の高坏が出土している。

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】SK1 は不整円形を呈し、10~20cmと浅く、底面には凹凸がみられる。

【出土遺物】堆積土、床面より土師器(非ロクロ)・石製模造品・弥生土器が出土している。

## SI 29 竪穴住居跡 (第27図)

【位置】II 区西 (C・D-3~5) に位置し、SI06・07 の床面下で検出された。

【平面形・規模】南西コーナー部が検出されたが、平面形は方形を呈すると考えられる。規模は南壁150cm、西壁360

cmを計る。方向は西壁で  $N-2^{\circ}-E$  である。

【堆積土】埋土は単層であった。

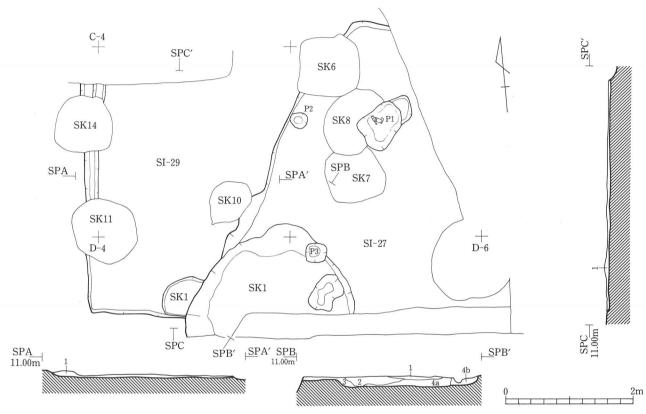
【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は南壁 $1.5\sim3\,\mathrm{cm}$ 、西壁 $2\sim5.5\mathrm{cm}$ である。

【柱穴・ピット】ピットは検出されなかった。

【周溝】周溝は西壁沿いで検出された。幅 $20 \mathrm{cm}$ 、深さ $7 \sim 10 \mathrm{cm}$ を計る。

【床面施設】南壁に接して土坑1基が検出された。深さ10cmと浅い掘りこみであった。

【出土遺物】堆積土より土師器(非ロクロ)・弥生土器がごく少量出土している。図示できる遺物はない。



#### SI27 埋土註記表

層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR3/3	暗褐色	シルト	
2層	10 YR5 / 4	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3 暗褐色土ブロック状に混入
3層	10YR3/2	黒褐色	シルト	
4a 層	10 YR6 / 4	にぶい黄橙色	シルト	10YR3/3 暗褐色土とのブロック層
4b 層	10 YR6 / 4	にぶい黄橙色	シルト	若干砂質、2.5Y7/1 灰白色土ブロック状に混入

### SI27 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土	色	土性	備	考
土坑	SK 1	不整形	(260×140)	-7.8~-19.9						
	P-1	不整形	94×62	-6.4~-27.6		10YR3/3 ₽	音褐色	シルト	10YR6/3 ブロック状に混入	、炭化物粒混入
柱穴	P-2	円形	28×26	-14.7~-16.1		10YR3/2 #	黒褐色	シルト		
(ピット)	P- 3	隅丸方形	32×30	-12.7~-22		10YR3/2 #	黒褐色	シルト		

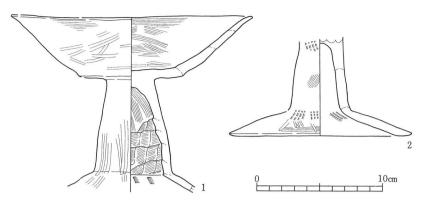
#### SI29 埋土註記表

層位	土 色	土 性	備考
1	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	若干砂質、部分的に10YR3/2 黒褐色土をブロック状に含む

### SI29 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土	色	土性	備	考
土坑	SK 1	円形	60×(50)	-6.9~-9.5		10YR3/3 雨	音褐色	シルト	10YR6/3 にぶい黄橙ブロ 粒子若干混入。	コック状に混入、炭化物

第27図 SI27·29 竪穴遺構平面図·断面図



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	P 1	土師器	高坏	(19.2)			1/3	(坏)ヨコナデ、(脚)ヘラミガキ	ヘラミガキ	(坏)ヨコナデ、ナデ、 (脚)ナデ、ユビオサエ-	ヘラミガキ →ナデ、ヘラナデ		C302	71-1
2	床直	土師器	高坏		(14.5)		1/4	ハケメ→ナデ、 ヨコナデ→ヘラ	ヘラミガキ ミガキ	ハケメ			C313	

第28図 SI27 竪穴住居跡出土遺物

### SI 28 竪穴住居跡 (第29図)

【位置】II区西(B-3・4)に位置し、西側を SD02 に切られ、SI06・07 に切られるが、SI29 を切っている。

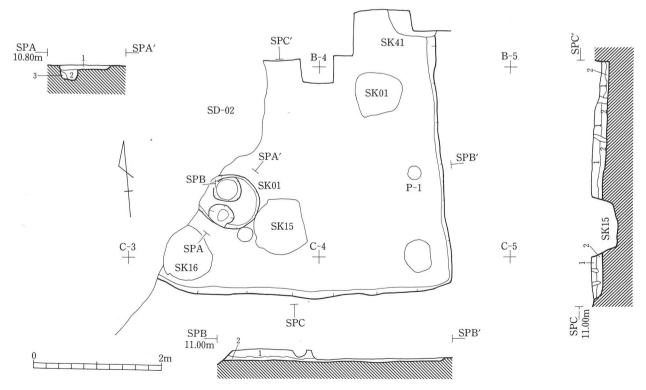
【平面形•規模】南東コーナー部が検出されたが、平面形は方形を呈すると考えられる。規模は南壁 $460 \, \mathrm{cm}$ 、東壁 $390 \, \mathrm{cm}$ を計る。方向は東壁で N $-1^{\circ}$ -E である

【堆積土】埋土は2層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は南壁  $8\sim18$ cm、東壁  $7\sim12$ cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【床面施設】土坑 1 基が検出された。径85×95cmの円形で、深さ 6 cmと浅いが、底面にピット状の落ち込みが 2 ヵ 所みとめられ、深さは14cm程であった。



第29図 SI28 竪穴住居跡平面図・断面図

【出土遺物】堆積土より土師器(非ロクロ)・石製模造品・弥生土器がごく少量出土している。図示できる遺物はない。

#### SI28 埋土註記表

層位	土	色	土 性	備考
1層	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	
2層	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	

## SI28 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備考
	SK 1	円 形	86×(94)	-2.9~-6.5	1層	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	
土坑					2層	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	
					3層	10 YR5 / 2 灰黄褐色	料質ルト	
柱穴	P-1	円形	20×20			10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	

#### SI 33 竪穴遺構 (第30図)

【位置】II区西( $C \cdot D - 5 \cdot 6$ )に位置している。 $SI05 \cdot 10 \cdot 27$  に切られている。

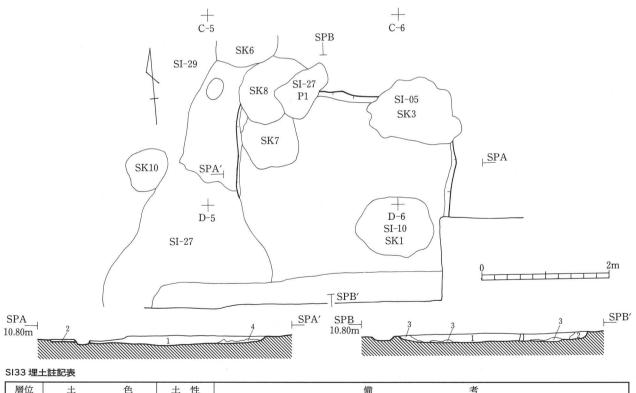
【平面形・規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁90cm、東壁120cm、西壁150cmを計る。

【堆積土】埋土は4層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁  $5\sim 8~{\rm cm}$ 、東壁  $3\sim 10~{\rm cm}$ 、西壁  $4\sim 9~{\rm cm}$ である。床面はほとんど残っていない。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器(非ロクロ)・弥生土器がごく少量出土している。図示できる遺物はない。



層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物粒子混入、10YR3/2 をブロック状に含む
2層	10YR2/3	黒褐色	シルト	10YR7/1、10YR3/3 が混入
3層	2.5YR3/3	暗オリーブ褐色	シルト	
4層	2.5YR5/3	黄褐色	シルト	炭化物粒子混入、10YR7/1、10YR2/3 が混入

第30図 SI33 竪穴遺構平面図・断面図

### SI 11 竪穴住居跡 (第31·32図)

【位置】II区東(C-7) に位置している。

【平面形・規模】SD01 に西側を切られており、東壁と南壁の一部を検出した。平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。規模は南壁160cm、東壁280cmを計る。方向は、東壁で  $N-23^\circ-W$  である。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

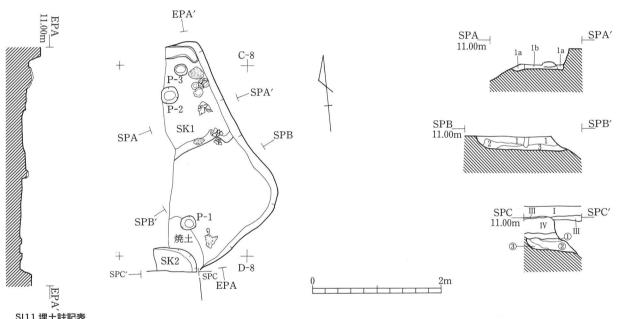
【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は南壁15~20cm、東壁22~27cmである。図示した遺物は床面からまとまって出土している。

【柱穴・ピット】ピットは3基検出された。

【周溝】周溝は北壁側でわずかに検出されている。幅17cm、深さ3~7cmである。

【床面施設】床面には部分的に炭化材がみられ、特に南側に焼土・炭化物の拡がりがみとめられた。床面北側に10 cm程の段差があり、これを SK1 としている。調査区南壁に接して SK2 とした土坑の一部を検出した。深さ15cmを計る。

【出土遺物】堆積土・床面より、土師器(非ロクロ)・土製品・弥生土器が出土している。第32図  $1 \sim 3$  は外面に段を持ち、口縁部が  $1 \cdot 3$  は外反し、 2 は直立気味である。 4 は段を持たない。



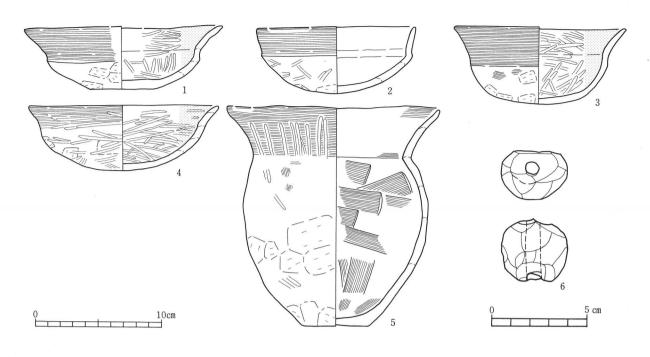
0,11,	TTHIND TO		
層位	土 色	土 性	備考
1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	λ
2層	10YR4/3 オリーブ褐色	シルト	若干砂質、10YR2/2 黒褐色ブロック状に混入
3層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、西側に10YR6/4 にぶい黄橙ブロック状に混入

### SI11 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備考
	SK 1			-9.1	1a 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
					1b 層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、2.5Y4/3オリーブ褐色小ブ ロック状に混入
土坑	SK 2			-18.9	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/1 グライ土が混入
					2層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR5/1 グライ土が混入、炭化物粒子若干混入
					3層	10YR3/1 黒褐色	シルト	<
柱穴	P-1	円形	24×22	-14.3		10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
(ピット)	P-2	円形	20×18	-15.0		10YR3/2 黒褐色	シルト	炭価物粒子若干混入
	P-3	円形	26×26	-10.0				
周溝				-3~-3.6		10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物混入

#### SI11 焼土遺構

層位	土	色	土性	備考
,,,,,	10YR3/2	黒褐色		焼土、炭化物、炭混入



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	P1+P2	土師器	坏	15.7	5.0	5.1	(口)1/2 (底)1	(ロ)ヨコナデ、 →ナデ(?)	(体)ヘラケズリ	ヘラミガキ、	黒色処理		C145	71 - 3
2	P 4	土師器	坏	12.6		5.4	1	(口)ヨコナデ (体)ヘラケズリ	→ヘラミガキ				C147	71-4
3	P 6	土師器	坏	13.7		6.2	1	(口)ヨコナデ (体)ヘラケズリ	→ナデ	ヘラミガキ、	黒色処理		C148	71-5
4	P 5	土師器	坏	15.1		5.3	1	(口)ヨコナデ→ (体)ヘラケズリ	ヘラミガキ →ヘラミガキ	ヘラミガキ、	黒色処理		C193	71-6
5	P 3	土師器	甕	16.8	5.4	17.6	1	<ul><li>(口)ヨコナデ→ヘラミガキ(体上 (体下)ヘラケズリ→ヘラミガキの</li></ul>	z)ナデ→ヘラミガキ rナデ (底)ヘラケズリ→ナデ	(口)ナデ? (体	)ヘラナデ、ナデ		C146	71-2

番号	地区・層位 種	別	器 種	長さmm	幅mm	厚さmm	夏 ち 重	特 徵	登録	写真
6	土事	製品	土玉	25	35	32	26.0	孔径7.0	P 5	83-20

第32図 SI11 竪穴住居跡出土遺物

### SI 12 竪穴住居跡 (第33·34図)

【位置】II区東( $A\sim C-9\cdot 10$ )に位置している。SI17 に東側を切られているが、SI13・25 を切っている。検出面のプランや埋土では SI25 との重複関係はわからなかった。

【平面形・規模】平面形は北・南壁がやや外側に開いた台形状を呈すると考えられる。規模は北壁180cm、南壁280cm、西壁340cmを計る。方向は、西壁で $N-20^{\circ}-W$ である。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁10~16cm、南壁9~16cm、東壁9~15cmである。床面は平坦で固くしまっている。床面全体に炭化材・炭化物が検出されている。特に北側では床面直上に焼土混じりの炭化物の集積があり、遺物の多くはこの中に入っていることから焼失家屋の可能性がある。焼土遺構の西側床面に粘土塊が検出された。

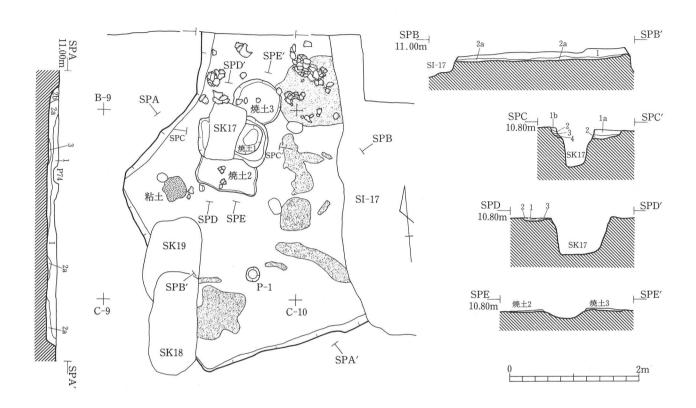
【柱穴・ピット】ピットは1基検出された。

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】焼土遺構が重複して検出されたが、その中心はSK17によって切られている。焼土 1 は不整方形を呈し、その規模は長軸 $110 \times$  短軸70cm、深さ17cmを計る。底面に厚さ7cmの焼土層があり、焼成による赤変がみられた。焼土 2 は不整方形を呈し、規模は長軸 $95 \times$  短軸40cm、深さ3cmの浅い凹み状のものである。焼土 3 は径75cmの円形を

呈し、深さ4cmの浅い凹み状のものである。ともに焼土1からかきだされた焼土によるものと考えられる。

【出土遺物】堆積土・床面より、土師器(非ロクロ)・須恵器・石製模造品・弥生土器が、掘り方より礫石器・鉄製品が出土している。第34図1は坏であり、外面に段を持ち、内面には赤彩の痕跡がある。5は、口唇部が平坦である。6は体部が丸みを持つ甕である。体部下半の外面調整は、砂粒が動くいわゆるヘラケズリであるが、面取り状ではなく仕上がりが平滑にされている。



## SI12 埋土註記表

_							
層位	土	色	土 性		備	考	
1層	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子混入			
2a 層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子混入			
2b 層	10YR3/3	暗褐色	シルト				
3層	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	炭化物粒子混入			

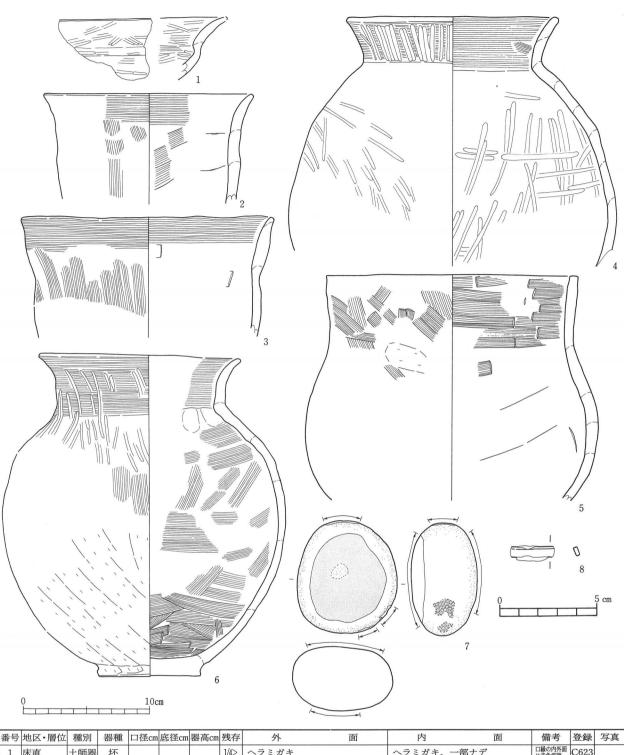
#### SI12 焼土遺構観察表

	12/2003-100-001010					v		
	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備考
	焼土1	不整形	110×70	-8.3~-13.4	1a 層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	骨片混入、焼土斑状に混入、炭化物粒子混入
					1b 層	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	
					2層	5YR4/6 赤褐色		焼土
					3層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	
焼土					4層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	焼土若干混入
	焼土2	不整形	94×(50)	-2.3~-5.0	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
					2層	7.5YR2/3 極暗褐色	シルト	焼土混入、炭化物粒子混入
					3層	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	
	焼土3	円形	58×(50)	-2~-5	1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土混入、炭化物粒子混入

#### SI12 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土	色	土性	備	考	
柱穴	P-1	円形	25×22	-28.2		10YR3/3 ₽	音褐色	シルト			

第33図 SI12 竪穴住居跡平面図・断面図



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	床直	土師器	坏				1/4>	ヘラミガキ		ヘラミガキ、一	・部ナデ	口縁の内外面 に赤色痕跡	C623	
2	P 2	土師器	甕	(16.6)			1/4	(口)ヨコナデ (・	体)ナデ	(口)ヨコナデ	(体)ヘラナデ		C591	
3	P 2	土師器	甕	20.2			1/2			(口)ヨコナデ	(体)ヘラナデ	-	C592	71-7
4	P 1	土師器	甕	(16.5)			1/4	(口)ヨコナデ→ (体)ヘラミガキ	ヘラミガキ	(口)ヨコナデ (体)ヘラナデ	(細い、粗雑)		C590	71-8
5	P 9	土師器	甕	(20.0)			1/4	(口)ヘラナデ(一音	部ヘラケズリ)	ヘラナデ			C593	71-9
6	P3+P6	土師器	甕	16.0	8.1	25.8	(口)1/2 (底)1	(口)ヨコナデ (体上)ナ (体下)ヘラケズリ (底)	<sup>⊢</sup> デ、ヘラミガキ )ヘラナデ	(口)ヨコナデ (体)	ナデ、ヘラナデ		C595	72-1

番号	地区•層位	種別	器種	長さ㎜	幅mm	厚さmm	重さg	特 徴	登録	写真
7	掘り方	礫石器	磨+敲	91	78	52	560.7		Kd303	82-5
8	掘り方	鉄製品	釘?	(23)	5	2	2.2	両端欠陥	N 4	84-2

第34図 SI12 竪穴住居跡出土遺物

### SI 25 竪穴住居跡 (第35·36図)

【位置】II区東( $A \cdot B - 9 \cdot 10$ )に位置している。 $SI17 \cdot 12$  に切られている。SI12 の北側床面及び壁面の精査中に検出された。

【平面形•規模】西壁の一部が検出されただけで平面形は不明である。SI12 の床面下で検出されたプランを SI25 のものと想定すると、規模は推定で南壁200㎝、西壁450㎝以上を計ると考えられる。方向は、西壁で  $N-2^\circ-W$  である。

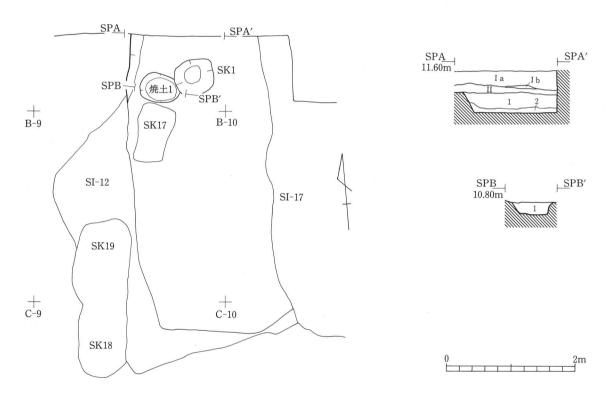
【堆積土】埋土は2層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は西壁 6 cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【床面施設】床面北側に65×50cmの範囲で焼土が検出され、その下に浅い掘り込みも検出されている。焼土の西側で土坑1基が検出された。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸64×短軸54cm、深さ40cmを計る。

【出土遺物】堆積土、床面より土師器(非ロクロ)・石製模造品・ガラス玉が出土している。



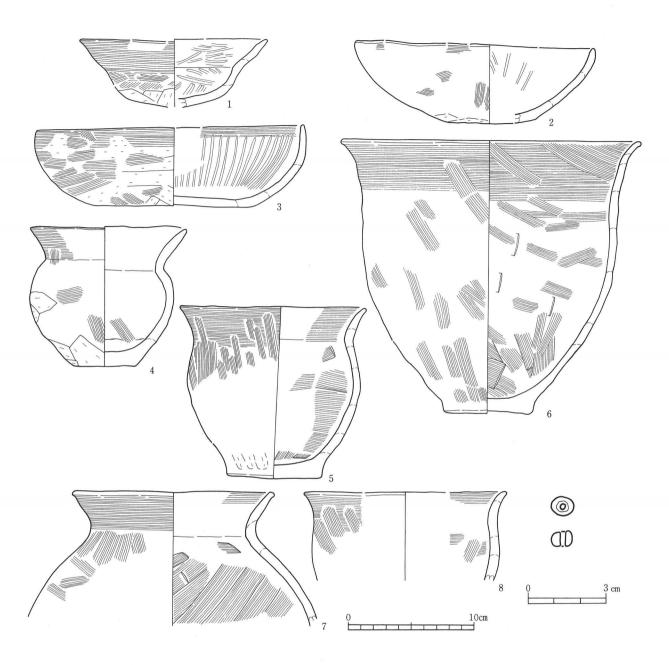
### SI25 埋土註記表

層位	土 色	土 性	備考
1層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物を多く混入、とくに下層部にかけて炭が多く含まれる
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物を多く混入、炭とともに土師器を多く含む

### SI25 床面検出遺構観察表

		遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土	色	土性		備	考	
E	:坑	SK1	不整円形	64×54	-40.0		10YR3/3 暗	f褐色	シルト	焼土粒、	炭化物混	入	
炒	生土	焼土1	楕円形	65×46	-22.0		7.5YR2/2 #	黒褐色	シルト	焼土粒、	炭化物、	骨片を多く混入	

第35図 SI25 竪穴住居跡平面図・断面図



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外面	内面	備考	登録	写真
1	P18+19	土師器	坏	15.0		(5.5)	1	(口)ヨコナデ (体)ナデ (体下)ヘラケズリ	ヘラミガキ		C621	72-2
2	P 8	土師器	坏	19.2		6.3	3/4	(口・体)ナデ (底)ヘラケズリ	ヘラミガキ	内面に赤彩 痕跡	C616	72-3
3	P10+15+16+18	土師器	坏	21.2	12.6	6.3	1	(体)ヘラケズリ→ナデ (底)ヘラケズリ	ヨコナデ→ヘラミガキ(放射状)		C619	72-4
4	P14	土師器	甕	12.4	4.8	11.3	1	(口)ヨコナデ (体)ヘラケズリ、ナデ (底)ヘラケズリ	(体)ナデ?		C620	72-5
5	P13	土師器	甕	(14.8)	7.6	13.8	(口)1/3 (底)1	(体上)ヨコナデ→ナデ (体下)ヘラケズリ? (底)ヘラナデ?	(口)ヨコナデ (体) ヘラナデ		C618	72-6
6	P15	土師器	甕	(23.8)	7.0	22.0	1/3	(口)ヨコナデ (体)ナデ (底)ヘラケズリ	ヘラナデ→ナデ		C622	72-7
7	P11	土師器	甕	(15.7)			1/4	(口)ヨコナデ (体)ナデ	(口)ヨコナデ (体)ヘラナデ		C594	
8	P 2	土師器	甕	(16.2)			1/4	ヨコナデ→ナデ	(口)ヨコナデ (体)ナデ		C612	

番号	地区•層位	種別	器種	長さ(㎜)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	特	徴	登録	写真
9		ガラス玉	三日	長軸8.4	短軸7.7	6.8	0.5	孔径2.5mm、緑色		ガラス2	87-31

第36図 SI25 竪穴住居跡出土遺物

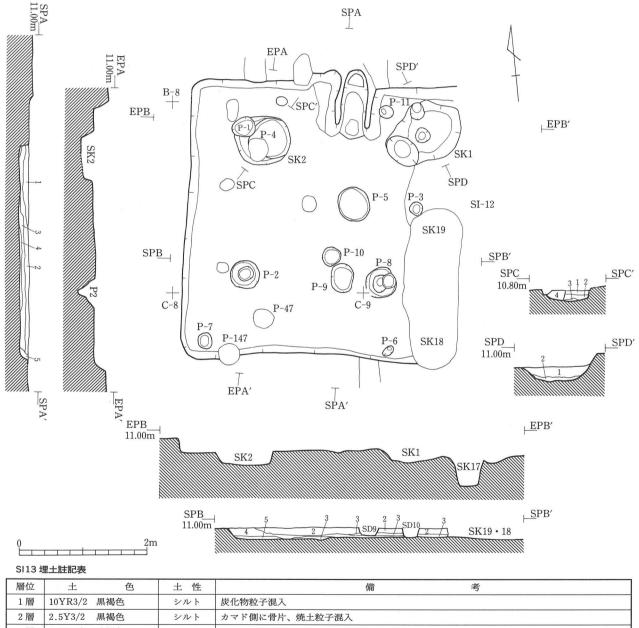
### SI 13 竪穴住居跡 (第37~39図)

【位置】II区東  $(B \cdot C - 8 \cdot 9)$  に位置している。SI12 に東側を切られている。

【平面形・規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁180cm、南壁280cm、西壁340cmを計る。方向は、 西壁で N-8°-E である。

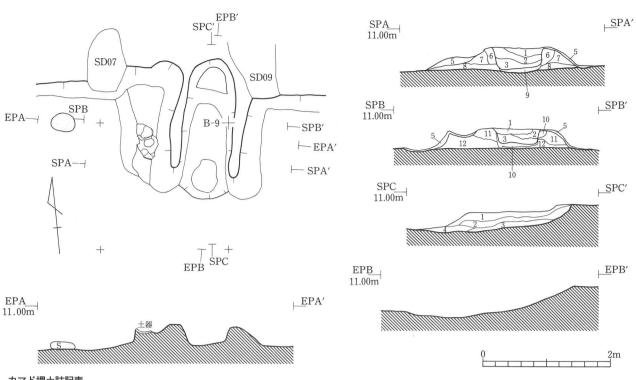
【堆積土】埋土は5層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁19~26cm、南壁8~17cm、西壁18~23cmである。 【柱穴・ピット】ピットは13基検出された。位置や規模からみて P-1・2・8 が主柱穴と考えられる。P-2・8 の底面には柱痕跡もみとめられる。SK1を切っているピットも柱穴の可能性がある。



3層 10YR3/3 暗褐色 シルト 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 炭化物粒子混入、西壁側で10YR4/1 褐灰色が斑状に混入、2層よりは暗く10YR3/2 黒褐色に近い色調 4層 10YR3/3 暗褐色 2.5Y4/3 オリーブ褐色が混入 5層 シルト

第37図 SI13 竪穴住居跡平面図・断面図



## カマド埋土註記表

層位	土	色	土 性		備	考				
1層	2Y3/2	黒褐色	シルト	焼土混入			1			
2層	10YR2/2	黒褐色	シルト	焼土・骨片混入						
3層	7.5YR3/2	黒褐色	シルト	焼土混入	:					
4層	7.5YR2/1	黒色	シルト	焼土粒・炭化物粒・骨片	昆入					
5層	10YR3/2•10Y	R6/4ブロック層	シルト	焼土粒・炭化物粒混入						
6層	5YR3/3	暗褐色	シルト	焼土をブロック状に混入						
7層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	焼土混入	カマド袖					
8層	2.5Y3/2	黒褐色	シルト							
9層	7.5YR3/2	黒褐色	シルト	カマド燃焼部底面、焼成ん	こよりやや赤変している					
10層	7.5YR2/3	極暗褐色	シルト	焼成により赤変している						
11層	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒混入						
12層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒混入						

第38図 SI13 カマド平面図・断面図

## SI13 床面検出遺構観察表

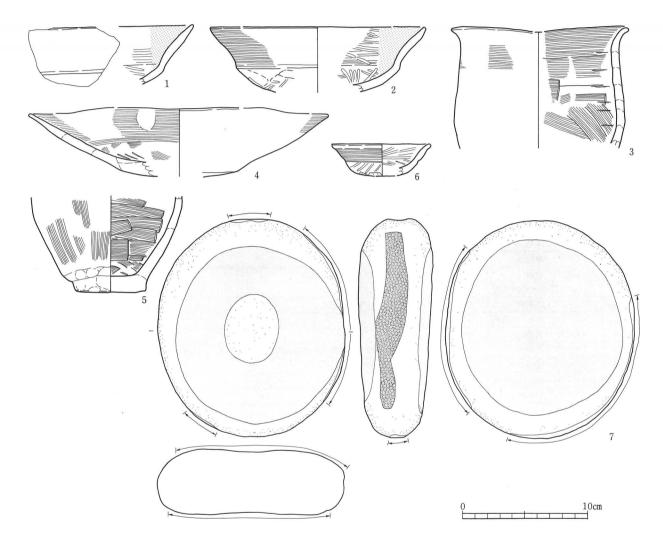
	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備考
土坑	SK1	不整形	130×98	-26.3	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
					2層	5YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック状に混入
	P-4	円形	60×64	-20.9	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
					2層	10YR2/3 黒褐色	シルト	南側上層部に焼土ブロック状に混入
8					3層	5YR3/4 暗赤褐色		焼土層
-					4層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR3/2 黒褐色に近い明るめの層、P4 を切る、 新しいピットのプラン
	P-1	円形	36×32	-15.9		10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
	P-2	円形	46×44	-18.2		10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物混入
柱穴	P-3	円 形	22×22	-19.3		10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物混入
(ピット)	P-5	円 形	50×54	-6.9		10YR3/3 黒褐色	シルト	10YR6/3 にぶい黄橙が混入
	P- 6	円形	20×14			10YR3/1 黒褐色	シルト	
	P-7	円形	22×26	-9.8		10YR3/2 黒褐色	シルト	
	P-8	円形	48×48	-21.5		10YR3/2 黒褐色	シルト	
	P-9	円形	34×44	-8.0		10YR3/3 暗褐色	シルト	
	P-10	円形	30×30	-7.5		10YR3/3 暗褐色	シルト	
-	P-11	円 形	36×40	-18.2		10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	2.5Y6/3 にぶい黄褐色が混入

## 【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】カマドの両側に土坑が検出され、貯蔵穴の可能性がある。ともに柱穴と考えられるピットに切られている。SK1 は不整形を呈し、長軸125×短軸90cm、深さ20cmを計る。SK2 は不整円形を呈し、長軸85×短軸75cm、深さ20cmを計る。

【カマド】北壁のほぼ中央部で燃焼部と煙道の一部が検出された。天井部はなく、両側壁が残存している。規模は幅110cm、長さ90cmである。煙道部はほとんど残存していない。カマド周辺に焼土・炭化物が拡がっていた。

【出土遺物】堆積土・床面・カマド・ピットより、土師器(非ロクロ)・礫石器・石製模造品・剝片石器・弥生土器が出土している。第39図1・2は坏で、外面に段を持ち、口縁部は外反し、内面は黒色処理される。



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	床直	土師器	坏							ヘラミガキ、黒色	色処理		C96	
2	ピット1	土師器	坏	(17.2)			(口)1/4 (体)1/4	(口)ヨコナデ (体)ヘラケズリ→	・ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガ	ド、黒色処理		C87	
3	P 3	土師器	甕	(14.0)			1/2	(口)ヨコナデ		(口)ヨコナデ (を	本) ヘラナデ		C89	72-9
4	ピット4	土師器	高坏	(23.8)			1/4	ヨコナデ		ヨコナデ、ヘラブ	トデ		C91	
5	カマド	土師器	甕		5.6		1	(体)ナデ		(体)ヘラナデ			C84	
6	5層	土師器	小形	7.9		2.6	1	(口)ヨコナデ (体)ヘラケズリ→	・ヘラミガキ	ヘラナデ→ヘラミ	ミガキ		C99	72-8

番号	地区•層位	種別	器種	長さ㎜	幅mm	厚さmm	重さg	特 徴	登録	写真
7	床直	礫石器	磨+敲	175	150	57	2,400		Kd305	82-6

第39図 SI13 竪穴住居跡出土遺物

### SI 32 竪穴住居跡 (第40~42図)

【位置】II区東( $A \cdot B - 7 \cdot 8$ )に位置している。SI13 の床面下で検出され、SD01 に西側を切られている。北側は調査区外にかかっている。

【平面形・規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は南壁350cm、東壁340cmを計る。方向は、東壁で $N-5^{\circ}-E$ である。

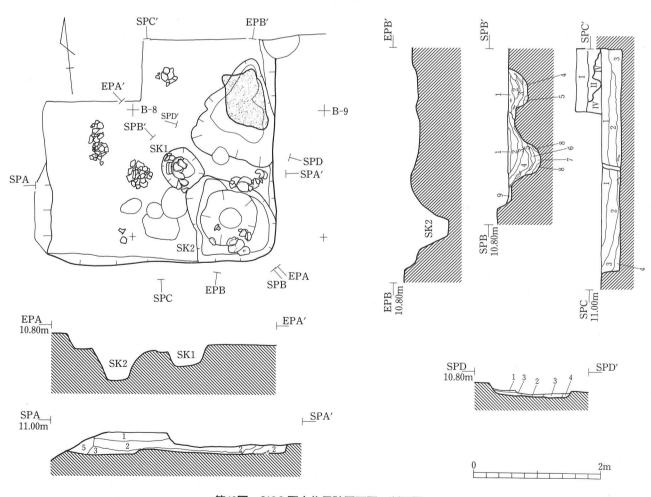
【堆積土】埋土は5層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は南壁12~28cm、東壁13~17cmである。床面は平坦で固くしまっており、灰白色シルトによる貼床がされていた。床面西側に  $6 \sim 10$ cmのわずかな段差がみられたが全体のプランは不明である。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【床面施設】床面東壁側で南北90cm、東西60cmの範囲に焼土・炭化物が検出され、その下に浅い掘り込みが伴っていた。平面形は三角形状を呈し、東西125×南北160cm、深さ7cmを計る。断面形は浅い皿状を呈し、中央部に焼土がみられた。位置的にカマド燃焼部の掘り込みである可能性も考えられる。

南東コーナー部で土坑 2 基を検出し、ほとんどの遺物はこの 2 基の土坑から出土している。SK1 は平面形は不整円形を呈している。規模は長軸85×短軸58cmで、深さは32cmである。SK2 は平面形は隅丸方形を呈している。規模は長軸140×短軸120cmで、深さは57cmである。



第40図 SI32 竪穴住居跡平面図・断面図

【出土遺物】堆積土・床面・土坑より土師器(非ロクロ)・須恵器・礫石器・石製模造品・剝片石器・弥生土器が出土している。第41図  $6 \cdot 7$  は土師器の蓋で、ともに SK2 から出土している。6 は口径16cm、高さ6.2cmで、つまみは凹状になっている。

### SI32 埋土註記表

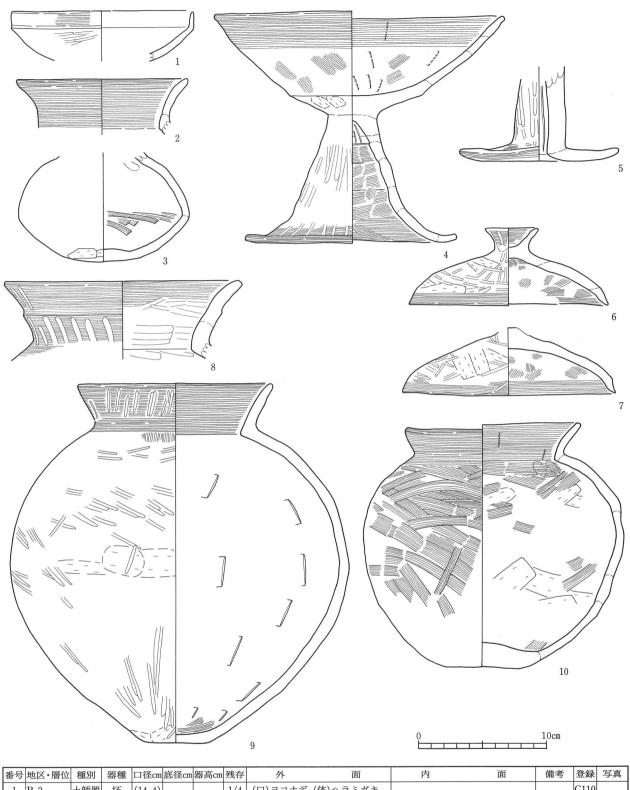
層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
2 層	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR7/1 灰白が斑状に混入
3 層	10YR2/3	暗褐色	シルト	
4 層	10YR3/2	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色
5 層	10YR2/3	黒褐色	シルト	10YR7/1 灰白が斑状に混入、酸化鉄混入

#### SI32 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備考
	SK1	楕円形	35×58	-32	1層	10YR4/3 にぶい黄褐	色 シルト	10YR6/4 にぶい黄色ブロック状に混入、炭化物 粒子を混入
1					2層	10YR5/3 にぶい黄褐	色(若干砂質)	炭化物粒子若干混入
					3層	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物粒子若干混入
					4層	10YR4/2 灰黄褐 10YR6/4 にぶい黄橙色	粘質シルト	ブロック層
					5層	10YR6/4 にぶい黄槎	色 粒シルト	
土坑	SK2	不整形	140×121	-57	1層	10YR4/3 にぶい黄複	色 シルト	炭化物粒子若干混入
					2層	10 YR4 / 2 灰黄褐	色 シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色ブロック状に混入、炭化 物粒子若干混入、10YR7/1 灰白色斑状に混入
					3 層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR7/1 灰白色斑状に混入、マンガン斑状に混   入
					4 層	10 YR4 / 2 灰黄褐	色 シルト	10YR7/1 灰白色斑状に混入
					5層	10YR4/2 灰黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	ブロック層
					6層	10 YR5 / 2 灰黄褐	色 繝シルト	
					7層	10YR4/1 褐灰色	粘質シルト	炭化物粒子若干混入
					8層	10YR6/1 褐灰色	粗質シルト	-
					9層	10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR7/1 灰白色	シルト	ブロック層、上面に炭化物粒子集中

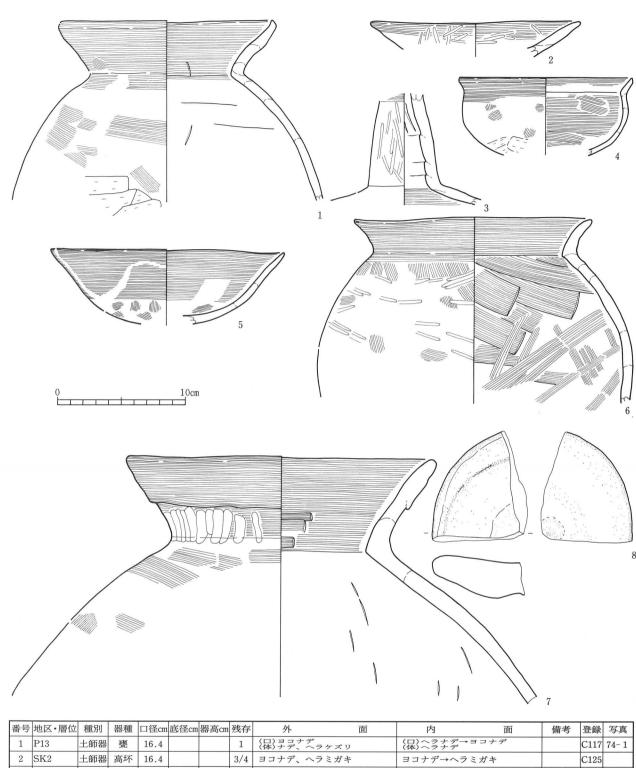
## SI32 焼土遺構註記表

層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、焼土粒混入
2層	5YR4/3	にぶい赤褐色	シルト	焼土層、骨片混入、炭化物粒子混入
3層	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒子混入、焼土粒若干混入
4層	7.5YR3/2 10YR5/3	黒褐色 にぶい黄褐色	シルト	プロック層、炭化物粒子混入



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外 面	内	面	備考	登録	写真
1	P 2	土師器	坏	(14.4)			1/4	(口)ヨコナデ (体)ヘラミガ	丰			C110	
2	P 1	土師器	甕	13.6		2	1	ヨコナデ	ヨコナデ			C109	
3	P 3	土師器	壺				1	(体下)ヘラケズリ	(体上)オサエ (	体下)ヘラナデ		C111	72-10
4	P 4	土師器	高坏	23.1	16.8	18.7	(坏)3/4 (脚)3/4	(坏)ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ→ナデ (脚)ヘラミガキ、ヨコナデ→ヘラミガキ	(坏)ヘラナデ→ヨコナ (脚)ヨコナデ→ナデ	デ、ヘラナデ→ナデ		C112	73-1
5	P17	土師器	高坏		12.7		1	(柱)ヘラガキ (台)ナデ→ヘラミガキ	(台)ナデ、ヘラ	ミガキ		C131	
6	P14	土師器	蓋	16.0		6.2	約1	(つまみ)ヨコナデ→ヘラミガキ (体)ヘラケズリ→ヘラミガキ (口)ヨコナ		デ (体)ナデ		C118	72-11
7	P19	土師器	蓋	17.0			3/4	(体)ヘラケズリ→ヘラミガキ (口)ヨコナデ	(体)ナデ(口)	ヨコナデ		C119	72-12
8	P 5	土師器	甕	19.0			1/2	ヨコナデ→ヘラミガキ	ヨコナデ→ヘラ	ミガキ		C113	73-2
9	P 8	土師器	甕	(15.5)	5.2	28.8	(口)1/3 (底)1	(口)ヨコナデ→ヘラミガキ (体)ヘラナデ、ヘラケズリ→ヘラミガキ (底)ヘラケズリ	(口)ヨコナデ (体)ヘラナデ、	ナデ		C144	73-3
10	P12	土師器	甕	(13.6)		19.7	(口)3/4 (底)1	(口)ヨコナデ (体)ヘラナデ	(口)ヘラナデ→ (体)ヘラケズリ	ヨコナデ →ナデ		C116	73-6

第41図 SI32 竪穴住居跡出土遺物 (1)



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	P13	土師器	甕	16.4			1	(口)ヨコナデ (体)ナデ、ヘラ	ケズリ	(口)ヘラナデ→ (体)ヘラナデ	ヨコナデ		C117	74-1
2	SK2	土師器	高坏	16.4			3/4	ヨコナデ、ヘラ	ミガキ	ヨコナデ→ヘラ	ミガキ		C125	
3	P10	土師器	高坏				1	(脚)ナデ、ヘラ	ミガキ	(脚)シボリメ (1	台)ナデ		C114	
4	埋土下層	土師器	坏	(13.6)			1/4	(口)ヨコナデ (体)ナデ、ヘラ	ケズリ→ナデ	(口)ヨコナデ (1	体)ナデ		C132	73-4
5	埋土下層	土師器	高坏	18.2			1/2	(口)ヨコナデ (	(体)ナデ	(口)ヨコナデ (1	体)ナデ		C133	73-5
6	P18	土師器	甕	18.6			1	(口)ヨコナデ (体)ナデ→ヘラ		(口)ヨコナデ (体)ヘラナデ→・	ナデ		C120	74-2
7	P25	土師器	壺?	23.7			1	(口)ヨコナデ→ (体)ナデ	・ヘラミガキ	(口)ヨコナデ、 (体)ヘラナデ	ヘラナデ		C122	73-7

番号	地区•層位	種別	器種	長さ㎜	幅mm	厚さmm	重さg	特	徴	登録	写真
8		礫石器	石皿?	86	72	37.3	220.7			Kd312	82-8

第42図 SI32 竪穴住居跡出土遺物(2)

#### SI 14 竪穴住居跡 (第43~47図)

【位置】II区東( $C \cdot D - 8 \sim 10$ )に位置し、南側が調査区外にかかっている。SI15 に西側を切られているが、SI16  $\cdot$  23 を切っている。改築が行なわれており、古段階の SI35 の西側を拡張し、床を上げている。

【平面形・規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁450cm、西壁200cmを計る。方向は、西壁で $N-24^{\circ}-E$ である。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁  $5 \sim 20 \text{cm}$ 、西壁 $5.5 \sim 9.5 \text{cm}$ である。床面は古い段階の住居を埋めて床面としている。

【柱穴・ピット】ピットは3基検出された。 $P-1 \cdot 2$  が柱穴となる可能性がある。P-3 は埋土上面に骨片混じりの焼土があり、カマドからかき出された焼土溜と考えられる。

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】SK1 埋土上面東壁側と、P-1 と P-2 の間の床面で粘土塊を検出している。焼土  $1\sim3$  はいずれも下に掘り込みを伴っている。それぞれ径  $40\sim50$  cmで、平面形は円形を呈し、深さは  $15\sim20$  cmを計る。P-3 と同様にカマドの焼土溜と考えられる。

カマドの両側で土坑を検出している。東側の SK1 は約1/2が調査区外にかかるが方形を呈し、東西120×南北80cm 以上、深さ60cmを計る。断面形は逆台形を呈し、埋土上面に土師器甕を中心として遺物が多く出土している。西側の SK2 は不整円形を呈し、長軸110×短軸70cm、深さ22cmを計る。断面形は舟底形を呈し、埋土上面に焼土・炭混じり層がある。P-3 に切られている。

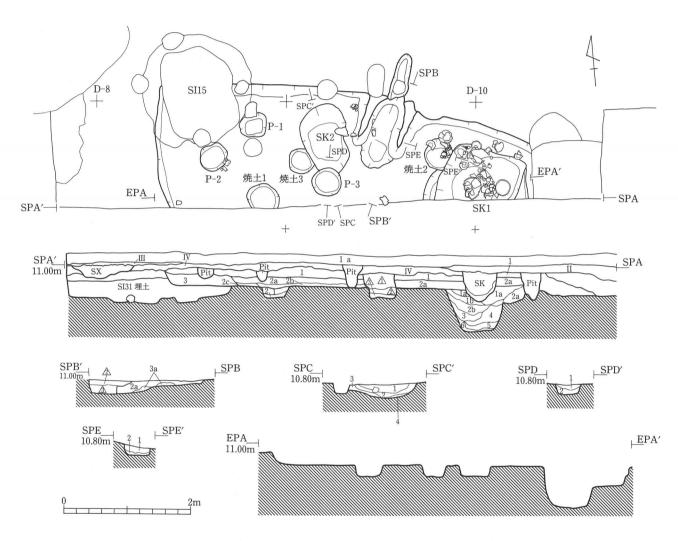
【カマド】北壁のほぼ中央部で燃焼部と煙道の一部が検出された。カマドは改築された痕跡がなく新しく作られたものと考えられる。天井部はなく、両側壁が残存している。規模は幅110cm、長さ80cmである。煙道部は幅28cm、長さ80cmである。カマドの周辺東西200cm、南北100cmの範囲に焼土・炭化物が広がっていた。

#### SI14 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備考
	SK 1	方形	120×(80)		1a 層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒子混入
					1b 層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	2.5Y5/3 小ブロック状に混入
					2a 層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	
					2b 層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	
土坑					3 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 ブロック状に混入、炭化物混入
					4層	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	2.5Y5/3 ブロック状に混入
					5層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	
					6層	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	
	SK 2	隅丸方形	76×106		1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	上層部に焼土、炭化物混入
					2層	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒子混入
					3層	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
					4層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒子混入
	P-1	方形	45×35	-23		2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
柱穴	P-2	円形	45×40	-23		2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
(ピット)	P- 3	円形	46×44	-17.5	1層	7.5Y2/1 黒色	シルト	焼土粒・骨片混入
					2層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒混入
	焼土1	円形	50×(40)		1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック状に混入、炭化物粒子混入
					2層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	焼土粒子混入
焼土	焼土2	円形	50×(45)	-15.0	1層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック状に混入、炭化物粒子混入
					2層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	焼土粒子・焼土粒子混入
	焼土3	円形	40×40			7.5YR3/2 黒褐色	シルト	焼土・骨片・炭化物混入

【出土遺物】堆積土・床面・土坑より、土師器(非ロクロ)・須恵器・鉄製品・礫石器・石製模造品・剝片石器・弥生土器が出土している。第45図11の甕は、底部が丸く、胴部が球形で、口縁部は直立する。体部上半部にはロクロの回転力を利用したと考えられる回転ハケメが施され、内面にはハケメ施文の際手を添えた痕と考えられるロクロ目が認められる。ロクロ目の後、底部外面には平行タタキがのこり、同内面には当て目が残る。下部の当て目は大きめで無文であるが、上部の当て目は小さめで一部に木目のような痕跡がある。

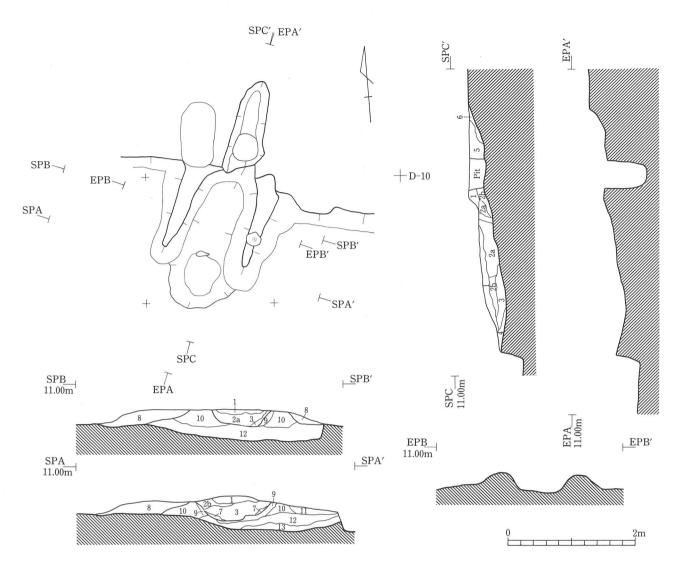
第46図12は須恵器二重聴である。住居堆積土と基本層から出土しており、図示した土師器には伴わない。第47図 1 は砥石であるが、周縁に二次加工が施されており、全体の形状から本来は石鍬であった可能性が高い。転用されたものであろう。 3 は黒曜石の剝片石器で、剝片の折れ面に細かな二次加工が施されている。



SI14 埋土註記表

層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
- 2a 層	10YR2/3	黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
2b 層	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	若干砂質シルトに近い
2c 層	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	
3層	7.5YR2/2	黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒子混入

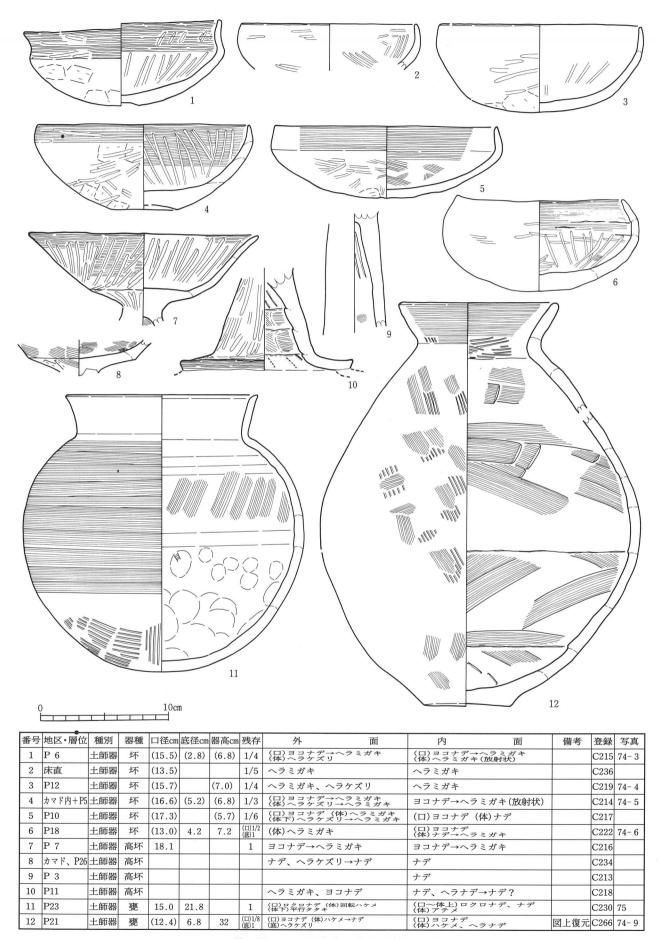
第43図 SI14 竪穴住居跡平面図。断面図



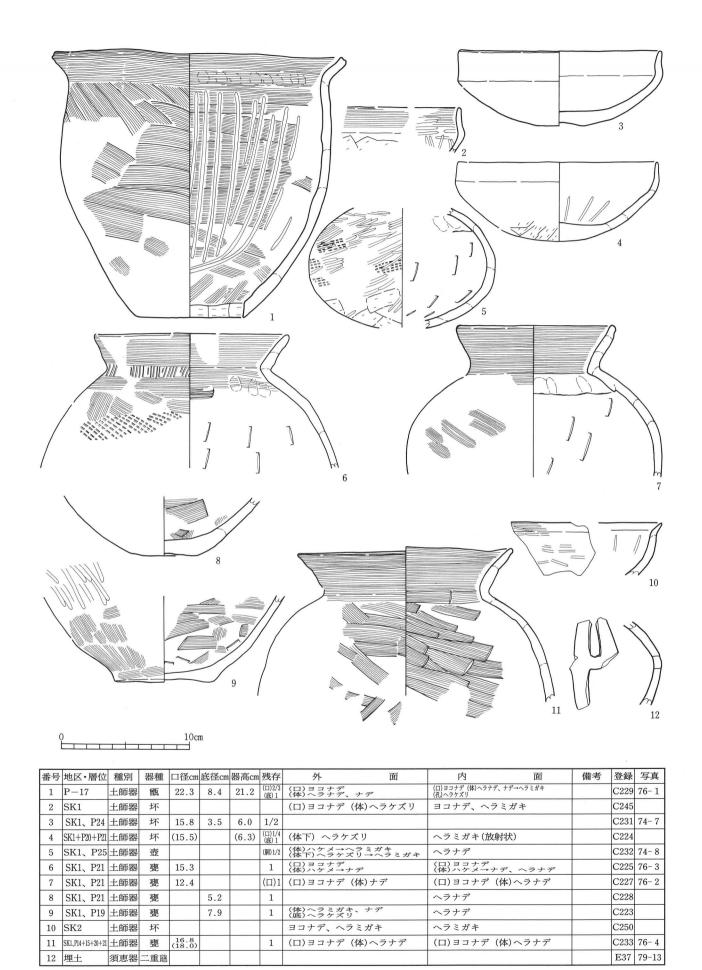
SI14 カマド埋土註記表

層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR3/3	暗褐色	シルト	焼土粒混入
2a 層	5YR3/2	暗赤褐色	シルト	焼土・骨片混入
2b 層	5YR3/3	暗赤褐色	シルト	焼土混入
3層	7.5YR3/2	黒褐色	シルト	焼土粒混入
4層	10YR3/2	黒褐色	シルト	
5層	10YR2/3	黒褐色	シルト	10YR3/3 暗褐色土混入
6層	10YR3/3	暗褐色	シルト	
7層	5YR2/3	極暗赤褐色	シルト	焼成により赤変している
8層	7.5YR3/2	黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入
9層	5YR3/3	暗赤褐色	シルト	焼成により赤変している
10層	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	
11層	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	
12層	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物粒・焼土粒混入
13層	10YR4/4	褐色	シルト	焼土が斑状に若干混入、炭化物粒混入

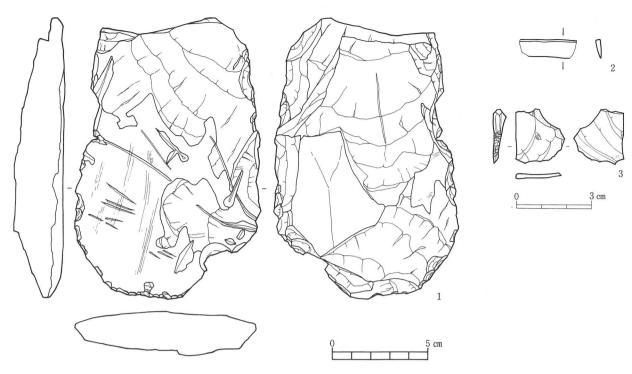
第44図 SI14 カマド平面図・断面図



第45図 SI14 竪穴住居跡出土遺物 (1)



第46図 SI14 竪穴住居跡出土遺物(2)



番号	地区•層位	種別	器種	長さ㎜	幅mm	厚さmm	重さ g	特 徴	登録	写真
1	S 2	礫石器	砥 石	14.8	9.8	2.6	369	石鍬の転用か?	Kd306	82-7
2		鉄製品		33.7	11.4	7.8	3.2		N 5	84-3
3	埋土中~下層	剝片石器	不定形石器	21.1	19.3	4.1	1.3	黒曜石	Ka47	88-4

第47図 SI14 住居跡出土遺物 (3)

# SI 35 竪穴住居跡 (第48図)

【位置】II区東( $C \cdot D - 9 \cdot 10$ )に位置し、南側が調査区外にかかっている。SI14 の床面下でほぼ同じ位置で検出されたことから SI14 の改築前のプランと考えられ、床面積は SI14 よりも小さい。床面のレベルは SI14 よりも約17 cm下がっている。

【平面形・規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁340cm、西壁200cmを計る。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

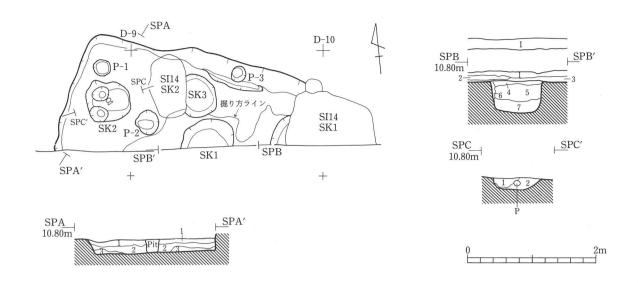
【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁 7~21cm、西壁5.5~9.5cmである。壁沿いに幅60~150 cm、深さ 8~10cmの周溝状の掘り方が検出されている。この部分では掘り方上面を床面としている。

【柱穴・ピット】ピットは3基検出された。P-2は位置や規模からみて柱穴と考えられる。

【周溝】周溝は検出されなかったが、北壁の中央部に溝状の浅い凹みがみとめられた。

【床面施設】土坑が 3 基が検出された。SK1 は南半分が調査区外にかかっている。平面形は不整円形を呈するとおもわれる。東西 $80 \times$ 南北50cm以上、深さ47cmを計る。SK2 は不整円形を呈し、 $70 \times 60$ cm、深さ17cmを計る。第48図 2 の小壷が出土している。底面に径25cm、深さ $20 \sim 30$ cmのピット 2 基が検出された。

【出土遺物】堆積土・床面から土師器(非ロクロ)・石製模造品・弥生土器がごく少量出土している。

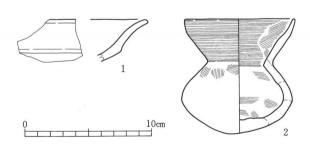


### SI35 埋土註記表

層位	土 色	土性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、10YR4/2 灰黄褐色土混入
2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭科物粒子・焼土粒子混入、10YR6/3 にぶい黄橙色土混入
3層	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物粒子混入

### SI35 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 包	生 生	性	備	考
	SK1	不整円形	80×(50)	-47	4層	10YR6/4 にぶい責	黄橙色 シル	/ h	上層に厚さ 1 cm程の10YR4/	1 褐灰色土の集積
					5層	2.5Y6/4 黄灰色	粘質シ	ルト	酸化鉄が斑状に混入	
土坑				9	6層	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シ	ルト	酸化鉄が斑状に混入	
					7層	2.5Y4/2 暗灰黄	色 粘質シ	ルト		
	SK2	円形	70×60	-17	1層	10YR3/2 黒褐色	シル	/ h	炭化物粒子混入	
					2層	10YR3/3 暗褐色	シル	· ト	炭化物粒子混入	
	SK3	楕円形	60×(60)	-16		2.5Y3/2 黒褐色	シル	· ト	焼土粒・炭化物粒混入	
	P-1	円形	24×24	-5.4		10YR3/2 黒褐色	シル	/ h	炭化物粒子混入	
柱 穴 (ピット)	P-2	不整形	42×36	-35		10YR3/2 黒褐色	シル	· ト	炭化物粒混入	
	P-3	円形	25×22	-20.3		10YR3/2 黒褐色	シル	1	炭化物粒混入	



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	床直	土師器	高坏?						<				C279	
2	P 1	土師器	壺	8.8		9.1	1	(口)ヨコナデ (亿	は)ナデ	ヨコナデ、ナデ			C276	76-5

第48図 SI35 竪穴住居跡・出土遺物

#### SI 15 竪穴遺構 (第49·50図)

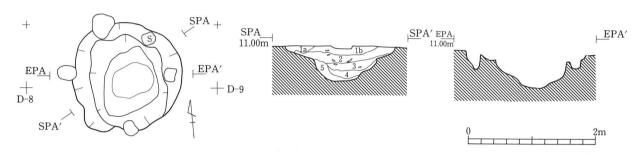
【位置】II区東(C・D-8) に位置している。SI14を切っている。

【平面形・規模】平面形は不整円形を呈している。規模は、長軸174×短軸170cm、深さ60cmを計る。

【堆積土】埋土は5層に分けられた。

【壁・床面】壁は緩やかに立ち上がっている。断面形は上端のひらいた U 字形で、途中に段がついている。底面は 40×70cmの小さな隅丸方形を呈し、平坦ではなく浅い凹み状になっている。底面からの壁高は約60cm程である。

【出土遺物】堆積土より土師器(非ロクロ)・須恵器・鉄製品・石製模造品・管玉・剝片石器・弥生土器が出土している。図示した2点の坏は外面に段を持つものであり、1は内面が黒色処理される。6は胴部が丸みを持ち、外面に平行タタキ、内面に当て目が施されており須恵器甕の技法で製作されている。しかし、色調が黄橙色で焼き上がりが軟質であり、一部に黒斑が認められるものである。13は黒曜石の剝片石器で、両極剝離痕がみられる。



SI15 埋土註記表

層位	土	色	土 性	備考
1a 層	10YR3/1	黒褐色	シルト	
1b 層	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
2層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、西壁側に10YR3/1 黒褐色がブロック状に混入
3層	10YR2/3	黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、2.5Y5/3 黄褐色がブロック状に混入
4層	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	2.5Y5/3 黄褐色がブロック状に混入
5 層	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	2.5Y4/3 オリーブ褐色がブロック状に混入

第49図 SI15 竪穴遺構平面図・断面図

#### SI 16 竪穴住居跡 (第51図)

【位置】II区東(C-9・10)に位置している。南西側およそ1/2が SI14 に切られている。

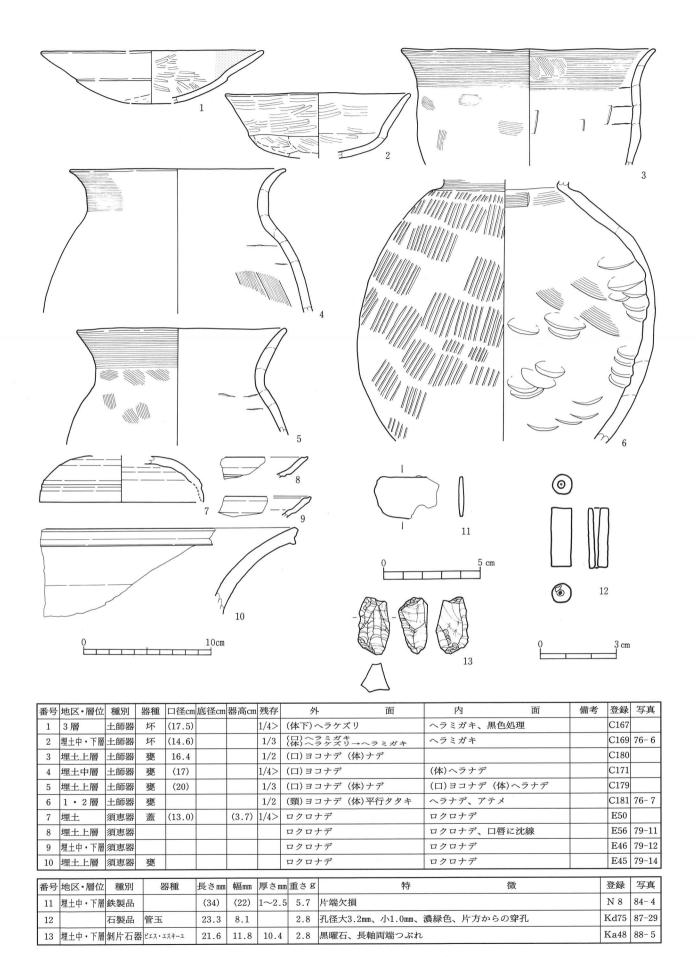
【平面形•規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁360cm、東壁330cmを計る。方向は東壁で  $N-21^{\circ}-W$  である。

【堆積土】埋土は4層に分けられた。

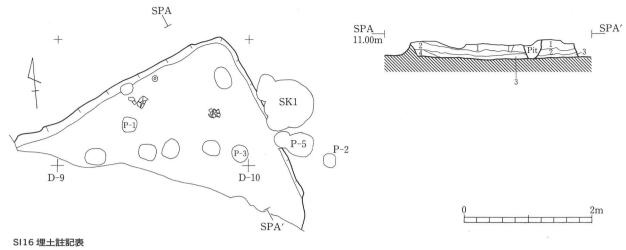
【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁 $10\sim22$ cm、東壁 $6\sim11$ cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。床面は平坦で固くしまっていた。

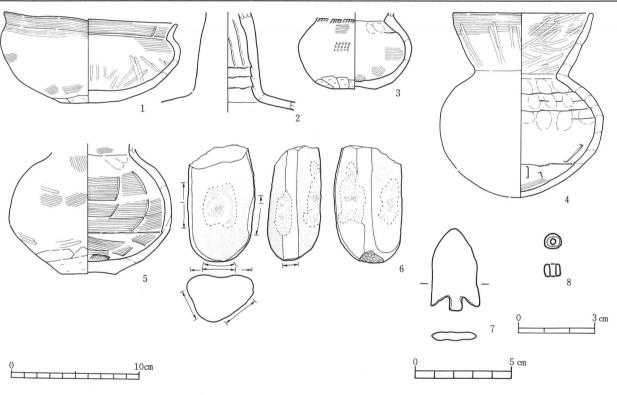
【出土遺物】堆積土・床面・ピットより土師器(非ロクロ)・礫石器・鉄製品・石製模造品・ガラス玉・弥生土器が出土している。7の鉄鏃は埋3層から出土している。有茎鏃で長三角形を呈している。長さ4.4cm、幅2.4cmで、ほぼ完形である。県内での出土例としては、山元町の合戦原遺跡4号住居跡の床面から出土したものがあり、共伴する土器から南小泉式期のものとされている(岩見:1991)。今回の鉄鏃は住居内からの出土例として希少なものとなった。



第50図 SI15 竪穴遺構出土遺物



層位	土 色	土 性	備考
1層	10YR3/4 暗褐色	シルト	
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
3層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
4層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色混入



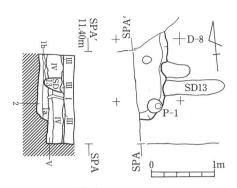
番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	ピット4	土師器	坏	13.6		7.2	1	(口)ヨコナデ ( (底)ヘラケズリ	体)ナデ	(口)ヘラナデ、ナ	デ、ヘラミガキ		C330	76-8
2	ピット4	土師器	高坏				1						C331	
3	P 2	土師器	壺		3.5		1	(体)ハケメ→ナ (底)ヘラケズリ	デ、ヘラケズリ →ナデ	ナデ			C329	76-9
4	P 1	土師器	壺	11.0		14.6	1	(口)ヨコナデ、	ヘラミガキ	(口)ナデ→ヘラミガキ (体)ユビオサエ(ナデ)	、ヘラナデ、ナデ		C326	77-1
5		土師器	壺		4.3		1	(体)ナデ、ヘラミガキ (体下)ヘラケズリ→ナデ、ヘ	ヘラミガキ (底)ヘラケズリ	ナデ、ヘラナデ			C341	77-2

番号	地区•層位	種別	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重さ g	特 徵	登録	写真
6	埋土下層	礫石器	磨+凹+敲	93	52.2	40.9	268.4		Kd307	82-9
7	3層	鉄製品	鉄鏃	44	24	4	10.1	完形	N 9	84-6
8		ガラス玉	臼玉	長軸7.1	短軸6.9	5.6	0.3	孔径2.5mm、あい色	ガラス1	87-32

第51図 SI16 竪穴住居跡・出土遺物

### SI 23 竪穴遺構 (第52図)

【位置】II区東(D-7)に位置しているが、南東コーナーの一部が検出されただけでほとんどは調査区外にかかっていることから竪穴遺構とした。北側を SI11 に切られている。



【平面形・規模】規模・平面形は不明で、東壁140cmを計る。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は東壁で約20cmである。

【柱穴・周溝】周溝は検出されなかったが、ピット1基がある。平面形は 径23cmの円形を呈し、深さは20cm程である。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

#### SI23 埋土註記表

層位	土 色	土 性	備考
1a 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
1b 層	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	10YR4/2 灰黄褐色土ブロック状に混入
2層	2.5YR4/3 オリーブ褐色	シルト	10YR3/2 黒褐色土ブロック状に混入

#### SI23 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土	色	土性	備	考
ピット	P-1	円形	22×22	-21.6		10YR2/2 #	<b>黒褐色</b>	シルト		

第52図 竪穴住居跡平面図·断面図

#### SI 31 竪穴住居跡 (第53·54図)

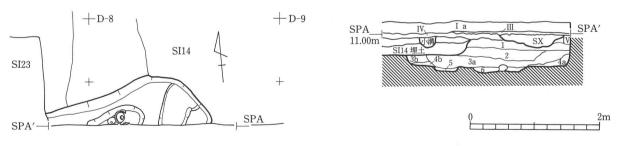
【位置】II区東(D-7・8)に位置しているが、北東側のコーナーの一部を検出しただけでほとんどは調査区外にかかっている。東側を SI14 に切られている。

【平面形・規模】平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。規模は北壁180cm、東壁120cmを計る。

【堆積土】埋土は6層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁約27cm、東壁約17cmである。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。



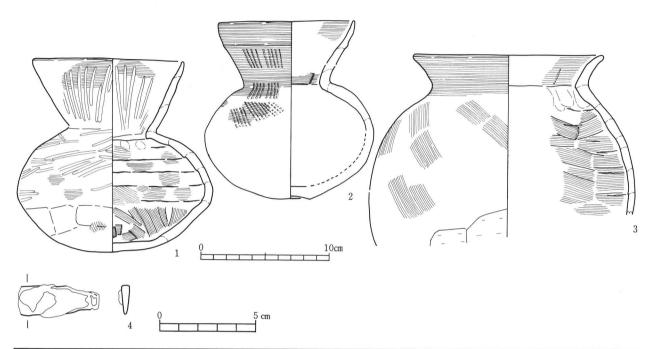
SI31 埋土註記表

層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR3/2	黒褐色		
2層	10YR3/3	暗褐色		
3a 層	10YR4/2	灰黄褐色		炭化物粒子多く混入、10YR6/1 斑状に混入
3b 層	10YR3/3	暗褐色		炭化物粒子混入
4a 層	7.5YR2/2	黒褐色		焼土混層
4b 層	10YR4/3	にぶい黄褐色	若干砂質シルト	炭化物粒子混入、10YR3/2 ブロック状に混入
5層	10YR5/4	にぶい黄褐色		
6層	10YR2/3	黒褐色		

第53図 SI31 竪穴住居跡平面図・断面図

【床面施設】床面東壁側に幅約45cmで、深さ  $4\sim6$  cmの浅い帯状の凹みがある。その西側に大部分が調査区外にかかる土坑がある。平面形は長楕円形を呈すると考えられ、深さは10cm程で浅いがここから図示した遺物が出土している。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器(非ロクロ)・鉄製品・弥生土器が出土している。第54図2の壷は全体の形状と口縁部の段の形状から、須恵器 聴を模したものと考えられる。



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	P 1	土師器	壺	(12.0)		(15.3)	(口)1/4> (体)1	<ul><li>(口)ヨコナデ→ヘラミガキ</li><li>(体下) ヘラケズリ→ナデ</li></ul>	(体)ナデ→ヘラミガキ	(口)ヨコナデ→へ (体上)ナデ (体下	ラミガキ )ヘラナデ		C194	77-3
2	P 3	土師器	壺	(10.7)	3.0	14.1	(口)1/4 (体)1	(口)ヨコナデ (体上)ハケメ→ナ	ーデ	(口)ヨコナデ、へ	ラナデ		C196	77-4
3	P 2	土師器	甕	15.0			3/4	(口)ヨコナデ (体)ヘラナデ、^	<b>、ラケズリ</b>	(口)ヘラナデ→ヨ (体)ヘラナデ	コナデ		C195	77-5

番号	地区•層位	種別	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	特	徵	登録	写真
4	埋土上層	鉄製品	刀子	(43)	15	4	7.9	両端欠損		N17	84-5

第54図 SI31 竪穴住居跡出土遺物

#### SI 34 竪穴住居跡 (第55図)

【位置】II区東( $C \cdot D - 7 \cdot 8$ )に位置している。 $SI11 \cdot 13 \cdot 15$  に切られている。

【平面形・規模】規模・平面形は不明である。検出されたのは、南壁60cm、東壁140cm程度である。

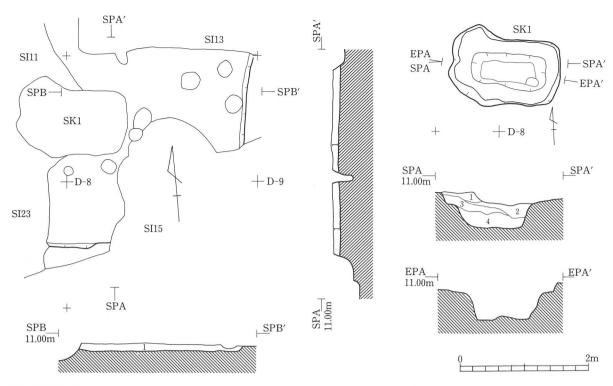
【堆積土】埋土は単層である。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は南壁約 $8\,\mathrm{cm}$ 、東壁 $6\sim9\,\mathrm{cm}$ である。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【出土遺物】堆積土・土坑より土師器(非ロクロ)・石製模造品・弥生土器がごく少量出土している。図示できる遺物はない。

【SI11・34 を切る土坑 SK1】検出時は SI11 に伴う土坑と考え調査に入ったが、埋土の状態や壁面の検討によりこれらの住居より新しい遺構と判断した。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸170×短軸100cm、深さ60cmを計る。断面形は逆台形状を呈している。底面に厚さ  $5\sim7$  cmの焼土・炭の集積層が検出された。壁や底面には焼成による赤変や硬化はみられなかった。



#### SI34 埋土註記表

層位	土 色	土 性	備考
1層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	

SI11・34 を切る土坑 (SK1) 観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土	色	土 性	備	考
	SK1	隅丸方形	170×110	-48	1層	10YR4/3 に、	ぶい黄褐色	シルト	上層に炭化物粒子混入	
土坑					2層	2.5Y4/4 オリ	リーブ褐色	シルト	10YR4/3 にぶい黄褐色、	ブロック状に混入
					3層	10YR3/2 黒	褐色	シルト	東壁側及び下層底面に炭	化物粒子混入
					4層	焼土、炭集	積層			

第55図 SI34 竪穴遺構平面図・断面図

## SI 18 竪穴住居跡 (第56図)

【位置】 I 区( $C-10 \cdot 11$ )に位置している。北側の大部分を  $SI12 \cdot 17$  に切られ、さらに天地返しにより床面はほとんど残っていない。

【平面形・規模】南西コーナー部と東壁の一部を検出しているが、平面形は方形を呈すると考えられる。残存しているのは南壁で180cm程度である。

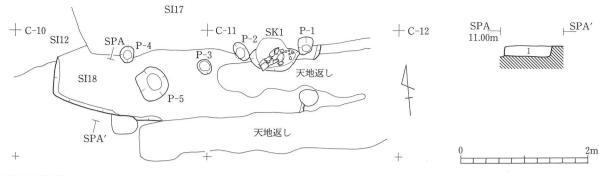
### 【堆積土】埋土は単層である。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は南壁12~15cm、東壁 7~10cm、西壁 7~16cmである。 【柱穴・ピット】ピットは 4 基検出された。

#### 【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】北半分を SI17 に切られている SK1 を検出している。平面形は不整円形を呈するとおもわれる。東西  $80 \times$  南北50cm以上、深さ25cmを計る。埋土下層に厚さ 2cmの炭の集積層があり、遺物の多くはこの下から出土している。

【出土遺物】堆積土・床面・土坑より土師器(非ロクロ)・須恵器・石製模造品が出土している。 1 は内面黒色処理の坏である。

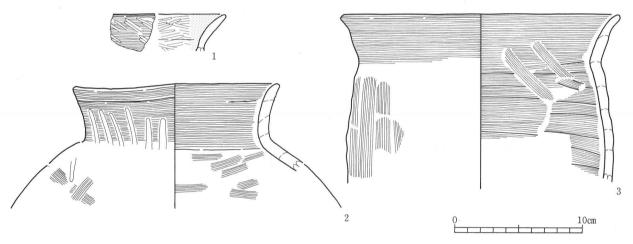


#### SI18 埋土註記表

層位	土	色	土 性	備	考	
1層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子混入		

#### SI18 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土	色	土 性	備	考
土坑	SK1	(不整形)	80×(50)	-23.6		10YR3/2 黒褐	色	シルト	埋土下層に厚1~2 cm	程の炭集積層
	P-1	隅丸方形	20×28	-50.2		10YR3/2 黒褐	色	シルト	炭化物粒子混入	
	P-2	長楕円形	20×30	-50.9		10YR3/2 黒褐	色	シルト	炭化物粒子混入	
柱 穴(ピット)	P-3	円形	22×23	-18.2		10YR3/2 黒褐	色	シルト	炭化物粒子混入	
	P-4	円形	22×26	-49.7		10YR3/2 黒褐	色	シルト	炭化物粒子混入	
	P-5	不整方形	50×50	-13.0		10YR3/2 黒褐	色	シルト	炭化物粒子混入	



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	SK1	土師器	坏					ヨコナデ→ヘラミ	ガキ	ヘラミガキ、	黒色処理		C544	
2	P1+3+5+6+7	土師器	甕	16.2			1/2	(口)ヨコナデ→へ (体)ナデ、ヘラミ	ヽラミガキ ミガキ	(口)ヨコナテ	゛(体)ナデ		C542	77-6
3	P2+4	土師器	甕	22.0			1/4	(口)ヨコナデ (を	体)ナデ	(口)ヨコナテ	゛(体)ヘラナデ		C543	77-7

第56図 SI18 竪穴住居跡・出土遺物

# SI 19 竪穴住居跡 (第57·58図)

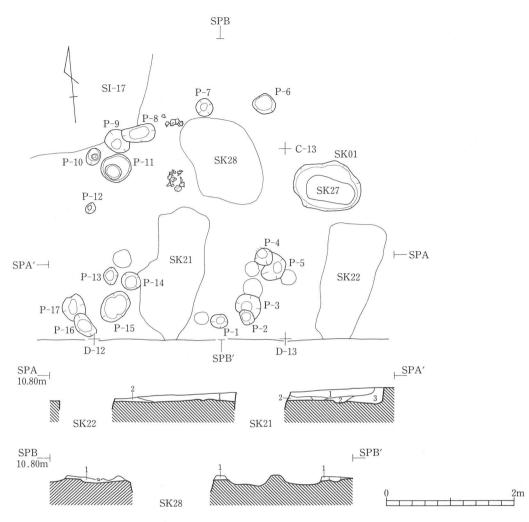
【位置】  $I \boxtimes (B \cdot C - 11 \sim 13)$  に位置している。 $SK21 \cdot 22 \cdot 27 \cdot 28$  に切られ、さらに天地返しにより床面はほとんど残っていない。

【平面形・規模】ピットが径 4 m の規模で円形に巡っていることから住居跡と認定したが、平面形・規模は不明である。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

【壁・床面】壁・床面はほとんど残っていない。東西方向に走る天地返しの間に細長く帯状に残った部分の断面に に壁の立ち上がりとみられるラインがある。

【柱穴・ピット】ピットは17基検出された。位置や規模から $P-3\cdot 9\cdot 15$ が柱穴となる可能性がある。



### SI19 埋土註記表

5119 生上缸6次								
層位	土 色	土 性	備考					
1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、特にベルト東側で多く含む					
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入					
3層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色土をブロック状に混入					

### SI19 床面検出遺構観察表

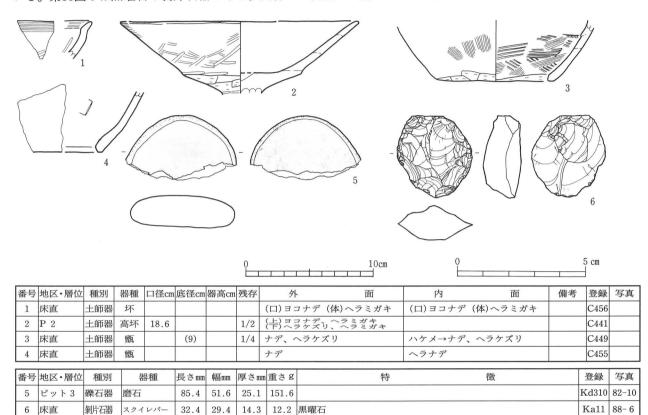
	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土 性	備考
土坑	SK1	不整形	106×80	-8.4		10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、SK27 に切られている
	P-1	楕円形	28×22	-32.8		10YR3/1 黒褐色	シルト	
	P-2	楕円形	25×21	-38.8		10YR2/1 黒褐色	シルト	P-3を切る
	P- 3	隅丸方形	42×35	-27.9		10YR3/2 黒褐色	シルト	
	P-4	円形	30×30	-47.9		10YR3/2 黒褐色	シルト	P-5を切る
	P-5	不整方形	42×30	-44.5		10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色土がブロック状に混入
	P- 6	円形	32×30	-28.4		10YR3/2 黒褐色	シルト	
柱穴	P-7	円形	28×28	-45.2		10YR2/2 黒褐色	シルト	
(ピット)	P-8	長楕円形	52×30	-40.9		10YR2/2 黒褐色	シルト	P-9を切る
	P-9	円形	40×35	-71.9		10YR2/2 黒褐色	シルト	
	P-10	楕円形	28×24	-23.3		10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
	P-11	円形	45×45	-6.8		10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色土がブロック状に混入
	P-12	円形	18×15	-12.6		10YR3/2 黒褐色	シルト	
	P-13	楕円形	30×22	-36.6		10YR3/2 黒褐色	シルト	
	P-14	円形	30×28	-29.3		10YR3/2 黒褐色	シルト	
	P-15	楕円形	55×40	-29.2		10YR3/2 黒褐色	シルト	
	P-16	不整円形	40×26	-22.7		10YR3/2 黒褐色	シルト	P-17を切る
	P-17	不整形	36×30	-23.8	78	10YR3/2 黒褐色	シルト	

第57図 SI19 竪穴住居跡平面図・断面図

#### 【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】SK27 に切られている SK1 を検出している。平面形は不整方形を呈するとおもわれる。東西 $106 \times$ 南北 80 cm、深さ 8 cmを計る。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器(非ロクロ)・須恵器・礫石器・石製模造品・剝片石器・弥生土器が出土している。第58図6は黒曜石の剝片石器である。周縁に二次加工が施されている。



第58図 SI19 竪穴住居跡出土遺物

#### SI 21 竪穴住居跡 (第59図)

【位置】 I 区 (B-12・13) に位置している。

【平面形・規模】ピットの配列と焼土、遺物の出土状況などから住居跡と認定した。規模・平面形は不明である。 【堆積土】埋土はほとんど残っていない。

【壁・床面】天地返しの影響により壁・床面はほとんど残っていない。

【柱穴・ピット】ピットは5基検出された。

【周溝】周溝は検出されなかった。

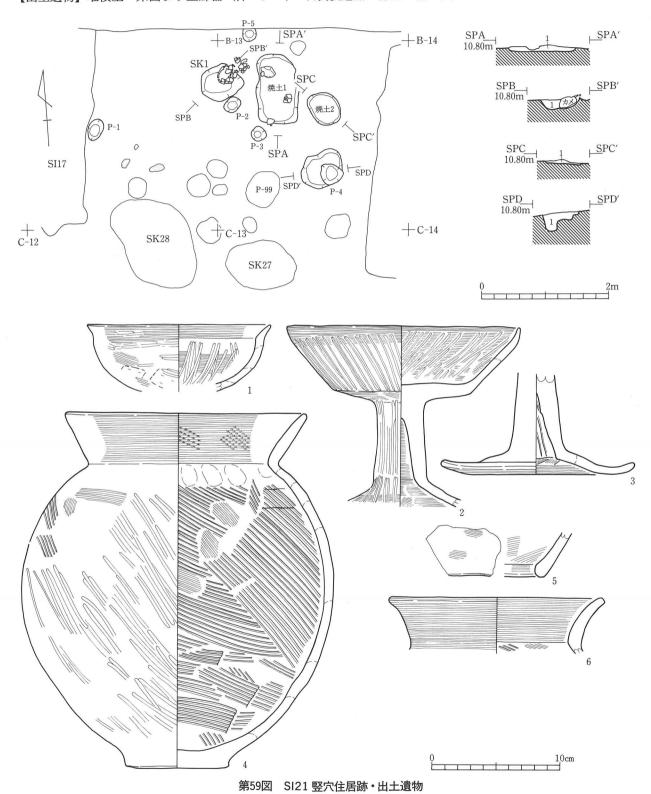
SI21 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土	色	土 性	備考
土坑	SK1	不整形	33×30	-17.0		2.5Y3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
	P-1	楕円形	11×18	-16.0		10YR3/1	黒褐色	シルト	
	P-2	隅丸方形	11×14	-15.6		10YR2/2	黒褐色	シルト	
柱穴(ピット)	P-3	円形	12×12	-23.7		10YR2/2	黒褐色	シルト	
	P- 4	不整形	33×30	-37.2		10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR6/6 明黄褐色ブロック状に混入
	P-5	円形	10×(10)	-18.8		10YR3/1	黒褐色	シルト	
焼土	焼土1	隅丸方形	110×68	-5.0		5YR3/2	暗赤褐色	シルト	骨片
	焼土2	不整円形	60×45	-5.0		10YR3/2	黒褐色	シルト	焼土混入

【床面施設】焼土遺構 2 基と土坑 1 基を検出している。焼土 1 は隅丸方形のプランを呈し、南北110×東西65cmを計る。焼土 2 は不整円形のプランを呈し、南北55×東西45cmを計る。

焼土 1 の西側で SK1 を検出した。平面形は不整形を呈するとおもわれる。南北55×東西65cm、深さ15cmを計る。 第59図 4 の土師器の甕が土坑内北壁側から出土している

【出土遺物】堆積土・床面より土師器(非ロクロ)・石製模造品・弥生土器が出土している。



#### SI21 出土遺物観察表 (第59図)

番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	P-2	土師器	坏	(14.4)			1/4	(口)ヨコナデ→へ (体)ナデ、ヘラケン	ラミガキ ベリ→ヘラミガキ	(口)ヨコナデ (体)ナデ→ヘラミ	ガキ(放射状)		C570	
2	P5 + 6 + 床 直	土師器	高坏	18.4			1	(坏)ヨコナデ→へ (脚)ヘラミガキ	ラミガキ、ナデ	(坏)ナデ→ヘラミ (脚)ナデ	ガキ		C551	78-1
3	P-6	土師器	高坏	15.2			3/4			ヘラナデ、ヨコナ	デ		C552	77-8
4	P-9	土師器	甕	(19.0)	8.0	28.0	(口)1/8 (底)1	(口)ヨコナデ (体)ハケメ、ナ	ア、ヘラミガキ	(口)ハケメ→ヨコ (体)ハケメ、ナテ	ナデ		C553	77-9
5	床直	土師器	甑					ナデ		ヘラナデ? ナテ	*		C566	
6	埋土+P3	土師器	甕	(17.0)			1/4	ヨコナデ		(口)ヨコナデ (体)	ハケメ、ナデ		C554	

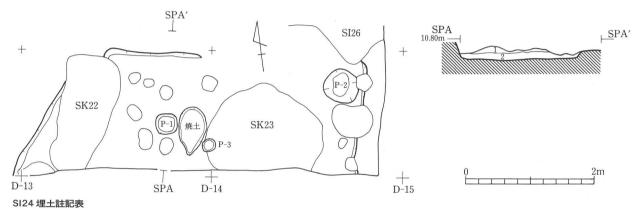
## SI 24 竪穴住居跡 (第60図)

【位置】 I 区( $C-13\cdot 14$ )に位置している。南半部分が調査区外にかかっている。

【平面形・規模】北半部分の壁の一部と考えられるプランが検出されたことや、焼土遺構などから住居跡と認定した。平面形は方形を呈すると考えられる。方向は東壁で  $N-13^{\circ}-E$  である。

【堆積土】埋土は2層に分けることができた。

【壁・床面】北・東・西壁を検出しているが、西壁の方向が西側にひらいており住居跡のプランを反映しているものか不明である。残存する壁高は、それぞれ $5\sim8\,\mathrm{cm}$ 程度である。天地返しの影響により床面はほとんど残ってい

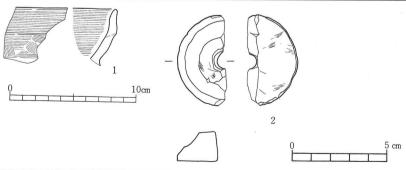


層位	土 色	土 性	備考
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒混入
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、下層中央部に焼土粉混入、10YR6/3にぶい黄橙ブロック状に混入

## SI24 床面検出遺構観察表

石製品 紡錘車

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備	考
	P-1	円形	$34 \times 32$	-13.8		10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物混入、焼土粒混入	
ピット	P- 2	円形	44×50	-18.8		10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入	
	P-3	円形	20×20	-11.8		10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入	
	焼土	不整形	75×45	- 7.0	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入	
					2層	2.5YR3/4 暗赤褐色		焼土層	



25.5 16 12.6

番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	A区、埋下層	土師器	壺?					(口)ヨコ	ナデ (体)ナデ	ヨコナデ			C495	
番号	地区•層位	種別	岩	<b>B種</b>	長さmm	幅mm	厚さm	m重さg	特		徴		登録	写真

Kd128 83-9

第60図 SI24 竪穴住居跡·出土遺物

ない。

【柱穴・ピット】ピットは3基検出された。P-3はSK23に切られ、底面がわずかに残っている。

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】想定される床面のほぼ中央で焼土遺構を検出した。楕円形のプランを呈し、南北75×東西45cmで浅い掘り込みをもっている。

【出土遺物】堆積土より土師器 (非ロクロ)・石製品・石製模造品が出土している。

#### SI 26 竪穴住居跡 (第61~64図)

【位置】I 区 (B•C-14) に位置している。SI20 を切っている。東半部分が調査区外にかかっている。当初 SI20 のプランを検出し調査に入ったが、途中で主軸方向を異にする SI26 のプランが検出され、調査区壁の断面等を検討したところ新旧関係が逆であると判断された。

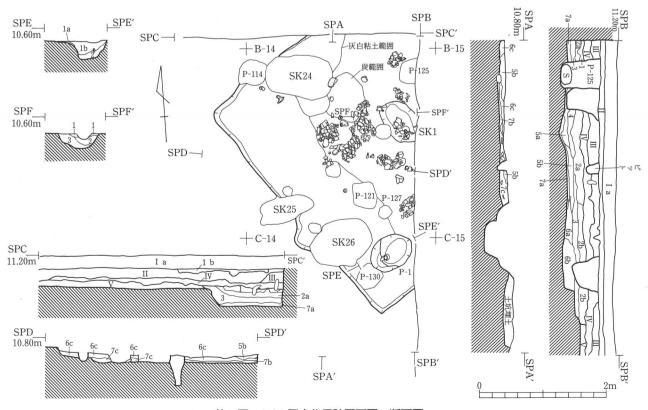
【平面形•規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁200cm、西壁420cmを計る。方向は西壁で  $N-32^{\circ}-$  W である。

【堆積土】埋土は7層に分けることができた。

【壁・床面】西壁と南・北壁の一部を検出している。残存する壁高は、北壁3~20cm、西壁4.5~15cm、南壁約14cm程である。床面はSI20の床面よりも8cm下がる。床面全体から炭化物・焼土が検出され、多くの遺物はこの中から出土している。床面壁側の幅50~100cmの範囲をのこして中央部に灰白色粘土による貼床が検出された。

【柱穴・ピット】ピットは北西コーナー部で1基検出された。 $70\times50$ cmの楕円形を呈し、深さは35cmである。位置的にみて柱穴である可能性がある。

## 【周溝】周溝は検出されなかった。



第61図 SI26 竪穴住居跡平面図・断面図

【出土遺物】SI26 と20は重複しており、当初は切合い関係を逆にとらえたため遺物の取り上げで混乱した面もあり、両者で接合している遺物もある。そのようなものについては、大部分の破片が出土した遺構に所属させた。

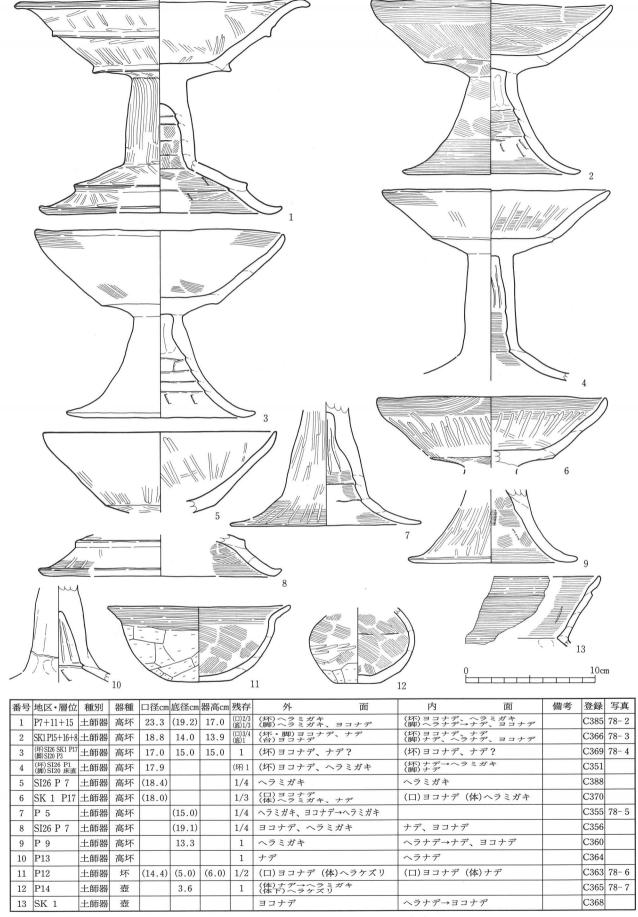
堆積土・床面・土坑より土師器(非ロクロ)・鉄製品・剝片石器・礫石器が出土している。土師器には器形が復元できるような大きな破片が多い。第63図11は無底の甑である。内外面の調整はヘラナデとして表現しているが、砂粒が動くくらい強いものもあり、ヘラケズリとしてもおかしくない。仕上がりが平滑な点とヘラの当たりが見られることからヘラナデの表現にしている。第64図 5 は黒曜石の剝片石器で、一部につぶれた部分があることから、ピエス・エスキーユの可能性がある。

#### SI26 埋土註記表

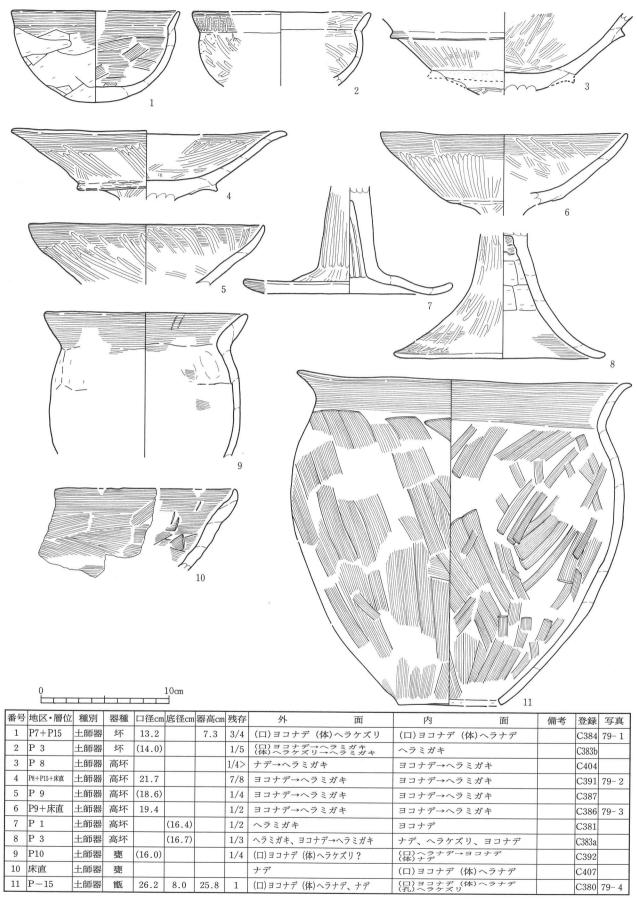
層位	土	色	土 性	備	考
Ia層	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土	シルト	耕作土	
Ib層	10YR3/3	暗褐色土	シルト	Ia層土がブロック状に混る	
II層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	シルト	天地返層	基本層
III層	10YR3/2	黒褐色土	シルト	10YR2/2 黒褐色土がブロック状に混る	
IV層	10YR3/4	暗褐色土	シルト	10YR3/1 黒褐色土が斑状に混る	J
V層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト		
1層	10YR3/1	黒褐色土	シルト	炭化物を多く含む	
2a 層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	シルト	炭化物混入	
2b 層	10YR3/3	暗褐色土	シルト		
3層	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土	シルト		
4層	10YR3/1	黒褐色土	シルト	炭化物の集積層、土器を多く含む	
5a 層	10YR4/2	灰黄褐色土	シルト	炭化物を多く含む	
5b 層	10YR4/2	灰黄褐色土	シルト	10YR6/3 にぶい黄橙色土が混る	
6a 層	10YR4/2	灰黄褐色土	シルト	炭化物粒子混入	
6b 層	2.5Y3/2	黒褐色土	シルト	炭化物粒子混入	
6c 層	10YR3/2	黒褐色土	シルト	炭化物粒子混入	
7a 層	10YR7/1	灰白色土	粘質シルト		
7b 層	10YR4/1	褐灰色土	シルト	下層部に炭集積層、炭化物混入	
7c 層	10YR2/3	黒褐色	シルト	炭化物粒子混入	

#### SI26 床面検出遺構観察表

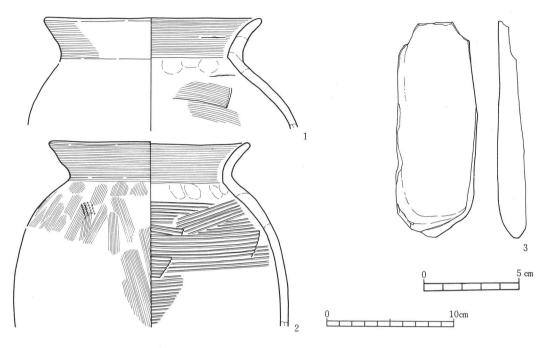
	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備考
土坑	SK1	楕円形	2.5×(3.8)	-33.5	l a層	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	
					1 b層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、2.5Y4/3 ブロック状に混入
					2層	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	2.5Y4/1 黄灰色斑状に混入
柱穴	P-1	円形	26×35	-36.2	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
					2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/1 褐灰色斑状に混入
					3層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、下層部に2.5Y6/2 斑状に混入



第62図 SI26 竪穴住居跡出土遺物 (1)

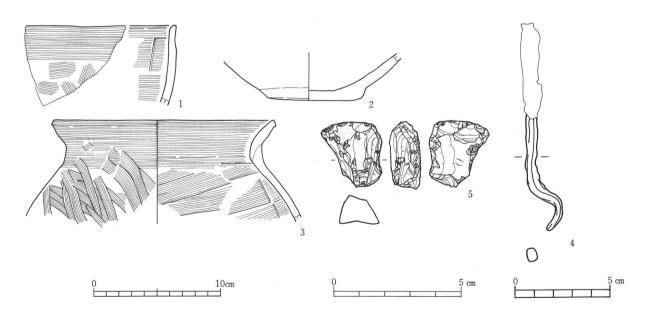


第63図 SI26 竪穴住居跡出土遺物 (2)



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	P 2	土師器	甕	(17.0)			1/2	(口)ヨコナデ		(口)ヨコナデ(作	本) ヘラナデ		C353	78-8
2	P 8	土師器	甕	15.5			1	(口)ヨコナデ (体)ハケ	メ→ナデ	(口)ヨコナデ(作	本)ハケメ		C358	78-9

番号	地区•層位	種別	器種	長さ㎜	幅mm	厚さmm	重さg	特	登録	写真
3		礫石器	砥石	114.6	42.7	17.1	113.9		Kd133	82-11



番号	地区•層位	種別	器種	口径cm	底径cm	器高cm	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	床直	土師器	甑?			*		(口)ヨコナデ	(体)ナデ	(口)ヨコナデ	(体)ヘラナデ		C405	
2	P16	土師器	甕		7.5		1						C403	
3	SK2	土師器	甕	(17.3)			1/4	(口)ヨコナデ	(体)ヘラナデ	(口)ヨコナデ	(体)ヘラナデ		C422	

番号	地区•層位	種別	器種	長さ㎜	幅mm	厚さmm	重さg	特	登録	写真
4		鉄製品	+	(110)	5	7	22.0	片端欠損	N13	84-7
5	床直	剝片石器	ピエス・エスキーユ?	26.9	24.2	11.7	6.4	黒曜石	Ka12	88-7

第64図 SI26 竪穴住居跡出土遺物 (3)

#### SI 20 竪穴住居跡 (第65図)

【位置】 I 区 (B•C-13•14) に位置している。床面のほとんどを SI26 に切られている。東半部分が調査区外にかかっている。

【平面形•規模】平面形は方形を呈すると考えられる。規模は北壁120cm、西壁260cmを計る。方向は西壁で N-11°-E である。

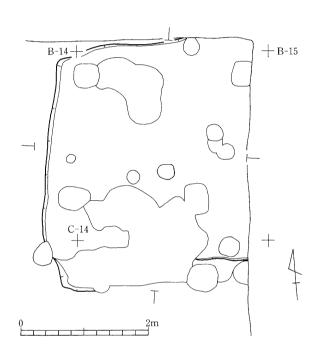
【堆積土】埋土は2層に分けることができたが、SI26や他の遺構に切られほとんど残っていなかったことから図化はおこなわなかった。

埋1層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト

埋 2 層 2.5Y3/2 黒褐色

シルト

【壁・床面】西壁と南・北壁の一部を検出している。残存する壁高は、北壁6~10cm、西壁7~10cm、南壁約7cm程



第65図 SI20 竪穴住居跡平面図

である。SI26 や中近世の遺構と天地返しにより床面はほとんど残っていない。

【柱穴・周溝】柱穴・周溝は検出されなかった。

【出土遺物】 堆積土・床面より土師器(非ロクロ)・石 製模造品・弥生土器が出土している。

## ②**竪穴住居跡・土坑出土石製模造品**(第66・67図/第3~6表)

30次調査では竪穴住居跡から127点、土坑などから107点、合計234点の石製模造品が出土している。その内訳は、竪穴住居跡から剣型9点・円板型14点・勾玉型4点・臼玉100点、土坑などからは剣型2点・円盤型3点・勾玉型1点・臼玉101点となっている。(第3表)

石製模造品はほとんどの竪穴住居跡から出土しているが、SI5・6・7・17からの出土が多い。

土坑については、SK38から臼玉が84点出土している(写真85)。調査中に臼玉が集中出土したことから埋土を採取し、篩を使って水洗選別を行なっている。この土坑については、調査区外にかかることから全体の4/1程度しか調査していない。遺構の性格を考えるうえでは出土状況について、埋土中~下層において一部並ぶようにして出土したという発掘者の報告があった。

**分 類** 臼玉を除いて、分類は平面形態でおこない、それぞれタイプ別に分類されたうちの良好な資料を図示している。残りのものについては集計表を参照されたい。

【剣型】竪穴住居跡から9点、土坑などからは2点出土している。

A類:細長い五角形状を呈するもので、鎬が作出されているもの。

B類:細長い五角形状を呈するもので、鎬が作出されていないもの。

C類:側辺が明確な屈曲点をもたずに湾曲し長楕円形状を呈し、鎬が作出されていないもの。

D類:細長い三角形状を呈するもので、鎬が作出されていないもの。

竪穴住居跡・土坑ともに、A類がそれぞれ5点・2点と全体の過半数を占めている。

【円板型】竪穴住居跡から14点、土坑などからは3点出土している。

平面形態でみると、ほぼ正円形を呈するもの、楕円形を呈するもの、隅丸長方形を呈するものがあるが、ここでは孔の数によって分けている。

A類: 双孔 B類: 単孔 C類: 孔無

竪穴住居跡・土坑ともに、A類がそれぞれ9点・1点、B類が5点・2点となっている。

【勾玉型】竪穴住居跡から4点、土坑などからは1点出土している。

A類:断面形が平板なもの

B類:断面形が楕円形のもの

【臼玉】竪穴住居跡からは100点、土坑などからは101点出土している。遺構別出土状況でみると、調査区外にかかり完掘していない SK38 から84点出土している。

遺構と石製模造品の関係 住居跡から出土した石製模造品の組合せでみると次のようになっている。

(a)剣+円板

SI01 • 13

(b)剣+円板+勾玉

SI02

(c)円板+勾玉

SI17

(d)剣+勾玉

SI14

(e)円板のみ

SI15 • 18 • 21 • 26 • 32 • 35

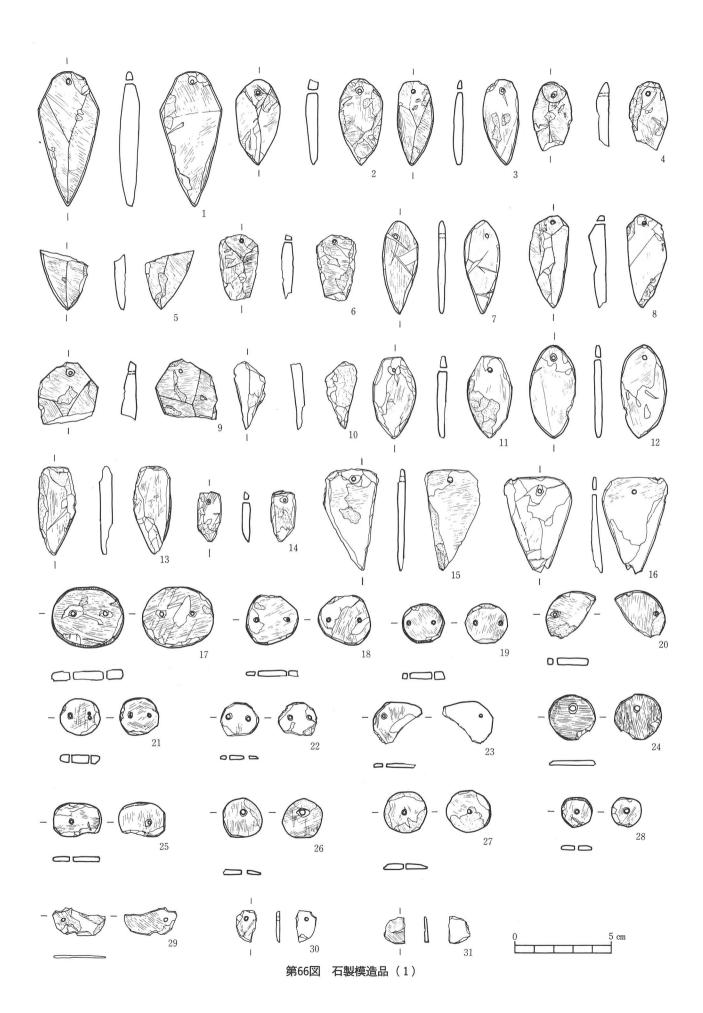
(f)剣のみ

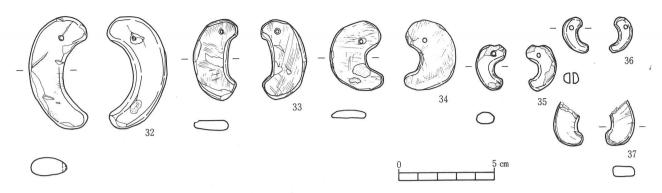
SI05 • 06 • 07

多量の臼玉が出土した SK38 土坑からは、剣型 (A類) 2点が出土している。

	種別		円板			創	形		勿:	玉形	ウス玉			種別		円 栊	₹		剣	形		勿:	玉形	ウス玉		
   遺相		双孔A	単孔B	孔無C	A	В	С	D	A	В	77133	備考	遺析		A	В	C	A	В	С	D	A	В	///	備	考
JEATH	SI01	1	-100	10mc	-	1	Ĕ		^ <b>`</b>	1	1		ARG. H	SI27	<del>  ^</del>		<u> </u>	11		۳	-	11		4		
	SI02	1			-	1			-	1	1		١.	SI28										1		
	SI05				1	1				1	1			SI32		1						-		8		
	SI06 • 07				1			2	<del>                                     </del>	ļ	16		1	SI34										3		
	SI08					-			<u> </u>	-	10		-	SI35		1								4		
	SI09										4			SK17		1								2		
	SI109					ļ					2			SK17		1				-						
	SI10 SI11				-				-		4			SK19	1	1								1		
							-			-	4		1.	SK21	1							-		5		
飶	SI12				_								土													
竪穴住居跡	SI13		2		2						7			SK23										3		
屠跡	SI14				2				2	-	8	AAC	坑	SK24									-			
	SI15	1										管玉1		SK28										3	Mr. TT. a	
竪穴遺構	SI16										1	ガラス玉1	-	SK38										84	管玉1	
構	SI17	2	1							1	13			SD01					1				1			
	SI18	1												SD02		1			1							
	SI19										4		溝	SD08										1		
	SI20										5			SD09									_			
	SI21	2					ļ				2			SD10												
	SI22										1		跡	SD11										1		
	SI24					ļ					6			SD12										1		
	SI25										2	ガラス玉 1		SD14												
	SI26	1									2															

第3表 石製模造品遺構別集計表





第67図 石製模造品(2)

## 石製模造品観察表 (第66・67図)

H 3001	莫造品観察表(第66・6	7四)							
番号	地区・層位	分類	長さ㎜	幅mm	厚さmm	重さg	特 徴	登録	写真
1	SI14 カマド底面	剣形A	70.6	31.5	9.0	25.1	完形	Kd71	85-1
2	SI17	剣形A	45.3	22.4	6.2	8.6	完形	Kd105	85-2
3	SK38	剣形A	45.0	18.8	5.4	5.9	完形	Kd287	85-3
4	SK38 埋土	剣形A	36.3	20.7	5.8	6.1	破損	Kd182	85-4
5	SI13	剣形A	28.2	23.9	5.8	4.5	破損	Kd60	85-5
6	SI17 床直	剣形A	34.0	20.7	5.7	6.0	ほぼ完形	Kd80	85-6
7	SD02 5層	剣形B	48.9	18.3	3.6	5.5	完形	Kd188	85-7
8	SI05	剣形A	47.9	19.9	7.7	8.6	完形	Kd18	85-8
9	SI14	剣形A	31.4	30.5	6.1	9.0	破損	Kd72	85-9
10	SI13 埋土上層	剣形A	35.4	16.1	5.2	2.7	ほぼ完形	Kd59	85-10
11	SI01 埋土	剣形B	42.5	22.9	4.5	6.2	完形	Kd3	85-11
12	SD01	剣形B	48.2	23.8	3.9	7.8	完形	Kd184	85-12
13	SI17	剣形B	46.0	19.9	5.8	8.1	ほぼ完形	Kd104	85-13
14	SI02 埋土(炭内)	剣形B	25.5	12.7	4.0	2.5	ほぼ完形	Kd6	85-14
15	SI06 • 07	剣形D	53.0	27.5	3.5	7	完形	Kd35	85-15
16	SI06 • 07	剣形D	50.5	34.9	4.0	8.3	ほぼ完形	Kd36	85-16
17	SI18	円板A	32.1	37.0	5.6	12.1	完形	Kd107	85-17
18	C12 2層	円板A	27.5	26.0	3.7	4.2	完形	Kd198	85-18
19	SI26	円板A	20.2	22.6	3.1	2.8	完形	Kd132	85-19
20	SI21 ピット 4	円板A	30.0	19.2	3.9	3.6	破損	Kd120	85-20
21	SI15 埋土中~下層	円板A	19.5	20.9	4.1	3.5	完形	Kd74	85-21
22	SI21	円板A	17.0	20.0	2.7	1.2	完形	Kd119	85-22
23	SI01 埋土	円板A	27.2	15.8	2.6	1.6	破損	Kd2	85-23
24	SI32 埋土中層	円板B	23.8	24.5	2.4	2.8	完形	Kd89	85-24
25	SI13 2層	円板B	24.8	17.9	2.5	2.4	破損	Kd58	85-25
26	SI35	円板B	21.0	21.2	2.9	2.3	完形	Kd154	85-26
27	SD02 10 層以下	円板B	23.2	22.8	3.4	2.8	完形	Kd187	85-27
28	SI13 床直	円板B	16.3	15.8	2.6	1.3	完形	Kd57	85-28
29	SI17 床直	石製品	27.1	13.5	1.6	0.9	破損	Kd79	85-29
30	SK21	円板A	16.8	10.3	1.5	0.4	破損	Kd211	85-30
31	SK38 埋土	円板(不明)	14.0	10.9	1.8	0.3	破損	Kd207	85-31
32	SI17	勾玉形 B	59.0	19.4	10.2	24.3	完形	Kd106	85-32
33	SI14	勾玉形 A	42.2	18.1	5.5	7.4	完形	Kd69	85-33
34	C11 III層	勾玉形 A	36.9	18.7	3.1	5.8	完形	Kd197	85-34
35	SD01 3層	勾玉形 B	24.2	10.5	5.5	3.0	完形	Kd185	85-35
36	SI02 床直	勾玉形 B	19.3	7.5	5.6	1.6	完形	Kd7	85-36
37	SI14	勾玉形 A	18.5	11.7	5.2	3.3	破損	Kd70	85-37

登録番号	地区・層位	分 類	長㎜	幅mm	厚皿	重g	特 徴	図	写真	登録番号	地区・層位	分類	長mm	₩imm	厚加加	重g	特 徴	Ø	写真
Kd 1	SI01 埋土	白玉	4.7	4.6	2.2	0.1	完形	123	子具	Kd63	SI14	白玉	5.3	5.3	2.5	0.1	完形	<u> </u>	子典
Kd 2	SI01 埋土	円板A	27.2	15.8	2.6	1.6	破損	66-23		Kd64	SI14	白玉	4.6	4.3	2.4	0.1	完形		
Kd 2	SI01 埋土	剣形B	42.5	22.9	4.5	6.2	完形	66-11		Kd64 Kd65	SI14 SK02	白玉	4.5	4.3	1.6	0.1	完形		
Kd 4	SI02 周辺	白玉	42.5	4.5	2.8	0.2	完形	00 11		Kd66	SI14 SK02	白玉	4.9		3.1		完形		
Kd 5	SI02 周也 SI02 埋土	円板A	13.9	9.8	3.2	0.1	破損			Kd67	SI14	白玉	4.5	4.8	3.2	0.1	完形		
Kd 6	SI02 埋土	剣形B	25.5	12.7	4.0	2.5	ほぼ完形	66-14		<u> </u>	SI14 SI14 床直	白玉	4.3	4.4	2.1	0.1	破損		
										Kd68			40.0	10.1		7.4		67.00	
Kd 7	SI02 床直	勾玉形 B	19.3	7.5	5.6	1.6	完形	67-36		Kd69	SI14	勾玉形A	42.2	18.1	5.5	7.4	完形	67-33	
Kd 8	SI05 カマド SI05 埋土	白玉	4.3	4.3	1.5	0.1	完形			Kd70 Kd71	SI14 SI14 カマド底面	幻玉形 A	18.5	11.7	5.2 9.0	3.3	破損	67-37	
Kd 9			4.8	4.9	3.6	0.1	完形					剣形A	70.6	31.5		25.1	完形	66- 1	
Kd10	SIO5 カマド	白玉	5.0	4.0	1.3	0.1	ほぼ完形			Kd72	SI14	剣形A	31.4	30.5	6.1	9.0	破損	66- 9	
Kd11	SI05 床直	白玉	4.7	4.6	3.3	0.1	完形			Kd74	SI15埋土中~下層	円板A	19.5	20.9	4.1	3.5	完形	66-21	
Kd12	SI05 SK3	白玉	4.5	4.2	1.9	0.1	ほぼ完形			Kd78	SII5 埋土中~下層	石材	16.5	6.5	1.7	0.3	24.65		
Kd13	SI05 SK3	五 日	4.6	4.6	1.6	0.1	完形			Kd79	SI17 床直	円板A	27.1	13.5	1.6	0.9	破損	66-29	
Kd14	SI05 埋土上面	白玉	5.8	5.8	3.3	0.2	完形			Kd80	SI17 床直	剣形A	34.0	20.7	5.7	6.0	ほぼ完形	66- 6	
Kd15	SI05 埋土上面	臼 玉	5.4	5.3	2.2	0.1	完形			Kd85	SI17 埋土	石材	20.4	19.4	3.2	1.5			
Kd16	SI05 埋土上面	白玉	4.3	4.2	1.4	0.1	完形			Kd88	SI25	三 日	4.1	3.0	1.9	0.1	破損		
Kd17	SI02 埋土	白玉	_	-	_	-	破損			Kd89	SI32 埋土中層	円板B	23.8	24.5	2.4	2.8	完形	66-24	
Kd18	SI05 埋土	剣形A	47.9	19.9	7.7	8.6	完形	66- 8		Kd91	SI16 ピット4	白玉	5.3	5.2	2.9	0.1	完形		
Kd19	SI06·07 埋土	白玉	4.0	4.0	1.6	0.1	完形			Kd92	SI17 埋土	王 臼	3.8	3.8	2.3	0.1	完形		
Kd20	SI06•07 埋土	<b>王</b> 臼	3.9	3.9	3.1	0.1	完形			Kd93	SI17 床下	白玉	5.6	5.6	2.2	0.1	完形		
Kd21	SI06 • 07	至 臼	4.1	4.0	2.0	0.1	完形			Kd94	SII7SKI 埋土ピット4	日玉	6.5	6.5	4.0	0.3	完形		
Kd22	SI06•07 埋土	臼 玉	4.3	4.2	1.2	0.1	完形			Kd95	SI17 床下焼土1	2 日	4.7	2.9	1.5	0.1	破損		
Kd23	SI06·07 埋土	白玉	4.5	4.5	3.5	0.2	完形			Kd96	SI17 ピット	正白	4.5	4.4	2.3	0.1	完形		
Kd24	SI06·07 埋土	白玉	4.2	4.1	2.9	0.1	完形			Kd97	SI17 床下検出土坑	王臼	5.3	4.9	1.6	0.1	完形		
Kd25	SI06·07 埋土	台 玉	4.0	3.8	3.4	0.1	完形			Kd98	SI17 1~3 層	白玉	4.6	4.5	2.0	0.1	完形		
Kd26	SI06·07 埋土	田 玉	4.5	4.5	3.2	0.1	完形			Kd99	SI17 床直	王 臼	5.5	5.5	3.2	0.2	完形		
Kd27	SI06·07 埋土	王 臼	4.1	4.0	1.7	0.1	完形			Kd100	SI17	王白	8.0	7.9	4.7	0.5	ほぼ完形		
Kd28	SI06·07 埋土	臼 玉	4.6	1.0	1.8	0.1	破損			Kd101	SI17	白玉	4.3	4.2	1.9	0.1	完形		
Kd29	SI06·07 埋土	五 日	4.0	4.0	4.1	0.1	完形			Kd102	SI17	日玉	6.0	6.0	2.8	0.2	完形		
Kd30	SI06•07 埋土	百 玉	4.8	4.7	2.5	0.1	完形			Kd103	SI17	日玉	5.5	5.5	1.3	0.1	完形		
Kd31	SI06 • 07	白玉	4.7	4.7	1.3	0.1	完形			Kd104	SI17	剣形B	46.0	19.9	5.8	8.1	ほぼ完形	66-13	
Kd32	SI06 • 07	日 玉	4.0	3.9	3.4	0.1	完形			Kd105	SI17	剣形A	45.3	22.4	6.2	8.6	完形	66- 2	
Kd33	SI07 埋土	白 玉	4.0	3.9	3.0	0.1	完形			Kd106	SI17	勾玉形B	59.0	19.4	10.2	24.3	完形	67-32	
Kd34	SI06•07	田 玉	3.8	3.7	2.0	0.1	ほぽ完形			Kd107	SI18	円板A	32.1	37.0	5.6	12.1	完形	66-17	
Kd35	SI06•07	剣形D	53.0	27.5	3.5	7.0	完形	66-15		Kd18	SI19 1層	田 玉	5.5	5.5	2.5	0.1	完形		
Kd36	SI06•07	剣形D	50.0	34.9	4.0	8.3	ほぽ完形	66-16		Kd109	SI19 床直	2 日 玉	3.3	3.3	2.5	0.1	完形		
Kd38	SI09	田 玉	5.0	5.0	2.2	0.1	完形			Kd110	SI19 ピット15	白玉	5.5	4.0	2.6	0.1	破損		
Kd39	SI09	田 玉	4.8	4.8	2.8	0.1	完形			Kd111	SI19 ピット15	白玉	4.5	2.9	4.0	0.1	破損		
Kd40	SI09 (SI10?)	白玉	3.9	3.8	4.2	0.1	完形			Kd112	SI20	白玉	3.9	3.8	2.7	0.1	完形		
Kd41	SI09	臼 玉	4.0	3.6	1.8	0.1	破損			Kd113	SI20	五 臼	4.7	4.3	2.2	0.1	ほぼ完形		
Kd43	SI10 SK01	田 玉	4.4	4.3	2.3	0.1	完形			Kd114	SI20	2 日	4.9	4.8	2.0	0.1	完形		
Kd44	SI10	田 玉	4.0	4.0	4.1	0.1	破損			Kd115	SI20	臼 玉	4.8	2.5	1.2	0.1	破損		
Kd45	SI12 掘り方	田 玉	3.9	3.8	1.8	0.1	完形			Kd116	SI20	臼 玉	-		2.1	0.1	破損		
Kd46	SI12	田 玉	4.2	4.1	2.5	0.1	完形			Kd117	SI21 床直	臼 玉	4.7	4.7	2.4	0.1	ほぽ完形		
Kd47	SI12 床直	正 臼	5.0	5.0	1.4	0.1	完形			Kd118	SI21 床直	直 玉	3.3	3.2	1.9	0.1	完形		
Kd48	SI12 床直	王 臼	3.4	3.3	2.5	0.1	完形			Kd119	SI21	円板A	17.0	20.0	2.7	1.2	完形	66-22	
Kd50	SI13 埋土	臼 玉	4.1	4.0	1.9	0.1	完形			Kd120	SI21 ピット4	円板A	30.0	19.2	3.9	3.6	破損	66-20	
Kd51	SI13	白玉	4.0	3.7	2.3	0.1	完形			Kd121	SI22 床直	白玉	5.3	4.4	2.7	0.2	完形		
Kd52	SI13	居 玉	5.0	4.8	2.1	0.1	完形			Kd122	SI24	歪 臼	5.1	5.0	2.8	0.1	完形		
Kd53	SI13	百 玉	4.7	3.8	2.0	0.1	破損			Kd123	SI24	歪 臼	4.7	4.6	3.2	0.1	完形		
Kd54	SI13	丟 臼	4.7	4.5	1.5	0.1	完形			Kd124	SI24	五 臼	4.0	3.8	2.0	0.1	完形		
Kd55	SI13 床直	王 臼	3.5	3.5	1.4	0.1	完形			Kd125	S124	白 玉	3.8	3.8	1.4	0.1	完形		
Kd56	SI13 床面ピット	田玉	4.1	3.8	2.8	0.1	完形			Kd126	SI24 床直	田 玉	4.5	4.5	2.0	0.1	完形		
Kd57	SI13 床直	円板B	16.3	15.8	2.6	1.3	完形	66-28		Kd127	SI24	五 臼	5.9	5.3	1.6	0.1	完形		
Kd58	SI13 2 層	円板B	24.8	17.9	2.5	2.4	破損	66-25		Kd129	SI25	至 臼	4.9	4.3	2.1	0.1	ほぼ完形		
Kd59	SI13 埋土	剣形A	35.4	16.1	5.2	2.7	ほぼ完形	66-10		Kd130	SI26 床直	五 臼	4.2	4.1	2.5	0.1	ほぼ完形		
Kd60	SI13	剣形A	28.2	23.9	5.8	4.5	破損	66- 5		Kd131	SI26 床直	a E	4.9	4.8	2.0	0.1	完形		
Kd61	SI14	臼 玉	4.9	4.8	2.1	0.1	完形			Kd132	SI26	円板A	20.2	22.6	3.1	2.8	完形	66-19	
Kd62	SI14	臼 玉	4.6	4.5	1.7	0.1	完形			Kd133	SI26 外	石製品							
											 計表 (1)	1							

第4表 石製模造品集計表(1)

登録番号	地区・層位	分 類	長㎜	幅mm	厚mm	重g	特 徽	×	写真	登録番号	地区・層位	分 類	長mm	幅mm	厚mm	重g	特 徴	図	写真
Kd134	SI27	白玉	4.4	4.2	3.6	0.1	完形	124	774	Kd198	C-12 II層	円板A	27.5	26.0	3.7	4.2	完形	66-18	-7-5K
Kd135	SI27	白玉	4.4	4.2	3.1	0.1	完形			Kd199	I 🗵	白玉	3.6	3.5	2.1	0.1	完形	00 10	
Kd136	SI27	白玉	4.5	4.2	4.1	0.1	完形		,	Kd200	IZIIF	白玉	4.3	4.2	1.5	0.1	完形		
Kd137	SI27	白玉	4.5	4.5	2.8	0.1	完形			Kd201	II区表採	白玉	4.2	4.1	1.6	0.1	完形		
Kd138	SI28	白玉	4.4	4.3	2.2	0.1	完形			Kd202	IIIE	白玉	5.4	5.3					· ·
Kd139	SI32	白玉	4.4	4.3	1.9	0.1	完形			Kd202	川区川層	<del> </del>	18.8		2.3	0.1	完形		
Kd140	SI32	自玉	4.4		2.9	0.1						石材	_	16.1	2.6		nb-t=	CC 01	
Kd140	SI32	-		4.4			完形			Kd207	SK38 埋土	円板(不明)	14.0	10.9	1.8	0.3	破損	66-31	
Kd141 Kd142	SI32 埋土		5.1	4.2	2.2	0.1	完形			Kd210	SK21	白玉		-	2.3	0.1	破損		
Kd142	SI32		4.1	4.8	2.8	0.1				Kd211	SK21	円板A	16.8	10.3	1.5	0.4	破損	66-30	
Kd143				4.1			完形			Kd212	SK22	自玉	4.5	4.3	2.7	0.1	完形		
	SI32 SK02	白玉	5.0	5.0	2.4	0.1	完形			Kd213	SK22	白玉	3.5	3.5	2.1	0.1	完形		
Kd145	SI32	白玉	4.3	4.3	2.1	0.1	完形			Kd214	SK22	田 玉	3.7	3.7	2.7	0.1	完形		
Kd146	SI32	日 玉	4.4	4.4	2.5	0.1	完形			Kd215	SK22	白玉	3.5	3.5	1.8	0.1	完形		
Kd147	SI34	白 玉	4.9	4.7	2.5	0.1	完形			Kd216	SK22	白玉	5.0	5.0	2.8	0.2	完形		
Kd148	SI34 埋土上層	五 日	5.5	4.8	0.9	0.1	ほぼ完形			Kd217	SK23	白玉	5.0	4.6	1.4	0.1	ほぼ完形		
Kd149	SI34 埋土上層	五 臼	5.5	5.4	1.4	0.1	完形			Kd218	SK23	白玉	4.2	4.2	1.8	0.1	完形		
Kd150	SI35 握り方ピット5	王 臼	4.7	4.7	4.2	0.1	ほぼ完形			Kd219	SK23	田 玉	3.7	3.7	2.1	0.1	完形		
Kd151	SI35 掘り方ピット11	至 臣	4.6	4.1	2.0	0.1	完形			Kd220	SK17	田 玉	3.7	3.7	2.7	0.1	完形		
Kd152	SI35	白 玉	5.4	5.3	2.2	0.1	完形			Kd221	SK17	田 玉	5.1	5.0	2.3	0.1	完形		
Kd153	SI35	臼 玉	5.8	5.7	2.5	0.2	完形			Kd222	SK28	臼 玉	5.9	5.8	2.3	0.1	完形		
Kd154	SI35	円板B	21.0	21.2	2.9	2.3	完形	66-26		Kd223	SK28	歪 臼	5.9	5.6	2.5	0.1	完形		
Kd158	SK38 埋土	Æ 臼	3.9	3.9	1.9	0.1	完形			Kd224	SK28	白玉	6.1	6.1	2.0	0.1	完形		
Kd159	SK38 埋土	五 臼	4.5	4.5	3.5	0.2	完形			Kd226	SK38	臼 玉	4.3	4.1	2.9	0.1	完形		
Kd160	SK38 埋土	臼 玉	4.5	4.5	2.4	0.1	完形			Kd227	SK38	白玉	4.5	4.5	3.4	0.1	完形		
Kd161	SK38 埋土	王 臼	3.9	3.8	2.9	0.1	完形			K.d228	SK38	臼玉	4.1	4.1	2.1	0.1	完形		
Kd162	SK38 埋土	白玉	4.5	4.5	2.1	0.1	完形			Kd229	SK38	日玉	4.4	4.3	2.1	0.1	完形		
Kd163	SK38 埋土	臼 玉	4.5	4.4	3.2	0.1	完形			Kd230	SK38	鱼玉	4.6	4.5	2.6	0.1	完形		
Kd164	SK38 埋土	臼 玉	4.1	4.1	3.2	0.1	ほぼ完形			Kd231	SK38	臼 玉	4.6	4.5	1.8	0.1	完形		
Kd165	SK38 埋土	白玉	4.9	4.8	2.7	0.1	完形			Kd232	SK38	白玉	4.4	4.4	1.9	0.1	完形		
Kd166	SK38 埋土	至 至	4.8	4.7	3.1	0.1	完形			Kd233	SK38	田玉	4.4	4.4	3.1	0.1	完形		
Kd167	SK38 埋土	至 臣	4.7	4.6	2.2	0.1	完形			Kd234	SK38	白玉	4.4	4.3	1.6	0.1	完形		
Kd168	SK38 埋土	百 玉	4.5	4.0	1.6	0.1	完形			Kd235	SK38	臼 玉	4.1	4.1	2.4	0.1	完形		
Kd169	SK38 埋土	至 臼	4.5	4.4	2.2	0.1	完形			Kd236	SK38	白 玉	4.2	4.1	2.9	0.1	ほぼ完形		
Kd170	SK38 埋土	至 臼	4.4	4.3	1.8	0.1	完形			Kd237	SK38	白玉	4.3	4.1	3.2	0.1	ほぼ完形		
Kd171	SK38 埋土	田 玉	4.5	4.4	2.3	0.1	完形			Kd238	SK38	白玉	4.3	4.1	2.3	0.1	完形		
Kd172	SK38 埋土	臼 玉	4.0	4.0	3.5	0.1	ほぼ完形			Kd239	SK38	歪 臼	4.5	4.5	3.1	0.1	完形		
Kd173	SK38 埋土	白玉	4.8	4.8	2.1	0.1	完形			Kd240	SK38	田 玉	4.3	4.3	1.1	0.1	完形		
Kd174	SK38 埋土	臼 玉	4.7	4.6	2.0	0.1	完形			Kd241	SK38	白玉	4.5	4.5	2.1	0.1	完形		
Kd175	SK38 埋土	臼 玉	4.5	4.4	2.6	0.1	ほぼ完形		vana	Kd242	SK38	白玉	4.5	4.5	2.1	0.1	完形		
Kd176	SK38 埋土	白玉	4.7	4.6	2.1	0.1	完形			Kd243	SK38	£ Β	4.6	4.6	2.4	0.1	完形		
Kd177	SK38 埋土	臼 玉	4.3	4.2	2.5	0.1	完形			Kd244	SK38	臼 玉	4.9	4.8	2.3	0.1	完形		
Kd178	SK38 埋土	白玉	4.5	2.7	2.3	0.1	破損			Kd245	SK38	Æ 臣	4.6	4.5	2.7	0.1	完形		
Kd179	SK38 埋土	至 玉	4.6	2.4	-	0.1	破損			Kd246	SK38	正 臼	4.5	4.5	3.3	0.1	完形		
Kd180	SK38 埋土	白 玉	4.3	4.2	2.5	0.1	完形			Kd247	SK38	白玉	4.4	4.4	1.7	0.1	完形		
Kd181	SK38 埋土	臼 玉	4.5	4.4	4.0	0.1	ほぼ完形			Kd248	SK38	臼 玉	4.4	4.4	1.5	0.1	完形		
Kd182	SK38 埋土	剣形A	36.3	20.7	5.8	6.1	破損	66- 4		Kd249	SK38	田 玉	4.3	4.3	2.9	0.1	完形		
Kd184	SD01	剣形B	48.2	23.8	3.9	7.8	完形	66-12		Kd250	SK38	白玉	4.6	4.6	4.0	0.2	完形		
Kd185	SD01 3層	勾玉形 B	24.2	10.5	5.5		完形	67-35		Kd251	SK38	白玉	4.2	4.2	1.6		完形		
Kd187	SD0210 層以下層	円板B	23.2	22.8	3.4		完形	66-27		Kd252	SK38	白玉	4.3	4.3	2.0	_	完形		
Kd188	SD02 5層	剣形B	48.9	18.3	3.6		完形	66- 7		Kd253	SK38	白玉	4.8	4.8	3.3		<b>完形</b>		
Kd189	SD02	不明	16.9	9.5	3.2	0.8	破損			Kd254	SK38	白玉	4.6	4.5	3.4		完形		
Kd190	SD08 埋土	白玉	5.9	3.8	2.2	0.1	破損			Kd255	SK38	白玉	4.8	4.8	3.1	-	完形		-
Kd191	SD09	石材	21.0	9.6	2.0	0.5				Kd256	SK38	£ £	4.7	4.6	3.2		完形		
Kd192	SD11	白玉	3.7	3.7	2.4		完形			Kd257	SK38	白玉	4.6	4.6	3.0	$\rightarrow$	完形		
Kd193	SD12	白玉	5.1	5.0	3.6		完形			Kd258	SK38	白玉	4.6	4.5	3.4		完形		
Kd194	B4 区III層	白玉	4.2	4.2	4.4		完形			Kd259	SK38	五日王日	4.4	4.4	2.8	-	完形		
Kd195	B5 区Ⅲ層	白玉	5.6	5.5	3.6		完形				SK38	白玉	-			-			
Kd195 Kd196	B+C11 区III層		4.6		2.3		完形						4.6	4.6	3.0		完形		
l		白玉	$\vdash$	4.6				67.01			SK38	白玉	4.3	4.3	2.5		完形		
Kd197	C11 区III層	勾玉形 A	36.9	18.7	3.1	5.8	完形	67-34		Kd262	SK38	王白	4.6	4.6	2.7	0.1	元形		

第5表 石製模造品集計表(2)

登録番号	地区・層位	分 類	長㎜	幅mm	摩mm	重g	特 徵	Ø	写真	登録番号	地区・層位	分類	長㎜	幅mm	厚mm	重g	特	数図	写真
Kd263	SK38	臼 玉	4.6	4.6	2.2	0.1	完形			Kd278	SK38	<b>三</b>	4.2	4.2	2.4	0.1	完形		
Kd264	SK38	歪 臼	4.5	4.5	2.1	0.1	完形			Kd279	SK38	台 玉	4.4	4.4	3.2	0.1	完形		
Kd265	SK38	白 玉	4.5	4.5	3.4	0.1	完形			Kd280	SK38	白 玉	4.5	4.5	2.5	0.1	完形		
Kd266	SK38	白玉	4.5	4.5	2.4	0.1	完形			Kd281	SK38	田 玉	.4.2	4.2	2.8	0.1	完形		
Kd267	SK38	白 玉	4.3	4.2	2.5	0.1	完形			Kd282	SK38	白玉	4.2	4.2	2.0	0.1	完形		
Kd268	SK38	正 臼	4.3	4.3	3.0	0.1	完形			Kd283	SK38	白玉	4.3	4.2	2.0	0.1	ほぼ完形		
Kd269	SK38	臼 玉	4.2	4.2	2.6	0.1	完形			Kd284	SK38	≘ 禹	4.4	4.4	2.7	0.1	完形		
Kd270	SK38	臼 玉	4.2	4.2	2.1	0.1	完形			Kd285	SK38	Æ 臼	4.8	3.2	1.5	0.1	破損		
Kd271	SK38	白 玉	4.6	4.6	3.2	0.1	完形			Kd287	SK38	剣形A	45.0	18.8	5.4	5.9	完形	66- 3	
Kd272	SK38	白 玉	4.6	4.6	3.0	0.1	完形			Kd288	II区II層	不 明	27.2	15.7	3.1	1.9	破損		
Kd273	SK38	五 臼	4.6	4.4	2.4	0.1	完形			Kd289	II区II層	不 明	28.7	15.7	2.6	1.5	破損		
Kd274	SK38	丑 臼	4.3	4.3	2.8	0.1	完形			Kd290	II区ピット42	台玉	4.3	3.6	3.1	0.1	ほぼ完形		
Kd275	SK38	臼 玉	4.7	4.7	3.3	0.1	完形			Kd291	SI17 床下検出上坑	歪 臼	6.3	6.0	3.4	0.1	ほぼ完形		
Kd276	SK38	Æ 臼	3.8	3.6	2.4	0.1	完形			Kd292	B•C4 III層	不明	15.3	10.7	2.2	0.5	破損		
Kd277	SK38	五 臼	4.3	4.3	1.7	0.1	完形			Kd293	II区II層	不明	25.9	13.1	3.8	1.7	破損		

第6表 石製模造品集計表(3)

# (2) 古代

# ①竪穴住居跡

## SI 17 竪穴住居跡 (第68~74図)

【位置】 I 区 (A~C-10~12) に位置し、SI12・18・21 を切っている。

【平面形・規模】北半部分が調査区外にかかっているが、平面形は隅丸方形を呈する。壁面や床面施設の検出状況から、床を上げて拡張する改築をおこなっていることが考えられる。規模は南壁600cm、西壁460cm、東壁320cmを計る。方向は西壁で  $N-0^\circ-W$  である。

# 【堆積土】埋土は5層に分けられた

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は南壁  $9\sim22$ cm、西壁  $9\sim24$ cm、東壁 $18\sim32$ cmである。壁際に、西壁で幅 $25\sim30$ cm、東壁で幅 $20\sim40$ cmの床面からのテラス状の段差があり、改築時の拡張によるものと考えられる(第68図)。

#### SI17 埋土註記表

層位	土 色	土 性	備考
I層	7.5YR3/2 オリーブ黒色	シルト	
II層	2.5YR3/3 暗オリーブ褐色	シルト	
III層	5YR4/2 灰オリーブ色	シルト	
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
2 層	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
3a 層	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
3b 層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒子混入
3c 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
4a 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	4 a 層よりも明るい
4b 層	10YR2/2 黒褐色	シルト	3 a 層に近似、炭化物粒子混入、焼土粒子混入
4c 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
5a 層	10YR2/2 黒褐色	シルト	2.5YR5/4 ブロック状に混入、炭化物粒子混入
5b 層	2.5YR3/5 暗オリーブ褐色	シルト	
6層	10YR3/2 黒褐色	シルト	掘り方埋土、10YR5/6 黄褐色ブロック状に混入、炭化物混入

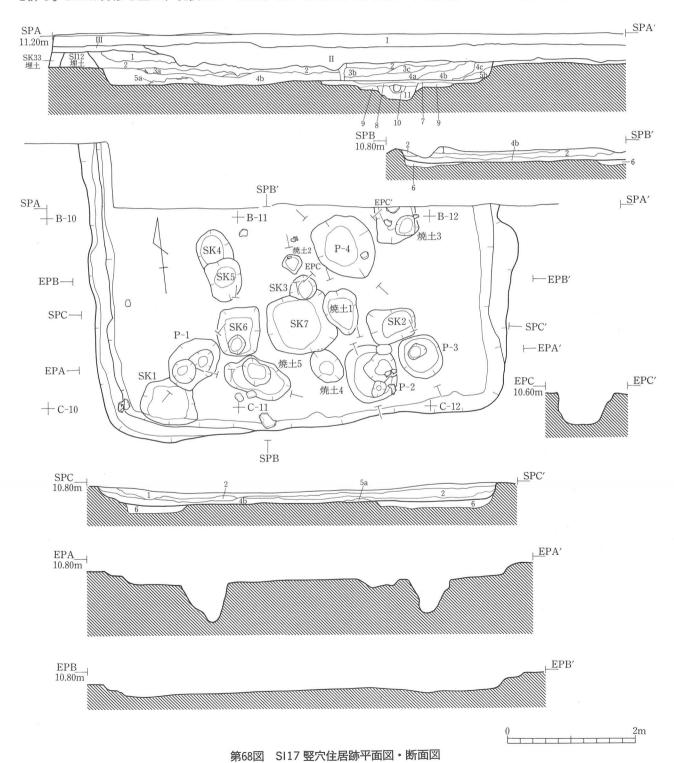
#### 焼土3埋土註記表

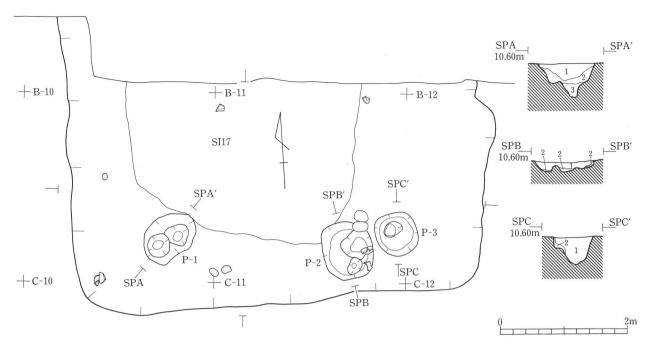
7層	10YR3/3 暗褐色	シルト		
8層	10YR2/2 黒褐色	シルト		
9層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色ブロック状に混入	
10層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物混入	
11層	7.5YR3/1 黒褐色	シルト		

壁沿いに幅 $70\sim150$ cm、深さ  $7\sim20$ cmの周溝状の掘り方が検出されている(第70図)。この部分では掘り方埋土上面を床面としている。掘り方の西側は浅いが、東側は深く埋土中の遺物も多い。

【柱穴・ピット】新旧 2 時期の柱穴が考えられる。新期の住居跡では、 $P-1\cdot3$  が主柱穴と考えられる(第69図)。 P-1 は不整円形を呈し、規模は $90\times65$ cm、深さ25cmを計る。底面にピット 2 基がある。円形で径38cm、深さ30cmのものと、不整円形で径28cm、深さ20cmのものである。P-3 は不整形を呈し、規模は $70\times65$ cm、深さ40cmを計る。底面に不整形で $30\times20$ cm、深さ15cmを計るピットがある。

古期の住居跡ではSK2・6が主柱穴と考えられる(第71図)。SK2は不整方形を呈し、規模は $70 \times 55$ cm、深さ40cmを計る。SK6は方形を呈し、規模は $78 \times 68$ cm、深さ48cmを計る。断面には柱痕跡がみられ、底面に径28cm、深さ10

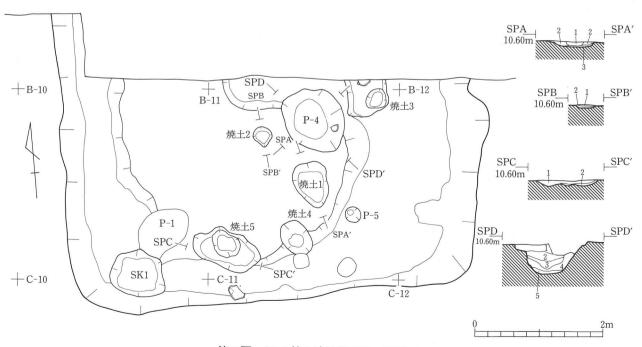




SI17 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備考
	P-1	楕円形	76×90	-56	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入、10YR5/6 斑状に混入
					2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
					3層	10YR3/2 黒褐色	シルト	2.5Y4/2 ブロック状に混入
柱穴	P-2	円形	80×90	-19.7	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 斑状に混入、炭化物粒子混入
					2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	若干砂質
	P - 3	円形	64×70	-60.4	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 ブロック状に混入、炭化物粒子を若干混入
					2層	10YR2/2 黄褐色 10YR5/6 ブロック層	シルト	*

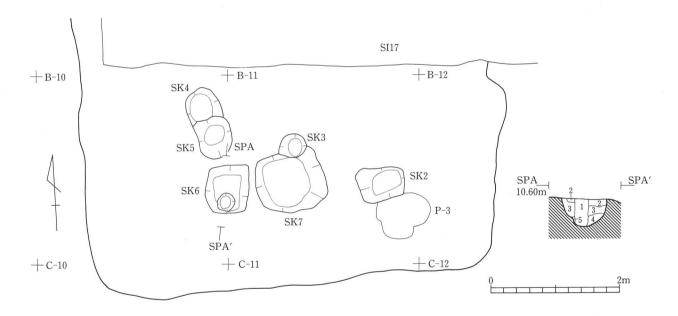
第69回 SI17 床面検出遺構平面図・断面図(新段階)



第70図 SI17 焼土遺構平面図・断面図

# SI17 床面検出遺構観察表(第70図)

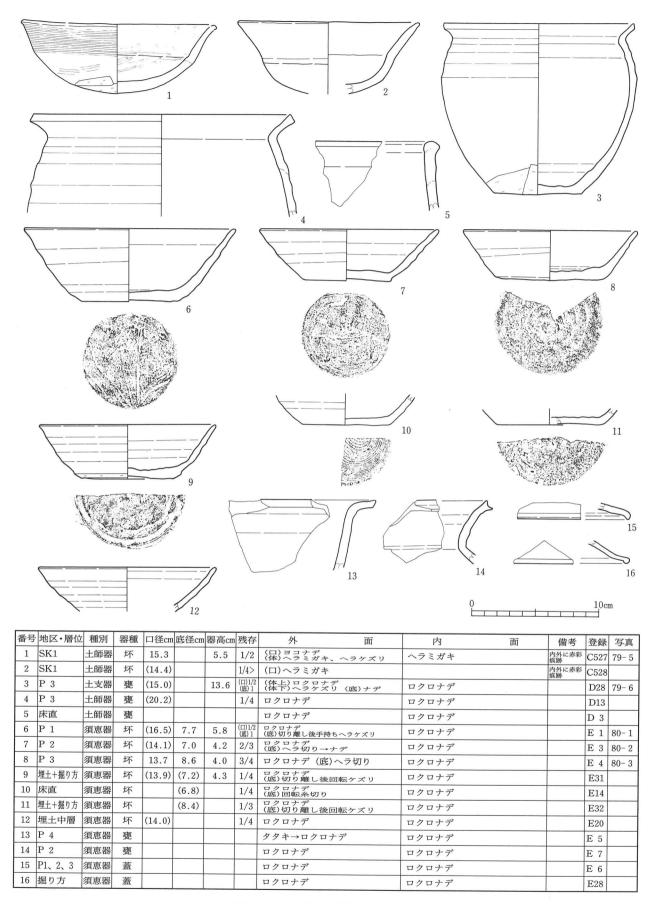
	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土 性	備考
焼土遺構	焼土1	不整形	56×76	-7.2	1層	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	焼土層、炭化物混入
					2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	燒土粒。炭化物粒混入
					3層	2.5Y4/4 オリーブ褐色	シルト	
	焼土2	不整形	30×34	-4.5	1層	7.5Y2/3 極暗褐色	シルト	焼土ブロック状に混入
					2層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR6/6 ブロック状に混入
	焼土4	楕円形	58×42	-18.6		7.5YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック状に混入
	焼土5	不整形	104×60	-15.0	1層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック状に混入、炭化物混入
					2層	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	
土坑	SK1	不整形	84×74	-12.4		10YR3/1 黒褐色	シルト	SI17 とは別遺構か
粘土溜	P - 4	不整形	92×90	-51.2	1層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	5Y7/1 ブロック状に混入、炭化物粒子混入
					2層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	10YR5/4 斑状に混入、炭化物粒子混入
					3層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/4 斑状に混入、炭化物粒子混入
					4 層	2.5Y7/4 浅黄色	粘土	下面に須恵器片
					5層	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒子若干混入



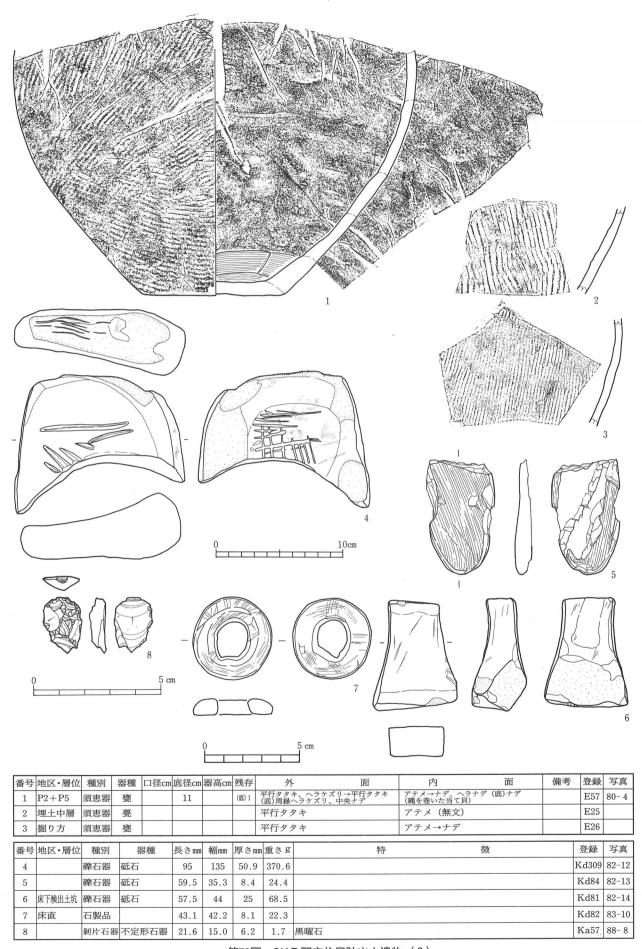
## SI17 掘り方検出遺構(古階段)観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備考
柱穴	SK2	不整方形	70×60	-43	1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土・炭化物混入
	SK3	不整形	44×38	-19	1層	10YR2/1 黒色	シルト	焼土・炭化物混入
					2層	7.5YR2/3 極暗褐色	シルト	焼土混入、10YR6/4 ブロック状に混入
土坑	SK4	隅丸方形	54× (48)	-17.4	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土・炭化物混入
	SK5	隅丸方形	50×64	-29.4	1層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR6/6 とのブロック層
					2層	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂	
柱穴	SK6	方形	68×74	-56.1	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、下層部に焼土粒若干混入
					2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR6/4 斑状に混入
					3層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR6/4・10YR5/3 ブロック状に混入
					4層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/3 砂がブロック状に混入
					5層	10YR6/6 明黄褐色	粘質シルト	
土坑	SK7	方形	84×86	-14.8	1層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR6/6・10YR5/3 砂ブロック状に混入

第71図 SI17 掘り方検出遺構平面図・断面図(古段階)



第72図 SI17 竪穴住居跡出土遺物 (1)



第73図 SI17 竪穴住居跡出土遺物 (2)



番号	地区•層位	種別	器種	長さ㎜	幅mm	厚さmm	重さg	特 徵	登録	写真
1	ピット1	鉄製品	釘	72	15	8	19.2		N10	84-8
2		鉄製品	刀子	(26)	9	2	2.4	片端欠損	N12	84-9
3		鉄製品	鎌?			2.5	2.9		N11	84-10

第74図 SI17 竪穴住居跡出土遺物 (3)

cmのピットがある。

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】新期の住居跡に伴う遺構としては、柱穴( $P-1\cdot3$ )・ピット・焼土遺構(焼土 $1\cdot2$ )・テラス状の段差などがある。P-4 は粘土溜と考えられる遺構で不整円形を呈し、規模は $110\times90$ cm、深さ45cmを計る。埋土下層に厚さ10cm程の粘土層があり、その下から粘土の受皿か捏ね鉢として転用されたものと考えられる須恵器甕の破片が出土している。

古期の住居跡に伴う遺構としては、柱穴(SK2・6)・土坑(SK3・4・5・7)・焼土遺構(焼土3~5)などがある。 【出土遺物】堆積土・床面・土坑・掘り方より土師器(非ロクロ・ロクロ)・須恵器・礫石器・石製品・鉄製品・石製模造品・剝片石器が出土している。床面からはロクロ使用の土師器が出土している。須恵器は底部切り離し後に再調整が施されたものがある。須恵器蓋はカエリのないものである。第73図1の須恵器甕は、内面の当て目の一部に縄目が見られる(写真80-4)。第73図8は黒曜石の剝片石器である。上部に先端部を作り出そうとした可能性がある。

遺構の時期は、ロクロ使用の土師器が存在することから平安時代と考えられる。また、須恵器坏の切り離しがへ ラ切りと糸切りが共存し、切り離し後の再調整があることから、平安時代でも前半期と考えられる。

SK1 土坑については若干ロクロ土師器が混入しているが、第72図 1・2 の坏の特徴より古墳時代後期の遺構の可能性がある。床面掘り方の調査中に検出されていることから住居とは別の遺構で、SI18 に伴う遺構の可能性が考えられる。

#### **②掘立柱建物跡**(第75・76図)

#### SB01

II区西(B・C-4)に位置している。SK  $1 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 7 \cdot 10 \cdot 11 \cdot 14 \cdot 15$ によって構成される。北西角の柱穴 1 基を SD02 によって切られている。桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟建物跡である。建物の方向は東辺で  $N-7^\circ-W$  である。

桁行は、北側柱列では総長150cm以上(柱間寸法150cm)、南側柱列では総長300cm(柱間寸法150cm)を計る。梁行は、東側柱列では総長390cm(柱間寸法130cm)、西側柱列では総長250cm以上(柱間寸法120~130cm、平均125cm)を計る。

柱穴はほとんどが $70 \times 70$ cmの方形を基調としている。底面に径20cm程の柱痕跡の認められたものもある。確認面からの深さは $20 \sim 40$ cmと幅がある。

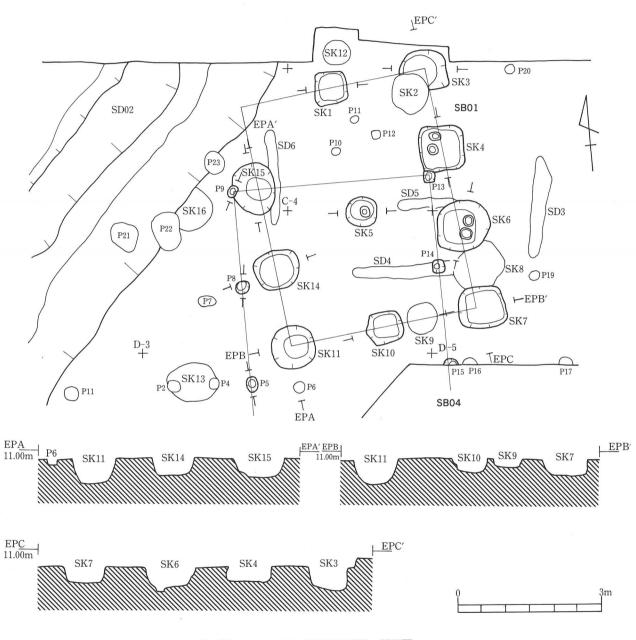
## SB04

II区西( $B \cdot C - 4$ ) に位置している。 $P - 5 \cdot 8 \cdot 9 \cdot 13 \cdot 14 \cdot 15$ で構成される。桁行 3 間以上、梁行 1 間の南北棟建物跡で、さらに南に延びる可能性が考えられる。建物の方向は東辺で  $N - 1^\circ - W$  で、ほぼ真北方向を向いて

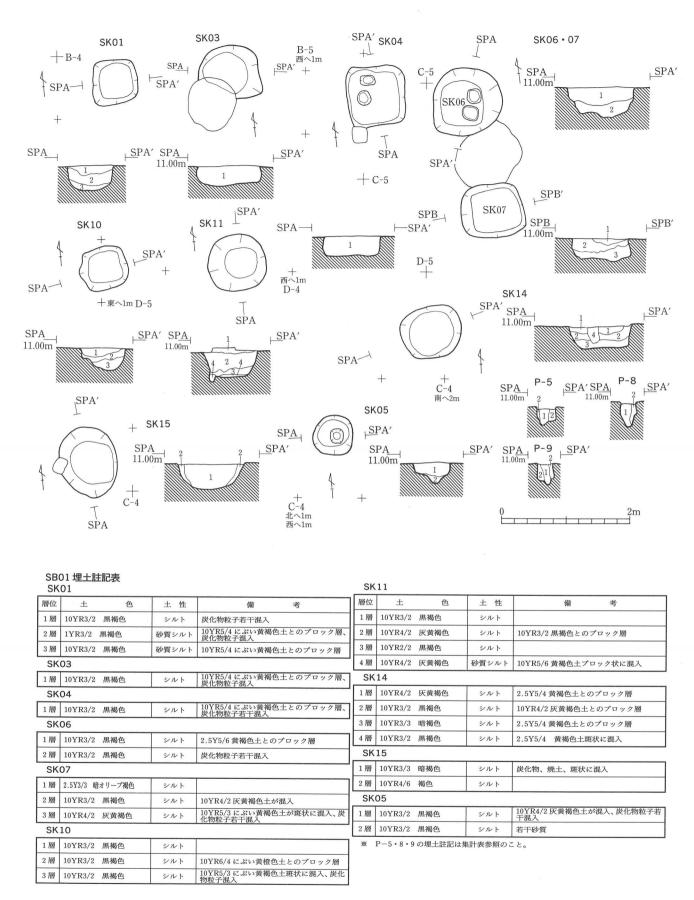
いる。

桁行は、北側柱列では総長(柱間寸法)310cmを計る。梁行は、東側柱列では総長300cm以上(柱間寸法150cm)、 西側柱列では総長310cm以上(柱間寸法150cm)を計る。

柱穴はほとんどが20cmの隅丸方形を基調としている。確認面からの深さは $20\sim40\text{cm}$ と幅がある。 $P-5\cdot8\cdot9$  には断面に柱痕跡がみられた。



第75図 SB01 · 04 建物跡平面図 · 断面図



第76図 SB01·04 建物跡平面図·断面図

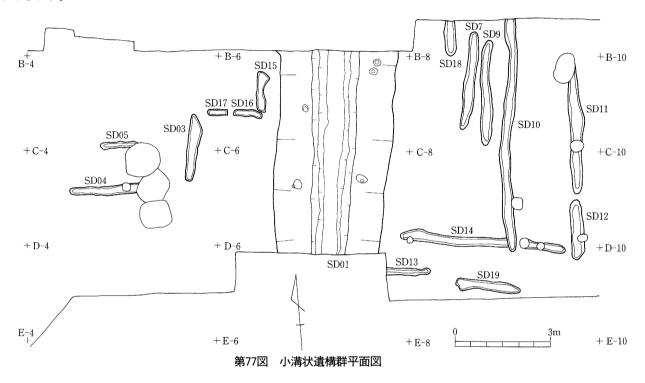
## ③小溝状遺構群(第77図・第7表)

小溝状遺構群はII区で検出され、全体の方向と切り合いから2時期の変遷が考えられる。天地返しと畑の耕作によりかなり削平を受けており、特に西側の遺存状況はよくない。東西約16mの範囲で検出されているが、さらに南北に広がっているものと考えられる。

**小溝状遺構群(新)** 南北方向に走る細長い溝が 7 条検出された。方向はおおむね  $N-5\sim10^{\circ}-E$  である。これらの小溝の長さは多様で、長さ $1.5\sim7m$ 、幅約30cm、深さ  $6\sim15cm$ を計る。 埋土は SD09 以外は単層であった。

小溝状遺構群(古) 東西方向に走る細長い溝が 6 条検出された。方向はおおむね  $N-80^{\circ}-E$  である。これらの 小溝の長さは多様で、長さ $1.5\sim5$ m、幅約 $20\sim30$ cm、深さ $3\sim10$ cmを計る。埋土はすべて単層であった。

小溝状遺構の時期については出土遺物も少なくはっきりしないが、遺構の切り合いからみて SB01 よりは古いものであろう。



遺構名 位 置 長軸×短軸(cm) 深さ(cm) 方 向 切合関係 埋土土色 土性 しまり 粘性 備 SD03 B • C-5 210×30 P22、P23 に切られている 10YR3/3 暗褐色 シルト 良 低 炭化物粒子混入、遺物有り SD04 210×25 0.6~8.2 N-86°-W SK08 に切られている 10YR3/4 暗褐色 シルト 良 低 遺物有り SD05 B-4 • 5 115×20 5.7~9 N-86°-W SK06 に切られている 10YR4/4 褐色 シルト 良 低 炭化物粒子混入、遺物有り SD06 B-3 200×20 8.7~9.6 N-0°-E SK15 に切られている 10YR4/6 褐色 良 遺物有り シルト 低 SD07 A • B-8 309×35 18.6~22.7 N-14°-E 10YR3/3 暗褐色 良 遺物有り シルト 低 SD09 A • B-8 329×30 6.8~19.6 N-7°-E 10YR3/2 黒褐色 良 遺物有り 埋1層 シルト 低 (SD08) 埋2層 10YR3/3 暗褐色 遺物有り 良 低 シルト SD10 A~D-9 ×35 9.5~14.8 N-10°-E 10YR3/3 遺物有り 暗褐色 良 低 シルト SD11 B • C-9 4~7.5 N-1°-E  $(400) \times 40$ 10YR3/2 黒褐色 良 遺物有り シルト 低 SD12 C • D-9 190×40 9.1~20.1 N- 4 °-E 10YR4/4 褐色 良 低 炭化物粒子混入、遺物有り シルト N-85.5°-W SD13 D-7 • 8  $(140) \times 22$ SD01 に切られている 5~14.9 SD14 C • D-7~9  $1.2 \times 6.2$ SD10 に切られている 514×30 N-79°-W 10YR3/3 暗褐色 シルト 良 低 SD15 125×30 N-5°-E SI05 を切る B-6  $1.6 \sim 8.6$ 10YR3/2 黒褐色 シルト 良 低 N-80°-W SI05 を切る SD16 B-6 86×20 2.3~5.9 10YR2/2 黒褐色 シルト 良 低 SI05 を切る SD17 B-5 • 6 58×17  $1.7 \sim 2.9$ N-85°-W 10YR2/2 黑褐色 シルト 良 低 SD18 A-8  $(110) \times 35$  $9.9 \sim 16.2$ N-3.5°-E 10YR3/2 黒褐色 シルト 低 遺物有り SD19 D-8 • 9  $204\!\times\!25$  $1.6 \sim 2.8$ N-77°-W

第7表 小溝状遺構集計表

#### (3) 中世~近世

#### **①屋敷跡**(第78図)

SD01 によって西辺を区画され、SB02・03 で構成される。この SD01 は、南側隣接地の第17次調査で検出された、屋敷跡 E・F の西辺を区画する SD11 ( $\rightarrow$ 06) と規模や方向等がほぼ一致し、同じ遺構と考えられる。この屋敷跡については後述のように、第17次調査での東辺南部の調査から、区画溝の変遷が確認されている。一辺半町規模(約55m)の方形で屋敷地を区画している溝と考えられるが、新期の SD06 段階で南北規模が拡大している可能性が考えられる。屋敷として機能していた時期については、第17次調査の成果と合わせて屋敷跡 E は13世紀中頃~14世紀前半が考えられ、屋敷跡 F については16世紀前半と考えられる。今回確認された遺構については、溝の出土遺物や重複して検出されている墓壙群との切り合い関係などから、屋敷跡 F 段階のものと考えられる。

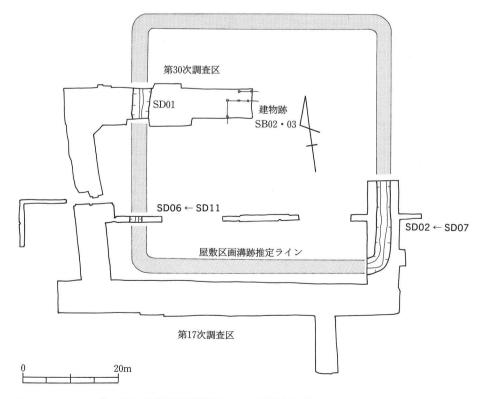
#### (a)**区画溝跡(SDO1)**(第78・79・82図)

II区( $B \cdot C - 6 \cdot 7$ )に位置している。規模は上幅350~380cm、底面40~50cm、深さ125~140cmである。底面は南に向かってわずかに傾斜している。断面形は逆台形状を呈している。方向は西辺で  $N-7^\circ-E$  である。埋土中には酸化鉄を多く含み、底面に鉄分の集積層が認められた。断面図の検討から、底面レベルに達する改修をうけた可能性があることから、前述の SD11  $\rightarrow$  06 と同様の変遷が考えられる。

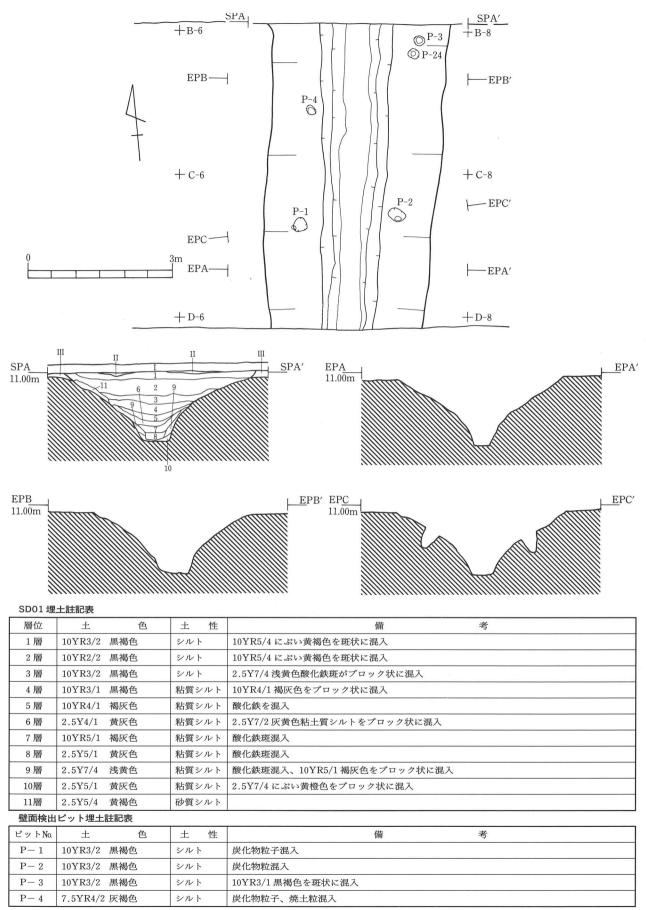
堆積土より陶器・瓦・土師器・石臼・礫石器・金属製品・石製品・弥生土器などが出土している。溝の年代については、埋土中層から16世紀頃の瓦質土器風炉(第80図1)が出土していることから、この時期に改修を受けたことが考えられる。また、2・3は13世紀後半から14世紀前半頃と考えられる在地の陶器鉢で、前段階の溝を掘込んだためと考えられる。4はとりべと考えられる小片で、内面が強い熱により溶融している。

#### (b) 掘立柱建物跡 (SBO2 · O3) (第81図)

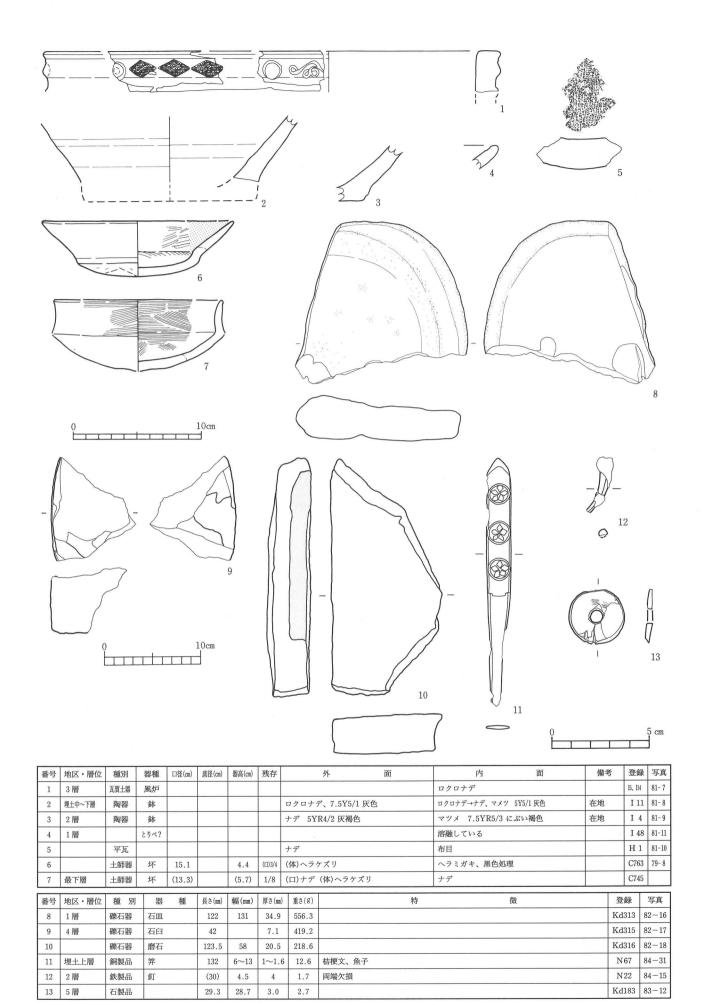
I 区  $(B \cdot C - 13 \cdot 14)$  に位置している。 $P - 121 \cdot 112 \cdot 99 \cdot SK27$  で構成される SB02 と、 $P - 114 \cdot 125$  で構成される SB03 にわけているが、北側に縁もしくは張り出しをもつ建物跡と考えることもできる。調査区の北 $\cdot$ 南 $\cdot$ 東方



第78図 屋敷区画溝跡第30·17次調査区合成図



第79図 SD01 屋敷区画溝跡平面図・断面図



第80図 SD01 屋敷区画溝跡出土遺物

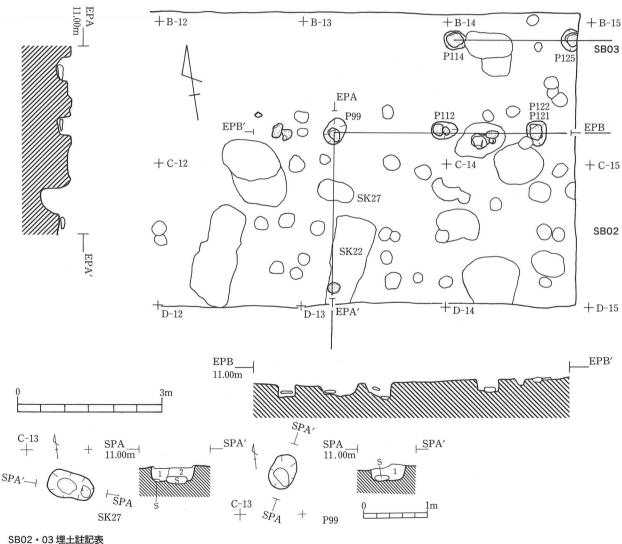
向に延びており、全体の規模は不明である。この建物跡は、屋敷地内の推定中軸線上の中央部北寄りに位置してお り、柱穴に根石が入れられた大規模な建物と考えられることから、この屋敷の中枢的な建物と考えられる。

SBO2 桁行2間以上、梁行1間以上の東西棟建物跡である。建物の方向は西辺でN-6°-Eである。桁行は、北側 柱列で総長320cm以上(柱間寸法150~170cm)を計る。梁行は、西側柱列では総長(柱間寸法)245cm以上を計る。 柱穴は、ほとんどが40×30cmの楕円形を基調としている。底面には20~30cm大の石が根石として入れられている。 確認面からの深さは20~30cmと幅がある。

SBO3 柱列で全体の規模や構造は不明であるが、柱間寸法は185cmを計る。柱穴は、径35cmの円形を基調としてい る。底面には20~30cm大の石が根石として入れられている。確認面からの深さは25~30cmである。

#### (c)30次調査区周辺の中世の屋敷跡・館跡の変遷について (第82図)

30次調査区の周辺では、これまでの調査によって中世の屋敷跡・館跡の変遷がとらえられてきている。特に第16 次調査区では、大規模な堀と土塁を伴う城館跡や、その北側の第25・26次調査区とあわせて、その前段階と考えら れる屋敷跡が発見され、屋敷から城館への変遷過程がとらえられている。



遺構名	層位	土	色	土 性	備考
SK27	1層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物混入
	2層	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色土とのブロック層
P-99	1層	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR4/6 褐色土ブロック状に混入

第81図 SB02·03 建物跡平面図·断面図

## 第16・25・26次調査······屋敷跡A・Bおよび城館跡

屋敷跡 A は、幅2.5m、深さ1.2mの溝によりやや歪んだ方形に区画される。屋敷の規模はほぼ半町規模で、東辺の軸線はほぼ真北方向である。溝南辺と東辺に入り口施設をもっている。区画内のほぼ中央に、4×8間の東西棟の建物跡がある。三方に縁もしくは廂が、北辺に張り出しを持つ建物で、この屋敷の主屋と考えられる。

屋敷跡 B は、北辺を60m 前後の溝で区画された屋敷跡で、13世紀中頃~14世紀前半にかけて 2 時期の変遷がある。 14世紀前葉の新期段階で、<math>\*#・矢倉とみられる施設が造られ、溝を上幅 9m、深さ1.5m 以上へと拡張するなど防御性の増大がみられる。屋敷跡 A と B は隣接しており、並立していた可能性も考えられることから、屋敷として一体となって機能していたことも考えられる。

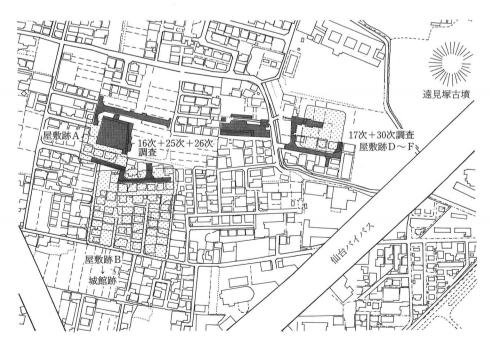
城館跡は、幅14~15mの外堀と土塁で区画され、東西76m以上の大規模なものである。北辺の一部の調査であり 城館の内部構造ははっきりしないが、時期的には14世紀後半~15世紀前半と考えられている。

#### 第17次調查······屋敷跡C~F

屋敷跡 C は区画溝を伴わなず、建物跡と井戸跡・土坑で構成される。時期的には12世紀後半~13世紀初頭が考えられている。屋敷跡 D は溝で区画され、屋敷造営時に屋敷跡 C を埋め立てている。主要な遺構は不明だが、時期的には13世紀前半頃が考えられている。

屋敷跡 E は一辺半町規模の溝(SD07・11)で区画され、屋敷跡 D とほぼ重複する位置にある(第78図)。時期的には13世紀中頃~14世紀前半と考えられる。屋敷跡 F は屋敷跡 E の溝を改修し、ほぼ重複する位置にある。一辺半町規模の溝(SD02・06)で区画されているが、南北規模は拡大している可能性がある(第78図)。溝底面に陥し穴や溝に沿った栅が造られるなど防御性が付与された屋敷(館)跡であるが土塁は確認されていない。時期的には16世紀前半頃と考えられている。

なお、南小泉遺跡における中世の屋敷跡・館跡の変遷については、南小泉遺跡第16~18次調査報告書(佐藤:1990)、南小泉遺跡第26次調査報告書(五十嵐:1998) に詳しい記述があるのでそれらを参照されたい。



第82図 30次調査区周辺で確認された中世屋敷跡

#### ② 墓 壙 (第83~85図)

墓壙は6基検出されたが、規模や主軸方向、出土遺物などの検討から、比較的小型で、主軸が東西方向を基調とする墓壙群Aと、大型で、主軸が南北方向を基調とする墓壙群Bに分けられる(第83図)。SK17・19・24・26 から骨片もしくは歯が出土している。SK17に火葬骨が埋葬された可能性がある以外は土葬墓とみられる。

屋敷跡との関係では、SK24 を SB03 を構成する P-114 が切っており、後述する階段付地下式坑とした SK22 が SB02 を構成するピットを切っている。時期的には、SK17・28 から13世紀後半~14世紀の遺物が出土していること と、SK19 から無文銭を含む六道銭が出土していることから、屋敷跡 E 廃絶後の14世紀段階と、屋敷跡 F 廃絶後の16 世紀段階に作られたものと考えられる。

#### 墓壙群 A…屋敷跡 E 廃絶後

[SK17 土坑] B-9 に位置している。平面形は隅丸方形を呈し、長軸98cm、短軸60cm、深さ77cmを計る。断面形は細い U 字形を呈している。主軸方向は  $N-25^{\circ}-E$  である。埋土は 5 層に分けられ、焼土ブロックを含む厚い炭の集積層(埋 4 層)が検出された。この層中から焼けた骨片と青磁碗が出土している。壁面や底面に焼け面は認められないことなどから、火葬墓というよりは、別の場所で焼かれたのちに埋められたことが考えられる。遺物としては、青磁碗が出土している(第85図 2)。底部のみ残存し、高台にそって打欠かれている。龍泉窯系の製品で蓮弁文碗と考えられ、13世紀後半~14世紀前半のものと考えられる。

 $[SK24 \pm 坑]$  B-14 に位置している。平面形は隅丸方形を呈し、長軸95cm、短軸63cm、深さ50cmを計る。主軸方向は N-80°-E である。埋土は 3 層に分けられた。断面形は箱形を呈している。底面上10cmの埋 3 層の上面に、炭の薄い集積と15cm角の平坦な石が検出された。古銭の細片が出土している(銭種不明)。

 $[SK26 \pm 坑]$  C-14 に位置している。平面形は不整楕円形を呈し、長軸105cm、短軸90cm、深さ50cmを計る。主軸方向は  $N-90^\circ-W$  である。埋土は 3 層に分けられた。断面形は舟底形を呈している。南壁側から歯が出土している。

 $[SK28 \pm 5]$  C-12 に位置している。平面形は楕円形を呈し、長軸116cm、短軸105cm、深さ114cmを計る。主軸 方向は  $N-80^\circ-W$  である。埋土は 3 層に分けられた。断面形は逆台形を呈している。

底面上約10cmのところで、14世紀後半のものと考えられる完形の土師質土器坏が出土している(第85図1)。見込みはナデ調整されており、外底面には糸切り後の板目状圧痕がみられる。

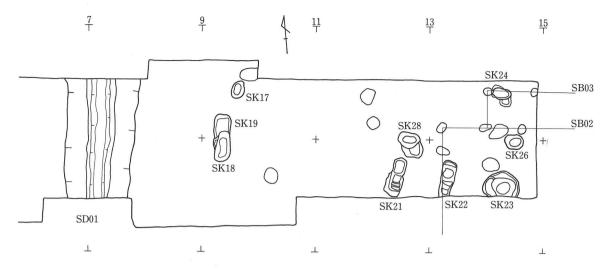
## **墓塘群 B**…屋敷跡 F 廃絶後

[SK18] C-9 に位置し、SK19 を切っている。平面形は長楕円形を呈し、長軸163cm、短軸90cm、深さ80cmを計る。主軸方向は  $N-5^{\circ}-E$  である。埋土は単層である。断面形は舟底形を呈している。遺物は出土していない。

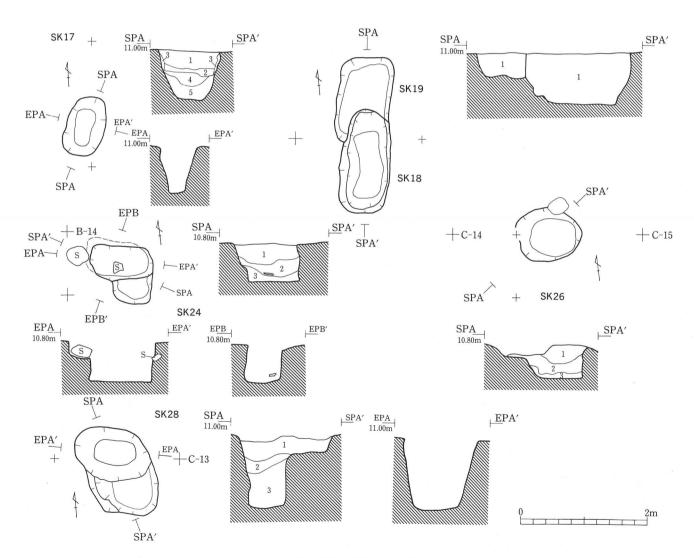
[SK19 土坑] C-9 に位置し、SK18 に切られている。平面形は隅丸方形を呈し、長軸で推定140cm、短軸90cm、深さ80cmを計る。主軸方向は  $N-10^\circ-E$  である。埋土は単層である。断面形は舟底形を呈している。底面のやや北よりから古銭が重なった状態で出土している。銭を包んでいたと考えられる布のようなものの痕跡が認められた(写真54)。古銭は無文銭(鐚銭) 1 枚を含み全部で 6 枚あり、いわゆる六道銭と考えられる(第85図  $3\sim8$ )。無文銭以外は渡来銭であり、いずれも北宋銭で、このうち最も新しいものは「政和通宝」で、初鋳造年は1111年である。

## ③ 階段付地下式坑(第86図)

平面が長方形で、斜行して底面にいたる階段状の施設をもつ土坑2基を検出した。これに類似する遺構としては、第11次調査で土倉跡として報告された遺構2基がある(第86図上)。この遺構は、16~17世紀前半の屋敷地内部の遺構で、屋敷区画溝に沿った位置に1 m の間隔で並列して検出された。階段を伴っている点では同じであるが、床面積や床面に柱穴をもつ点などに大きな違いがみられる。



第83図 墓壙・階段付地下式坑配置図

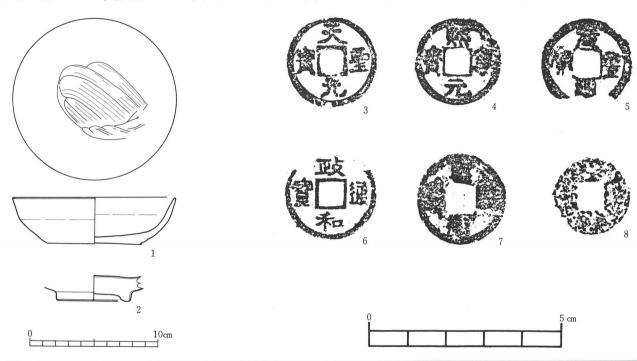


第84図 墓壙平面図・断面図

これまで報告されている中世以後の遺構とされている土倉跡や、半地下式の貯蔵施設とも異なり、明確な階段を もっていることから、関東地方に類例のみられる「階段付地下式坑」の名称を用いることとした。

「SK21 土坑 ] C-12 に位置している。平面形は長方形を呈し、長軸210cm、短軸70cm、深さ110cmを計る。開口部 は南を向いており、主軸方向は N-17°-E である。

天井部は確認されず、埋土に天井部の崩落を示すような痕跡は認められなかった。確認面から地下室に向かって、 幅50cmの階段が3段構築されている。階段の上面は砂で覆われていた。地下室の平面形は、長軸100×短軸70cmの長 方形を呈している。底面は平坦で、奥壁はほぼ直立し、側壁はやや内湾して立ち上がっている。



番号	地区・層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	SK28	土卸貨土器	坏	12.9	7.4	3.8	1	回転糸切り・板目痕		見込みナデ			D39	80-5
2	SK17 炭層中	青磁	碗		5.7		1	(底)削り出し高台 5GY6/1 オリ	ープ灰色	5GY6/1 オリーブ灰色			J 3	80-6

番号	地区・層位	種 別	銭	種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)		特	徴	登録	写真
3	SK19	古銭	渡来銭		23.7	23.7	1.0	2.5	天聖元宝	北宋 (1023)			81 – 1
4	SK19	古銭	渡来銭		23.5	23.6	1.3	3.5	熈寧元宝	北宋 (1068)			81 – 2
5	SK19	古銭	渡来銭		-	23.6	1.3	2.6	元豊通宝	北宋 (1078)			81 – 3
6	SK19	古銭	渡来銭		-	24.0	1.2	2.1	政和通宝	北宋 (1111)			81 - 4
7	SK19	古銭	渡来銭		24.5	23.9	1.3	3.0	皇宋通宝	北宋 (1039)			81 - 5
8	SK19	古銭			20.2	20.5	0.8	0.9	無文銭				81-6

# 第85図 墓壙出土遺物

# 墓壙埋土註記表

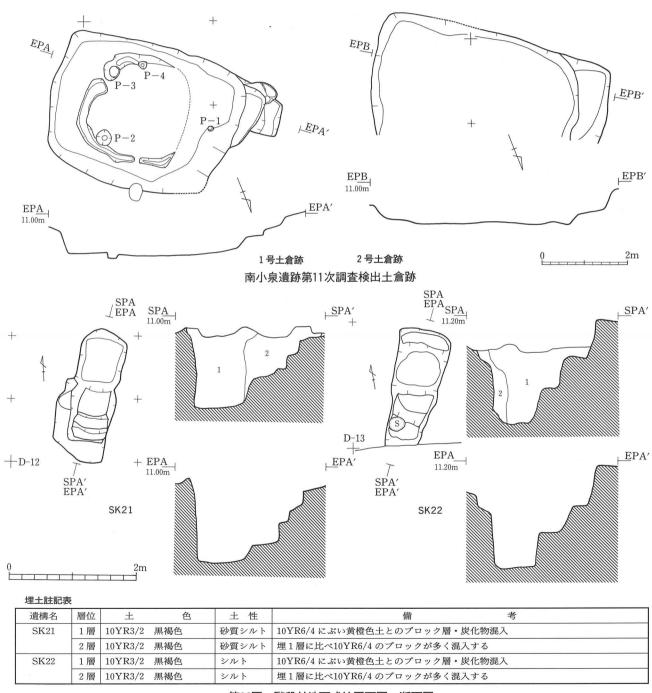
SK	1/			
層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR2/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
2層	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色土ブロック状に混入、焼土 粒炭化物粒子混入
3層	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色土ブロック状に混入
4 層	10YR2/1	黒色	炭集積層	10YR4/2 灰黄褐色土ブロック状に混入、 骨片出土、焼土ブロック状に混入
5層	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	炭化物粒子、焼土粒子混入
SK	19			
1層	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色土とのブロック層、 2.5Y6/6 明黄褐色土ブロック状に混入、骨 片、歯出土
SK	18			
1層	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR6/6 明黄褐色土とのブロック層、10 YR5/2 灰黄褐色土大きなブロック状に混

	SN	24			
7	層位	土	色	土 性	備考
1	1層	10YR3/1	黒褐色	シルト	10YR4/1 褐灰色土プロック状に混入、酸化 鉄斑状に混入
1	2層	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色土ブロック状に混 入、炭化物混入
1	3層	10YR3/2	黒褐色		10YR6/4 にぶい黄橙色土とのブロック層、 底面には10YR3/2 黒褐色土が薄く入る
1	SK	26			
1	1層	10YR2/3	黒褐色	シルト	下層部にかけて10YR5/3 にぶい黄褐色が うすく縞模様に入る
_	2層	10YR2/2	黒褐色	シルト	10YR5/3 にぶい黄褐色土斑状に混入
1	3層	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色土プロック状に混入
	SK	28			
7	1層	10YR2/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色土プロック状に混入、炭化 物粒子若干混入
	2層	10YR5/6	黄褐色	粘質シルト	10YR2/2 黒褐色ブロック状に混入
_	3層	10YR2/2	黒褐色	粘質シルト	10YR5/6 黄褐色土とのブロック層

 $[SK22 \pm 坑]$  C-13 に位置している。平面形は長方形を呈し、長軸190cm、短軸75cm、深さ110cmを計る。開口部は南を向いており、主軸方向は  $N-20^{\circ}-E$  である。

天井部は確認されず、埋土に天井部の崩落を示すような痕跡は認められなかった。確認面から地下室に向かって、幅45cmの階段が2段構築されている。階段の上面は砂で覆われていた。地下室の平面形は、長軸80×短軸80cmの隅丸方形を呈している。底面は平坦で楕円形を呈し、奥壁はほぼ直立し、側壁はやや内湾して立ち上がっている。

2基の土坑の位置関係は、ほぼ同じ方向を向き、互いの存在を意識して構築されているようであり、規模や形態が類似していることから同時期に構築されたものと考えられる。機能的には、床面積も小さいことから貯蔵施設と考えるよりは、位置や主軸方向などからみて前述の墓壙群 B に伴う遺構で、葬送に関わる施設であった可能性が高い。埋土の状況などから、掘り直しが行なわれていることも考えられる。

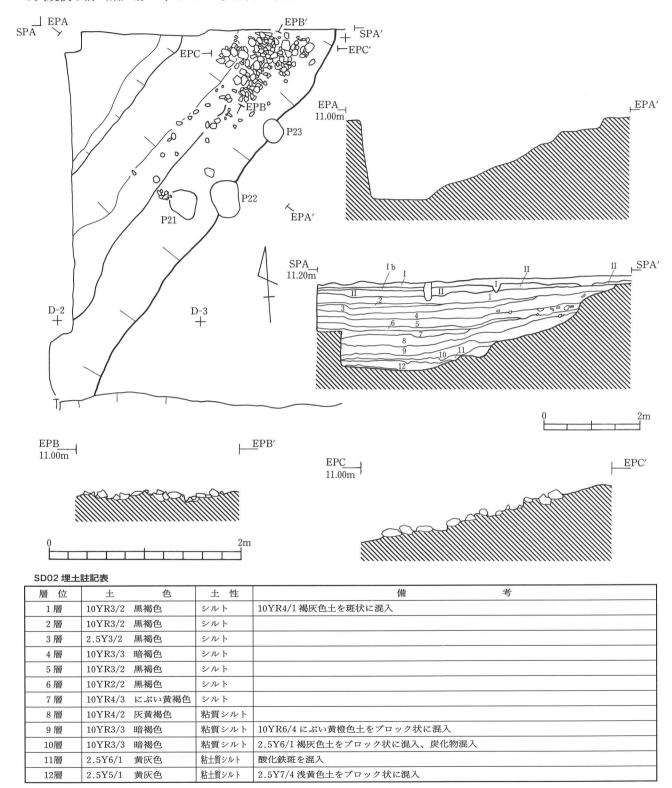


第86図 階段付地下式坑平面図·断面図

# 4溝 跡

#### SDO2 溝跡 (第87~89図)

III区( $B \cdot C - 2 \cdot 3$ )に位置している。 $SB01 \cdot SI03 \cdot 04$ を切っている。調査区に東辺側の一部が検出されたのみで、全体の規模は不明である。検出面での規模は幅4m以上、深さ1.7mである。その規模や特徴から幅10m以上の大規模な溝(堀)跡と考えられる。方向は東壁で $N-40^\circ-E$ である。埋土は12層に分けられ、下層部はグライ化

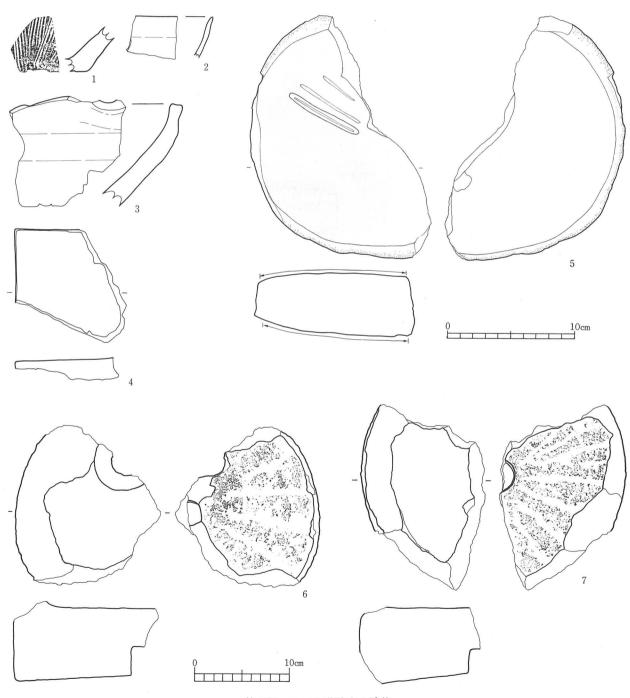


第87図 SD02 溝跡平面図・断面図

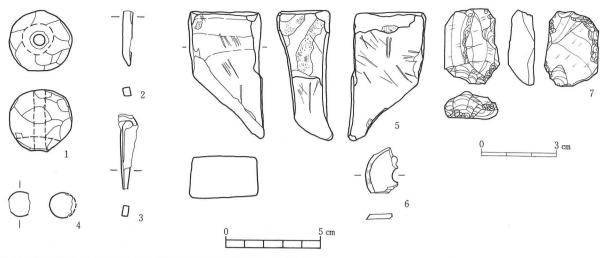
している。底面には鉄分の集積層が認められた。

堆積土より陶器・磁器・瓦・土師器・石臼・礫石器・土製品・石製品・鉄製品・剝片石器・弥生土器などが出土している。第88図1はすり鉢で、17世紀頃と考えられる。3は産地不明の鉢で、13世紀後半から14世紀前半頃と考えられる。2の白磁は17世紀頃と考えられる。第89図7は黒曜石の剝片石器で、一端に急角度の刃部が作出されている。表面の稜がつぶれている。

遺物からみて中世段階で開削されたが、17世紀前半頃には若干グライ化の進んでいる8層上面を底面とするほどに埋まり、浅い流れであったと考えられる。8層上面東壁に沿って検出された集石遺構は、洗い場のような足場固めのための石と思われる。17次調査の成果から、近世初期に中世以来の堀の改変が進行したことがわかっており、現在も使用され西側を南流している「佐久間堀」との関係が考えられる。



第88図 SD02 溝跡出土遺物



番号	地区・層位	種別	器	種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	特	登録	写真
1	SD2 8層	土製品	土玉		32	33	32.5	31.1	孔径 6 mm	P 8	83-22
2	SD2 1~2層	鉄製品	釘		(29)	4	4	1.9	片端欠損	N61a	84-16
3	SD2 1~2層	鉄製品	釘		(40)	3	6	5.9	両端欠損	N61b	84-17
4	SD2 1~2層	鉄製品	弾丸					8.3		N24	84-18
5	SD10	礫石器	砥石		67	37	28.5	79.1		Kd320	83 – 4
6	SD02 埋土	石製品			26.2	15.9	2.5	1.5		Kd186	83-13
7	SD2 3~5層	剝片石器	スクレイバ	<i>ا</i> ب	30.1	21.3	10.8	7.7	黒曜石、表面稜部つぶれ	Ka50	88-10

第89図 SD02·10 溝跡出土遺物

#### SD02 溝跡出土遺物観察表 (第88図)

番号	地区・層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	外 面	内 面	備考	登録	写真
1	埋土上層	陶器	擂鉢					ナデ 5YR4/3 にぶい赤褐色	おろし目 7.5YR5/3 にぶい褐色	常滑	I 23	81-12
2	1層	白磁	碗					7.5Y7/2 灰白色	10Y6/2 オリープ灰色		J 1	81-13
3	集石下	陶器	鉢					ロクロナデ 5YR5/3 にぶい赤褐色	ロクロナデ 7.5YR5/3 にぶい褐色	在地or常滑	I 25	81-14
4	1~5層		瓦					いぶし			H 2	81-15

番号	地区・層位	種別	器	種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(㎜)	重さ(g)	特	登録	写真
5	埋土上層	礫石器	磨石		186	127	51	1780		Kd319	83-1
6	1層	礫石器	石臼				87	2320		Kd318	83 – 2
7		礫石器	石臼				84	2200		Kd317	83 – 3

# ⑤土坑・その他の遺構

#### (a)土坑 (第9·90~92図·第8表)

土坑として登録した遺構のうち、建物跡や墓壙を構成するものを除くと、土坑は21基である。これらは遺構の切り合いなどからほとんどが古代~中世のものと考えられる。ほとんどの土坑は、径1m 前後で平面形は円形を基調としている。その中で、SK23 は規模も大きく、2 基の階段付地下式坑に並列して検出しており、これらの遺構との関係が考えられる。また、SK38 は臼玉の出土状況から古代のものであり、SK35 は形状的には土坑とは別の性格が考えられる。

[SK 2] A-4 に位置し、SB01 (SK3) を切っている。平面形は円形を呈し、長軸85cm、短軸75cm、深さ49cmを計る。断面形は台形を呈している。

[SK 8] C-5 に位置し、SB01 (SK  $6\cdot7$ ) に切られるが、SD4 を切っている。平面形は隅丸方形を呈し、長軸110cm、短軸90cm、深さ31cmを計る。断面形は台形を呈している。

[SK 9] C-4 に位置している。平面形は円形を呈し、長軸67cm、短軸60cm、深さ19cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK12] A-4に位置している。平面形は円形を呈し、長軸58cm、短軸54cm、深さ19cmを計る。断面形は舟底形

を呈している。

[SK13] D-3 に位置している。平面形は円形を呈し、長軸100cm、短軸80cm、深さ18cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK16] B-3に位置している。平面形は円形を呈し、長軸95cm、短軸92cm、深さ12cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK20] B-8に位置している。平面形は円形を呈し、長軸70cm、短軸55cm、深さ7cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK23] C-14 に位置し、南半部分が調査区外にかかっている。平面形は不整円形を呈し、長軸120cm、短軸100 cm以上、深さ148cmを計る。断面形は台形を呈している。

[SK25] B-14 に位置している。平面形は不整形を呈し、長軸110cm、短軸73cm、深さ8 cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK29] C-14 に位置している。平面形は不整な楕円形を呈し、長軸73cm、短軸50cm、深さ27cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK30] C-14 に位置している。平面形は隅丸方形を呈し、長軸90cm、短軸65cm、深さ19cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

[SK31] C-14 に位置しているが、天地返しにより東半部分を失っている。平面形は楕円形を呈していたと考えられる。長軸50cm以上、短軸50cm、深さ12cmを計る。断面形は浅い台形を呈している。

土坑番号	位置	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	形状	切合関係	備考	出土遺物
SK 1	B-4	70×70	-19	隅丸方形		SB01	C•B•E
SK 2	A - 4	85×75	-49.2	円形	SK03 を切る		Е
SK 3	B-4	105×(85)	-48.9	不整形		SB01	C•B
SK 4	B - 5	93×93	-31.9	隅丸方形	P4 に切られる	SB01	C•B
SK 5	C - 4	63×62	-31.3	円 形		SB01	С
SK 6	C - 5	110×105	-44	円形	SK08 を切る	SB01	C•B•E
SK 7	C - 5	98×85	-36	隅丸方形	SK08 を切る	SB01	C•B
SK 8	C - 5	110×90	-31.1	隅丸方形	SD04 を切る		
SK 9	C - 4	67×60	-19.3	円形			
SK10	C - 4	77×68	-32.8	隅丸方形		SB01	С
SK11	C - 4	92×90	-55.1	円 形		SB01	С
SK12	A - 4	58×54	-19	円 形			
SK13	D - 3	100×80	-18	円 形			
SK14	C - 3	95×82	-39.2	円 形		SB01	C•B
SK15	B - 3	$(100) \times 90$	-44	円形	SD06 を切る	SB01	C·B
SK16	B - 3	95×92	-12	円形	P22 に切られる		
SK17	B-9	98×60	-77.2	長 楕 円		中世墓·焼骨·青磁底部(14c)	С
SK18	C - 9	$163 \times 90$	-80.4	隅丸方形		中世墓	
SK19	B - 9	(85)×90	-42.2	隅丸方形	SK18 に切られる	中世墓·骨·歯·六道銭	C•B•E
SK20	B - 8	$70 \times 55$	-7.2	円 形			
SK21	C-12	$217 \times 70$	-134.4	隅丸方形		階段付地下式坑	C•E
SK22	C -13	(176) ×50	-119.3	隅丸方形		階段付地下式坑	C•E
SK23	C -14	120×(100)	-148.1	円 形		井戸?	C•B•E
SK24	B-14	95×63	-50.3	不整形		中世墓•骨•銭	C•E
SK25	B-14	110×73	-7.7	不整形			
SK26	C -14	105×90	-50.1	円 形	SK31 を切る	中世墓•歯	C•E
SK27	C -13	73×40	-21	長楕円	P.114 を切る	SB02	C•E
SK28	C-12	116×105	-114.4	隅丸方形		中世墓・かわらけ(14C 前)	C•E
SK29	C-14	73×50	-27.4	円形			E
SK30	C-14	90×65	-19.1	長楕円	P109 に切られる		
SK31	C-14	300×70	-28.8	不整形	SK26 に切られる		
SK32	D-8	(30) × 40	-10.9	円形			
SK33	A - 9	(95)×65	-24.1	長楕円			E
SK34	D - 4	(73)×90	-51.4	長楕円			
SK35	D-6	$(250) \times (40)$	-3~-5	不 明			
SK36	A – 8	(38)×70	-34	円形			
SK37	D - 2	105×87	-54.5	長 楕 円	SD02 に切られる		
SK38	D-10	$(115) \times (98)$		方 形			E
SK39	B-11	80×65	-18	不整形			E
SK40	B-12	$67 \times 66$	-20.2	円 形			

第8表 土坑集計表

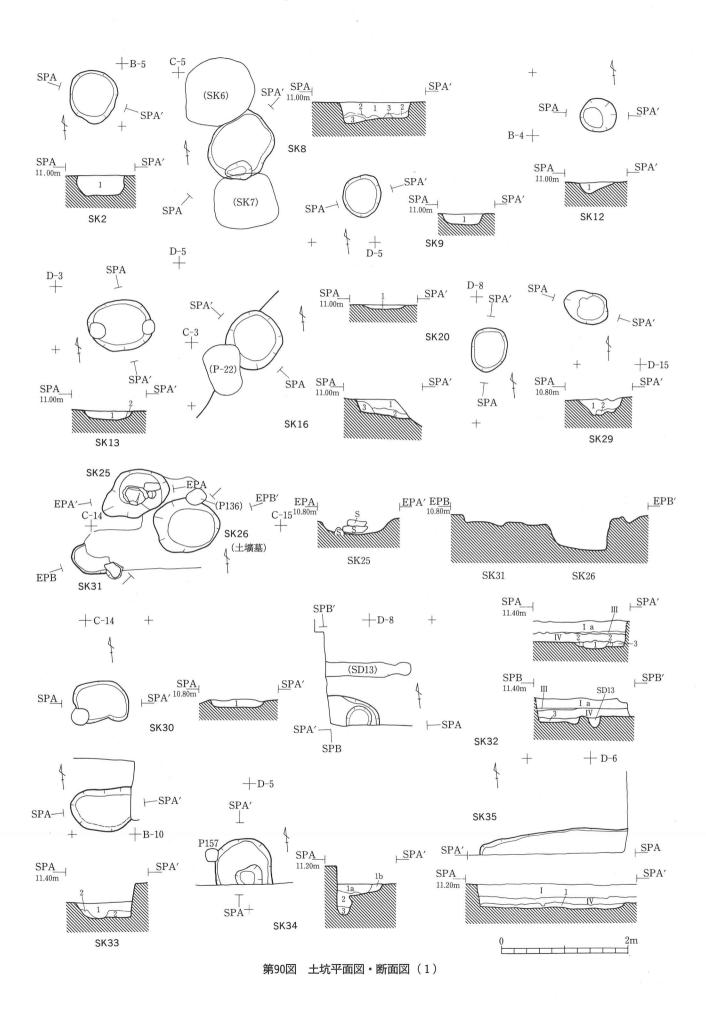
[SK32] D-8 に位置している。プランの大半が調査区外にかかっており平面形は不明である。検出した部分で長軸40cm以上、短軸30cm以上、深さ11cmを計る。

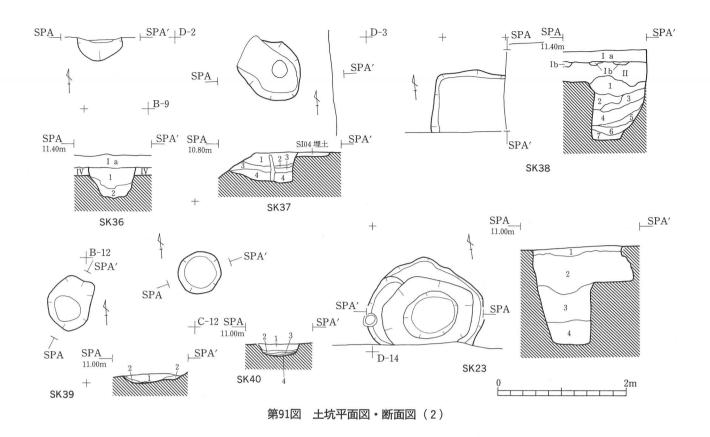
[SK33] A-9 に位置し、東側が調査区外にかかっている。平面形は不整な方形を呈している。長軸95cm以上、短軸65cm、深さ24cmを計る。

[SK34] D-4 に位置し、南側約1/2が調査区外にかかっている。平面形は長楕円形を呈していると考えられる。 長軸73cm以上、短軸90cm、深さ52cmを計る。

SK0	2			SK3	4		
層位	土 色	土性	備考	層位	土 色	土 性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR4/2 暗灰黄色土が混入炭化物粒子若干混入	la 層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物多く混入。2.5Y5/4 黄褐色がブロッ   ク状に混入。
SK0	8			1b 層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色が混入。
層位	土 色	土性	備考	2層	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物多く混入。10YR6/4 にぶい黄橙色王     が斑状に混入。
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト		3層	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	10YR3/1 黒褐色がブロック状に混入。
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色土とのブロック層	SK3	5		
3層	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト		層位	土 色	土 性	備考
SK0	9			1層	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	2.5Y6/1 黄灰色土がブロック状に混入。炭 化物粒子混入。
層位	土 色	土性	備考	SK3	6		
1層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒子若干混入	層位	土 色	土 性	備考
SK1	2			1層	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入。
層位	土 色	土 性	備考	2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	壁際にかけて10YR6/4 にぶい黄橙色土が   プロック状に混入。
1層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	上層部に焼土が小ブロック状に混入、炭化 物混入	SK3	7		
SK1	3	L	17087	層位	土 色	土性	備考
層位	土 色	土 性	備考	1層	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	
1層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色土ブロック状に混入	2層	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	
2層	2.5Y7/1 灰白色	シルト	酸化鉄混入	3層	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	
SK1	6			4層	2.5Y3/2 黑褐色	砂質シルト	
層位	土 色	土 性	備考	SK3	8		
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色土ブロック状に混入	層位	土 色	土 性	備考
2層	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	10YR3/2 黒褐色土ブロック状に混入	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	
3層	10YR5/6 黄褐色	シルト		2層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR6/6 明黄褐色土とのブロック層
SK2	0			3層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR6/6 明黄褐色土とのプロック層
層位	土 色	土性	備考	4層	10YR3/1 黒褐色	シルト	固くしまった層。炭化物粒子が若干混入。
1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色土ブロック状に混入	5層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR6/6 明黄褐色土とのブロック層、砂が ブロック状に混入。
SK29	9			6層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	砂混層
層位	土 色	土 性	備考	7層	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	砂混層
1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色土ブロック状に混入	SK3	9		
2層	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色土斑状に混入	層位	土 色	土性	備考
SK2	5	<u> </u>		1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
層位	土 色	土 性	備考	2層	10YR3/2 暗褐色	シルト	炭化物粒子混入、焼土粒子若干混入
1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒子混入	SK4	0		
SK3	1			層位	土 色	土 性	備考
層位	土 色	土 性	備考	1層	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色土ブロック状に混入、炭化 物粒子混入	2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
SK30			170726.3 1857 \	3層	炭、焼土混合層		
層位	土 色	土 性	備考	4層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/2 灰黄褐色ブロック状に混入	SK2	3		
SK32	2			層位	土 色	土性	備考
層位	土 色	土 性	備考	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色土が斑状に混入。中 央部に炭化物集中。
1層	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物混入	2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10 Y R6/4 にぶい黄橙色土とのブロック層。    炭化物混入。
2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色土混入	3層	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色土との互層・炭化物    混入
3層	10YR3/1 黒褐色	シルト	埋1層に近い	4層	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色土ブロック状に混 入
SK33	3		No.				
層位	土 色	土 性	備考				
1層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR5/3 にぶい黄褐色土が斑状に混入。 炭化物粒子混入。				
2層	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒子若干混入。				
t	A STATE OF THE STA		第9表 十坊	一一一	<b>計記表</b>		

第9表 土坑埋土註記表





[SK35] D-6 に位置している。プランの大半が調査区外にかかっており平面形は不明である。検出した部分で長軸250cm以上、短軸40cm以上、深さ  $3\sim5$  cmを計る。

[SK36] A-8 に位置し、北側約1/2が調査区外にかかっている。平面形は不整な円形を呈していると考えられる。長軸38cm以上、短軸70cm、深さ34cmを計る。

[SK37] D-2 に位置し、西側を SD02 に切られている。平面形は不整な楕円形を呈していると考えられる。長軸105cm以上、短軸87cm、深さ55cmを計る。

[SK38] D-10 に位置している。プランの大半が調査区外にかかっており平面形は方形を基調としていると考えられるが不明である。検出した部分で長軸115cm以上、短軸98cm以上、深さ95cmを計る。

[SK39] B-11 に位置している。平面形は不整な方形を呈し、長軸80cm、短軸65cm、深さ18cmを計る。断面形は 舟底形を呈している。

[SK40] B-12 に位置している。平面形は円形を呈し、長軸67cm、短軸66cm、深さ20cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

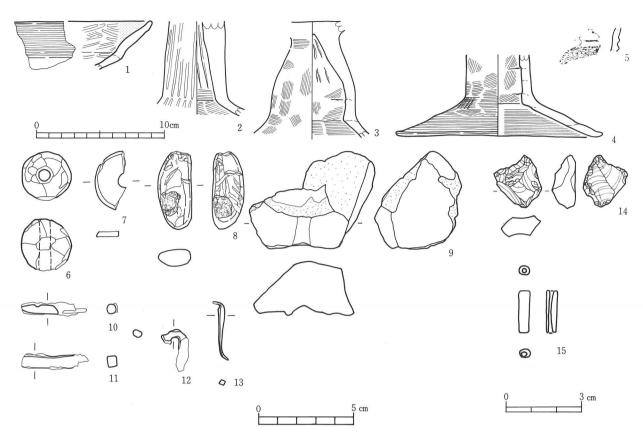
# (b) ピット (第9図・第10・11表)

全域で約160基検出されている。屋敷を区画する SD01 東側 (屋敷跡内) に集中する傾向がみられる。これらの中には柱痕跡をもつものや柱列を構成するものもあることから、屋敷跡に関係する建物跡となることも考えられる。詳細については集計表を参照されたい。

ピット埋土分類 A:10YR2/1 黒色系 B:10YR2/2・10YR2/3 黒褐色(黒色)系

C:10YR3/1·10YR3/2 黒褐色(褐色)系 D:10YR3/3·10YR3/4 暗褐色系

E:10YR4/2·10YR4/3·10YR5/6·10YR4/1·10YR4/6 黄褐色系



土坑・ピット出土遺物

-		Min and a second										
番号	地区・層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	外 面	内面	備考	登録	写真
1	SK01	土師器	坏					ヨコナデ	ヘラミガキ、黒色処理		C634	
2	SK21a 埋土	土師器	高坏二					ヘラミガキ	ナデ		C689	
3	SK04 埋土	土師器	高坏				1/2	ナデ	ナデ		C640	
4	SK17 埋土	土師器	高坏		16.2		1/2	ナデ、ハケメ→ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ		C664	79-7
5	ピット18	須恵器						隆線、波状文	ロクロナデ		E 93	

番号	地区・層位	種 別	器 種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(㎜)	重さ(g)	特	登録	写真
6	SK21b	土製品	土玉	26	26	27.5	15.4	孔径6.0mm	P 7	83-21
7	SK19	石製模造品	円板B	31.3	16.6	3.0	2.1		Kd157	83-11
8	SK21b	石製品		41.7	17.0	9.8	8.3		Kd206	83-14
9	SK28	礫石器	砥石?	58	50	44	23.5		Kd225	82-15
10	SK18	鉄製品	紡錘車?	(35)			4.0	両端欠損、孔径 5 mm	N18	84-11
11	SK22	鉄製品	釘?	34	6	5	3.3	両端欠損	N19	84-12
12	SK23	鉄製品	釘?	(22)	4	5	2.6	両端欠損	N20	84-13
13	ピット127	鉄製品	釘	31	3	2	1.1	ほぼ完形	N28	84-14
14	SK30	剝片石器	両極剝痕跡 をもつ雕剝片	20.3	18.2	7.9	2.4	黒曜石	Ka49	88-9
15	SK38	石製品	管玉	16.5	径大4.4 小4.2		0.5	孔径1.8mm、褐色、両側からの穿孔	Kd286	87-30

第92図 土坑・ピット出土遺物

10 1 17	fit, max	च्या चन्न चार	直動 / 阿勒 / /	₩ ÷ ()	埋 土	切合関係	出土遺物	備考
ピットNa 1	位 置 D-2	平面形  形	長軸×短軸(cm) 27×27	深さ(cm) 10.8	理 B	90 D D IN	<u>п</u> т <u>в</u> т	PHH
2		不整円形	25×24	26.5	В	SK13 を切る	С	柱痕跡有
3	D - 3	方 形	19×18	10.5	C		- Marie Carlotte	
4	D - 3	方 形	20×20	21.5	В	SK13 を切る		
5	D - 3	方 形	30×22	28.0	В			SB04 柱痕跡有
6	D – 4	方 形	30×24	12.6	Е		С	
7	C-3	長方形	35×20	25.0	С		C	CDO! thitte
8	C-3	方 形	30×25 25×18	38.4 35.1	C B		С	SB04         柱痕跡有           SB04         柱痕跡有
9	B-3 $B-4$	方 形	25×18 20×17	24.0	С		С	SD04 1LIREOFH
11	B - 4	隅丸方形	17×16	20.0	C		C	
12	B - 4	方 形	19×18	11.3	C		С•В	
13	B - 4	方 形	25×22	22.6	В	SK04 を切る		SB04
14	C - 5	方 形	25×25	38.5	В	SK04 を切る	С	SB04
15	D - 5	円形?	35×33	42.7	С	調査区外にかかる	С	SB04
16	D - 5	円形?	37×25	21.6	С	調査区外にかかる	C	
17	D-5	方形?	29×(15)	46.3	C B	調査区外にかかる	C · E	
18 19	C - 6 C - 5	方 形	23×18 20×20	30.8	С		С	
20	B - 5	円形	20×20 20×18	12.0	С			
21	C - 2	13 /12	70×52	9.2			C · E	
22	C - 3		80×53	11.7			С	
23	B - 3		50×42	14.6			С	
24	B-7	隅丸方形	25×20	18.2	E	SD01 の東壁にかかる	С	
25	D - 3	円形	20×20		D		С	Live Die fe
26	E - 3	方 形	30×25	39.5	D	調素であったとっ	С	柱痕跡有
27	E - 3	方形?	30×(22)	38.0	B D	調査区外にかかる	C	
28 29	F-3 $F-3$	方 形	30×23 33×27	43.7 33.1	D		C	
30	F - 3	方 形	30×28	8.1	E			
31	G - 3		33×25	10.0	D			
32	G - 3		38×30	10.6	D		С	
33	G - 3	方 形	28×25	9.3	E		С	
34	H - 4	方 形	20×20	21.4	D			D. Prilit
35	H-3	円形	18×13	28.0	E			柱痕跡有
36	I - 3	円形	15×10	9.4	E			柱痕跡有
37	I - 3 I - 4	円形	20×20 28×28	39.3	D			1工が成功が日
39	I - 4	方 形	25×20	10.5	D	調査区外にかかる		
40	F-3	円形?	25×18	8.7	E	442227,1444		
41	C - 8	方 形	40×33	29.6	С		С	
42	C - 8	楕円形	35×30	35.0	С		С•Е	
43	C - 8	方 形	33×30	22.2	С	1.774.74	C · B	
44	C - 8	不整形	45×33	25.0	С		C	
45	C - 8	方 形	32×28	19.8	С		С	
46	B - 8	方 形	38×32	23.5	E		C	
47	C-8 $B-8$	方 形 不整円形	33×30 27×27	40.7	D		С	柱痕跡有
49	B - 8	方 形	23×22	27.5	D		С	BALLEY PARTY
50	B - 8		25×23	25.0	С		С	
51	B - 8		21×18	30.7	D		С	
52	B - 8	円形	30×28	30.5	В		C · E	
53	B - 8		23×20	36.2	В	P.52 を切る		
54	B-9		30×21	17.3	В		C	
55	B - 9		23×23	20.7	C		C · E	
56 57	C-9		37×37 24×24	27.3	C		C	
58	C-9	+		38.3	E		C	柱痕跡有
59	C-10			42.3	E		C	柱痕跡有
60		長楕円形	45×35	35.2	В	P.62 を切る	С	
61	C-10			23.7	В	P.62 を切る	С	
62		不整円形	33×(23)	32.9	В	P.60、61に切られる	С	
63	C-10		28×22	42.4	В	P.64 を切る	C·E	
64	C-10		30×(12)	31.2	В	P.63 に切られる	С	
65		隅丸方形	32×26	37.9	B		C	
66	C-10 C-10		+	33.5 19.8	В		C	
68	C -10			29.9	В		С	
69	C - 9	方形		41.3	В	P.70 を切る		
70	C - 9			14.3	В	P.69 に切られる	С	
71	C - 9			20.5	С	P.58 に切られる	С	
72	C - 9		30×25	57.3	С	SD12 を切る		
73	B-9			17.1	С	SD11 を切る	C·E	
74	B - 9			12.2	D		С	
75	C - 9			19.7	C B		C	
76 77	B-10 C-10			26.8 33.3	В		C	
77	C-10 C-11			56.2	В		С	
79		方形?		48.5	В		С	
	J 11	1 12 12 1	1 2122			<i>★</i> ★10= 1.8 1.4		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

第10表 ピット集計観察表(1)

ピットNo	位置	平面形	原 # × 457 # ()	١ ١ ١	Jan . I.		11 1 12 84	
80	C-11	円形	長軸×短軸(cm) 27×25	深さ(cm) 22.3	D E	切合関係	出土遺物 C	横横考
81	C-11	<del></del>	21×19	15.1	В		C	柱痕跡有
82	C-11	円形?	34×27	43.2	C		c	
83	C-11	円形	18×15	18.0	С		С	
84	C-11	円形	17×15	7.8	В			
85	C-11	方 形	30×26	10.7	В		С	柱痕跡有
86	C -12	円 形	26×20	10.1	С			
87	C-12	円 形	30×30	34.5	В		С	
88	C-12	円 形	32×30	30.3	С		С	
89	C-12	方 形	32×30	33.2	D		С	
90	C-13	円形	30×28	16.1	С			
91	C-12	方 形	28×26	22.1	С		С	柱痕跡有
92	C-12	円形	25×25	15.7	D		С	柱痕跡有
93	C-13	円形	25×25	18.5	C	D 00 1 1 1 0 0		
94	C-13 C-13	円形	35×32	54.7	В	P.95 を切る		
96	B-13	方 形	22×20	9.1	B B	P.94 に切られる		
97	B-13	円形	22×18	11.2	В			
98	B-13	方 形	30×22	11.9	C		С	
99	B-13	楕 円	57×40	11.3	C		C · E	SB02 根石
100	C -13	方 形	35×30	41.8	C		C · E	3802   184日
101	C-13	方 形	27×22	20.4	С		С	
102	C -13	方 形	25×25	19.3	C	P.103 を切る	С	
103	C-13	方 形	20×20	17.8	В	P.102 に切られる	С	
104	C-13	方 形	37×30	12.9	В	77.7.1.9	С	
105	B-13	方 形	28×22	23.0	В		С	
106		方 形			D			
107	C-13	円形	22×20	20.8	С			
108	C-14	円形	28×23	19.0	D		С	柱痕跡有
109	C-13	方 形	28×27	35.2	С		С	
110	C-14	円 形	25×25		В		С	根石
111	C-13	方 形	35×30	32.4	С			
112	B-13	方 形	55×35		С		C·E	SB02 根石
113	B-13	方 形	20×16	23.7	В			
114	B-14	方 形	45×38		С		С	SB03 根石
115	B-14	方 形	30×20	24.3	В			
116	B-14	方 形	28×22	61.2	В			
117	B-14	方 形	18×15	6.2	С			
118	B-14	方 形	25×18	21.4	C	P.119、P.120 に切られる		
119	B-14	方 形	30×30	22.3	C	P.118 を切る	C	
120	B-14 B-14	方 形	30×26 50×35	27.9	B B	P.118 を切る	C	ODGG Mark
122	B-14	方 形	20 \ 30		С	P.122 を切る P.121 に切られる	С	SB02 根石
123	B-14	方 形	17×16	17.0	С	F.121 (CA) 21/2	C	
124	B-14	方 形	25×20	30.7	В		C	
125	B-14	方形?	46×(30)	30.7	В	調査区外にかかる	C	SB03 根石
126	C-14	方 形	30×25	37.4	В	Bellerkz\Lec n_n_n	C · E	3503 权相
127	C-14	円形	35×(20)	23.9	C	調査区外にかかる	С	
128	C-14	方 形	30×25	26.6	В	P.129 を切る		
129	C-14	方 形	35×27	32.1	D	P.128 に切られる	С	
130	C-14		45×40	36.8	C	SK26 を切る	С	
131	C-14		25×20	19.2	В		C	
132	C-14		27×25	51.7	В		С	
133	C-12		23×20	13.6	В	SK21B を切る	С	
134	C-12		23×22	23.2	С	SK21B を切る		
135		方 形			D			
136	B-14		28×24	17.9	С	SK2 を切る	С	
137		円形			C		С	
138	C - 8	円形	20×18	26.2	В	SD14 を切る		
139	D-8	方 形	30×27	46.9	В	the Large Ed.	С	
140	D-8	円 形	25×20	22.7	В	調査区外にかかる	С	
141	D~8	不整形	30×28	7.7	С		C	
142		不整方形	36×29	28.5	C	CD14 +.121 +	C·E	
143	C-9 D-9	方 形 円 形	$32 \times 30$ $17 \times 12$	19.9	B C	SD14 を切る	C	
145	D-9		22×21	13.3 22.8	В		C	
146	D - 9	方 形	52×46	25.5	В		C	
147	C - 7		30×25	39.2	В		C	
148	B - 8		25×22	22.7	C		C	
149	B - 7	方 形	60×40	18.4	В		C	
150		方 形	33×25	14.7	В		C	
151		方 形	30×22	30.4	В		C	
152		方 形	24×20	16.3	c		C	
153		方 形	24×20	12.1	В			
154	B-9	(長)方形	32×22	37.1	В			
155	B-6	方 形	$32 \times 30$	10.4	С	SI05 を切る	C • E	
156		円形	37×33	14.8	С	SI05 を切る	С	
157	D-4	方 形	20×20	19.9	D	SI07 を切る	С	
						A		

第11表 ピット集計観察表(2)

#### (4) 遺構外出土遺物 (第93・94図)

遺構検出面までの基本層中や天地返しより土師器・須恵器・礫石器・石製品・鉄製品・土製品・剝片石器・弥生 土器などが出土している。特に、土師器は多量に出土している。

第93図9・10・11は黒曜石の石器である。9は辺縁に急角度の刃部を作出したスクレイパーである。11は微細な 二次加工が施されている。12は石核である。

#### ①**弥生土器** (第95·96図)

基本層や遺構堆積土より弥生土器が出土している。すべて破片資料であり器形復元できたものはないが、口縁部 資料を中心に図化し、器種ごとに分類している。

壷 類(第95図  $1 \sim 13$ )  $1 \cdot 2$  は、平行沈線文が施された胴部破片である。 3 は、内外面ともミガキ調整を施された短頚壷の口縁部破片である。  $4 \cdot 5$  は、口縁部から胴部にかけての破片であり、 4 は、胴部に変形工字文と充塡縄文が施されており、赤色顔料が付着している。  $6 \sim 11$  は胴部破片であり、重四角文( $8 \cdot 10 \cdot 11$ )、渦文( $7 \cdot 12$ )、重三角文(9)などの文様が施されている。 14の底面には織布痕がみられる。

高坏類(第95図15~19) 平行直線文又は、平行直線文+三角文が施され、その間には充塡縄文が施されている。 17の外面には、赤色顔料が付着している。

蓋 類 (第95図20/第96図1・2) 20は、変形工字文に充塡縄文が施されている。1は、連弧文に植物茎回転文が施されている。

深鉢・鉢類(第96図  $3\sim7$ ・  $8\sim11$ )  $3\sim7$  は、平行直線文と植物茎回転文が施された深鉢の口縁部破片で、  $3\sim5$  は同一個体のものと思われる。 8 は高坏の可能性もある。  $9\sim11$  は鉢の口縁部破片であり、  $8\cdot9$  は、平行直線文と三角文の組合せで充塡縄文が施されている。 10 は、四角文に植物茎回転文が施されている。

甕 類(第96図12~18) 12~14は、胴部と口縁部の境に刺突文が施されている。18は深鉢の可能性も考えられるが、連続山形文が施され、内外面に炭化物が付着している。

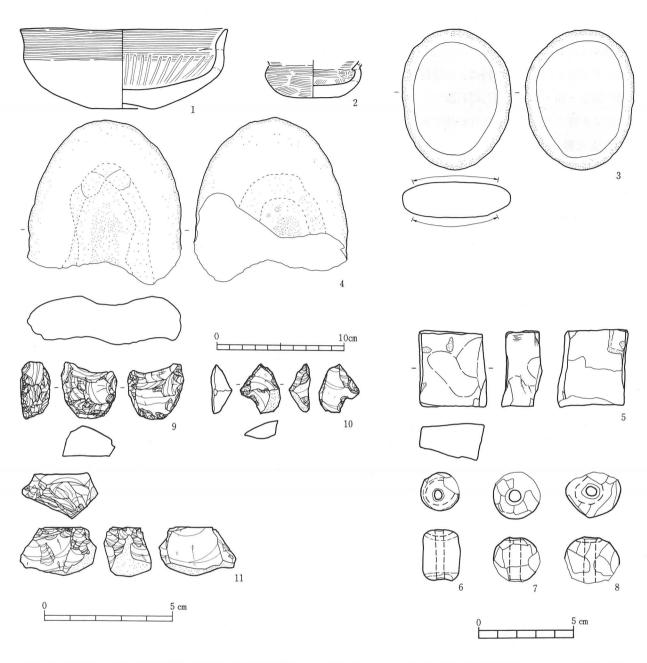
器種不明 (第96図19~21)

遺物の所属時期 第95図 1・2 は、半裁竹管状の工具による沈線文が描かれており、十三塚式にあたると考えられる。それ以外の土器は従来より南小泉遺跡で出土している土器や、中在家南遺跡の主体を占める土器に類似しており、桝形囲式にあたると考えられる。

#### ②弥生時代の石器

基本層や遺構堆積土より剝片石器などが出土している。土師器以外の土器が弥生土器、そのなかでも桝形囲式が主体を占めているため、石器類もほぼ弥生時代桝形囲式に属すると考えられる。第97図 1 は扁平片刃石斧である。剝離により整形した後、敲打は行わず研磨している。 2 はノミ形石斧の刃部片である。  $3\sim 6$  は石鏃である。石鏃の形状は、厚手で、素材の剝離面を残さない  $3\cdot 4$  のようなタイプが多い。また、長さ 1 センチ程度の非常に小さなものもある(写真87-17)。 6 はアメリカ式石鏃である。他に、石錐・不定形石器・石核などがある。

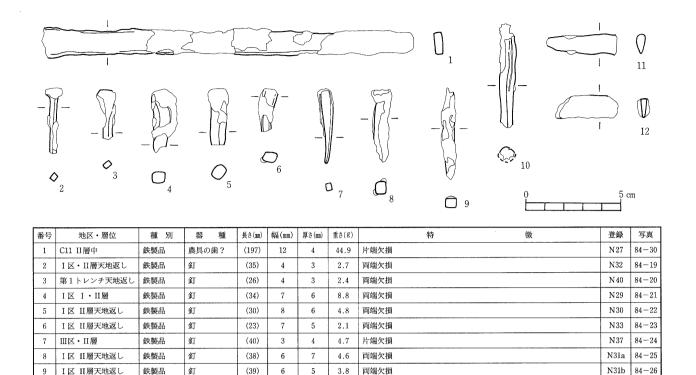
石材は流紋岩が比較的多く、硅質頁岩、玉髄なども見られる。



番号	地区・層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	外	面	内	面	備考	登録	写真
1	D-4 • 5	土師器	坏	16.3	4.8	6.4	2/3	(口)ヨコナデ (体)ヘラミ	ガキ?	ヨコナデ→ヘラミガキ	(放射状)		C798	79-9
2	Ι区	土師器	小形				1	ナデ		ナデ			C789	

番号	地区•層位	種別	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(m)	重さ(g)	特	徵	登録	写真
3	I区・天地返し	礫石器	磨石	109.6	83.8	29.6	410.5			Kd323	83 - 7
4	表土	礫石器	凹石	118	120	46	501.4			Kd322	83 - 6
5	II区・II層	礫石器	砥石	40	35	19.5	32.4			Kd325	83 - 5
6	I区・II層	土製品	土玉	20	20	26.8	11.0	孔径3.5mm		P 9	83-23
7.	III区・天地返し	土製品	土玉	24	24	24	12.9	孔径6.0mm		P13	83-24
8	D8・9・II層下	土製品	土玉	25	29	24.5	11.0	孔径6.0mm		P 15	83-25
9	III区・II層	剝片石器	スクレイパー	21.7	21.8	11.6	7.2	黒曜石		Ka29	88-11
10	I区・II層天地返し	剝片石器	不定形石器	19.1	16.0	7.8	1.6	黒曜石		Ka51	88-12
11	BC7~9 II層下	剝片石器	石核	18.7	30.1	15.2	10.1	黒曜石		Ka66	88-13

第93図 遺構外出土遺物 (1)



第94図 遺構外出土遺物 (2)

6.9

4.3

7.0

両端欠損

両端欠損

両端欠損

#### 石器観察表 (第97図)

10

11

12

III区 天地返し

第1トレンチ天地返し

D10 III層

鉄製品

鉄製品

鉄製品

釘

刀子

刀子?

(55)

(37)

(33)

8

10

12

8

4.5

3

-111	游院祭衣(第9/凶)												
番号	地区・層位	器種	長さ(1	m) 幅(t	m) 厚さ	(m)	重さ(g)	石 材		特	徴	登録	写真
1	SI14 • SK02	磨製石斧	70.1	刃35 基14	·2 8 13	.5	40.4					Ka 7	87 – 7
2	SI06 • 07 埋土上層	ノミ形石斧	26.2	20	9 11	.0	7.7	ハンレイ岩	基部欠損			Ka26	87 – 8
3	SI15 埋土上層	石鏃	27.0	12	1 5.	.2	1.1					Ka 8	87 – 9
4	SI11 埋土	石鏃	25.6	11	8 6.	.2	1.4					Ka 5	87-10
5	II区 II層	石鏃	22.9	11	4 3.	.6	0.8	頁岩				Ka24	87-11
6	SI32 埋土	石鏃	33.7	16	7 5.	.0	2.7	頁岩	先端欠損			Ka13	87-12
7	III区 II層	石錐	33.0	7.	5.	.7	1.5	頁岩	基部欠損			Ka25	87-18
8	SD02	石錐	26.3	9.	3 5.	.2	2.0	玉髄				Ka21	87-19
9	SK38	石錐	31.3	21	6 6.	.3	2.9	流紋岩	先端欠損			Ka18	87-20
10	D4·5 II層	石匙	73.8	54	1 10	.4	33.3	頁岩				Ka31	87-21
11	SK35 埋土	石錐	24.7	21	1 9.	.1	4.0	玉髄			 	Ka17	87-23
12	SK34	不定形石器	54.8	30	1 10	.1	19.5	頁岩				Ka16	87-22
13	SK08	不定形石器	25.5	19	0 6.	.3	2.9	頁岩				Ka15	87-24
14	SI14 埋土上面	不定形石器	28.5	34	4 11	.6	8.1	流紋岩	ノッチ			Ka35	87-26
15	III区III層	不定形石器	25.2	33	7 17	.0	13.1	頁岩				Ka38	87-27
番号	地区・層位	種別	器	種長さ	m) 幅(	mm)	厚さ(1001)	重さ(g)		————— 特	徴	登録	写真
16	B・C5 III層	石核	32.0	55	0 38	.7	48.2	流紋岩			 ALL ALL OWNERS	Ka42	87-28

N38

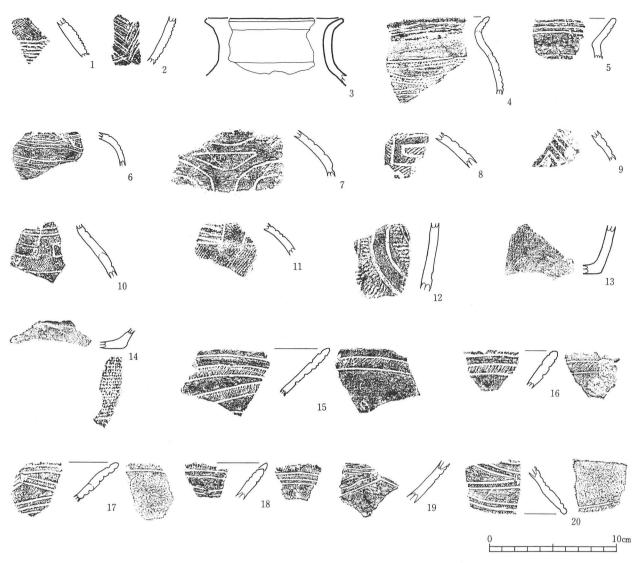
N65

N41

84-27

84-28

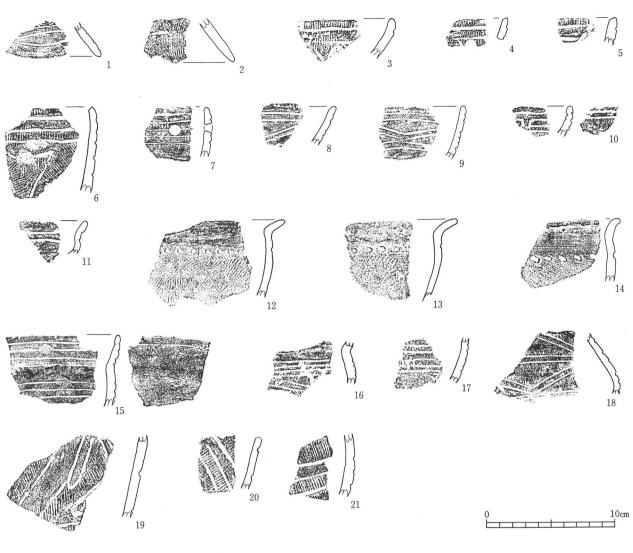
84-29



弥生土器 (1)

为小三	主土器(1)						
番号	地区・層位	器種	外 面	内 面	備考	登録	写真
1	III区・II層	壺?	沈線、ミガキ	ミガキ		B328	86-1
2	SI32 埋土下層	壺?	沈線、ミガキ	?		B79	86-2
3	B・C−4 III層	壺	ヨコナデのちミガキ	ハケメのちミガキ		B251	86-3
4	SI27 床直	壺	沈線、ヘラミガキ、縄文	ミガキ	外面、縄文部に赤色顔料付着、 内外面に炭化物	B111	86-4
5	SI27 床直	壺	沈線、ミガキ	ミガキ、ヘラナデ		B107	86-5
6	SI09	壺	沈線、ミガキ	ナデ		B331	86-6
7	SI01 床直	壺	沈線、ミガキ、縄文	ヘラナデ		B324	86-7
8	SK07	壺	充塡、縄文 LR、沈線、ミガキ	?	外面に炭化物付着	B164	86-8
9	SK22	壺	沈線、ミガキ?	?		B172	86-9
10	SK35	壺	沈線、ミガキ、縄文(充塡)LR	ナデ	外面に赤色顔料付着	B181	86-10
11	SI09 埋土上~中層	壺	沈線、縄文 LR			B329	86-11
12	B-13・14 III層	壺 or 深鉢	ミガキ、沈線、縄文(充塡)LR	ミガキ	内・外面に炭化物付着	B222	86-12
13	B·C-4区 III層	壺 or 甕	縄文 LR(底部?)	ミガキ		B252	86-13
14	SI02 炭集中部	壺 or 甕	ミガキ (底)布目痕(織布痕)	ハク離		B82	86-14
15	SK35 埋土	高坏	白加条縄文(充塡)、ミガキ、沈線	ミガキ、沈線、縄文 LR		B335	86-15
16	SI05 埋土	高坏	縄文 LR、ミガキ、沈線	ミガキ、沈線、縄文 LR		B325	86-16
17	SI05 カマド西、焼土内	高坏	縄文(充塡)LR、沈線、ミガキ(ヨコ)	ミガキ、沈線	外面赤色顔料付着	B36	86-17
18	SI08 床埋土	高坏	植物茎回転文、沈線、ミガキ	ミガキ、沈線		B327	86-18
19	SK30、SK1	高坏	沈線、ミガキ	ミガキ		B75	86-19
20	SI06 • 07 埋土	蓋	ミガキ、沈線、縄文(充塡)LR	ミガキ、沈線		B48	86-20

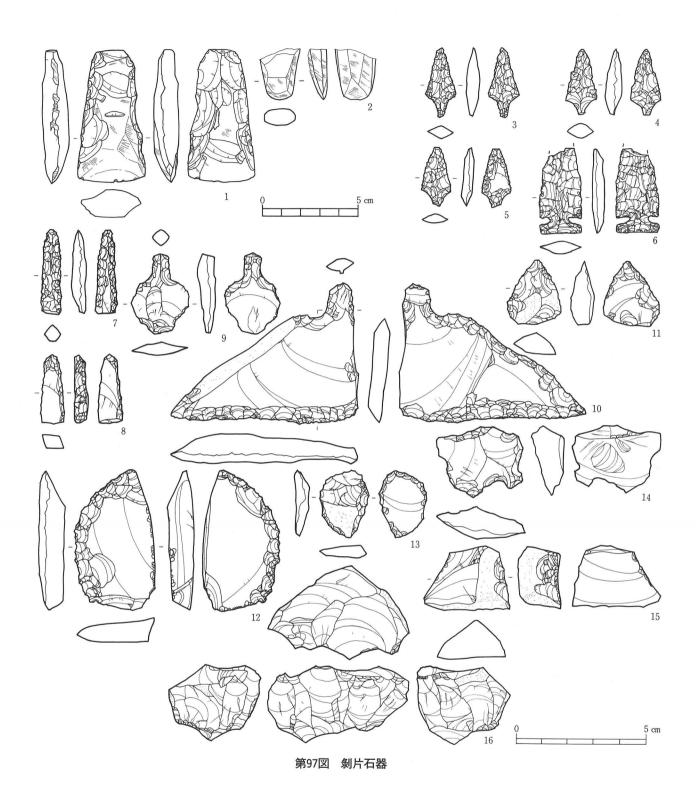
第95図 弥生土器(1)



弥生土器 (2)

番号	地区•層位	器種	外 面	内面	備考	登録	写真
1	B • C−4 • III層	蓋?	ミガキ、沈線、植物茎回転文	ミガキ	352	B254	86-21
2	III区・II層	蓋	縄文	ミガキ		B306	86-22
3	SI05 カマド埋土	深鉢	植物茎回転文、沈線	ヘラナデ、ミガキ		B37a	86-23
4	SI05 カマド埋土	深鉢	植物茎回転文、沈線、刺突文	ナデ		B37b	86-24
5	SI05 カマド埋土	深鉢	植物茎回転文、沈線、ナデ?	ナデ		В37с	86-25
6	SI15 埋土中層	深鉢	植物茎回転文、沈線	ヘラナデのちミガキ		B95	86-26
7	SD01 1層	深鉢	ミガキ、沈線、植物茎回転文、補修孔	ミガキ		B333	86-27
8	SI09 床直	鉢 or 高坏	ミガキ、沈線、縄文 LR(充塡)	ミガキ		B54	86-28
9	SI27	鉢	ミガキ、沈線、縄文 LR	ミガキ		B115	86-29
10	SI09 埋土中層	鉢	ミガキ、植物茎回転文、沈線	ミガキ、沈線		B330	86-30
11	SI09	鉢	ミガキ、沈線、口唇部に縄文	ミガキ		B332	86-31
12	B • C-5 III層	甕	植物茎回転文、ヨコナデ、ミガキ、刺突文	ミガキ	古手?	B268	86-32
13	II区・II層	甕	ヨコナデ、縄文 LR、刺突文	ミガキ	外面炭化物付着	B227	86-33
14	SI29 埋土	甕	ヨコナデ、ハケメ、刺突文	ミガキ		B118	86-34
15	SI33	甕	沈線、ミガキ	ミガキ、沈線		B133	86-35
16	SD02 1 · 2 層	甕	沈線、ミガキ、縄文	ミガキ		B334	87 – 1
17	SI31	甕	ミガキ、沈線、植物茎回転文	ミガキ?	内面炭化物付着	B100	87 – 2
18	SI20、床上~中層	甕 or 深鉢	ミガキ、沈線、縄文 LR(充塡)	ミガキ	内外面炭化物付着	B138	87 – 3
19	SI06 • 07 埋土	不明	ミガキ、沈線、植物茎回転文	ヘラナデのちミガキ	外面炭化物付着	B326	87 – 4
20	II区・II層	不明	植物茎回転文、沈線	ミガキ		B235	87 – 5
21	II区・II層	不明	沈線、植物茎回転文、ミガキ	ミガキ		B72	87 – 6

第96図 弥生土器 (2)



# IV 第31次調査

# 1. 調査の方法と調査経過

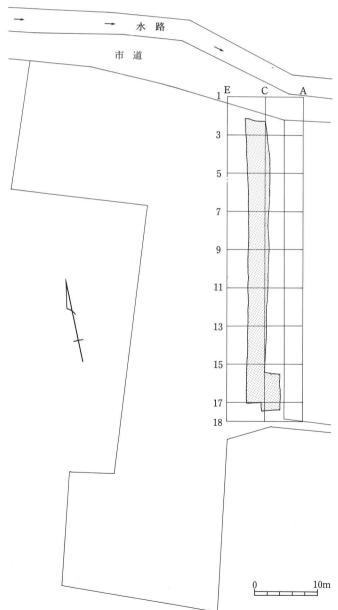
今回の調査地点は、南小泉遺跡の西端部、若林城の北側に位置している。調査区の現状は南西に向かって緩やかな傾斜をもつ標高13m 前後の畑地であり、開発対象面積は約2,130㎡である。このうち現在使われている道路の西側拡幅工事部分約150㎡を調査した(第98図)。

表土の排除は重機によって行い、その後人力により遺構検出作業を行ないながら、一部調査区の拡張を行なっている。

発掘調査は平成8年9月17日に開始され、11月14日に終了した。

# 2. 調査区の設定

対象区は、第98図のように設定した。調査区の北東部を原点として、これから調査区の方向にあわせて基準線を設け、これを元にして調査区内に $3\times3m$  のグリットを設定し、遺構実測を行なったほか、基準線で3m に区画されるグリットを遺構外遺物の取り上げ単位とした。グリット名称は、原点から南に1、2、3 ……、西にA、B、C……



第98図 第31次調査区配置図

とした。南北基準線は、真北に対して  $N-12^\circ-W$  である。

その後基準点測量を委託し、国家座標に位置付けた。

C-6 X = -195776.023 km

Y = 6431.127 km

 $C-18 \quad X = -195811.987 \text{ km}$ 

Y = 6429.015 km

#### 3. 調査の概要

今回の調査区は、南小泉遺跡の西端部で、若林城の 北約300m に位置している。これまでに、南東側で都市 計画道路建設による第22次調査、南西側で第23次調査 が行なわれている(第99図)。

調査区は畑地であったが耕作による影響が比較的少なく、遺構面が良好な形で検出された。しかし、試掘調査時のトレンチにより一部検出面が削平された遺構もある。

検出された遺構は、古墳時代後期~平安時代の竪穴住居跡及び竪穴遺構8軒、溝跡5条、土坑33基、小溝 状遺構群、ピット約180基があった。この他、奈良時代 以降の鍛冶遺構と考えられる竪穴遺構1基、関連する ピット群などが検出されている(第101図)。

遺物は、平箱で約10箱出土している。ほとんどは土 師器の破片であるが、第22次調査と同様に関東系の土 師器がまとまって出土している。

今回の調査は、第22次調査とともに、これまであまり調査の行なわれていない南小泉遺跡の西端部の様相を考えるうえで貴重な成果となった。

# 4. 基本層序

南小泉遺跡の立地する地域は、一般的にはシルト質の土壌が主体をなしている。調査区の現況は畑地であり、 I 層は耕作土、II 層は黒褐色土、III 層上面が遺構検出面である(第100図)。 I ~III 層は調査区全域に共通した層序である。調査区断面の観察によれば、小溝状遺構群やピットの多くはIII 層を切って堀込まれている。

下層については、調査区を設定しての掘り下げは行なわずSD03の壁面での観察によった。にぶい黄褐色〜にぶい黄橙色のシルト層と砂質シルトが互層になって連続している。遺構検出面下1.4m (標高11.4m) となるSD03の底面に礫面がみられたが、これが礫層面としてとらえられるものかは不明である。

第 I 層: 層厚20~25cm 耕作土。5Y3/1 オリーブ黒色

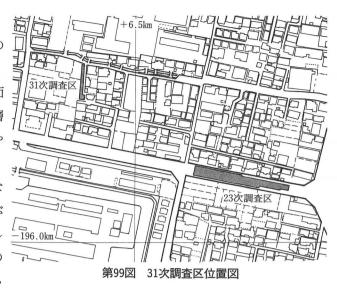
第II層:層厚10~15cm 2.5Y3/2 黒褐色

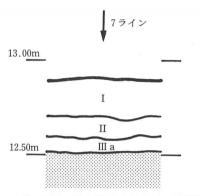
第III層:層厚 5  $\sim$ 10cm 10YR3/1黒褐色 部分的に10YR3/3暗褐

色土を含む。遺構検出面。

# 5. 発見された遺構と出土遺物

調査区北側をI区、中央部をⅡ区、南側をⅢ区として調査に入った。特にI区からⅢ区にかけて遺構が集中しており、南に行くに従って遺構の密度は低くなる傾向がみられた。また、耕作等の影響も少なく比較的良好な遺存状況であった。しかし、調査区の幅が3m前後と狭いため住居跡及び竪穴状遺構については、その一部しか調査できなかった。





第100図 基本層序(7ライン東壁)

#### (1) 古墳時代から平安時代

古墳時代から平安時代に属する遺構としては、竪穴住居跡6軒、竪穴遺構2基、土坑等がある。

# ①竪穴住居跡 · 竪穴遺構

#### SI 02 竪穴住居跡 (第102~105図)

【位置】 I 区南(C-5・6)に位置し、SI07・09・11を切っている。

【平面形・規模】東側の一部を検出したのみで、そのほとんどが調査区外にかかっているが平面形は方形を呈するものと考えられる。規模は、東壁460cm、北壁100cm以上を計る。方向は、東壁で N $-12^\circ$ -E である。

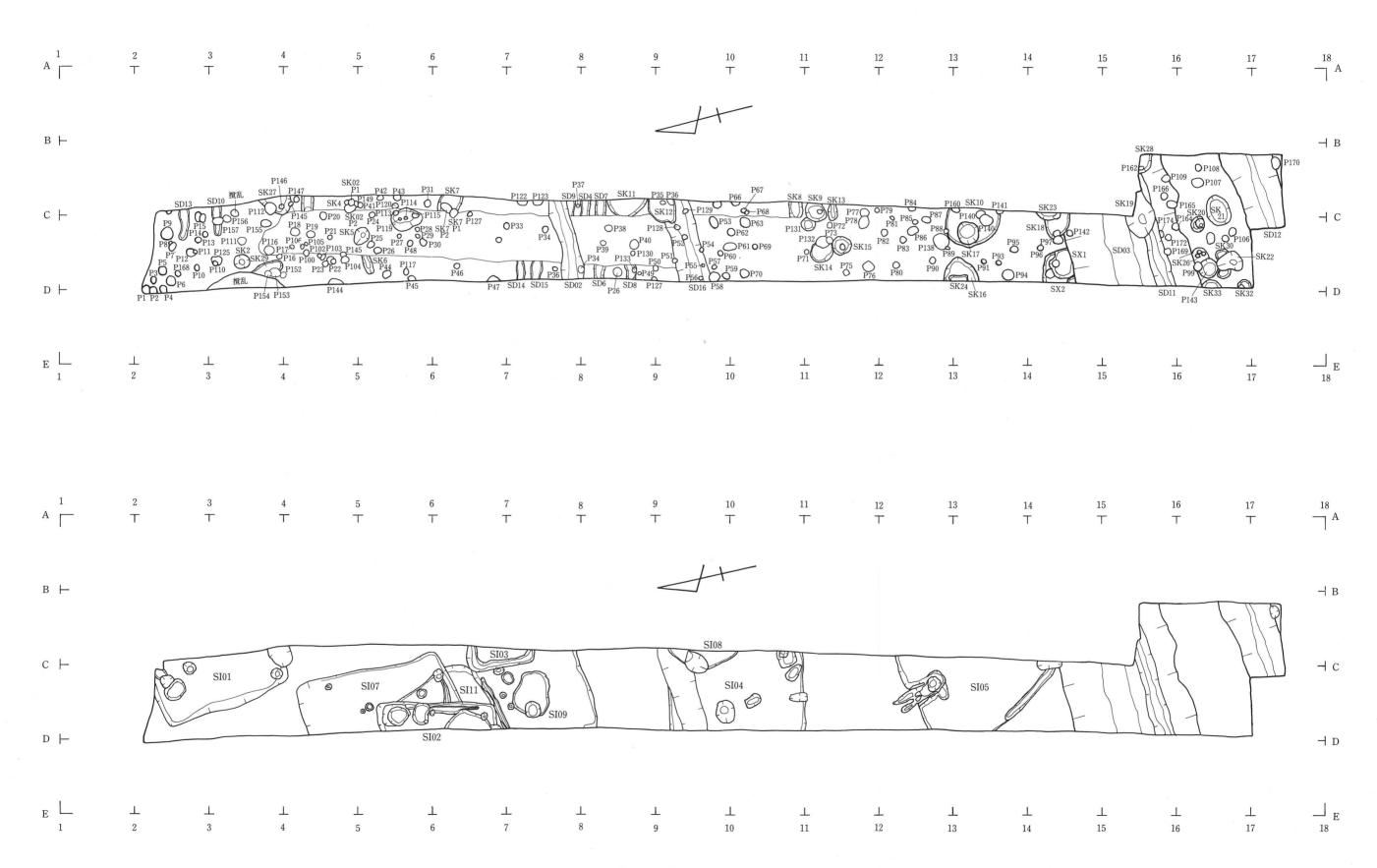
【堆積土】埋土は、6層に分けられた。埋土中3層は、炭化物の集積層となっている。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁30~40cm、東壁10~30cmを計る。

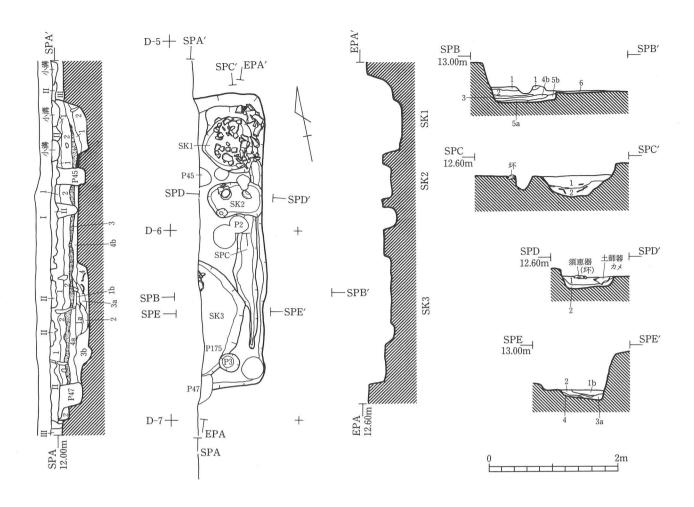
【柱穴・ピット】ピットは1基検出された。

【周溝】周溝は、東壁沿いに検出された。幅8~35cm、深さ3~11cmを計る。

【床面施設】北東のコーナー部で  $SK1 \cdot 2$ 、南西部の調査区壁側で SK3 を検出した。SK1 は、平面形は円形を呈し、大きさは $100 \times 85$ cm、深さは30cmを計る。SK2 は、平面形は隅丸方形を呈し、大きさは $85 \times 55$ cmで、深さは16cmを計り、周溝を切る。SK3 は、西側が調査区外にかかっているが円形を呈するものと考えられる。大きさは、 $185 \times 65$ cm以上である。深さは19cmである。 $SK1 \cdot 2$  からは、須恵器の甕等(第105図)が出土しており貯蔵穴の可能性もある。【カマド】カマドは検出されなかった。



第101図 第31次調査遺構配置図



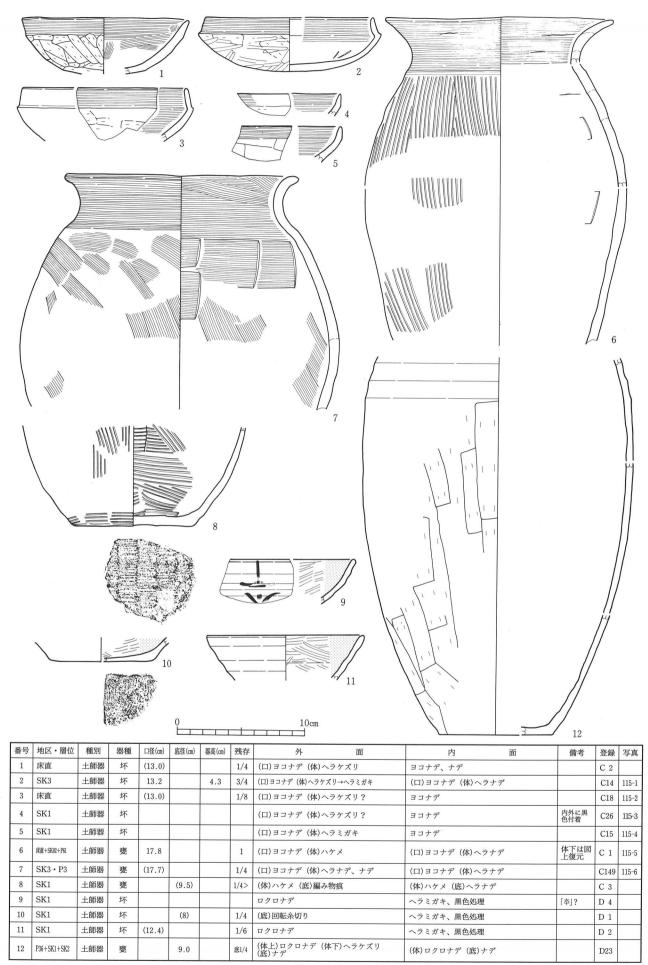
# SI02 埋土註記表

層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR2/2	黒褐色	シルト	炭化物粒混入する
2層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒が多量に混入する、西壁側で10YR5/3 ブロック状に混入する
3層	10YR2/1	黒色	シルト	炭集積層・焼土粒混入する
4 a 層	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入する
4 b 層	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物粒若干混入する
5 a 層	10YR2/3	黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入する
5 b層	10YR2/2	黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入する
6層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒混入する、10YR6/4 が若干混入する

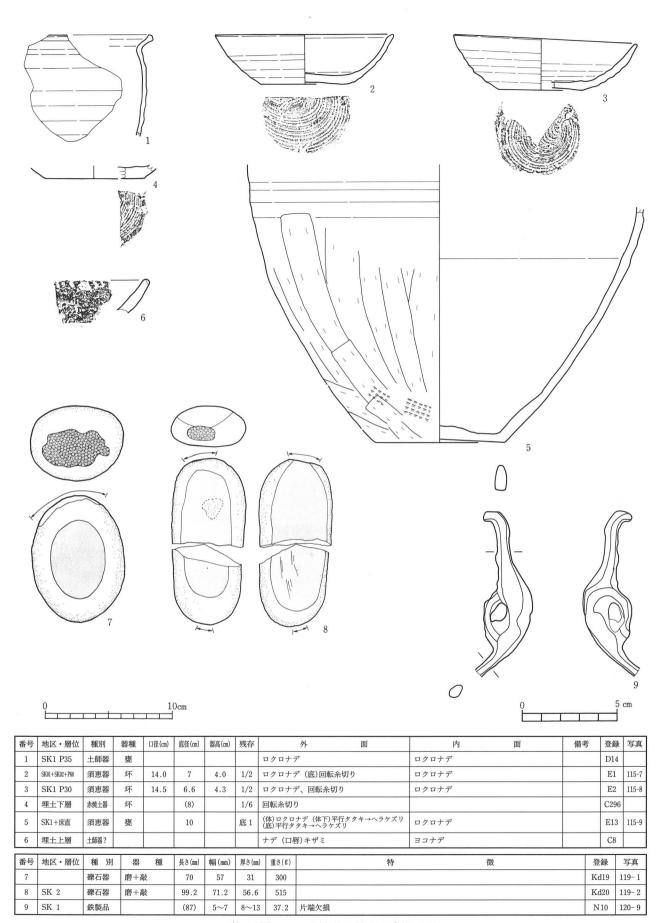
# SI02 床面検出遺構観察表

0102 9	下四快口地	211710001020		1 977 5- 1					
	遺構名	平面形	規模(cm)	深 さ (cm)	層位	土 色	土性	備	考
	SK1	円形	85×80	-30.0	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土・炭混層	
					2層	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒混入	
土坑	SK2	長楕円形	85×50	-16.0	1層	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒混入、	上層に焼土・灰混層
			Vi Vi		2層	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒が若干混層	
	SK3	不整円形	185×(65)	-4.5~-19	1 a 層	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	炭化物粒・焼土粒混入	
					1 b 層	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒混入	
					2層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	li li	
					3 a 層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入	¥
					3 b 層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	10YR3/1 がプロック状	に混入
					4層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、10YR6	4 ブロック状に混入
ピット	P-3	円形	32×28	-17.8	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 ブロック状に	混入、炭化物粒混入

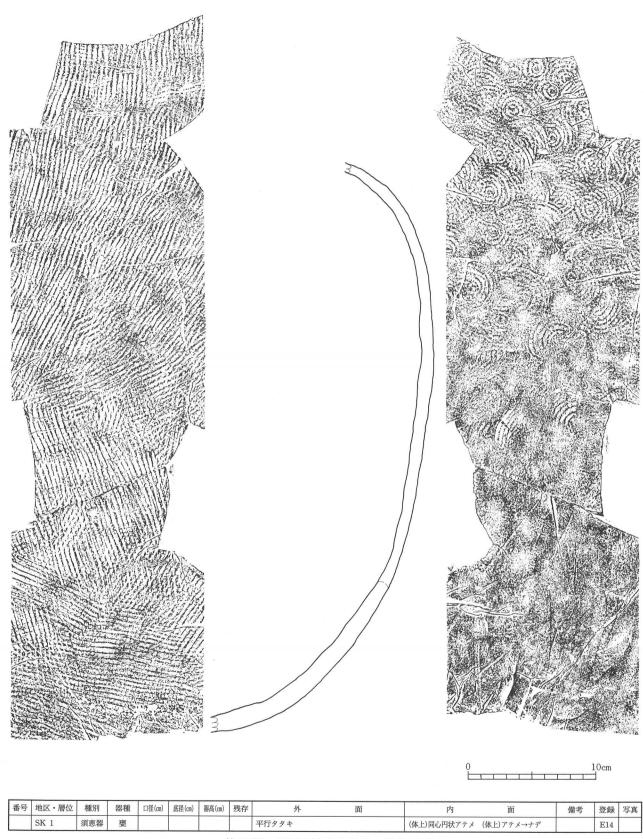
第102図 SIO2 竪穴住居跡平面図・断面図



第103図 SIO2 竪穴住居跡出土遺物(1)



第104図 SIO2 竪穴住居跡出土遺物(2)



第105図 SIO2 竪穴住居跡出土遺物(3)

【出土遺物】堆積土・床面・土坑より土師器(ロクロ・非ロクロ)・須恵器・赤焼土器・礫石器・鉄製品・石製模造品が出土している。第103図 8 は底面に編み物のような圧痕がある。第103図 9 は墨書が認められる。「夲」の可能性がある。第104図 6 は口唇部にキザミが施されている土器片である。第105図は SK1 土坑出土の須恵器甕である。底部から体部上半にかけて約1/5の破片である。

#### SI 07 竪穴住居跡 (第106·107図)

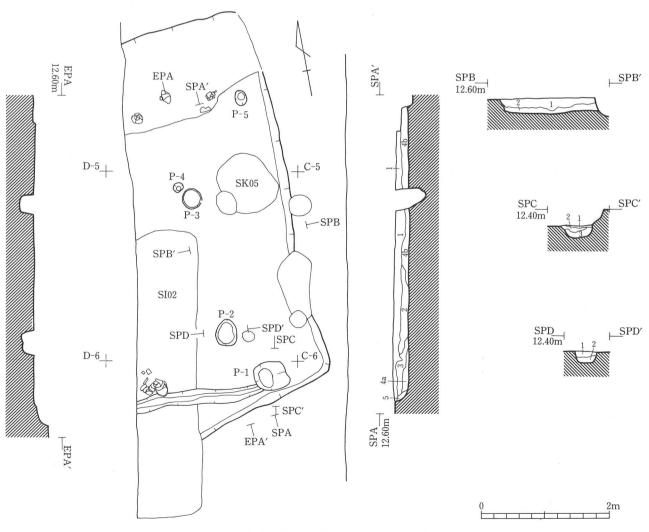
【位置】 I 区中央(C - 4  $\sim$  6 、B - 5  $\cdot$  6 ) に位置している。南西部を SI02 に切られているが、SI11 を切っている。西側が調査区外にかかっている。

【平面形・規模】東側の一部を検出したのみで、北壁ラインは推定である。平面形は方形を呈するものと考えられる。規模は、東壁500cm、南壁240cm以上を計る。方向は、東壁でN-3°-Eである。

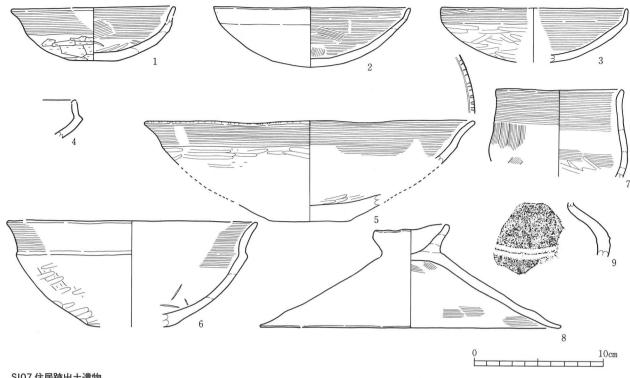
【堆積土】埋土は5層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は、東壁 $13\sim16$ cm、南壁 $10\sim13$ cmである。床面は堅くしまっており平坦である。

【柱穴・ピット】ピットは 5 基検出された。P-2 は、 $43\times33$ cmの不整円形を呈し、検出面では柱痕跡があり、柱穴と考えられる。また、P-3 は、柱痕跡は確認できなかったものの、その位置、大きさ、深さが P-2 とほぼ一致することからこれも柱穴の可能性が考えられる。



第106図 SI07 竪穴住居跡平面図・断面図



# SI07 住居跡出土遺物

番号	地区・層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	外面	内面	備考	登録	写真
1	P 5	土師器	坏	(13.0)	3.6	4.8	口1/4 底1	(口)ヨコナデ (体)ヘラケズリ	(口)ヨコナデ (体)ヘラナデ→ヘラミガキ		C148	115-10
2	P 1	土師器	坏	15.4		4.8	1		ナデ		C145	115-11
3	埋土1層	土師器	坏	(14.6)		4.3	1/4	(口)ヨコナデ (体)ヘラミガキ	ヨコナデ		C164	115-12
4	P 3	土師器	坏					(口)ナデ (体)ヘラケズリ?	ナデ		C151	115-13
5	P3+P4	土師器	坏	(26.0)	(6.4)		口1/4 底1/4>	(口唇)キザミ (口)ヨコナデ (体)ヘラミガキ	(口)ヨコナデ (体)ヘラミガキ	推定復元	C147	116-1
6	P 6	土師器	坏	(19.8)			1/4	(口)ヨコナデ (体)ヘラケズリ→ヘラミガキ	(口)ヨコナデ (体)ヘラナデ		C150	116-2
7	埋土1層	土師器	甕	10.0			1/2	(口)ヨコナデ (体)ヘラナデ	(口)ヨコナデ (体)ナデ→ヘラミガキ	外面に 黒色付着	C168	116-4
8	P 2	土師器	蓋	(23.6)		8.2	1/3		ナデ		C146	116-3
9	埋土下層	須恵器						隆線下に波状文	ロクロナデ	庭?	E48	

# 第107図 SI07 竪穴住居跡出土遺物

# SI07 埋土註記表 (第106図)

	N			
層位	土	色	土 性	備考
1 層	10YR3/3	暗褐色	シルト	
2 層	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3 暗褐色をブロック状に混入
3 層	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3 暗褐色を斑状に混入
4 a 層	10YR3/2	黒褐色	シルト	
4 b層	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/2 灰黄褐色をブロック状に混入
5 層	10YR5/6	黄褐色	シルト	10YR3/2 黒褐色を斑状に混入

# SI07 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土	色	土性	備	考	
	P-1	楕円形	$55 \times 45$	-24.3	1層	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物混入		
					2層	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3 暗褐色をブロッ	ック状に混入	
					3層	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR5/1 褐灰色をブロッ	ック状に混入	
ピット	P-2	楕円形	$43 \times 33$	-18.9	1層	10YR3/1	黒褐色	シルト	10YR6/1 褐灰色をブロッ	ック状に混入	
					2層	10YR6/1	褐灰色	シルト	10YR3/1 黒褐色、10YR6/4 に	ぶい黄橙色を斑状に混力	λ
	P-3	円形	$32 \times 32$	-23.1	1層	10YR3/2	黒褐色	シルト			
	P-4	円形	$18 \times 15$	-17.5	1層	10YR3/2	黒褐色	シルト			
	P-5	楕円形	$25\times20$	-12.0	1層	10YR3/2	黒褐色	シルト			

【周溝】周溝は住居南側で検出されたが、南壁とは方向が異なり、北側へ入りこんでいる。幅は $15\sim25$ cm、深さは $4\sim10$ cmを計る。

【カマド・床面施設】カマド及び床面施設は検出されなかった。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器(非ロクロ)・須恵器・石製模造品が出土している。第107図 1 は、周溝側の 床面で出土した土師器坏である。 2 ・ 8 は、住居北側の床面で出土した土師器坏及び蓋である。

## SI 11 竪穴住居跡 (第108図)

【位置】 I 区南側( $C-5\cdot6$ )に位置している。SI02及びSI07に切られている。西側が調査区外にかかっている。

【平面形・規模】南東コーナー部を検出したのみであるが、その形状から平面形は方形を呈するものと考えられる。規模は、東壁380cm以上、南壁300cm以上を計る。方向は、東壁でN-21°-W である。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

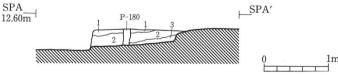
【壁・床面】壁は、なだらかに立ち上がる。残存する壁高は、東壁 $12\sim17$ cm、南壁 $4\sim9$ cmを計る。床面の残りはわるく、北に向かって傾斜している。南側の床面が若干高くなっており、北側床面との比高差は、14cm程ある。床面全域に炭化物が広がっていたことから焼失遺構の可能性もある。

【柱穴・ピット】ピットは検出されなかった。

【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】床面施設は検出されなかった。

【出土遺物】堆積土及び床面から土師器片等が出土 しているが図示できるものはない。



#### SI11 埋土註記表

層位	土	色	土 性	備考
1層	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	
2層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	
3層	2.5YR3/2	黒褐色	シルト	焼土・炭化物混入

## SI03 住居跡出土遺物(第109図)

番号	地区・層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存		外 面		内	面	備考	登録	写真
1	埋土上層	土師器	坏	(14.0)			1/8	(口)ヨコラ	ナデ (体)ヘラミガキ		ヨコナデ			C76	116-5
2	埋土上層	土師器	坏					(口)ヨコッ	ナデ (体)ヘラミガキ		ヨコナデ		内面に 黒色付着	C87	116-6
	W. C. E. W.	66 HI		500	E & ()	±□ ()	百々/	(0)		蜂		<b>徵</b>	3	<b>差録</b>	写真

_			10 10								
番号	地区・層位	種別	器	種	長さ(mn)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	特	登録	写真
3	床直	礫石器	砥石?		73	69	22	90		Kd21	119-3

第108図 SI11 竪穴住居跡平面図・断面図

# SI O3 竪穴住居跡 (第109図)

【位置】II区北側( $B-6\cdot7$ )に位置している。SI09を切っている。 東側の大半が調査区外にかかっている。新旧2時期が考えられる。

【平面形・規模】西側の一部を検出したのみであるが、平面形は方形を呈するものと考えられる。規模は、西壁280cm、北壁110cm以上を計る。 方向は西壁で $N-0^{\circ}-E$ である。

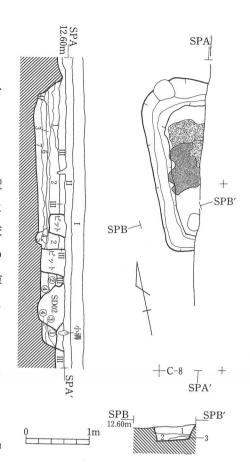
【堆積土】埋土は 5 層に分けられ、古段階の埋土は 2 層に分けられた。 【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は、西壁 8 ~13cm、北壁 20cmを計る。床面の直上に焼土及び炭化物が 5 cm程の厚さにほぼ全面に 堆積していた。このことから焼失住居の可能性も考えられる。SI09 の床 面精査時に SI03 の古段階と考えられるプランが検出された。古段階の住居はほぼ同じ平面形を呈し、新段階の床面下14cmで古段階の床面が検 出されている。西壁沿いで周溝の一部を検出し、長さ140cm、幅16~20cm、深さ 3 ~ 5 cmを計る。

【柱穴・ピット】ピットは検出されなかった。

【周溝】壁面に沿って周回する周溝が検出された。幅は $30\sim34$ cm、深さは $8\sim11$ cmを計る。

【床面施設・カマド】床面施設及びカマドは検出されなかった。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器(非ロクロ)・須恵器・石製模造品が出土している。



# SI03 埋土註記表

	THOTO			
層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR3/2 黒褐	色	シルト	10YR5/6 黄褐色土ブロック状に混入
2層	10YR2/2 黒褐	色	シルト	下層部に炭価物粒・焼土粒混入、10YR5/6 ブロック状に混入
3層	10YR2/1 黒色		炭集積層	焼土ブロック混入
4層	10YR3/2 黒褐	色	シルト	焼土粒混入、10YR5/4 にぶい黄褐色土混入   周溝埋土
5 層	10YR2/3 黒褐	色	シルト	炭化物粒混入
6層	10YR3/2 黒褐	色	シルト	炭化物粒子混入、10YR4/2 灰黄褐色土混入   古階段埋土
7層	10YR2/3 黒褐	色	シルト	炭化物粒子混入

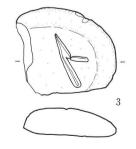
## SI09 埋土註記表

and second to			
層位	土 色	土 性	備考
①層	10YR4/6 褐色	シルト	炭化物粒子がわずかに混入
②層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子がわずかに混入
③層	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物粒子がわずかに混入
④層	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR5/2 灰黄褐色土ブロック状に混入









第109回 SIO3 竪穴住居跡·出土遺物

# SI 09 竪穴住居跡 (第110·111図)

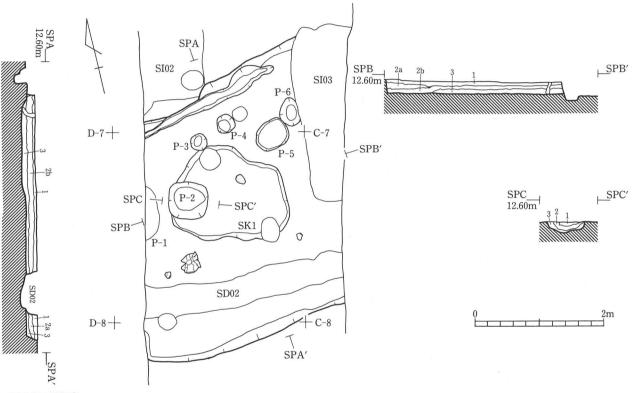
【位置】II区北側(B-7、 $C-6\sim8$ )に位置している。 $SI02 \cdot 03$  及び SD02 に切られる。調査区を横断するように検出され、東側と西側は調査区外にかかっている。

【平面形・規模】東西両端が調査区外に延びるため不明である。規模は北壁270cm以上、調査区西側壁面375cmを計る。方向は、南壁で $N-81^{\circ}-E$ である。

【堆積土】埋土は3層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がっており、残存する壁高は北壁  $9 \sim 16 \text{cm}$ 、南壁 $16 \sim 18 \text{cm}$ である。床面は堅くしまっておりほぼ平坦である。中央部に貼り床が施されていた。

【柱穴・ピット】ピットは6基検出された。そのうちP-1は、調査区壁面での断面観察によってSI09を切る新しいものであることが分かった。他の5基は、SI09に伴うものと考えられるが、掘りこみも浅く、位置的にも柱穴と



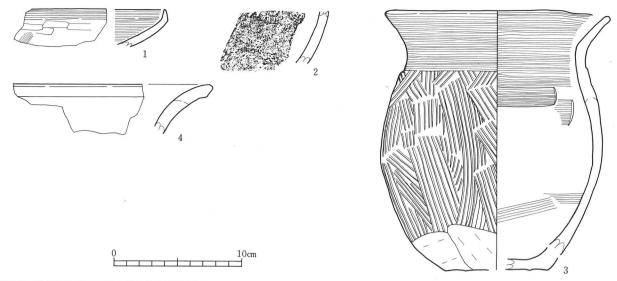
SI09 埋土註記表

3103	7 连上点	エカレイス			
層	位	土	色	土 性	備考
1	層	10YR3/3	暗褐色	シルト	
2 8	a 層	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色斑状に混入
2 1	b 層	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色ブロック状に混入
3	層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒・焼粒粒わずかに混入

## SI09 床面検出遺構観察表

	Note: 15												
	遺構名	平面形	規模(cm)	深 さ (cm)	層位	土 色	土性	備考					
	P- 2	方形	60×60	-20.0	1層	10YR3/2 暗褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色斑状に混入					
					2層	10YR5/1 褐灰色	シルト	10YR3/3 暗褐色ブロック状に混入					
					3層	10YR3/3 暗褐色	シルト						
ピット	P- 3	円形	27×26	-16.1	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト						
	P- 4	不整方形	28×28	-14.2	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト						
	P- 5	不整円形	54×46	- 3.0	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト						
	P- 6	不整円形	46×(30)	- 6.5	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト						
土坑	SK1	不整形	(190) ×150	- 3.5	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト						

第110図 SIO9 竪穴住居跡平面図·断面図



番号 地区・層位 種別 器種 口径(cm) 底径(cm) 哭高(cm) 登録 写真 (口)ヨコナデ (体)ヘラミガキ、ナデ 埋3層 土師器 コフナデ P 2 土師器 (口唇)キザミ C94 P 2 土師器 17.6 (口)ヨコナデ (体)ハケメ (体下)ヘラケズリ (口)ヨコナデ (体)ヨコナデ (体)ヘラナデ C89 116-1 P 2 土師器 甕 ロクロナデ ロクロナデ C98

第111図 SI09 竪穴住居跡出土遺物

認められるものはなかった。P-2は隅丸方形で、大きさは $60 \times 60$ cm、深さは20cmを計る。

【周溝】周溝は北壁沿いで検出された。幅は $5\sim10$ cm、深さは $8\sim15$ cmを計る。

【床面施設】貼り床部分の下に不整形な土坑状の浅い凹みが検出された。P-2 に切られ、大きさは、長軸が約190 cm、短軸が約150cm、深さは  $3\sim 4$  cm程度で、掘り方と考えられる。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器(非ロクロ・ロクロ)・須恵器・鉄滓が出土している。第111図 3 は、床面に 横位で出土したほぼ完形の土師器甕である。

## SI O4 竪穴住居跡 (第112・113図)

【位置】II区中央部(B・C-9・10)に位置しており、SI08 及び SD16 に切られる。

【平面形・規模】調査区を横断するように検出され、東側と西側は調査区外にかかっている。規模は、北壁200cm以上、南壁317cm以上で、調査区西壁面で530cmを計る。方向は、南壁で N-80°-W である。

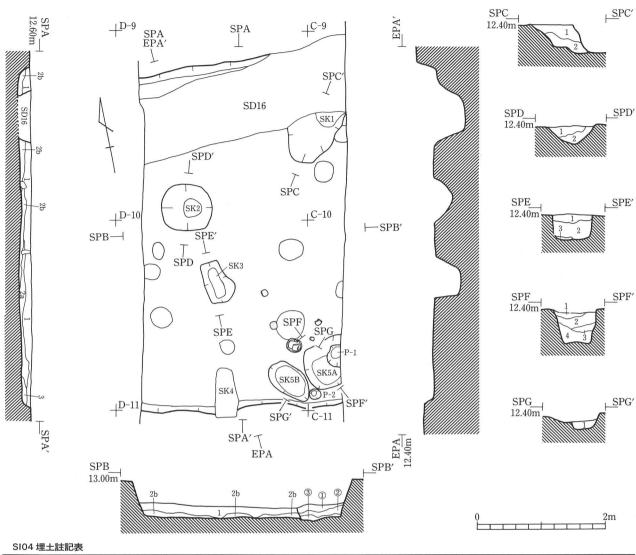
【堆積土】埋土は2層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は、北壁 $16\sim20$ cm、南壁 $11\sim18$ cmである。床面はほぼ平坦で堅くしまっている。中央部には白色粘土の広がりがあった。

【柱穴・ピット】ピットは 2 基検出された。P-1 は、SK5A を切っており、平面形は円形を呈し、 $34\times20$ cm、深さ 26cmを計る。位置的に柱穴の可能性がある。

# 【周溝】周溝は検出されなかった。

【床面施設】5 基の土坑を検出した。このうち SK3 は、この住居を切る新しいものである。SK1 は北側が SD16 に切られており平面形は不明である。大きさは東西が73cm、南北が85cm以上、深さは45cmを計る。SK2 は大きさが80×73cm、深さは30cmを計る。底面に直径30cm程度の窪みが見られた。SK5 は、2 基の土坑の重複であることが分かり、新しいものを SK5A、古いものを SK5B とした。SK5A は大きさが70×57cm以上で、深さ54cm、SK5B は大きさが80×45cm、深さ12cmを計る。SK5A の北側の床面から第113図 5 の土師器甕が出土している。



層位	土	色	土 性	備	考
1 層	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	固くしまった層	
2 a 層	10YR3/2	黒褐色	シルト		
2 b層	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5/4 黄褐色がブロック状に混入	
① 層	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色が斑状に混入	
② 層	10YR3/1	黒褐色	シルト	炭混層、10YR4/3 にぶい黄褐色が若干混入	SI08 埋土
③ 層	10YR3/1	黒褐色	シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色とのブロック層	

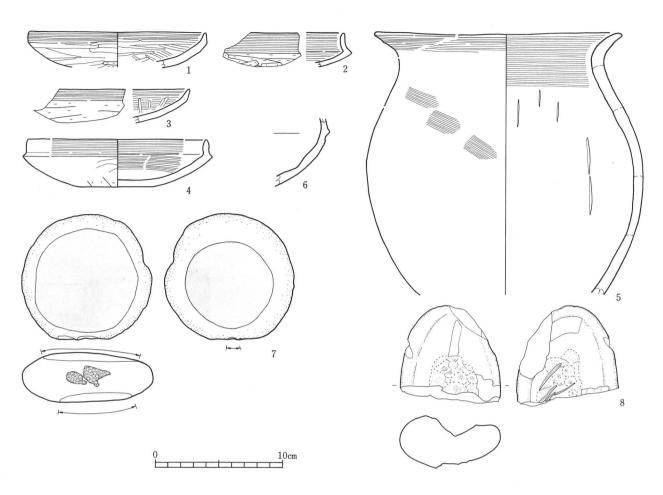
#### SI04 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土	色	土性	備	考
	SK 1	不整形	$(8.5) \times 73$	-45	1層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物混入	
					2層	10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物混入、下層に10YR4/1グライ	(土ブロック状に混入
	SK 2	円形	80×73	-30	1層	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色斑状/	こ混入
					2層	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/1 褐灰色、グライ土、フ	プロック状に混入
	SK 3	不整形	62×45	-42	1層	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5/1 褐灰色、グライ土、フ	プロック状に混入
土坑					2層	10YR3/1	黒褐色	シルト	10YR5/1 褐灰色、グライ土、	ブロック状に混入
	(90)				3層	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト		
	SK5A	方形	70×(57)	-54	1層	10YR2/2	黒褐色	シルト		
					2層	10YR2/2	黒褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色ブロ	ック状に混入
					3層	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト		
					4層	10YR2/2	黒褐色	シルト	10YR5/3 にぶい黄褐色斑状/	こ混入
	SK5B	楕円形	80×45	-12	1層	10YR3/3	黒褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色ブロ	ック状に混入
柱穴	P-1	円形	34×20	-26						
	P-2	円形	18×16	-11						

第112図 SIO4 竪穴住居跡平面図・断面図

【カマド】カマドは検出されなかった。

【出土遺物】堆積土・床面・土坑より土師器(非ロクロ)・須恵器・礫石器・石製模造品・鉄滓が出土している。



番号	地区・層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	外 面	内 面	備考	登録	写真
1	SK5	土師器	坏	(14.0)			1/4	(口)ヨコナデ (体)ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヨコナデ→ヘラミガキ		C119	116-9
2		土師器	坏					(口)ヨコナデ (体)ヘラケズリ	ヨコナデ	内外に黒 色付着	C225	116-8
3	埋土	土師器	坏					(口)ヨコナデ (体)ヘラケズリ	ヨコナデ→ヘラミガキ	内外に黒 色付着	C223	117-1
4	埋土下層	土師器	坏	(14.0)		(3.8)	1/8	(口)ヨコナデ (体)ヘラミガキ、ヘラケズリ	ヨコナデ		C220	117-2
5	P 1	土師器	魏	19.0			1	(口)ヨコナデ (体)ナデ	(口)ヨコナデ (体)ヘラナデ		C184	117-3
6	埋土上層	須恵器						ロクロナデ、隆線	ロクロナデ	瓦泉?	E 40	

番号	地区・層位	種別	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	特	登録	写真
7	床直	礫石器	磨+敲	98.5	102	39.5	585		Kd24	119-4
8	SK1	礫石器	凹石	74	79	39.9	190		Kd23	119-5

第113図 SIO4 竪穴住居跡出土遺物

#### SI 08 竪穴遺構 (第114図)

【位置】II区 (B−9) に位置しており、SI04 を切る。

【平面形・規模】北西のコーナー部を検出したのみで平面形は不明である。規模は、北壁で135 cm以上、西壁で180cm以上を計る。方向は、西壁で  $N-10^\circ$  -E である。

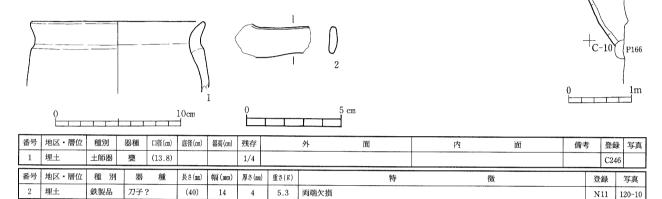
【堆積土】埋土は3層に分けられた(第112図)。

【壁・床面】壁は垂直に立ち上がり、壁高は北壁8~10cm、西壁10~14cmである。

【柱穴・ピット】ピットは検出されなかった。

【周溝・床面施設】周溝、床面施設は検出されなかった。

【出土遺物】堆積土より土師器 (非ロクロ)・鉄製品が少量出土している。



第114図 SI08 竪穴遺構・出土遺物

# SI O5 竪穴住居跡 (第115~117図)

【位置】Ⅲ区北側(B・C-12・13)に位置し、SK23 に切られる。

【平面形・規模】平面形は、方形、若しくは隅丸方形を呈するものと推測されるが、北辺と西辺の方向が鋭角に近いことからカマドの作りかえにともなって改築を行っていることも考えられる。規模は北壁330cm以上、西壁240cm以上を計る。方向は、北壁で $N-76^\circ-E$ 、西壁で $N-37^\circ-E$ である。

【堆積土】埋土は5層に分けられた。

【壁・床面】壁は緩やかに立ち上がっている。残存する壁高は北壁15~20cm、西壁20~22cmを計る。床面は堅くしまっておりほぼ平坦である。

【柱穴・ピット】ピットは検出されなかった。

【周溝】周溝は西壁沿いに検出された。幅は $20\sim30$ cm、深さは $6\sim9$ cmを計る。

【床面施設】床面施設は検出されなかった。

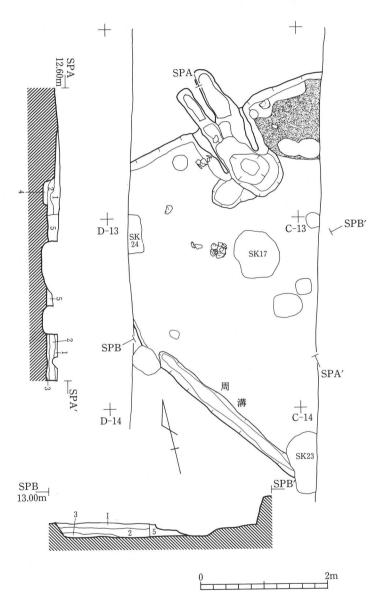
【カマド】北壁のほぼ中央部と考えられる位置で燃焼部と煙道の一部が検出された。煙道部は2本検出され、カマドの作り替えが行われている。2本の煙道の新旧関係については、検出時の状況や方向から見て西側の煙道を作りかえて東側の煙道を作ったものと考えられる。なお、カマド平面図については、調査時の最終段階の図としたことから、新旧関係が逆のかたちになっている。

カマド(新) 天井部はなく、側壁のみ残存している。規模は、長さ145cm、幅100cmを計る。煙道部は長さ85cm、幅35cmを計る。燃焼部の底面に $60 \times 50$ cm、深さ8cm程の不整形の凹みがみられ、底面が若干変色していた。カマド西側に焼土を伴う $50 \times 50$ cm、深さ6cmの土坑状の浅い凹みが検出された。燃焼部手前に、カマドからの焼土を溜めたと思われる不整円形を呈する土坑を検出している。規模は $70 \times 60$ cm、深さ30cmを計り、底面にはピット状の落ち

こみも見られた。焼土を入れた後に暗褐色土を貼って床面としている。また、カマド東側の床面に $100 \times 100$ cmの範囲で焼土・炭化物が広がっていた。カマドのそで付近から第117図 $1 \cdot 6 \cdot 8$ の土師器坏が出土している。

カマド(古) カマド(新)の燃焼部底面から $10\sim15$ cm下で燃焼部の掘りこみが検出され、規模は $150\times70$ cmを計る。側壁等はなく、煙道部は長さ70cm、幅22cmを計る。

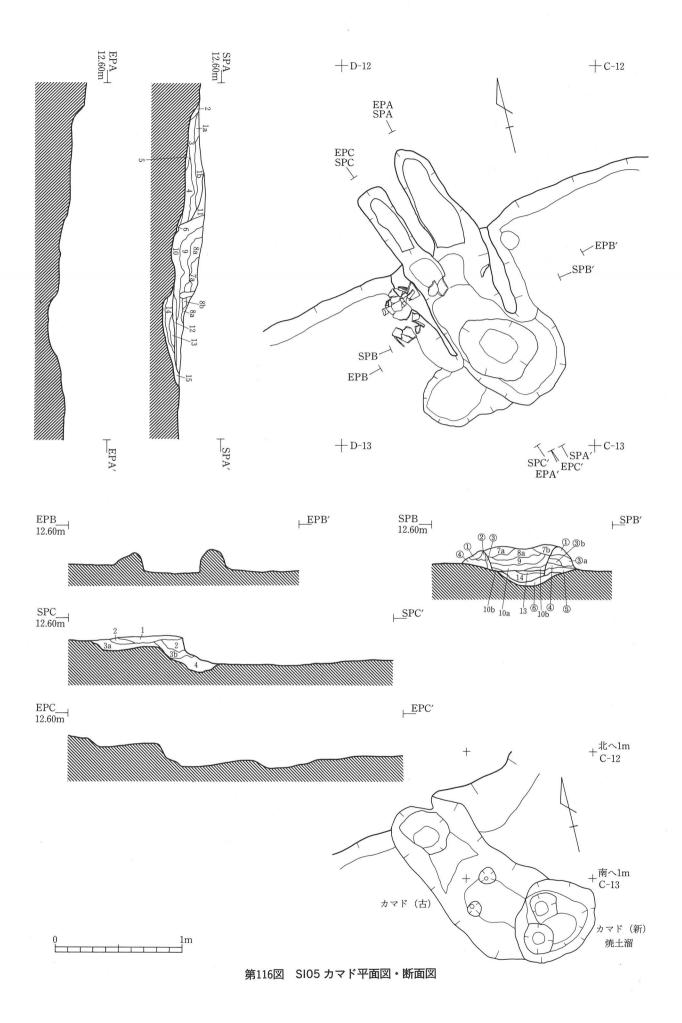
【出土遺物】堆積土・床面・カマドより土師器(非ロクロ)・須恵器が出土している。第117図 1 は内面に黒色の付着物が施された後、放射状にミガキを施している。7 は、住居中央部の床面で出土したほぼ完形の土師器甕である。



#### SI056 埋土註記表

層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR2/3	黒褐色	シルト	焼土、炭化物混入
2層	10YR3/1	黒褐色	シルト	焼土、炭化物混入
3層	2.5Y3/3	黒褐色	シルト	
4 層	10YR2/2	黒褐色	シルト	焼土をブロック状に混入、炭化物混入 (カマド埋土)
5 層	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	マンガン斑混入(別遺構埋土か)

第115図 SI05 竪穴住居跡平面図・断面図

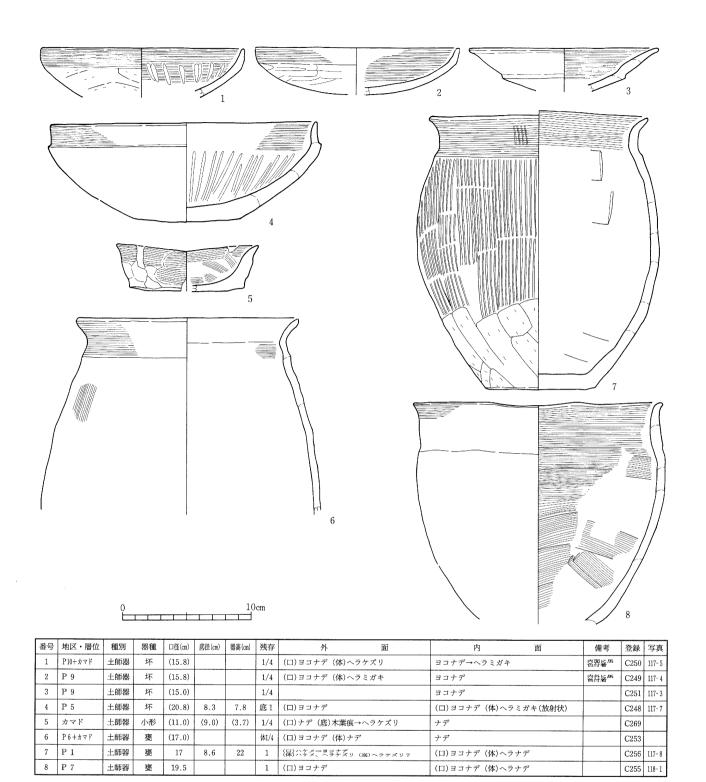


# SI05 カマド(新)埋土註記表(第116図)

	層位	土	色	土 性	備考
`	1 a 層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
	1 b層	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒子混入
	2層	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
煙道部	3層	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	焼土ブロック・炭化物混入
埋土	4層	5YR2/2	黒褐色	シルト	焼土ブロック・炭化物粒混入
	5層	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	
	6層	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	
	7 a 層	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物粒子混入
	7 b層	10YR2/3	黒褐色	シルト	焼土ブロック混入、10YR5/6 黄褐色がブロック状に混入
	8 a 層	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	焼土混入、10YR7/4 にぶい黄橙色混入
	8 b層	5YR3/3	暗赤褐色	焼土層	
燃焼部	9層	7.5YR3/1	黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入
埋土	10a層	7.5YR2/2	黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入
	10 b 層	7.5YR2/2	黒褐色	シルト	炭化物混入
	11層	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	7.5YR2/3 極暗褐色がブロック状に混入
	12層	2.5YR3/4	暗赤褐色	焼土層	
	13層	10YR3/4	暗赤色	焼土層	
焼 土	14層	5YR3/3	暗赤褐色	焼土層	
	15層	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土ブロック混入、下層は火熱により赤変している
	①層	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色がブロック状に混入
	②層	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	
	③ a 層	7.5YR2/2	黒褐色	シルト	焼土・炭化物混入
そで	③ b 層	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	
埋土	④層	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	
	⑤層	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	
	6層	10YR3/3	暗褐色	シルト	焼土がブロック状に混入

# SI05 カマド(古)煙道部埋土註記表(第116図)

層位	土	色	土 性	備考
1層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	
2層	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	2.5Y4/3 オリーブ褐色がブロック状に混入
3 a 層	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒混入
3 b層	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	焼土がブロック状に混入
4層	7.5YR2/3	極暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒混入



第117図 SI05 出土遺物

## (2) 古代

# ①鍛冶遺構

調査区北部(I 区)で鍛冶遺構に関係すると考えられる竪穴遺構 1 基、土坑・ピットが検出された。それぞれ、埋土中から鉄滓・鉄製品などが出土していることから、土壌サンプルを採取して水洗選別を行っている。

#### SI 01 竪穴遺構 (第119図)

【位置】 I 区北側( $C-2\cdot 3$ 、B-2)に位置している。東側が調査区外にかかる。

【平面形・規模】平面形は、方形を呈するものと考えられる。規模は、北壁150cm以上、西壁530cmを計る。方向は西壁で  $N-9^\circ-W$  である。

【堆積土】埋土は4層に分けられた。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存する壁高は北壁28~35cm、西壁27~46cmである。床面はほぼ平坦で堅くしまっている。鉄滓・小鉄片・湯玉などを選別するために、床面を50cmグリッドに区切って土壌サンプル採取を行った(第118図)。その結果、数は多くないが SK1 土坑の東、床面中央西壁側などから小鉄片・鉄滓が出土している。

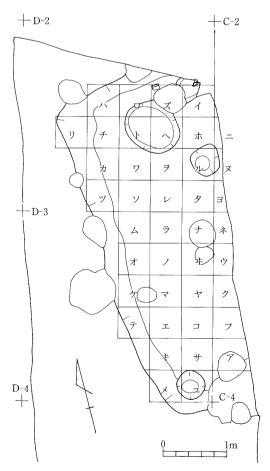
#### 水洗選別遺物集計

小鉄片出土—— $\Gamma$  (1)、  $\pi$  (2)、  $\nu$  (1)、  $\pi$  (2)、  $\pi$  (2)、  $\pi$  (2)、  $\pi$  (2)、  $\pi$  (4)、  $\pi$  (4)、  $\pi$  (4)、  $\pi$  (5)、  $\pi$  (7)、  $\pi$  (8)  $\pi$  (9)、  $\pi$  (1)、  $\pi$  (1)、  $\pi$  (2)

鉄滓出土----ノ・ヤ

( )は出土点数

【柱穴・ピット】ピットは2基検出された。P-1は、平面形が不整形で大きさが45 imes45 imes45cm、深さが40.8cmである。

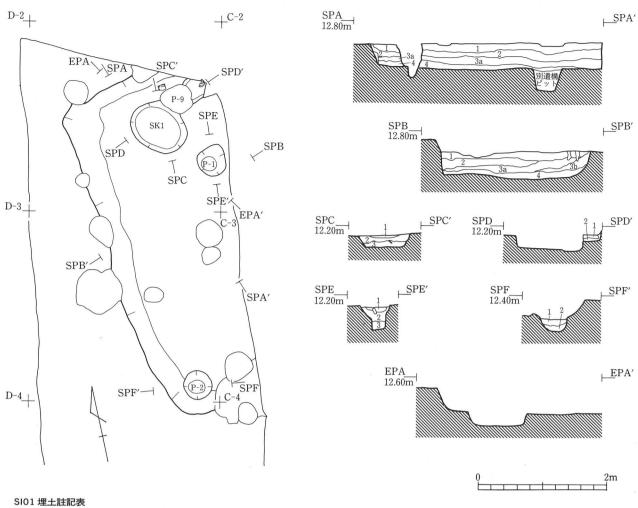


P-2 は、平面形が円形で大きさが $42 \times 42$ cm、深さが26.8cmである。P-1 はその断面の形状から、P-2 はその位置から柱穴である可能性が考えられる。

【床面施設】床面施設としては土坑が2基検出されている。SK1は、平面形が長楕円形で、大きさが92×67cm、深さが21.8cmである。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。埋土は3層に分けられた。底面や壁面が直接熱の影響を受けた様子は見られないが、埋土中に焼土や炭化物が混じっていたこと、SK1の北側の床面から羽口が出土していることから、炉に付随する施設であった可能性がある。SK2は、北東部が調査区外にかかり、さらに西側が後世のピットに切られているため平面形は不明である。大きさは40×25cm以上、深さは15cmである。

【出土遺物】堆積土・床面より土師器(ロクロ・非ロクロ)・須恵器・羽口・鉄製品・鉄滓・石製模造品が出土している。第120図4は、床面出土の羽口で、先端部は溶融によって灰色に変色している。形状は先端がやや細い漏斗状のもので、長さ12cm、先端部内径25mm、吸気部外径7.5cm、内径40mmである。また、同図5・6は、床面から出土した釘・刀子と見られる鉄製品である。

第118図 SIO1 床面土壌サンプル採取グリッド配置図

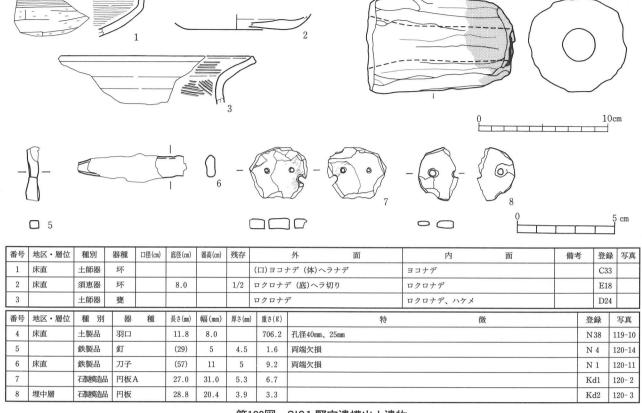


層位	土 色	土性	備考
1層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	10YR5/1 褐灰色を斑状に混入、マンガン斑混入
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
3 a層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色をブロック状に混入
3 b層	10YR2/3 黒褐色	シルト	埋2層に近い色調
4層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/1 褐灰色を斑状に混入、炭化物粒子混入

#### SI01 床面検出遺構観察表

	遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	層位	土 色	土性	備	考
	SK 1	長楕円形	92×62	-21.8	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト		
					2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/3 をブロック状に	昆入、焼土粒を混入
土坑					3層	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土粒、炭化物粒混入	
	SK 2	形不明	$40 \times 25$	-15.0	1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/3 にぶい黄橙色	をブロック状に混入
					2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒混入	
	P-1	円形	$45 \times 45$	-40.8	1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/3 斑状に混入、)	炭化物混入
					2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒混入	
柱穴					3層	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト		
	P-2	円形	$42 \times 42$	-26.8	1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/3 にぶい黄褐色	を斑状に混入
					2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒子混入	

第119図 SIO1 竪穴遺構平面図・断面図



第120図 SI01 竪穴遺構出土遺物

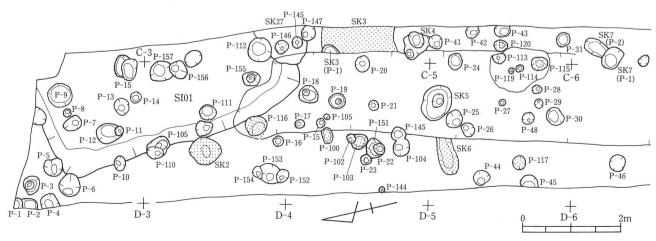
#### 鍛冶遺構関連ピット群 (第121図)

SI01の南側の土坑やピットの埋土から鉄片・鉄滓・鉱滓・鉄製品等が出土している。また、SK3・6、P-22・115・120からは粒状滓(湯玉)が出土している(写真119)。これらの土坑・ピットは、ほぼ200㎝の間隔で検出されていることから、南北3間以上、東西1間以上の建物となる可能性がある。

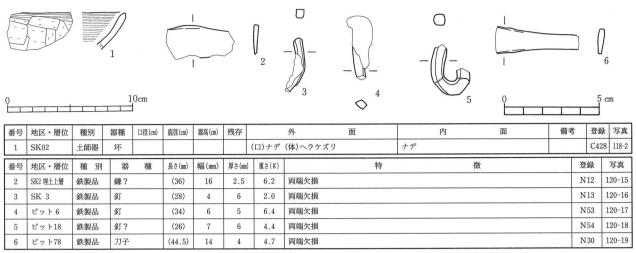
小鉄片・鉄滓・鉱滓出土——SK2 (9)・3 (57)・6 (20)・19・26、P-6・22 (36)・41・75・100・103 (12)・115 (86)・116 (7)・117 (8)・120・146

鉄製品出土———SK2·3·19、P-6·18·78·107

( ) は出土点数



第121図 鍛冶遺構関連ピット群平面図



第122図 鍛冶遺構出土遺物

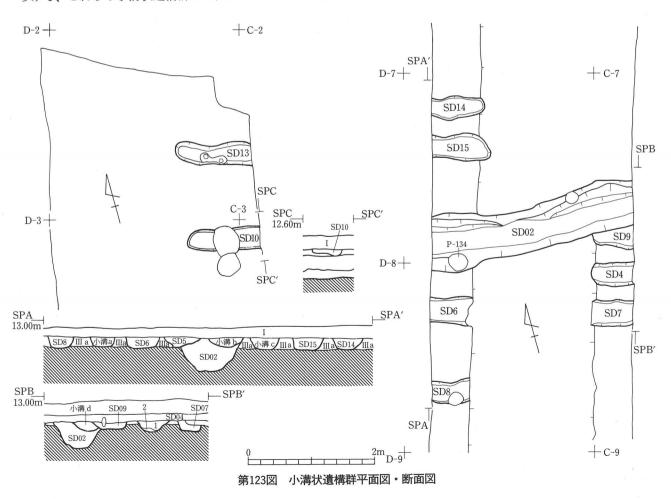
# ②小溝状遺構群(第123図・第12表)

#### I 区小溝状遺構 (SD10・13)

I 区では 2 条の小溝状遺構が検出された。SI01 を切っており、方向は  $N-81^{\circ}-W$  である。幅は約30cmほどで、深さは10cm程である。

# II**区小溝状遺構** (SD4・5・6・7・8・9・14・15)

II区では 8 条の小溝状遺構が検出された。また、調査区壁面で確認されたものも数条ある。 $SD02 \cdot SI09$  を切っている。方向はおおむね  $N-79^\circ-W$  である。また幅は、平均して30cm程で、深さは約20cm程度である。方向や規模からみて、これらの小溝状遺構群は I 区のものを含め同時期のものと考えられる。



遺構番号	位置	長×幅(cm)	深さ(cm)	方 向	切合関係	埋土土色	土 性	しまり	粘 性	備	考	出	土	遺	物
SD04	D-8	(66) × 38	-8.0	N-78°-W		埋 1 層10YR2/2 黒褐色 埋 2 層10YR5/3にぶい黄褐色	シルトシルト	良良	低低			С•Е			
SD05	C - 7	_	_	_	SD02 を切る	10YR2/2 黒褐色	シルト	良	低						
SD06	C - 8	(58) × 40	-2.5	N-72°-W		10YR2/2 黒褐色	シルト	良	低			С			
SD07	B – 8	(64) × 38	-9.0	N-80°-W		10YR2/2 黒褐色	シルト	良	低			С			
SD08	C - 8	$(58) \times 32$	-3.0	N-83°-W		10YR2/2 黒褐色	シルト	良	低			C · E			
SD09	B - 7	(64) × –	-7.1	N-69°-W	SD02 を切る	10YR2/2 黒褐色	シルト	良	低			C · E			
SD10	C – 3	(110) × 32	-6.0	N-81°-W	P.157 に切られる	10YR2/2 黒褐色	シルト	良	低						
SD13	C - 2	(120) ×34	-9.5	N-77°-W		10YR2/2 黒褐色	シルト	良	低			С			
SD14	C - 7	(86) ×34	-3.5	N-78°-W		10YR2/2 黒褐色	シルト	良	低			С			
SD15	C - 7	(94) × 42	-4.8	N-76°-W		10YR2/2 黒褐色	シルト	良	低			С			

第12表 小溝状遺構群集計表

#### (3) 中世~近世

中世〜近世の遺構としては、溝跡・土坑などが検出されている。

#### ①溝 跡

溝跡は5条検出された。5条とも東西方向に検出され、方向はおおむね $N-80\sim90^{\circ}-E$ のなかにおさまっている。 調査区を横断する形になるため、ごく一部しか調査できなかった。

#### SDO2 (第124·126·127図)

II区(B•C-7)に位置する。SI09を切る。方向は N-88°-E である。確認された長さは3.2m、上端幅は約80 cm、下端幅は約35cm、深さは約37cmである。断面形は、U 字型で、底面はやや東に傾斜している。堆積土は 7 層に分けられた。この内、2 層の下部から 3 層上面にかけて灰白色火山灰が混じる。土師器(非ロクロ・ロクロ)・須恵器・鉄製品が出土している(第126図 1・第127図 2)。

#### SD16 (第124·126·127図)

 $II \boxtimes (C-9)$  に位置する。SI04 を切る。方向は、 $N-86^{\circ}-E$  である。確認できた長さは3.2m である。上端幅は約125cm、下端幅は35cm、深さは68cmである。断面形は逆台形で、堆積土は6 層に分けられた。底面にはピット状の落ち込みも見られた。土師器(非ロクロ・ロクロ)・鉄製品・鉄滓・石製模造品が出土している。(第126図10~12、第127図11)

#### SDO3 (第125~127図)

III区  $(B-15, C-15\cdot 16)$  に位置する。SD11 の作り替えの可能性があり、また、SK18・19 に切られ、SK26 を切る。方向は  $N-83^\circ$ —E である。確認された長さは5.75m、上端幅は約4.7m、下端幅は約1.0m で、深さは約1.0m である。断面形は開いた U 字型で南側の開きが大きい。堆積土は13層に分けられた。7 層以下の層では酸化鉄が互層状に堆積し、底面には拳大ほどの礫石が多数あり、礫層面まで掘り込まれた可能性がある。土師器(非ロクロ・ロクロ)須恵器・瓦・土製品・鉄製品・鉄滓・弥生土器・動物の骨片が出土している。(第126図 3 ・ 4 ・ 8 ・ 13、第127図 3)

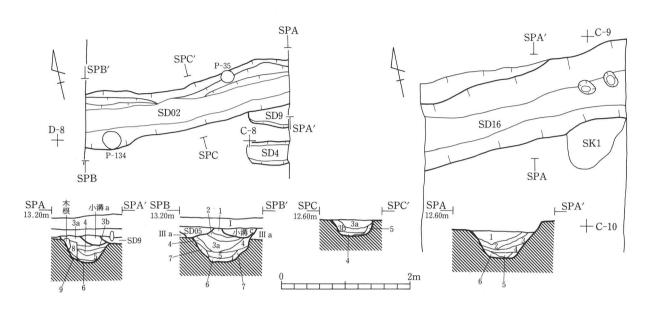
# SD11 (第125図)

III区(B•C-15)に位置する。SD03 の南壁側で切られる。方向は N $-83^\circ$ -E で SD03 とほぼ並行する。確認された長さは4.7m で、上端幅は約70cm、下端幅は約30cm、深さは約30cmである。断面形は逆台形で、堆積土は7 層に分けられた。SD03 の直下に位置することまた、方向がほぼ並行することから SD11 を拡張して SD03 に作り替えたものと考えられる。

## **SD12** (第125~127図)

III区南端( $B-16\cdot 17$ )に位置する。調査区の南端に位置しているため、調査区を  $3\times 1.3$ m 拡張して両端を検出した。方向は、 $N-81^{\circ}-E$  で  $SD03\cdot 11$  などとほぼ並行する。確認できた長さは3.0m、上端幅は約1.8m、下端幅は

約30cm、深さは93cmである。断面形は開いた U 字型で北壁に段がつく。南壁は調査区壁面に接するため完全には掘りきっていないことから、両側に段がつく可能性も考えられる。堆積土は 9 層に分けられた。土師器(非ロクロ・ロクロ)・須恵器・磁器・陶器・瓦・石臼・礫石器・鉄製品・銅製品・石製模造品が出土している(第126図 5  $\sim$  7・9、第127図 5  $\sim$  9)。第126図 6 は在地窯陶器甕の肩部と考えられる。 7 は中国製青白磁梅瓶で、 6・7 共に13世紀代のものと考えられる。



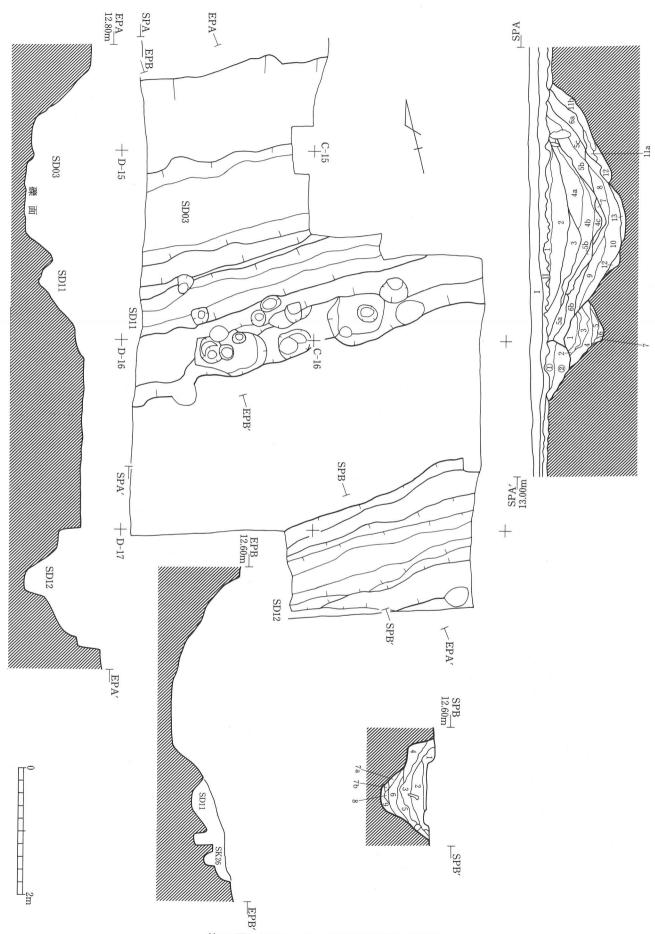
#### SD02 埋土註記表

層位	土	色	土 性	備考
1層	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR1.7/1 黒色土をブロック状に混入
2層	10YR3/1	黒褐色	シルト	下層部に灰白色火山灰が混入
3 a 層	10YR3/1	黒褐色	シルト	10YR4/1 褐灰色土が斑状に混入、上層部に火山灰粒状に混入
3 b層	10YR3/2	黒褐色	シルト	
4層	10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物粒混入、10YR4/3 にぶい黄褐色土ブロック状に混入
5層	10YR2/2	黒褐色	シルト	炭化物粒混入、10YR4/3 にぶい黄褐色土ブロック状に混入
6層	10YR2/2	黒褐色	シルト	10YR4/3 にぶい黄褐色土、10YR4/1 褐灰色土ブロック状に混入
7層	10YR2/2	黒褐色	シルト	10YR4/3 にぶい黄褐色土とのブロック層
8層	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR1.7/1 黒色土ブロック状に混入
9層	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	

## SD16 埋土註記表

層位	土 色	土 性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/1 褐灰色グライ土がブロック状に混入、炭化物混入
2層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR6/3 にぶい黄橙色土が斑状に混入、炭化物混入
3層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR6/3 にぶい黄橙色土とのブロック層、炭化物混入
4層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	10YR6/3 にぶい黄橙色土が混入、炭化物混入
5層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR4/2 灰黄褐色土が混入、炭化物混入
6層	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	10YR6/4 にぶい黄橙色土がブロック状に混入

第124図 SD02·16 溝跡平面図·断面図



第125図 SD03・11・12 溝跡平面図・断面図

#### SD03 埋土註記表

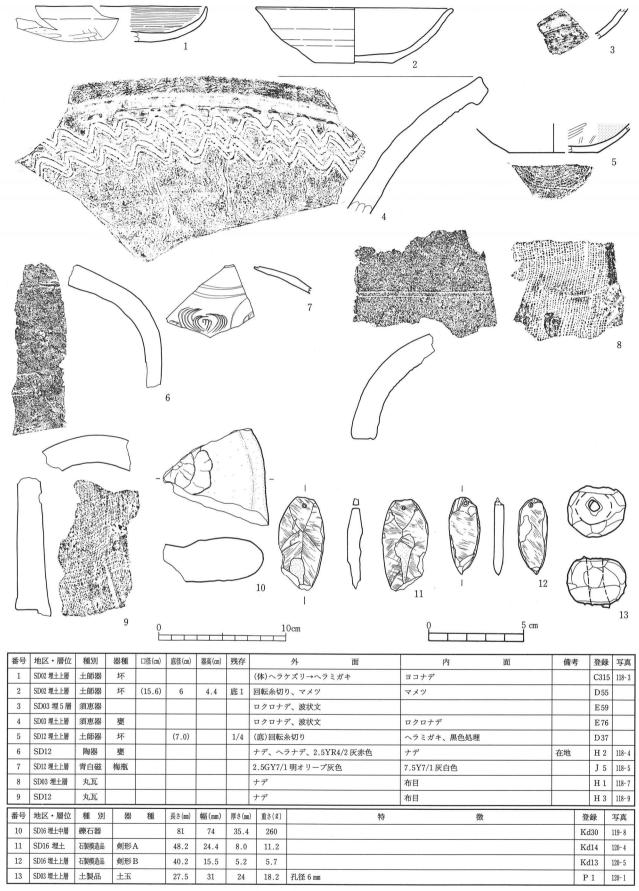
層位	土	色	土 性	備考					
1層	10YR2/3	黒褐色	シルト	炭化物粒子混入、小礫					
2層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物混入、1 cm大の混入					
3層	2.5Y3/1	黒褐色	シルト						
4 a 層	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色土とのブロック層、 1 cm大の小礫混入					
4 b層	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色土ブロック状に混入、1 cm大の小礫混入					
4 c層	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	10YR2/2 黒褐色土ブロック状に混入、炭化物粒子 1 cm大の小礫混入					
5 a 層	10YR4/2	灰黄褐色	シルト						
5 b層	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト						
5 c層	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト						
6 a 層	10YR3/2	黒褐色	シルト	下層部に10YR6/4 にぶい黄橙色土混入					
6 b層	10YR2/3	黒褐色	シルト						
7層	2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	酸化鉄粒斑状に混入					
8層	10YR5/1	褐灰色	粘質シルト	酸化鉄粒斑状に混入					
9層	10YR4/1	褐灰色	粘質シルト	酸化鉄斑状に混入					
10層	10YR5/1	褐灰色	粘質シルト	10YR6/4 砂との互層、酸化鉄粒斑状に混入					
11 a 層	10YR4/4	褐色	砂	10YR5/1 褐灰色土混入					
11 b 層	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂	北壁側に6a 層混入					
12層	10YR4/1	褐灰色	粘質シルト	2.5Y5/2 砂混入、酸化鉄粒斑状に混入					
13層	2.5Y4/1	黄灰色	粘質シルト	酸化鉄粒斑状に混入					
①層	10YR2/2	黒褐色	シルト	別遺構埋土					
②層	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒混入					

# SD11 埋土註記表

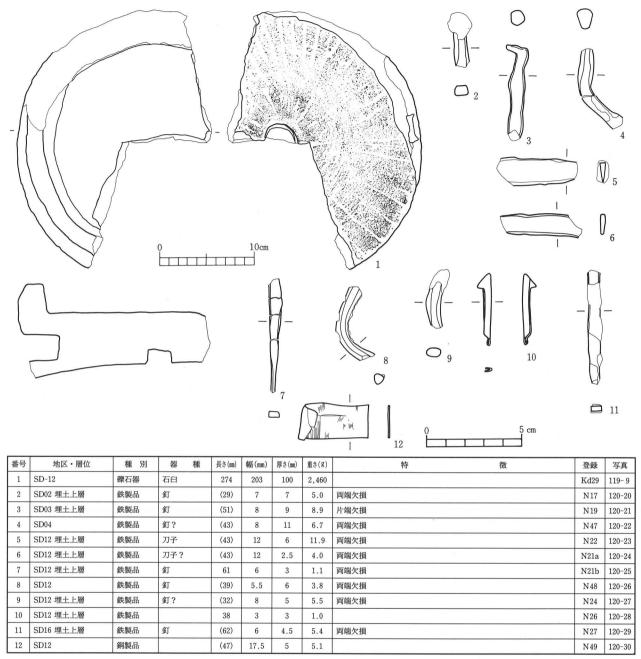
層位	土 台	五 土 性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
2層	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	
3層	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	2.5Y4/1 黄灰色土ブロック状に混入、酸化鉄多量に混入
4層	10YR4/1 褐灰色	シルト	酸化鉄粒斑状に混入
5層	2.5Y3/3 暗オリー	ブ褐色 シルト	2.5Y4/1 黄灰色土ブロック状に混入、2.5Y3/2 砂混入
6層	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	2.5Y5/1 黄灰色土ブロック状に混入、酸化鉄粒斑状に混入
7層	2.5Y3/2 黒褐色	砂	·

# SD12 埋土註記表

層位	土	色	土性	備考
1層	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	
2層	10YR2/2	黒褐色	シルト	炭化物粒混入
3層	10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物粒混入、両壁側に2.5Y3/3砂が混入
4層	2.5Y3/2	黒褐色	砂	
5層	5Y2/2	オリーブ黒色	シルト	5Y4/1 灰色土ブロック状に混入
6層	5Y4/1	灰色	砂質シルト	2.5Y3/2 砂混入、酸化鉄混入
7 a 層	10YR3/3	暗褐色	砂	5Y4/1 砂斑状に混入
7 b層	5Y4/4	暗オリーブ色	砂	
8層	5Y4/1	灰色	砂質シルト	2.5Y3/2 砂混入、酸化鉄混入
9層	7.5Y4/1	灰色	砂	酸化鉄混入



第126図 溝跡出土遺物 (1)



第127図 溝跡出土遺物(2)

#### ②土坑・その他の遺構

## (a) 土坑 (第128・129図・第13表)

 $(SK\ 1)$  C-4 に位置し、西半部は調査区外にかかっている。平面形は長楕円形若しくは、隅丸方形を呈するものと考えられる。長軸は60cm以上、短軸は26cm以上、深さ23cmを計る。断面形は、V字形を呈している。

[SK~2] C-3 に位置している。平面形は長楕円形を呈し、長軸70cm、短軸60cm、深さ51cmを計る。断面形は U 字形である。断面には柱痕跡が見られ、また、埋土より鉄滓が出土していることから鍛冶遺構に関連するものと考えられる。

[SK~4] C-4 に位置し、東半部は調査区外にかかっている。平面形は不整形を呈し、長軸60cm以上、短軸58cm、深さ71cmを計る。

- 〔SK 5〕 C-5 に位置している。平面形は円形を呈し、長軸80cm、短軸60cm、深さ40cmを計る。断面形は、逆台形で、直径約30cmの柱痕跡が見られ、その部分は、底面よりさらに20cm程下がる。
- 〔SK 6〕 C-5 に位置している。平面形は、隅丸方形を呈し、長軸80cm以上、短軸38cm、深さ42cmを計る。断面形は U 字形を呈する。
- 〔SK 8〕 B-11 に位置し、東半部は調査区外にかかっている。平面形は隅丸方形を呈し、長軸60cm以上、短軸50cm、深さ50cmを計る。断面形は逆台形を呈し、北側に段が付く。
- 〔SK 9〕 B-11 に位置し、一部は調査区外にかかっている。平面形は方形を呈し、長軸85cm、短軸75cm、深さ50 cmを計る。断面形は舟底形を呈し、直径20cm程の柱痕跡が見られる。
- 〔SK10〕 C-13 に位置し、SK17 に切られる。東半部は調査区外にかかっている。平面形は円形を呈するものと考えられる。長軸220cm、短軸160cm以上、深さ 7 cmを計る。
- (SK11) B-8に位置し、SK12と小溝に切られるが、SD07を切る。東側1/2が調査区外にかかる。平面形は円形を呈するものと考えられる。長軸156cm、短軸62cm以上、深さ15cmを計る。断面形は、開いた U字形を呈している。
- 〔SK12〕 B-9 に位置している。東半部は調査区外にかかる。平面形は不整形を呈し、長軸110cm以上、短軸84cm、深さ25cmを計る。断面形は箱形を呈し、上部が開いて立ち上がる。
- (SK13) B-11 に位置し、東半部は調査区外にかかる。平面形は不整形を呈し、長軸60cm以上、短軸40cm、深さ20cmを計る。
- (SK14) C-11 に位置し、SK15、ピットに切られる。平面形は楕円形を呈し、長軸80cm、短軸65cm、深さ11cm を計る。断面形は逆台形を呈している。
- 〔SK15〕 C-11 に位置し、SK14 を切る。平面形は不整円形を呈し、長軸75cm、短軸70cm、深さ29cmを計る。断面形は逆台形を呈している。
- (SK16) C-13 に位置し、西半部は調査区外にかかり、SK24 に切られる。平面形は不整形を呈し、長軸135cm、

Conservation 1							T	·		
土坑番号	位置	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)		形状	·	切合関係	備	考	出土遺物
SK01	C – 4	60× 25	-23.2	不	整	形				
SK02	C – 3	70× 60	-51.2	長	楕	円				C・D・鉄滓
SK03	C 4							撹乱をうけている。		
SK04	B-4	60× 50	-71.9	不	整	形	P.149 を切る			C · E
SK05	C - 5	80× 60	-40.2	長	楕	円				C · E
SK06	C - 5	80× 38	-42.3	長	棛	円				C・鉄滓
SK07	欠 番									
SK08	B-11	60× 50	-50.6	不	整	形				C · E
SK09	B - 10	85× 75	-50.8	方		形				C · E
SK10	C-13	220×160	- 7.5	円		形				C
SK11	B-8	156× 62	-15.0	円		形				C
SK12	B-9	110× 84	-25.6	不	整	形			-	С
SK13	B-11	60× 40	-20.2	長	楕	円				С
SK14	C-11	80× 65	-11.7	長	楕	円	P.132、P.73 に切られる SK15			С
SK15	C-11	75× 70	-28.9	円		形	P.73 に一部切られる SK14 を切る			С
SK16	C-13	135× 95	-21.3	不	整	形	SK24 に切られる			С
SK17	C-13	100× 90	-33.7	円		形	SK10 を切る			C·E
SK18	C-14	90× 90	-28.4	不	整	形	P.97、SK23 に切られる			C·E
SK19	B-15	200×120	-40.4	長	楕	円	SD03 を切る			C·E
SK20	C-16	78× 60	-53.9	長	楕	円				C·E
SK21	B-16	125×100	-32.8	長	楕	円				C•E
SK22	C-16	110× 60	-43.2	不	整	形	SK30 を切る			C · E
SK23	B-14	95× 35	-46.2	不	整	形	SK18 を切り P.150 に切られる			С
SK24	C-13	75× 25	-31.2	不	整	形	SK16 を切る			
SK25	欠 番									
SK26	C-16	100× 70	-60.7	不	整	形				C·D·E
SK27	B - 4	125× 84	-41.9	不	整	形	P.112、P.148 に切られる			C·E
SK28	B-15	85× 40	-30.2	不	整	形				C·E
SK29	C - 3	150× 50	-19.7	不	整	形	撹乱、P.154 に切られる			C·E
SK30	C-16	127× 65	-11.0	不	整	形	SK22 に切られる			С
SK31	C-16	75× 45	-26.4	長	楕	円	P.99 に切られる			
SK32	C-16	50× 26	-16.9	円		形				
SK33	C-16	70× 28	-17.8	円		形				

第13表 土坑集計表

短軸95cm以上、深さ21cmを計る。断面計は舟底形を呈する。

〔SK17〕 C−13 に位置し、SK10 を切る。平面形は円形を呈し、長軸100cm、短軸90cm、深さ34cmを計る。断面形は逆台形を呈する。

(SK18) C-14 に位置し、SK23、SD03 を切る。東半部は調査区外にかかる。平面形は長楕円形を呈するものと考えられる。長軸90cm以上、短軸90cm、深さ28cmを計る。断面形は箱形を呈している。

(SK19) B-15 に位置し、SD03 を切っているが、底面に石をおいたピットに切られている。東半部は調査区外にかかる。平面形は長楕円形を呈するものと考えられる。長軸200cm以上、短軸120cm、深さ40cmを計る。断面形は 舟底形を呈しており、東側が緩やかに立ち上がる。埋土は、大別 5 層、細別 8 層に分けられた。このうち、 $1\sim3$  層までは、黒褐色系の土に焼土・炭化物がブロック状又は、粒状に混じり、焼土が層状に堆積している部分 (3b) 層 もあった。 4 層以下は、暗灰色系の埋土である。また、調査中に破損してしまったため図示していないが、埋土中より、古銭「天聖元宝」 1 枚が出土している(写真120-8)。

(SK20) C-16 に位置している。平面形は楕円形を呈し、長軸78cm、短軸60cm、深さ53cmを計る。断面形はV字形を呈している。

〔SK21〕 B-16 に位置している。平面形は楕円形を呈し、長軸125cm、短軸100cm、深さ32cmを計る。断面形は逆台形を呈し、断面には直径約20cm程の柱痕跡が見られる。

(SK22) C-16 に位置し、SK30 を切る。平面形は不整形を呈し、長軸110cm、短軸60cm、深さ43cmを計る。断面形は、逆台形を呈し、底面には、ピット状の落ち込みが見られる。

[SK23] B-14 に位置し、SK18 に切られる。東半部は調査区外にかかる。平面形は不整形を呈しているものと考えられる。長軸95cm、短軸35cm以上、深さ46cmを計る。断面形は逆台形を呈し、底面には凹凸が見られる。

[SK24] B-13 に位置し、SK-16 を切る。西半部は調査区外にかかる。平面形は方形を基調としたものであると考えられる。長軸75cm、短軸25cm以上、深さ32cmを計る。断面形は、逆台形を呈している。

〔SK26〕 C-16 に位置し、SD03 の南壁に切られ、SD11 を切る。SD03 に先行トレンチを入れた際に西側半分を削除してしまったため、平面形は不明であるが残存する部分から円形若しくは長楕円形を呈するものと考えられる。長軸100cm、短軸70cm以上、深さ61cmを計る。底面で4基のピットを検出している。

〔SK27〕 B-4に位置し、東半部は調査区外にかかる。平面形は、不整な楕円形を呈するものと考えられる。長軸85cm、短軸45cm以上、深さ30cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

(SK28) B-15 に位置し、SD03 を切る。調査区外にかかるため平面形は不明である。長軸85cm以上、短軸40cm以上、深さ30cmを計る。断面形は逆台形を呈している。

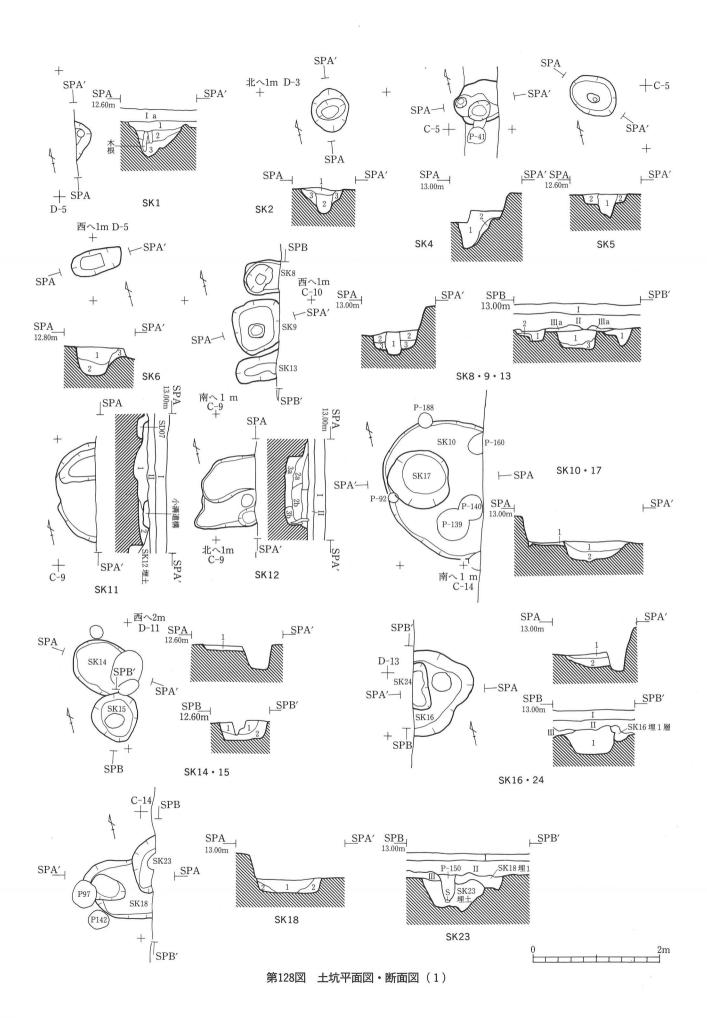
〔SK29〕 C-3 に位置し、西半部は攪乱を受けている。平面形は、不整形を呈している。長軸150cm以上、短軸50 cm以上、深さ20cmを計る。断面形は逆台形を呈している。

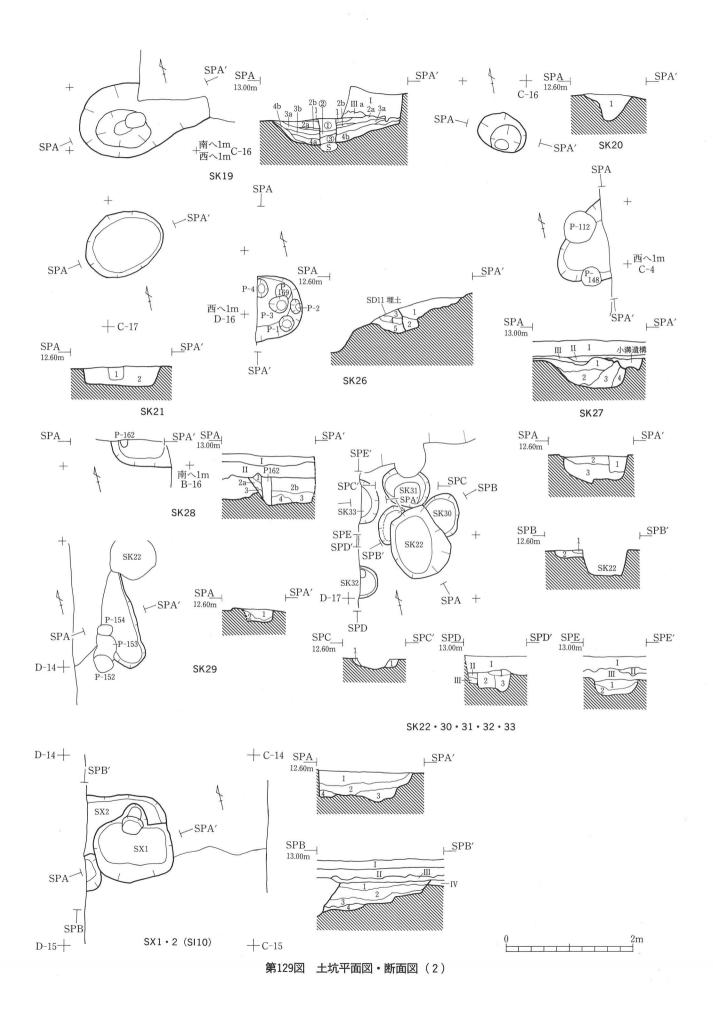
(SK30) C-16 に位置し、SK-22 を切られる。平面形は円形を呈するものと考えられる。長軸65cm以上、短軸48cm、深さ12cmを計る。断面形は舟底形を呈している。

(SK31) C-16 に位置し、P-99 に切られる。平面形は楕円形を呈し、長軸75cm、短軸45cm、深さ26cmを計る。断面形は、逆台形を呈している。埋土や位置関係から P-99 は、SK31 の一部であった可能性も考えられる。

〔SK32〕 C-16 に位置し、西半部は調査区外にかかる。平面形は、円形を呈するものと考えられる。長軸50cm、短軸26cm以上、深さ17cmを計る。断面形は逆台形を呈している。

[SK33] C-16 に位置し、西半部は調査区外にかかる。平面形は、円形を呈するものと考えられる。長軸70cm、短軸28cm以上、深さ18cmを計る。断面形は逆台形を呈している。



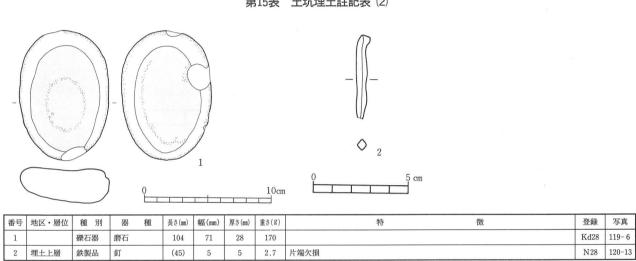


SK1				SK1	4		
層位	土 色	土 性	備考	層位	土色	土 性	備考
1層	10YR2/1 黒 色	シルト	2.5Y5/3 黄褐色を小ブロック状に混入炭化物粒を混入	1層	10YR5/2 灰黄色	シルト	焼土が埋土上面に混入
2層	10YR2/1 黒 色	シルト	2.5Y5/3 黄褐色とのプロック層	SK1	5	1	
3層	10YR2/1 黒 色	シルト	2.5Y5/2 暗灰黄色とのブロック層酸化鉄斑混入	層位	土 色	土 性	備考
SK2	,			1層	10YR7/2 にぶい黄橙色	シルト	10YR6/3にぶい黄橙色をブロック状に混入、酸化鉄粒子混入
層位	. 土 色	土 性	備考	2層	10YR6/2 灰黄色	砂質シル	酸化鉄粒子混入
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト		SK1	6		
2層	10YR3/4 暗褐色	シルト		層位	土 色	土 性	備考
3層	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	炭化物がブロック状に混入	╢	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	2.5Y8/1 灰白色を混入
SK4	10110/1100		peralist y y peralist	4	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒混入、マンガン斑混入
層位	土 包	土 性	備考	SK2	L	1	SCIONAL ROOM 15 N 2 SERVICE
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色を斑状に混入	層位	土色	土性	備考
		-		1		シルト	10YR3/1・10YR5/1 をプロック状に混入、酸化鉄粒、マンガン斑
2層	10YR5/6 黄褐色	シルト	(掘りすぎ?)	ــــــــــــــــــــــــــــــــــــــ		2101	を混入
SK5				SK1	T		Т = = = = = = = = = = = = = = = = = = =
層位	土 色	土性	備考	層位	土 色	土性	備考
1層	10YR3/1 黒褐色	シルト		1層		シルト	2.5Y5/3 黄褐色をブロック状に混入、炭化物マンガン斑を混入
2層	10YR5/2 灰黄色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色を斑状に混入	2層		シルト	炭化物粒混入
SK6				SK2	3	1	T
層位	土 色	土性	備考	層位	土 色	土性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/4 によい黄褐色を斑状に混入	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR4/1 褐灰色を遊状に混入、マンガン斑混入
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色をブロック状に混入	SK1	9		
3層	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	10YR3/2 黒褐色を斑状に混入	層位	土 色	土 性	備考
SK8				1層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	10YR5/3 にぶい黄褐色を斑状に混入
層位	土 色	土 性	備考	2a 層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR4/2 灰黄褐色を斑状に混入、焼土プロック混
1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR4/3 にぶい黄褐色をブロック状に混入	2b 層	7.5YR3/4 暗褐色	焼土層	
2層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	(掘りすぎ?)	3a 層	10YR3/1 黒褐色	シルト	2.5Y4/3 オリーブ褐色、砂質シルトとの互層、炭化物焼土ブロック 混入
SK9		L		3b 層		シルト	炭化物、焼土ブロック混入
層位	土 色	土性	備考	4a 層		シルト	77 307
1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色をブロック状に混入	4b 層		シルト	溝の埋土の可能性?
<b></b>		-	101 K3/4 にあい資物已でノロック小に低八	╂			
2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	LOVETO OF THE COLUMN AS THE CO	╂	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭混入
3層	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3 暗褐色とのブロック層	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭・焼土混入 SK19 を切るピット埋土
SK1		1		<del>,</del> —	10YR3/1 黑褐色	シルト	炭化物粒混入
層位	土 色	土性	備考	SK2	<del>,</del>	T	
1層	10YR2/3 黑褐色	シルト	10YR4/1 褐灰色がブロック状に混入	層位	土 色	土性	
SK1	1			1層	10YR3/I 黒褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色を斑状に混入
層位	土色	土性	備考	SK2	1		
1層	10YR3/1 黑褐色	シルト	10YR4/4 褐色をブロック状に混入、炭化物粒子混入	層位	土 色	土性	備考
2層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR4/4 褐色とのブロック層	1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	
SK1	2			2 層	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色斑状に混入
層位	土 色	土性	備考	SK2	6		
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト		層位	土 色	土 性	備考
2a 層	10YR2/2 黒褐色	シルト		1層	10YR2/2 黑褐色	シルト	
2b 層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR4/1 褐灰色を斑状に混入、炭化物混入	2 暦	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色をブロック状に混入。P.4の埋土
3a 層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR4/2 灰黄色をブロック状に混入	SK2	7		
3b 層		シルト	AND AND AND A METER WAS ALL AND	層位	土 色	土 性	備考
SK1	L	<u></u>	Les outres de la company de la	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	マンガン斑混入
層位	土 色	土性	備考	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR4/1 褐灰色をブロック状に混入、下層部に10YR5/4 に ぶい黄褐色ブロック状に混入
<u> </u>	10YR4/4 褐 色	_	2.5Y4/1 黄灰色土とのブロック層	<del> </del>	10YR4/1 褐灰色	シルト	ぶい黄梅巴ノロック状に混入   酸化鉄斑、マンガン斑を混入
SK1		1		J	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色をブロック状に混入
層位	土 色	土性	備考	1		1 - 10 1	AVANOTI - WAY MING C / - 7 / WE GIV
<del></del>		-		SK2	I	J. W	jai: :#r.
<u> </u>	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	酸化鉄斑マンガン斑混入	層位		土性	備考
2層	10YR5/1 褐灰色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色を斑状に混入	4	10YR2/3 黒褐色	シルト	
					10YR3/2 黒褐色	シルト	
				2b 層	10YR2/2 黒褐色	シルト	
				3層	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色を斑状に混入
				4 層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色をブロック状に混入

第14表 土坑埋土註記表 (1)

SK2	9			SK3	2		
層位	土 色	土 性	備考	層位	土 色	土 性	備考
1層	10YR2/2 黒褐色	シルト		1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色を斑状に混入
2層	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	砂質シルトに近い	2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色をブロック状に混入
SK2	2			3層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/3 にぶい黄褐色を斑状に混入
層位	土 色	土 性	備考	SK3	3		
1層	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入	層位	土 色	土 性	備考
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒子混入	1層	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色をブロック状に混入
3層	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR4/1 褐灰色を斑状に混入 10YR4/3 にぶい黄褐色ブロック状に混入	2層	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	10YR2/1 黒色を斑状に混入
SK3	30			SX1	• 2 (SI10)		
層位	土 色	土 性	備考	層位	土 色	土 性	備考
1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	10YR6/2 灰黄褐色をブロック状に混入	1層	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物粒子若干混入
2層	10YR3/2 黒褐色	シルト		2層	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色をブロック状に混入 炭化物粒、焼土粒若干混入
SK3	31			3層	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR6/4 にぶい黄褐色をブロック状に混入
層位	土色	土 性	備考	4層	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	10YR2/3 黒褐色ブロック状に混入
1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土混入				

第15表 土坑埋土註記表(2)



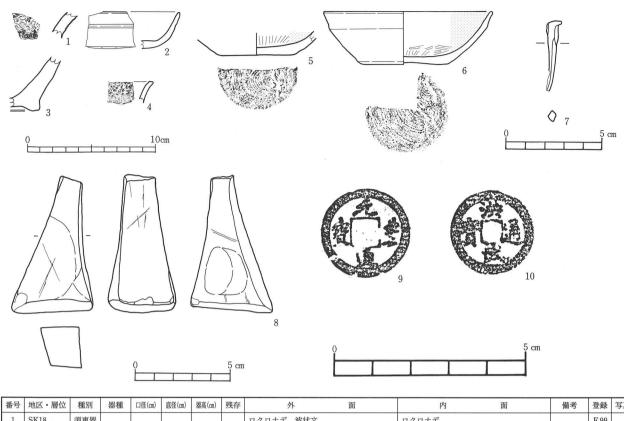
第130図 土坑・ピット出土遺物(1)

#### 性格不明遺構

SX1・2 C-9 に位置し、SD03 に切られる。検出時には、竪穴遺構 (SI10) として登録したが、遺構の重複とし てとらえられたことから、SX01・SX02とした。

[SX01]SX02 を切り、SD03 に切られる。平面形は隅丸方形を呈し、長軸120cm、短軸100cm、深さ42cmを計る。断 面形は、逆台形形を呈し、底部には凹凸が見られる。

[SX02]南半部をSD03、SX01 に切られ、西半部は調査区外にかかる。平面形は方形を基調とするものであると考 えられるが不明である。長軸140cm以上、短軸140cm以上、深さ50cmを計る。断面形は舟底形を呈し、3つの段が付 き、緩やかに落ち込んでいる。



番号	地区・層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存		外 面	内	面	備考	登録	写真
1	SK18	須恵器						ロクロナラ	"、波状文	ロクロナデ			E 99	
2	SK19	須恵器						ロクロナラ	で、沈線(底)回転ケズリ	ロクロナデ		_	E102	
3	SK26	須恵器	甕?					ロクロナラ	2	ロクロナデ			I 1	118-6
4	SK29	須恵器						(口唇)沈線	镍(口)波状文	(口内)沈線			E114	
5	ピット118	土師器	坏		(6)		1/2	(底)回転糸	や切り→周縁ナデ				D48	-
6	ピット117	土師器	坏	(13.3)	6.7	4.2	口1/4 底3/4	回転糸切り	)	ヘラミガキ、黒色処理			D51	
番号	地区・層位	種別	器	種	長さ(㎜)	幅(mm)	厚さ(m	) 重さ(g)	特	徴		瓷	録	写真
7	SK19 埋土上層	鉄製品	釘		(38)	5	6	1.9	片端欠損			N	15 1	20-12
8	ピット1	礫石器	砥石		72	43	32.5	100				K	d31 1	19-7
9	ピット	古銭	渡来針	浅	23.8	23.8	1.0	2.38	元豊通宝 北宋 (1078)				1	20-6

第131図 土坑・ピット出土遺物(2)

120-7

22.6 22.5 1.4 3.08 洪武通宝 明 (1368)

#### (b) ピット (第16~18表)

ピットは、調査区のほぼ全面にわたって約180基検出されている。分布をみると、調査区北側 I 区と中央部に集中する傾向がみられる。これらの中には、柱痕跡をもつものや柱列を構成するものもあるが、調査区が狭く全体の構成等は不明である。詳細については集計表を参照されたい。

## ピット埋土分類

10 ピット7

A:10YR2/1 黒色系 B:10YR2/2、10YR2/3 黒褐色(黒色)系

C:10YR3/1、10YR3/2 黒褐色(褐色)系 D:10YR3/3、10YR3/4 暗褐色系

E:10YR4/2、10YR4/3、10YR5/6、10YR4/1、10YR4/6 黄褐色系

#### (4) 遺構外出土遺物 (第132図)

遺構外の遺物としては基本層などから、土師器、須恵器、陶器、磁器、鉄製品、羽口、石製模造品などが出土している。また、確認調査の際にも土師器などが出土している。そのうち、3点を図示した。また、SD03埋土から出土した弥生土器1点もここに図示した。1は、確認調査の際に出土した土師器坏である。2は、SD03出土の弥生土

	//. ma	272 272 304	E to vitable (	200 as / \	埋土	切合関係	出土遺物	備考
ピットNo.	位 C-2	平面形円形	長軸×短軸(cm) 20×20	深さ(cm) 9.1	埋 土 B	9.2 を切る	С Д Т Ж 10	VH .
2	C - 2	楕円形	30×20	9.0	В	P.1 に切られる	C	
3	C-2	方 形	40×34	21.3	В	212.12.73.2.11.3	C	
4	C - 2	円形	40×30	58.4	В		С	
5	C - 2	円形	40×40	57.5	С		C • E	
6	C - 2	円形	50×44	70.6	С	SI-01 を切る	C · E	
7	C - 2	円形	40×35	54.3	С	SI-01 を切る	C • E	
8	C - 2	円形	18×14	14.0	С	SI-01 を切る	C	
9	C - 2	円 形	52×48	59.0	С	SI-01 を切る	C·I	
10	C-2	円形	32×32	27.3	С	SI-01 を切る		
11	C - 2	円形	20×18	26.0	С	SI-01 を切る		
12	C - 2	方 形	56×40	56.2	С	SI-01 を切り P.12 に切られる	C	
13	C - 2	円形	36×32	21.7	D	SI-01 を切る	C	
14	C - 2	円 形	24×20	12.8 11.2	B C	SI-01 を切る SI-01 を切る	С	
15	C-2 C-3	方 形		13.4	С	31-01 8918	C	
16	C - 3	方 形円 形		36.5	C			
18	C-4	円形		37.2	C		С	
19	C - 4	円形		22.6	В		С	
20	C - 4	円形		39.1	С		С	
21	C - 4	円形		23.0	Е		С	柱痕跡有
22	C - 4	円形		42.9	С		C・E・鉄滓	
23	C - 4	方 形	20×20	7.6	В		С	
24	C - 5	円形		31.3	С		С	
25	C - 5	円形		24.8	E		С	
26	C - 5	方 形		27.8	В		С	
27	C - 5	円形		3.9	C		<u> </u>	
28	C - 5	円形		40.9	C		C	
29	C - 5	方 形		35.8	B C		C	
30	C-5 $B-5$	円形		22.1 12.0	C		С	
	C-6	円形		31.0	C		C · E	
32	C = 6	円形		42.0	C		C	
34	C-7	円形		58.0	C		C·E	
35	C - 7	円形		22.0	D		С	
36	C-7	円形		28.0	Е		С	
37	B - 7	円形			D			
38	C-8	円形		29.4	D		С	
39	C-8	方 形	20×20	40.2	С		Е	
40	C - 8	円 形	40×36	31.2	C		С	
41	B - 5	円 形		65.6	С		E	
42	B-5	方 形		22.9	С		С	
43	B - 5	円形		18.6	С		a P	
44	C - 5	円形		26.0	В		C · E	
45	C - 5	円形		41.9	C	CI 00 \$\F17	C·E	
46	C - 6	円形		19.2 28.2	В	SI-02 を切る SI-02 を切る	C	調査区外にかかる
47	C-6	円形		17.8	D	31 02 2 97 3	C	Marchine
48	C - 8			22.1	C		C	
50	C - 9	円光		9.8	C		С	
51	C - 9			12.8	C		С	
52	C - 9			15.9	С		C • E	
53	C-9			26.8	С		C·E	
54	C - 9			11.5	Е		С	
55	C - 9	円用	18×16	19.6	В		С	
56	C - 9			30.6	D		C · E	
57	C - 9			20.7	С		С	
58	C - 9			39.8	В		C	
59	C - 9			50.7	C		C	
60	C - 9			14.0	C D	SI-M SHIZ	C	
61	C - 9			55.1 26.9	D	SI-04 を切る SI-04 を切る		
62	C - 9			41.3	C	SI-04 を切る SI-04 を切る P.64 を切る	C · E	
63	C-10			71.0	C	P.64 を切る P.63 に切られる	C	
65	B - 9			28.6	C	SI-04 を切る	C	
66	B-10			17.3	В	SI-04 を切る		調査区外にかかる
67	B-10			15.5	C	P.68 を切る	С	
68	B-10		≶ 22×20	11.6	С	P.67 に切られる		
69	C-10		≶ 24×22	42.8	Е	SI-04 を切る	С	
70	C-10			27.8	В		C • E	
71	C-11		≶ 22×20	20.2	В		С	
72	C-11		≶ 24×22	28.9	В			
73	C-1			29.8	E		С	
74	C-1		32×22	30.7	В		C	
75	C-1		§ 24×22	25.1	D		C	
76	C-1		50×44	35.2	В	D 70 17 17 2 40 7	C·E C	
77	B-1		≶ 50×40	35.8	D	P.78 に切られる P.77 を切る	C·E	
78 79	B-1		50×42 18×14	46.7 18.2	В	1.11.6 30.9	E	
	1 5 -1.	1 / J	/ 10 / 14	10.2	L D	1	1~	

第16表 ピット集計観察表(1)

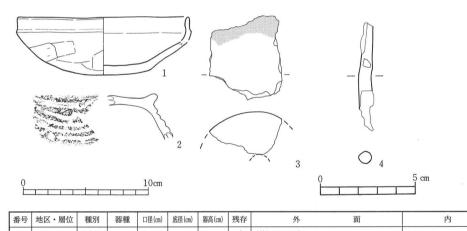
32 a. 3 M.	At ma	ΔΖ <del>7Ε;</del> πν.	旦軸~如軸/\	初5 冬 / \	+田 上	打 ム 服 ぼ	山 十 沖 #/m	備考
ピットNo. 80	位 置 C-12	平面形	長軸×短軸(cm) 30×30	深さ(cm) 12.1	埋 上 D	切合関係	出土遺物	ун <b>4</b>
81	C - 12	円形	18×16	11.9	C			
82	C -12	円形	24×24	19.4	В			
83	C-12	円形	28×25	38.8	В			
84	B-12	円 形	30×(22)	27.9	С		С	調査区外にかかる
85	C -12	円形	30×22	28.2	В		С	
86	C-12	精円形	50×36	39.6	E	С	0 P	
87 88	C-12 C-12	円 形	37×30 25×21	48.3 25.3	E C		C · E	
88	C -12		25×21 20×20	16.5	C		C.E	
90	C -12	円 形	30×23	35.2	D		С	
91	C -13	円形	31×21	28.6	В	SI-05 を切る	C	
92	C-13	円 形	15×15	13.5	С	SK-10 を切る	D	
93	C-13	円 形	22×20	39.8	С		С	
94	C-13	円形	43×40	33.2	С		C · D	
95	C-13	円形	30×27	19.7	C		C	
96	C-14 C-14	円 形	18×18	28.9	D C	CV_10 ±.411 z	C	
97 98	C - 14	円形	45×37 43×40	28.0 17.3	C	SK-18 を切る SI-10 を切る	C	
99	C - 14	円形	43×40 42×40	49.1	C	SD-03 を切る	С	
100	C - 4	円形	32×22	32.8	D	55 00 0 73 0	C・鉄滓	A A A A A A A A A A A A A A A A A A A
101	C – 4	楕円形	22×16	11.0	Е			
102	C - 4	円形	20×20	31.8	Е	P.103 を切る	С	
103	C - 4	円 形	30×24	23.3	E	P.102 に切られる	C・鉄滓	
104	C - 4	円形	35×35	65.3	В		C · E	
105	C - 4	円形	14×12	13.1	C	,	C	
106	C -16	円形	35×33	24.6	D		C	
107	B-16 B-16	円 形	45×37 32×30	61.3	D C		C	
109	B-15	円形	40×30	36.8	C		С	
110	C - 3	円形	38×34	47.0	c	SI-01 を切る	C	
111	C - 3	円形	36×34	61.5	D	SI-01 を切る	С	
112	B-3	円 形	52×50	50.9	D		C · E	
113	C - 5	円形	29×20	16.5	С	撹乱の底部		
114	C - 5	方 形	20×15	19.8	C	撹乱の底部	O 24 7H	
115	C-5	円形	35×28	37.9	C D	撹乱の底部 SI_01 を打ス	C・鉄滓 C	
116 117	C - 3	円 形	46×44	54.6	С	SI-01 を切る SI-02 を切る	C・鉄滓	
118	_	円形			c	SI-02 を切る SI-02 を切る	C·默伴	
119	C - 5	円形	13×11	10.5	C	撹乱の底部		
120	B – 3	方 形	28×26	45.9	D	P.121 を切る	C・鉄滓	
121	欠 番							
122	B - 7	円形	42×(19)	46.4	С	SI-03 を切る	С	調査区外にかかる
123	B - 7	円形	40×(19)	34.0	C	SI-03 を切る	С	
124	B-7	円形	26×20	55.0	C	D 110 17 17 20 7		
125 126	C-3 $C-8$	円 形	42×30 42×42	28.8 45.4	D C	P.110 に切られる	C	
127	C - 8	円形	30×(17)	10.4	D		-	調査区外にかかる
128	C - 9	円形	30×27	14.0	В	SI-04 を切る	C	
129	B - 9	円 形	30×26	26.0	D	SI-04 を切る	E	
130	C – 8	円 形	17×15	25.3	D	SI-09 を切る	С	
131		隅丸方形	60×55	37.6	В	SK-19 に切られる	С	
132	C -11	隅丸方形	60×47	41.2	В	P.73 に切られる	С	
133	C - 8	円形	25×20	15.8	C	SD-08 に切られる	C	
134 135	C-7 B-9	円 形	30×30 22×17	38.0 19.6	C	SD-02 を切る SK-12 を切る	C · E	
136	B - 9	方 形	(29) × 27	25.7	C	SK-12 を切る SK-12 床面	C	
137	C -13	円形	29×28	27.1	C	SK-12 外国 SI-05 に切られ SK-16 を切る	C	
138	C-12	円形	60×58	27.8	D	SR-16 を切る P.89 に切られ SI-05 を切る	С	
139	C -13	円形	50×50	34.6	В	SK-10 と P.140 を切る	C · E	
140	B-13	円 形	40×35	56.8	С	P.139 に切られ SK-10 を切る	C · E	
141	B-13	円形	30×(20)	27.5	С	SK-10 を切る	C	調査区外にかかる
142	C -14	円 形	33×28	41.7	D	SD-03 を切る	C	
143	C - 16	円形	53×50	26.3	D	SK-31 を切る SD-01 を切る	С	
144	C - 4 C - 4	円 形	13×13 32×25	21.0 65.4	C	SD-01 を切る SD-01 を切り P.104 に切られる	C	
146	B - 3	円形	32×23 30×24	24.1	В	P.104 に切られる SD-01 を切る	C · E	
147	B - 4	円形	32×32	18.0	C	SD-01を切り P.140を切る	С	
148	B - 4	楕円形	32×24	50.5	В	F.140 を切る SD-01 を切り P.147 に切られる		
149	B - 4	不 明	18×12	32.6	С	SK-04 と P.41 に切られる		
150	B-14	不 明	30×(16)	40.0	D	SK-18 を切る		調査区外にかかる
151	C - 4	方 形	42×42	37.3	В	SD-01 を切り P.22 に切られる		
152	C - 3	円 形	30×24	37.1	C	P.153 を切る	C · D	
153 154	C-3	精 円 形 円 形	42×34 24×20	54.5 35.1	C	P.152 に切られる	C	
154	C - 3	育 円 形	24×20 40×30	59.9	C		C·E	
156	C - 3	不整円形	36×36	69.8	C		C · E	
157	C - 3	不整円形	44×40	76.5	c	小溝を切る	C·E	
158	C - 3	不整円形	32×20	25.2	С	SK-02 に切られる	С	
						<u> </u>		

第17表 ピット集計観察表(2)

器の蓋で、弥生時代前期頃の可能性が考えられる。 3 は、表土除去中に出土した羽口の破片である。端部に溶融した痕が見られる。

ピットNo	位 置	平面形	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	切合関係	出土遺物	備考
159	C - 3	円形	54×34	46.8	С	P.111 に切られる	С	
160	B-13	楕円形	30×(25)	43.0	Е	SK-10 を切る	C • E	
161	B-15	円形	(15)×13	16.6	С	SD-03 を切る		
162	B-15	円 形	15×13	13.5	С	SK-28 を切る		
163	C-16	円形	23×(15)	22.1	С			
164	C-16	円 形	30×25	29.2	С	SD-03 に切られる	С	
165	B-15	楕円形	20×16	16.7	Е	SD-03 に切られる		
166	B-15	円 形	30×25	13.6	С	SD-03 に切られ P.167 を切る		
167	欠 番							
168	C-2	円 形	27×25	11.6	С	SI-01 を切る		
169	C-15	円 形	28×25	10.9	С	SK-26 を切る		
170	B-17	円 形	37×30	29.1	С	SD-12 を切る		
171	欠 番							
172	C-15	円形	25×22	31.8	С	SD-03 に切られる		
173	欠 番							
174	C-15	円 形	33×22	44.4	E	SD-03 に切られる P.173 に切られる		
175	C - 6	円 形	37×33	40.0	С	SI-02 を切る		
176	C - 6	円 形	35×30	32.6	С	SI-02 を切る		
177	C - 5	円 形	25×23	14.0	С	SI-02 を切る		
178	B-2	円 形			С	SI-01 を切る		調査区外にかかる
179	B-5	円 形	35×(20)	42.1	В			調査区外にかかる
180	C - 6	円 形	15×15	27.0		SI-11 を切る		
181	D-6	楕円形	$(40) \times 50$	11.0	В			調査区外にかかる

第18表 ピット集計観察表 (3)



1	試掘	土師器	坏	(13.7)		4.6	1/4	(体)ヘラク	アズリ		C63	3
2	SD03 埋 6 層	弥生土器	蓋?					沈線		ミガキ	B 1	118-9
番号	地区・層位	種別	器	種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm	) 重さ(g)	特	徵	 登録	写真
3	表採	土製品	羽口		68	58	34	105.9	端部溶融		N37	119-11
4	II区	鉄製品	釘		(58)	7	7	5.9	両端欠損		N 59	120-31

第132図 遺構外出土遺物

登録番号	地区・層位	分 類	長㎜	幅mm	厚mm	重g	特 徴	図	写真	登録番号	地区・層位	分 類	長mm	幅mm	厚mm	重g	特	女 図	写真
Kd 1	SI01	円板A	27.0	31.0	5.3	6.7	100		120-2	Kd10	SK14	臼 玉	4.6	4.6	1.9	0.1			
Kd 2	SI01 埋土中層	円板	28.8	20.4	3.9	3.3			120-3	Kd11	SD12	臼 玉	10.3	10.0	2.6	0.4			
Kd 3	SI01 埋土上層	白 玉	5.3	5.1	2.9	0.2				Kd12	SD16 埋土下層	丑 玉	5.5	5.5	3.9	0.2			
Kd 4	SI02·SK3 埋土中層	臼 玉	4.5	4.5	2.4	0.1				Kd13	SD16 埋土	剣形B	40.2	15.5	5.2	5.7			120-5
Kd 5	SI04·SK5 埋土上層	円 板	6.7	5.1	0.9	0.1				Kd14	SD16 埋土下層	剣形A	48.2	24.4	8.0	11.2			120-4
Kd 6	SI04 埋土上層	円 板	7.9	5.7	2.6	1.4				Kd15	SD16 埋土上層	臼 玉	4.6	4.4	2.2	0.1			
Kd 7	SI04 埋土上層	白 玉	4.6	4.4	3.4	0.1				Kd16	Pit 63	石製品	10.0	6.6	1.3	0.1	100		
Kd 8	SI07埋土中~上層	臼 玉	6.2	6.0	3.4	0.2				Kd17	Pit 77 埋土	臼 玉	5.0	5.0	1.7	0.1			
Kd 9	SK06	臼 玉	4.1	4.0	2.2	0.1				Kd18	C-3 グリッド	五 日	4.5	4.5	2.0	0.1		100	

第19表 石製模造品集計表

登録 写真

# ∨ 考 察

- 1. 出土遺物の検討
- (1) 第30次調査

#### ①古墳時代の土師器について

主に住居跡より土師器が出土している。調査区の関係から住居跡は全掘したものはなく、出土遺物については本来の一括遺物のごく一部を示しているにすぎない。そこで、比較的出土量が多くなおかつ共通の雰囲気を持つ次の遺構出土の遺物をピックアップし、おおまかな傾向性を示すにとどめたい。

まず、大きく二つのグループに分けることができる。

Aグループ:SI32・14・26 出土遺物

Bグループ:SI11・12・25 出土遺物

AとBの違いは坏で顕著である。Bはいわゆる有段丸底であり、内面が黒色処理される場合がある。Aは丸底、凹み底が多い。また、Aは高坏が多く含まれるが、Bには含まれない。両者を宮城県における土師器編年(氏家:1957)に当てはめると、Aは南小泉式、Bは住社式にあたると考えられる。

Aグループの器種は、高坏、坏、壺、甕、甑、蓋がある。高坏は、坏部に段もしくは稜をもち、脚部が外反気味に開く円錐台状のものと、脚上半が円筒形で、下半が開くものがある。坏は口縁部が内湾するもの、外反するものがあり、底部は丸底、平底、凹み底がある。壷は口縁部の厚い大型のものと、丸い胴をもち口縁部が長く直立気味に外反する小型のものがある。甕は体部にふくらみを持つ。

宮城県内の南小泉式の変遷については、丹羽茂(宮城県:1983)、加藤道男(加藤:1982)、白鳥良一、古川一明(白鳥・古川:1991) らにより検討されている。それらを参考に考えると、Aグループは南小泉式でも比較的古い段階に位置づけられそうである。少なくとも、台ノ山5号住居(宮城県:1980) の段階までは下らないものと考えられる。

遺物の時期は、以下のように大まかに分けられると考えられる。

南小泉式期:SI 2 · 6 · 7 · 9 · 10 · 27 · 32 · 14 · 35 · 16 · 31 · 19 · 21 · 26

住社式期:SI30·8·5·11·12·25·13·15·18

## ②須恵器の技法の認められる土師器について

SI14、15住居跡から出土した土師器甕の製作技法に須恵器の技法が認められる。SI14 出土の甕(第45図11)は、体部下半にタタキ、上半には回転ハケメが認められる。色調は土師器のものである。SI15 出土の甕(第50図 6)は、外面にタタキが認められ、色調は黄橙色で土師器に近く、黒斑がある。このように、土師器の色調の土器に須恵器の技法の認められるものは、南小泉第 4 次調査(仙台市:1982)でも指摘されている。

#### ③平安時代の遺物

SI17 住居跡からはロクロ土師器、須恵器が出土しており、遺物の所属時期は平安時代と考えられる。須恵器坏は、底部の切り離しがヘラ切りと回転糸切りがあり、切り離し後再調整がされるものもある。体部は直線的に立ち上がり、底径/口径比が0.47~0.63である。このような特徴から、須恵器の時期は9世紀後半頃と考えられる。

#### 4 黒曜石石器

基本層、遺構などから黒曜石の石器が出土している。その出土状況は以下の表にまとめた(第20表)。器種にはスクレイパー、ピエス・エスキーユ、不定形石器がある。スクレイパーは刃部角が大きなものがある。剝片の中には、両極剝離痕を持つものがある。石材は 2 種類認められる。A は黒っぽく、縞が見られ、夾雑物が混じる。B はやや茶色っぽく、透明感があり、夾雑物がない。大多数がAであり、B は微細な剝片 2 点のみである。また、石器の中

には使用痕の見られるものがある。

古墳時代の遺跡から出土する黒曜石石器は、南小泉遺跡の他に岩切鴻ノ巣遺跡などにも例がある。これらは、北海道から東北地方北半に分布する北大式に伴う黒曜石石器との関連が考えられている(佐藤:1984)。

登録	器種	石材	出 土 位 置	登録	器	種	石材	出 土 位 置
Ka 1	スクレイパー	A	SI 2ピット1	Ka55	剝	片	A	SI14 埋土
Ka11	スクレイパー	A	SI19 床直	Ka56	剝	片	A	SI17 埋土
Ka12	ピエス・エスキーユ?	A	SI20 床直	Ka57	不 定	形石器	A	SI17 床直
Ka29	スクレイパー	A	III層 II層	Ka58	剝片	( 両 極 )	A	SI17 埋土
Ka43	剝片	A	SI 5 埋土	Ka59	剝	片	A	SI20 埋土
Ka44	ピエス・エスキーユ	A	SI 5 埋土	Ka60	剝	片	В	SI26 床直
Ka45	スクレイパー	A	SI 6 ・ 7 埋土	Ka61	剝	片	A	SI32 埋土
Ka46	剝片	A	SI13 埋土	Ka62	剝	片	A	SI32 埋土
Ka47	不定形石器	A	SI14 埋土	Ka63	剝片	( 両 極 )	A	SI32 床直
Ka48	ピエス・エスキーユ	A	SI15 埋土	Ka64	剝	片	A	SK38
Ka49	ピエス・エスキーユ	A	SK30	Ka65	剝	片	A	SD 2 埋土
Ka50	剝 片	A	SD 2 埋 3 ~ 5 層	Ka66	石	核	A	II区B・C 7~9 II層下
Ka51	不定形石器	A	I区II層天地返し	Ka67	剝	片	В	III区II層
Ka52	剝 片	A	SI 5ピット1	Ka68	剝	片	A	表採
Ka53	剝片	A	SI10 埋土	Ka69	剝	片	A	SI13 埋土
Ka54	剝 片	A	SI13 埋土					

第20表 黒曜石の出土状況

#### (2) 第31次調査

### ①古墳時代の土師器について

今回の調査では主に住居跡から土師器が出土している。しかし、調査区が狭いため、住居跡の一部を掘りあげた にとどまり、出土量も少ない。そのため、ここでは遺物の概略を述べるにとどめたい。

住居跡のうち、SI03・09・11・04 は遺構に伴う遺物が少量で特徴が少なく、積極的に所属時期を比定できない。 SI02 住居跡は、遺構に伴う遺物が平安時代のものと考えられる(後述)。SI05・07 は床面出土の遺物が比較的多い ので、検討してみたい。

SI05・07 からは、坏・甕・蓋が出土している。坏は浅い丸底で口縁部が屈曲し内傾するものと、直立するものと、やや外傾するものがある。調整は口縁部外面がヨコナデ、体部外面がヘラケズリもしくはヘラミガキ、内面はナデ調整される。器面に黒色の付着物のあるものもある(漆を付着させたとされている)。胎土は黄褐色でほとんど砂粒を含まず、粉っぽい印象を受ける。

甕は体部が長胴で、口縁部と体部の境に段を持ち、調整は口縁部がヨコナデ、体部がナデかハケメである。SI07には小型の甕があり、口縁と体部との境は特になく、ナデ調整で、黒色付着物がある。

蓋はつまみがあり、裾が円錐状に広がる。

SI05・07 に類似する坏は他の遺構の堆積土などからも多く出土している。これらは在地の土師器の製作技法と異なるものであり、関東地方の土師器に関係を求められ、いわゆる「関東系土器」と呼ばれてきた。同様の土器は今回の調査区の南に位置する南小泉22次調査で多く出土しており、報文中で詳しい分析がなされている(仙台市:1994)。ここでは、SD3 溝跡で共伴している須恵器より、これらの土器の年代観を6世紀末葉から7世紀初頭としている。南小泉11次調査第46号溝跡では、6世紀中葉の年代が考えられている(仙台市:1984)。また同様の土器は、郡山遺跡24次調査SI260より出土している(仙台市:1983)。SI260はI期官衙の遺構より古く、郡山遺跡の第2段階にあたり、7世紀前半~中葉(仙台市:1986)とされている。また、藤田新田遺跡からも同様の坏が出土しており、その年代を6世紀後葉から7世紀前半頃としている(宮城県:1994)。

甕については、住社式から栗囲式の特徴を有している。また、蓋は栗遺跡に類例がある(仙台市:1979・1982)。

ここでは、遺構一括遺物のうちごく一部の資料ということから、土師器については東北地方の編年では住社式から 栗囲式にあたり、絶対年代を与えるとすれば、6世紀後半から7世紀前半の間と、おおまかにとらえておきたい。

#### ②平安時代の遺物について

SI02 住居跡では、床面検出の SK1 土坑よりロクロ土師器、回転糸切り無調整の須恵器坏、赤焼土器が出土しており、遺物の時期は平安時代と考えられる。須恵器は、底部切り離しが回転糸切りで、体部がやや丸みをもって立ち上がり、底径/口径比が0.5と0.46である。このような特徴から、須恵器の時期は9世紀後半頃と考えられる。

#### ③鍛冶遺構の出土遺物について

SI01 竪穴遺構からは、土師器坏(関東系)と、須恵器坏が出土している。須恵器坏は、底部切り離しがヘラ切りで、底径が大きく、底部と体部へ丸みをもって立ち上がるという特徴をもつ。坏の時期は、8世紀頃と考えられる。床面から出土した羽口の形状は、先端がやや細い漏斗状のものである。製作技法からみると、粘土紐を巻き上げた痕跡がみられないことから、軸木に粘土を巻き付けて成形し、外面の調整は指によるオサエとナデにより仕上げられたものと思われる。福島県新地町武井地区製鉄遺跡群(寺島:1989)では、大量に出土した羽口について 形態・調整技法からの分類を行なっている。そのなかで漏斗状で指ナデによるものは、共伴した土器から8世紀中頃~9世紀前半の年代が考えられている。

遺構の時期については、出土遺物が少ないことから、奈良時代かそれ以降としておきたい。

#### 2. 検出された遺構の検討

## (1) 第30次調査

今回の調査で発見された遺構には、竪穴住居跡・竪穴遺構・掘立柱建物跡・墓壙・階段付地下式坑・土坑・溝跡・小溝状遺構などがあり、そのほかに中世の屋敷跡に伴う区画溝跡・掘立柱建物跡がある。ここではその中で主体となる遺構について概括的にふれてみたい。

## ①竪穴住居跡について

竪穴住居跡は28軒があるほか、竪穴遺構7基がある。このうち出土遺物が少なく時期決定が難しいものもあるが、 前述したように各遺構の出土遺物の検討から次のような年代が考えられる。

南小泉式期: SI 2 · (6 · 7) · 9 · 10 · 27 · 32 · 14 · 35 · 16 · 31 · 19 · 21 · 26

住社式期:SI30 · (8) · 5 · 11 · 12 · 25 · 13 · 15 · 18

平 安 期:SI17 ※ ( ) は竪穴遺構

古墳時代中期~後期の竪穴住居跡は21軒検出されたが、南側に隣接する第17次調査で検出された32軒を合わせる と極めて高い密度を示している。未調査部分に予想される遺構の存在を考えると、南小泉遺跡のなかでこの時期の 中心となる集落の存在が考えられる。

21軒の竪穴住居跡はいずれも平面形は隅丸方形に近く、主軸方向にはややばらつきがあるものの、真北方向を基準として東西それぞれ20°の範囲内におさまっている。

改築を行なっている竪穴住居が2軒認められた。SI14 はSI35 の西辺側を拡張し、床を上げている。SI17 も若干拡張を行なっているようである。

SI02・11・12・26 については、床面での焼土・炭化物(材)の検出状況から焼失家屋である可能性が高い。

#### ②屋敷跡について

SD01 によって区画された屋敷地内から、SB02・03 という中枢的な建物が発見された。第17次調査の成果と合わせて、一辺半町規模の方形の屋敷跡の変遷がとらえられ、14世紀前半に一度廃絶した屋敷の区画溝の一部を、16世紀前半に改修し屋敷地を拡張していることが考えられる。

これまでの南小泉遺跡での調査成果から、この地域での中世段階の屋敷・館跡の変遷がとらえられており、12世

紀末には、区画溝をもたない、建物跡・井戸・土坑といった遺構組成からなる「屋敷」が成立している。その後、 13世紀中頃〜14世紀後半には、今回確認された屋敷跡のような、ある程度の防御機能をもった溝によって区画され る半町規模の方形を基調とする屋敷へと発展している。

この時期、第16次調査で確認されている屋敷跡 B と今回の屋敷跡 (17次調査屋敷跡 E) が、時期的に並立している可能性が考えられる。屋敷跡 B は遺構の内容がはっきりしないが、北辺で60m 前後の溝で区画され、後期には区画溝が、上幅・深さともに拡張されている。出土遺物の量や内容から当地での最有力者層の屋敷と考えられるもので、並立を考えた場合、あるいは主従関係のような形があったことも想定される。

成立の遅い屋敷ほど区画溝の幅や深さが拡大し、栅などの防御施設が増す傾向がみられるが、この屋敷跡 B が14 世紀後半には、大規模な土塁と巨大な堀を巡らす城館へと発展した可能性が考えられている。この城館については、国人領主クラスの存在が考えられ、「古城書上」など江戸時代の文献に記録のある「小泉村、古城」との記載や、在地の領主である国分氏との関係が考えられよう。

#### ③墓壙群と階段付地下式坑について

斜行する階段状の施設をもつ土坑について、従来土倉跡や半地下式の貯蔵施設として報告されている遺構とは形態的にも異なり、貯蔵施設とするには床面積も小さいことから、関東地方での類似した遺構の名称である「階段付地下式坑」の語をもちいた。

地下式坑の用語について、中世の墓壙については「地下式壙」の語を用い、地下式土倉などを含めた総称としては「地下式土坑」と整理すべきとの考えもある。一般的に、地下式坑は墓地に関係している場合が多いようであり、その場合「地下式壙」の語が多く使われているが、今回はその機能について多様な様相が考えられることから「地下式坑」の語を用いている。

今回検出された遺構は、16世紀前半に成立した屋敷跡内にあるが、その屋敷の中枢的な建物を切って構築されていることから、屋敷に伴う施設とは考えられない。その機能について、遺跡のなかでの他の遺構との関連を考えれば、周辺にほぼ同時期のものと考えられる墓壙などが存在していることから、これらの墓壙と一体となった葬送に関わる施設であった可能性が考えられる。

また、2基の階段付地下式坑とその東に位置する SK23 は、ほぼ同じ方向を向いており、それぞれの間隔が約2 mと一定していることから互いの存在を意識して構築されているようである。土坑とした SK23 は、深さが約150cmと井戸跡とするには浅いものの、他の土坑とは形状や規模がまったく別のものであり、形態的には井戸跡のような形状を呈している。

今回の遺構が墓地に伴うもので、SK23の井戸跡としての可能性を考えた場合、斎藤 弘氏が「北関東地方では、中世の墓地のなかで井戸と地下式坑が検出されることが多い(斎藤:1996)。」としていることは、遺構組成を考える上で注目される内容である。

斎藤氏は栃木県内の事例から、地下式坑について墓地や葬送儀礼に関わる機能を考えている。また、地下式坑の構築方法について、北関東では地下室が浅く、埋土の観察から露天掘りの可能性がある地下式坑が存在することを指摘している。竪坑状に掘りこんだのちに渡し板でふたをして土を盛る、いわばオープカット工法によるもので、低地の微高地などで天井を掘りのこすためのロームの厚さが確保できないための工夫と考えている。

今回検出された階段付地下式坑についても、堆積土には天井部の崩落を示す痕跡は認められない。また、現地表面から遺構検出面までは40~50cm程度で、後世の削平や表土の流失等によって天井部が失われたとは考えにくいことから、構築にあたってこの露天掘りのような工法がとられた可能性が考えられる。

地下式坑の研究は比較的新しく、中田 英・半田堅三の両氏が関東地方を中心に地下式坑を集成し、分布・立地・ 機能・時期について整理したことにはじまっている(中田:1977・半田:1979)。地下式坑の定義については、「地 表面下に竪坑を掘り下げて入り口部とし、その底面から横に掘り拡げて本体である地下室を築いた遺構」(中田:1977)で、近世のムロや江戸時代の地下室は除外されている。

半田氏は中田氏による地下式坑の分類をすすめて、斜坑に階段を有する地下式坑について「有段III類」として分類し、「竪坑底が主室底面より深く、1段以上の段差をもって地下室に至るもの」としている。地下式坑の機能については、「中世初頭に発生し一定の機能を持って展開し、中世末にその終末を迎える遺構」であり、「中世仏教を背景に発生した墓地の内部で機能している施設の一つで、再葬のための第一次葬としての施設等も含め広い意味での墓であろう。」と位置づけ、「地下式壙」の語を用いている。

その後小山裕之氏が、従来の地下式坑の形態概念とは異なる、入口部に竪坑の意識がなく、階段最下部から地下室への段差の認められない斜行階段付きの地下式坑について、はじめて「階段付き地下式坑」と分類している。地下式坑の定義についても、「地表面から地下に向かって何らかの入り口施設を設け、その底面から横方向に地下室を築いた中世期の遺構」と広義にとらえている。形態的特徴としては、「単室の地下室を持ち、入口部が地表面から地下室まで連続する階段で構成されるために入口部は斜道化する。」とし、入口部が長大化し、地下室も大型のものから、入口部はあまり長大化せず、地下室も小型のものへという、規模縮小化の変遷を想定している(小山:1995)。機能については、形態的に恒常的出入りを意識したもので、地下室の専有面積も一定量の物品を貯蔵するには十分であるとして貯蔵施設としての役割を考えている。

地下式坑の機能について、従来の「竪坑型」を分類した半田氏が墳墓説をとっているのに対し、小山氏は「階段付き」について貯蔵施設と考えていることは、地下式坑のなかで形態差によってその機能に多様性がある可能性を示している。しかし、ともにこうした地下式坑の時期については、中世から近世の所産と考えている。

今回検出された遺構は、小山氏によって分類されたものに比べて地下室の規模が小型ではあるものの、形態的には「階段付き」地下式坑の概念に含まれるものと考えられる。

機能的には前述のように、貯蔵施設とするには床面積がともに0.7㎡程度であることからも考えにくく、周辺に墓 壙群がある事からも、いわゆる葬送に関わる施設であった可能性が高い。階段を付けるという行為は、恒常的では ないにせよある程度再びこの遺構を利用することを想定したものといえ、その意味では、改葬のような行為を前提 とした施設であった可能性が考えられる。

階段付地下式坑の作られた時期については出土遺物がなくはっきりしないが、16世紀前半の屋敷の建物を切って 構築されており、この時期を大きく下らないものと考えられる。墓壙からは、無文銭1枚と渡来銭(北宋銭)5枚 による六道銭が出土している。この無文銭は、銭径に対する孔径が大きいもので厚さも薄く、このような特徴は無 文銭のなかでも新しい要素とされている。また、六道銭の銭数が6枚に定着するのは中世末と考えられていること からも階段付地下式坑とほぼ同時期の遺構と考えられる。

関東地方では、こうした地下式坑は14世紀後半~16世紀中頃のものとされているが、今回検出された階段付地下式坑と墓壙の時期については16~17世紀初頭としておきたい。今後県内での類例の増加をまって、関東地方の「竪坑型」・「階段付き」地下式坑との比較・検討を行なったうえで遺構の性格・時期を考える必要があろう。

#### (2) 第31次調査

今回の調査で発見された遺構には、竪穴住居跡・竪穴遺構・鍛冶関連遺構・土坑・溝跡・小溝状遺構などがある。 ここではその中で竪穴住居跡について概括的にふれてみたい。

#### ①竪穴住居跡について

竪穴住居跡は7軒があるほか、竪穴遺構1基がある。このうち出土遺跡が少なく時期決定が難しいものもあるが、 前述したように各遺構の出土遺物の検討から次のような年代が考えられる。

栗囲式期:SI05 · 07

#### 平安期 : SI02

南小泉遺跡周辺の名取川下流域では、第11・22次調査地点や、藤田新田遺跡、郡山遺跡などで、いわゆる「関東系土器」が出土している。特に今回の調査区の南東側で行われた第22次調査では、幅7mの大溝で居住域を区画する集落が発見されている。この集落は大溝の西方へと展開しているが、居住域の拡がりについては不明である。報告者は、関東系土器の背景として関東方面からの人の移住を伴う居住形態と、広瀬川を挟んで対岸に位置している郡山遺跡との関連性を考えている。大溝を伴う集落の機能が、郡山遺跡 I 期官衙の成立する時期に終わっていることから、その初期に重要な役割を果たした集落に位置付けられる可能性を指摘している(斎野:1994)。

南小泉遺跡では遺跡範囲の広さも関わって、時期的に中心となる地点の違いが認められている。今のところ関東系土器が出土しているのは遺跡南西部での調査にとどまっている。南小泉遺跡と郡山遺跡の関連性については、これまであまり調査が行われてこなかった遺跡南西部の調査が進み様相が明らかになるなかで、時期差を含めた検討をしていく必要があろう。

## VI まとめ

今回の調査は、宅地造成工事(第30次)、集合住宅建築工事(第31次)に伴う調査として行なわれた。第30次調査 区は遺跡内のほぼ中心に位置し、第31次調査区は西端に位置している。今回の調査で以下のことが明らかとなった。

### 第30次調査

- 1. 弥生時代の遺構は検出されなかったが、これまでの調査と同じく桝形囲式を主体とする土器が出土している。
- 2. 古墳時代の遺構としては、竪穴住居跡27軒があるほか、竪穴遺構7基がある。このうち出土遺物の検討から、南小泉式期の住居跡13軒、住社式期の住居跡8軒が確認された。

南側に隣接する第17次調査でも、中期から後期の住居跡が32軒検出されており、遺跡内でも極めて高い密度を示していることから、この時期の中心となる集落の存在が考えられる。

注目される遺物としては、北海道から東北地方北半に分布する北大式に伴うとされる黒曜石石器がある。仙台 市内では、南小泉遺跡の他に岩切鴻ノ巣遺跡などに出土例がある。

- 3. 奈良・平安時代の遺構・遺物はこれまでの調査でも希薄であり、今回の調査でもその傾向は変わらなかった。 平安時代の住居跡は1軒があるだけで、出土した須恵器の時期は9世紀後半頃と考えられる。
- 4. 中世の遺構としては、屋敷を区画する溝跡とその中枢的な建物跡が検出された。第17次調査の成果と合わせると、一辺半町規模の溝によって区画された方形の屋敷跡の変遷が確認された。
- 5. 屋敷跡以外の中世の遺構として、墓壙群と階段付地下式坑がある。墓壙群は14世紀段階の墓壙群Aと、16世紀 段階の墓壙群Bの2時期に分けられる。2基の階段付地下式坑は、形態や規模が一致していることから、ほぼ同 時期に構築されたもので、墓壙群Bに伴う葬送に関わる施設であったと考えられる。県内ではこれまで階段付地 下式坑については類例がなく、今回が初めての検出例となった。関東地方では、こうした階段付地下式坑は14世 紀後半~16世紀中頃のものとされている。今後県内での類例の増加をまって、他地域の地下式坑との比較・検討 を行なって遺構の性格を考える必要があろう。
- 6. 屋敷跡と墓壙群との関係については、14世紀前半に屋敷が廃絶した後に墓地が作られ、その後16世紀前半に再び屋敷地として利用されたのち、廃絶後に再び墓地として利用された変遷が考えられる。

#### 第31次調查

1. 古墳時代の遺構としては、竪穴住居跡 5 軒があるほか、竪穴遺構 2 基がある。このうち出土遺物の検討から栗 囲式期の住居跡 2 軒が確認された。

注目される遺物としては、いわゆる「関東系土器」が出土している。今回の調査区の南東側で行なわれた第22

次調査では、関東系土器をもつ集落跡の調査から、広瀬川を挟んで対岸に位置している郡山遺跡との関連性が考えられている。南小泉遺跡と郡山遺跡の関連性については、これまであまり調査が行なわれてこなかった遺跡南西部の調査が進み様相が明らかになるなかで、時期差を含めた検討をしていく必要があろう。

2. 平安時代の遺構としては竪穴住居跡 1 軒があるほか、鍛冶関連遺構がある。竪穴遺構 1 基と土坑 4 基・ピット 10 基が検出され、土坑・ピットは建物跡となる可能性がある。主な出土遺物としては、羽口・鉄製品・小鉄片・ 鉄滓・鉱滓等があるほか、土坑やピットの埋土から粒状滓 (湯玉) なども出土している。

#### 第30次調査引用・参考文献

氏家和典:1957 『東北土師器の型式分類とその編年』 「歴史」 第14輯 東北史学会 佐藤信行:1984 『宮城県内の北海道系遺物』 「宮城の研究」第1巻考古学編 清文堂

白鳥良一・古川一明:1991 『土師器の編年 東北』 「古墳時代の研究 6 」 雄山閣

加藤道男:1989 『宮城県における土師器研究の現状』 「考古学論叢」 芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会

半田堅三:1979『本邦地下式壙の類型学的研究-特に関東地方を中心として-』

小山裕之:1995『「階段付き地下式坑」について』 「考古論叢 神奈河|第4集

笹生 衛:1995『東国における中世墓地の諸相-房総の事例を中心に-』「研究紀要」第16号 (財)千葉県文化財センター

斎藤 弘:1996『地下式壙と葬送儀礼-栃木県下の事例を中心に-』「研究紀要」第4号 (財)栃木県文化振興事業団埋蔵文 化財センター

田中則和:1995『仙台市域の中世城館・集落跡』「古代から中世へ」中世都市研究 2 新人物往来社

田中則和:1996『宮城県南小泉遺跡』「東北の貿易陶磁」貿易陶磁研究集会平泉大会資料集 日本貿易陶磁研究会

宮城県文化財調査報告書第35集:1974 「岩切鴻ノ巣遺跡」 東北新幹線関係遺跡調査報告書

宮城県文化財調査報告書第62集:1980 「台ノ山遺跡」 東北新幹線関係遺跡調査報告書

宮城県文化財調査報告書第96集:1983 「朽木橋横穴古墳群 宮前遺跡」

宮城県文化財調査報告書第140集:1990 「合戦原遺跡ほか |

宮城県文化財調査報告書第161集:1994 「山王遺跡」

福島県棚倉町教育委員会:1985「松並平遺跡」

福島県文化財調査報告書第215集:1989 「相馬開発関連遺跡調査報告 I |

仙台市文化財調查報告書第35集:1982 「南小泉遺跡 都市計画街路建設工事関係第1次調查報告」

仙台市文化財調查報告書第140集:1990 「南小泉遺跡第16~18次発掘調查報告書」

仙台市文化財調查報告書第164集:1992 「南小泉遺跡第21次発掘調查報告書」

仙台市文化財調査報告書第182集:1994 「中田南遺跡 |

仙台市文化財調査報告書第196集:1985 「南小泉遺跡第25次調査報告書|

## 第31次調査引用・参考文献

長谷川厚:1993 『関東から東北へ - 律令制成立前後の関東地方と東北地方の関係について-』「二十一世紀への考古学」 櫻井清彦先生古希記念会

村田晃一:1992 『多賀城周辺における奈良・平安時代の須恵器生産』「東日本における古代・中世窯業の諸問題」大戸窯検 討のための会津シンポジウム資料集

宮城県文化財調査報告書第163集:1994 「藤田新田遺跡」

仙台市文化財調查報告書第14集:1979 「仙台市中田町栗遺跡発掘調査報告書」

仙台市文化財調査報告書第43集:1982 「栗遺跡」 仙台市文化財調査報告書第46集:1983 「郡山遺跡III」

仙台市文化財調查報告書第86集:1986 「郡山遺跡VI|

仙台市文化財調查報告書第192集:1994 「南小泉遺跡第22·23次調查報告書|

# 写 真 図 版

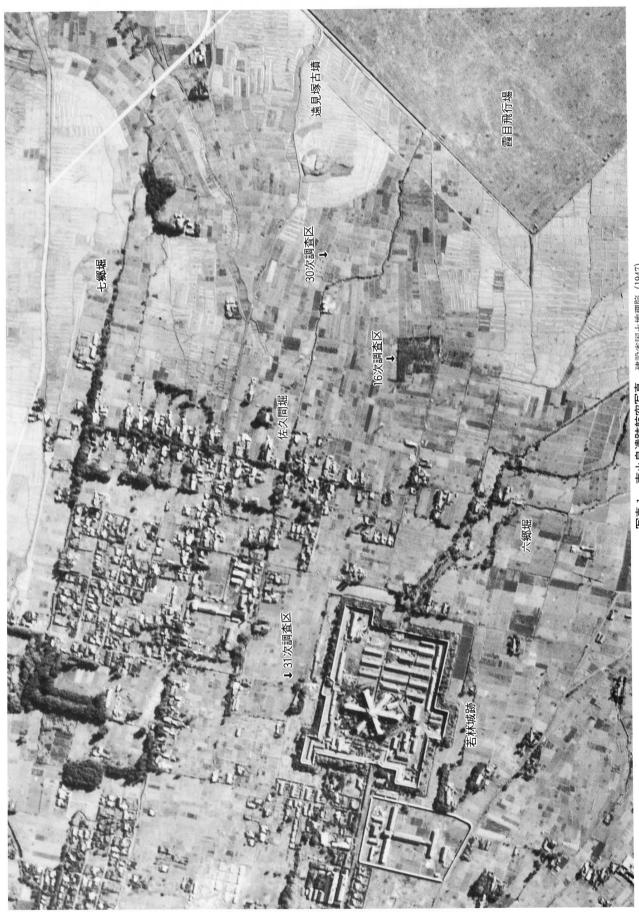


写真 1 南小泉遺跡航空写真 建設省国土地理院 (1947)



写真 2 30次調査区遠景(西から)



写真 3 II区中近世遺構全景 (東から)

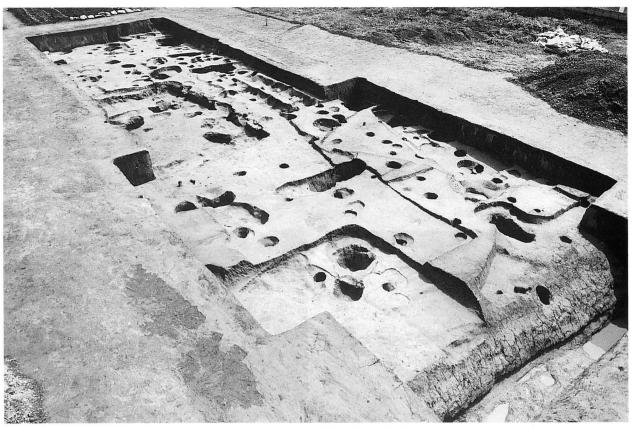


写真 4 【区住居跡群全景(西から)



写真 5 II・III区住居跡群全景(東から)

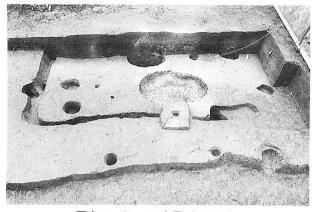


写真 6 SI-01 全景 (西から)



写真7 SI-30 全景(西から)

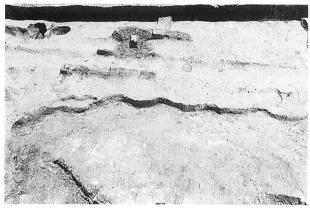


写真 8 SI-02 全景(西から)

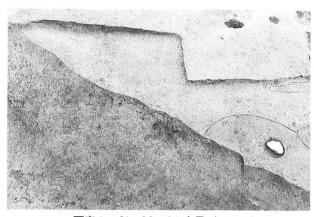


写真 9 SI-03・04 全景 (西から)



写真10 SI-06・07 全景 (東から)

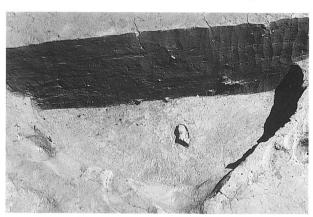


写真11 SI-08 全景(西から)



写真12 SI-05 全景(南から)



写真13 SI-05 カマド (南から)



写真14 SI-05 カマド遺物出土状況(北から)



写真15 SI-09 全景(南から)

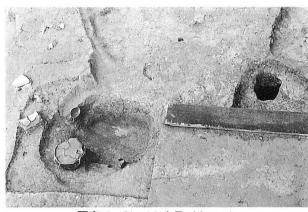


写真16 SI-10全景(南から)

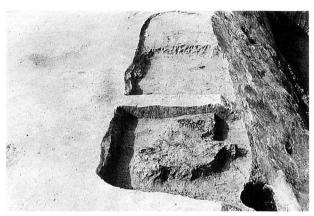


写真17 SI-22 床面検出状況(南から)

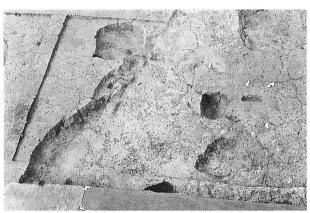


写真18 SI-27 全景(南から)



写真19 SI-29 床面検出状況(東から)

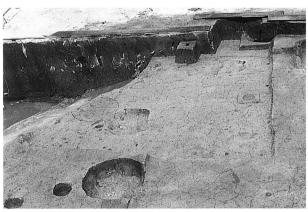


写真20 SI-28 床面検出状況(南から)



写真21 SI-33全景(南から)

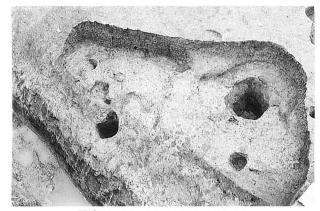


写真22 SI-11全景(南西から)

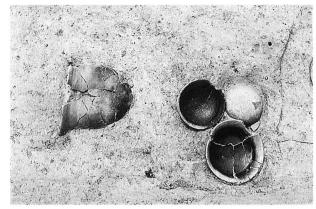


写真23 SI-11 遺物出土状況(東から)



写真24 SI-12 床面検出状況(南から)



写真25 SI-12遺物出土状況(南から)



写真26 SI-25 床面検出状況(南から)



写真27 SI-25 遺物出土状況 (南から)



写真28 SI-13 全景(南から)



写真29 SI-13カマド (南から)



写真30 SI-32 全景(南から)



写真31 SI-32 遺物出土状況(東から)

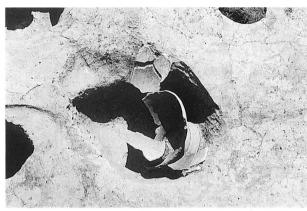


写真32 SI-32 遺物出土状況(北から)

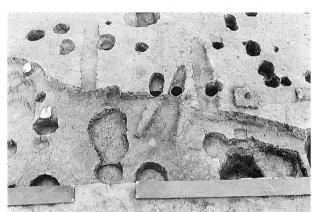


写真33 SI-14 全景(南から)

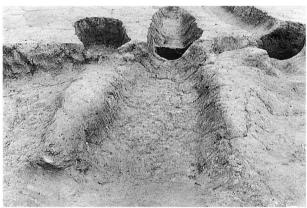


写真34 SI-14 カマド (南から)



写真35 SI-14遺物出土状況(南から)

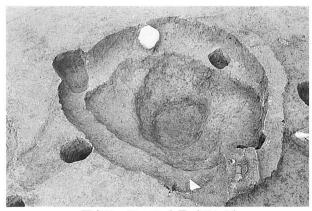


写真36 SI-15 全景(西から)

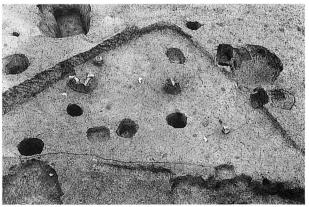


写真37 SI-16 全景(南から)



写真38 SI-23 全景 (東から)

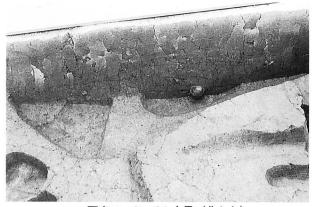


写真39 SI-31 全景(北から)



写真40 SI-31 遺物出土状況(北から)



写真41 SI-34全景(南から)

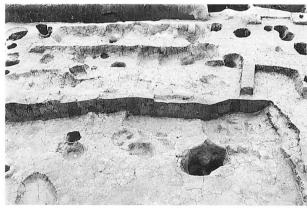


写真42 SI-18 全景(北から)

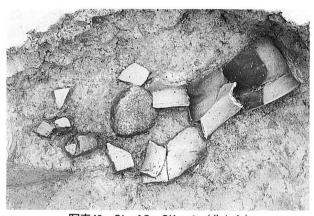


写真43 SI-18・SK-1 (北から)

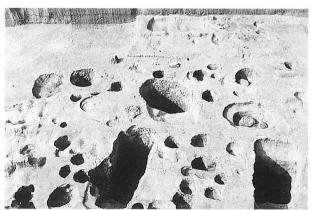


写真44 SI-19全景(南から)

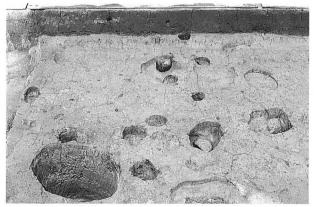


写真45 SI-21 全景(南から)

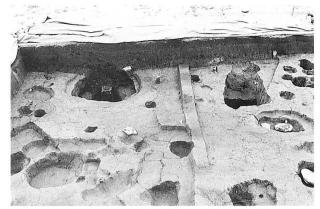


写真46 SI-24 床面検出状況(北から)



写真47 SI-26 全景(南から)

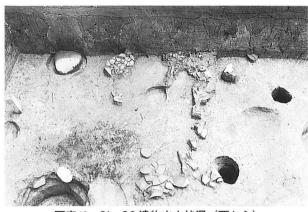


写真48 SI-26 遺物出土状況(西から)

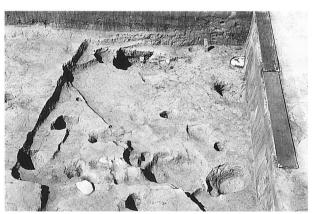


写真49 SI-20全景(南から)

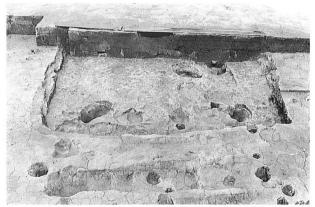


写真50 SI-17 全景(南から)



写真51 SB-01全景(北から)

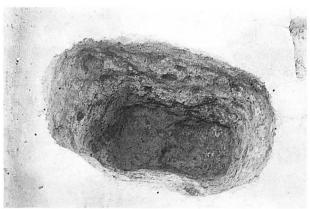


写真52 SK-17 全景 (西から)



写真53 SK-18・19 全景(西から)

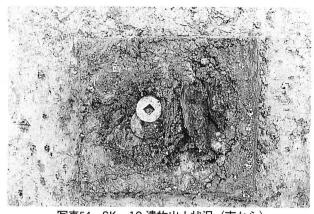


写真54 SK-19 遺物出土状況(南から)

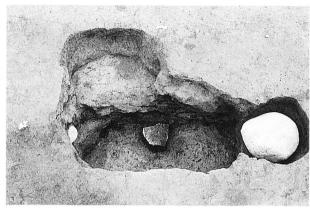


写真55 SK-24 (北から)



写真56 SK-26 全景(北から)

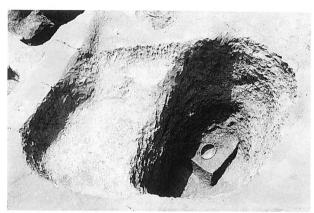


写真57 SK-28全景(南から)

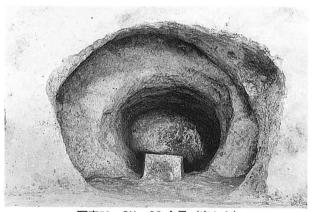


写真58 SK-23全景(南から)



写真59 SD-01 全景 (北から)

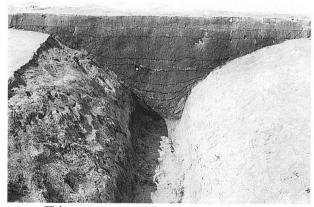


写真60 SD-01 北壁セクション(南から)

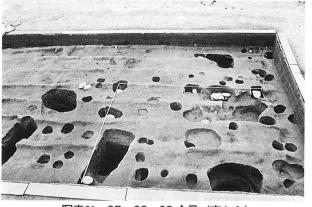


写真61 SB-02・03 全景(南から)

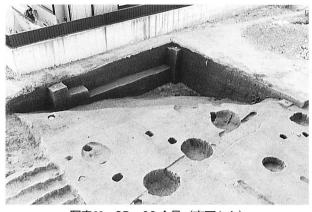


写真62 SD-02全景(南西から)



写真63 SD-02 北壁セクション(南から)



写真64 SD-02集石部(南から)

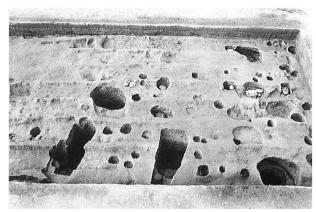


写真65 SK-21・22 全景(南から)



写真66 SK-21 全景(南から)

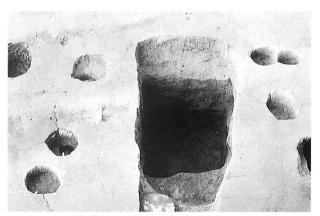


写真67 SK-22全景(南から)

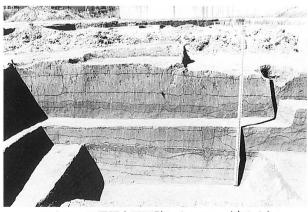


写真68 下層調査区西壁セクション(東から)



写真69 第30次調査参加者

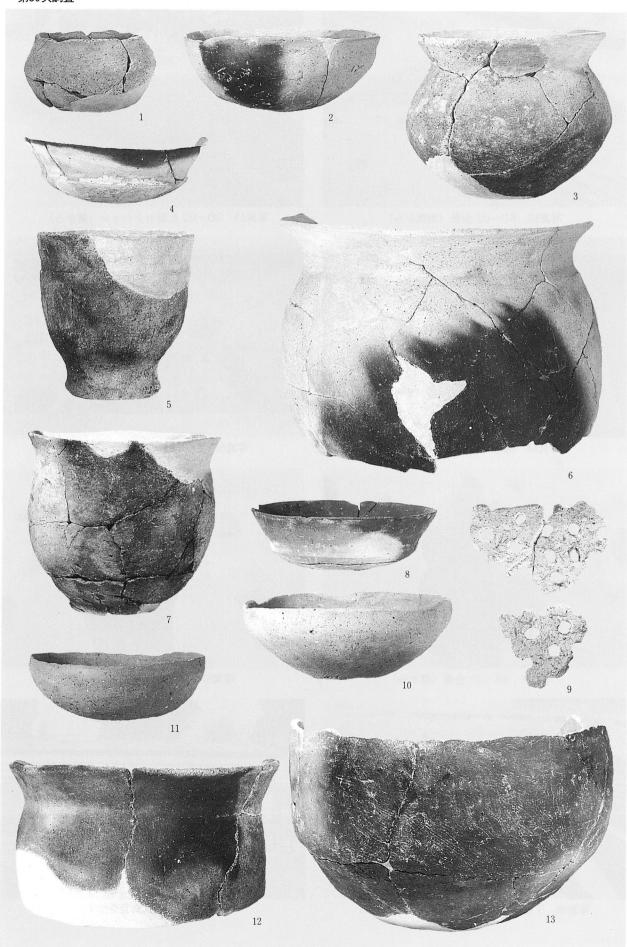


写真70 土師器 (1)

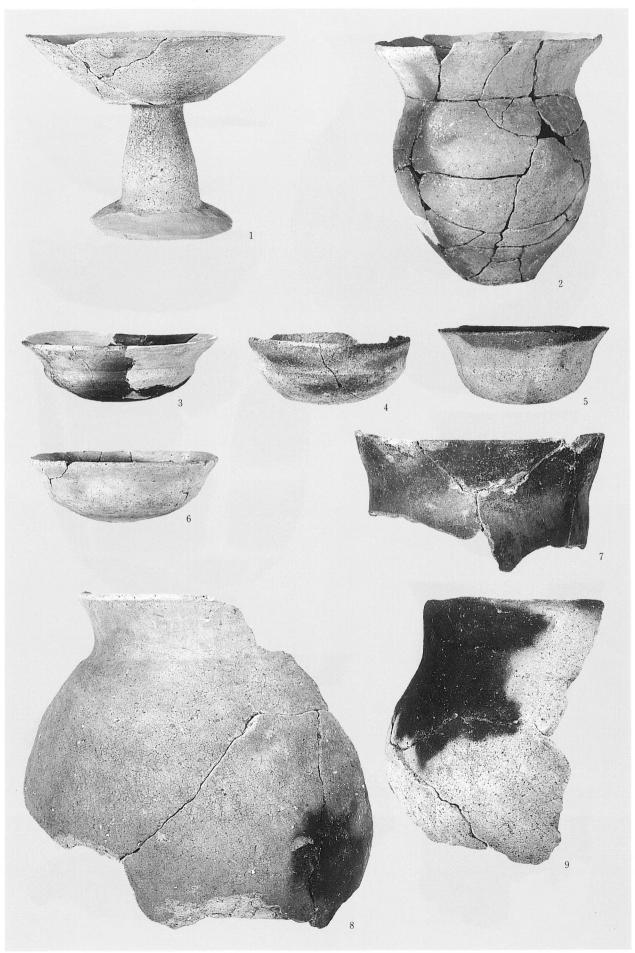


写真71 土師器 (2)

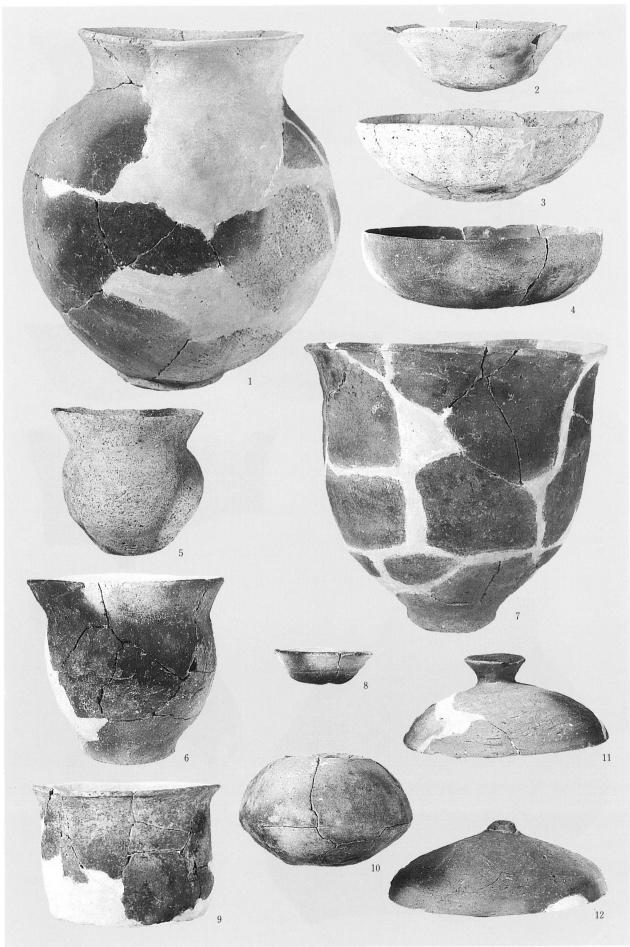


写真72 土師器 (3)

# 第30次調査

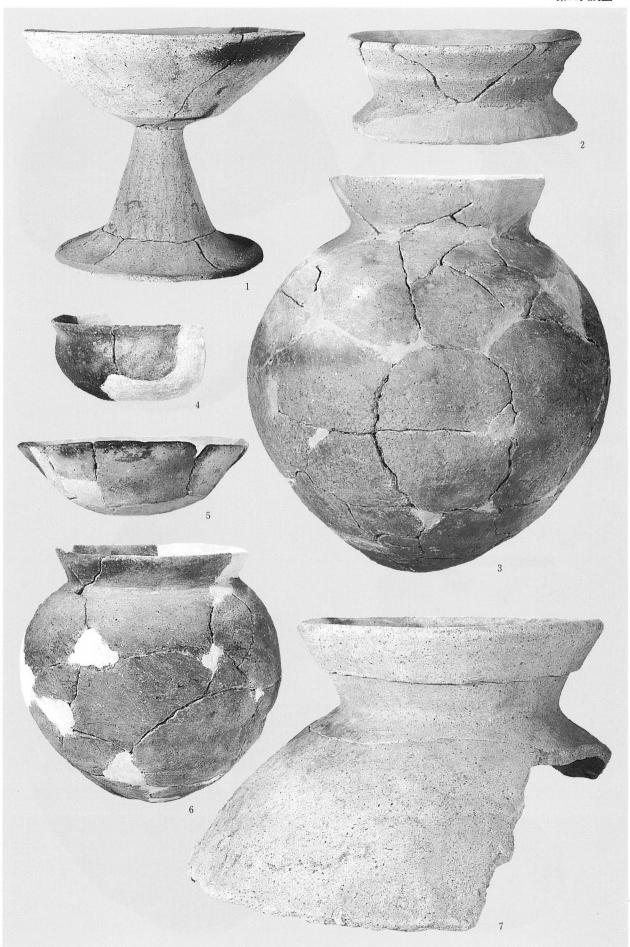


写真73 土師器 (4)

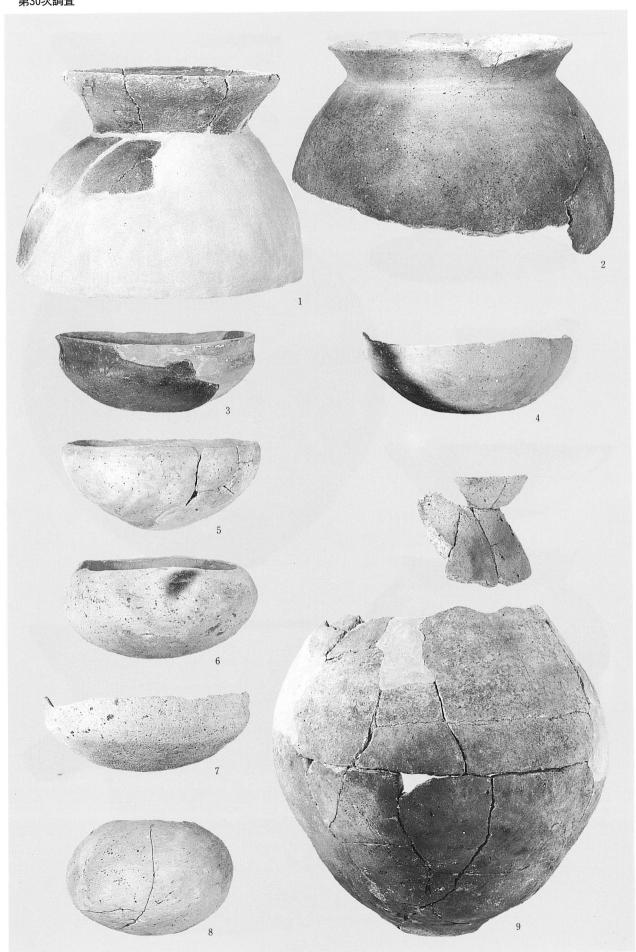


写真74 土師器 (5)

## 第30次調査

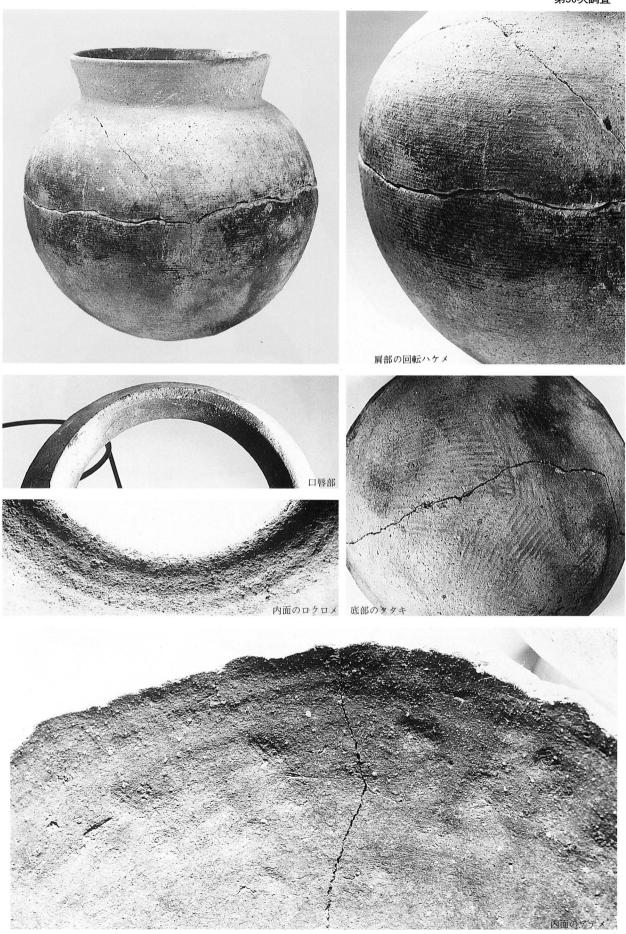


写真75 土師器 (6)

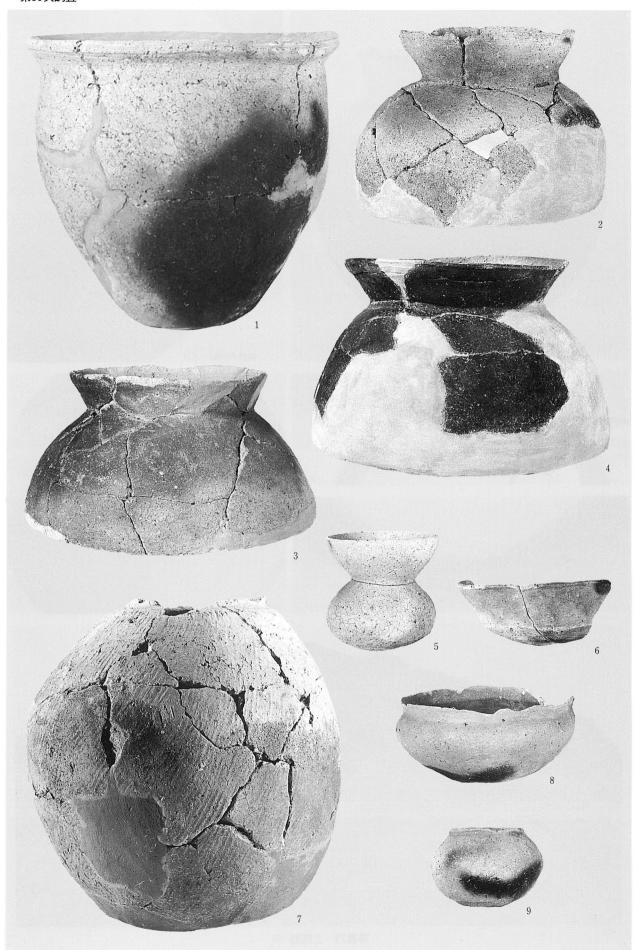


写真76 土師器 (7)

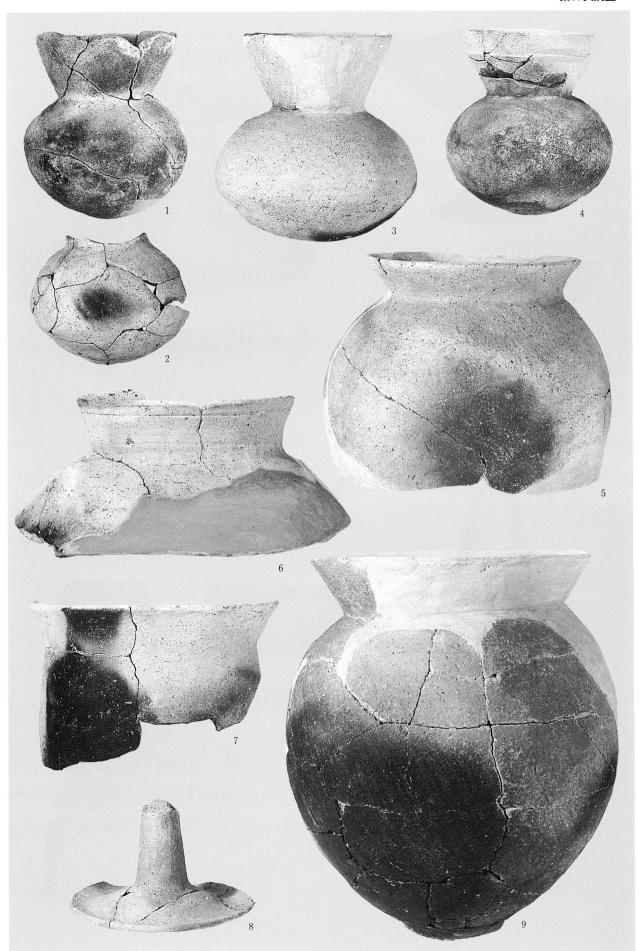


写真77 土師器 (8)



写真78 土師器 (9)

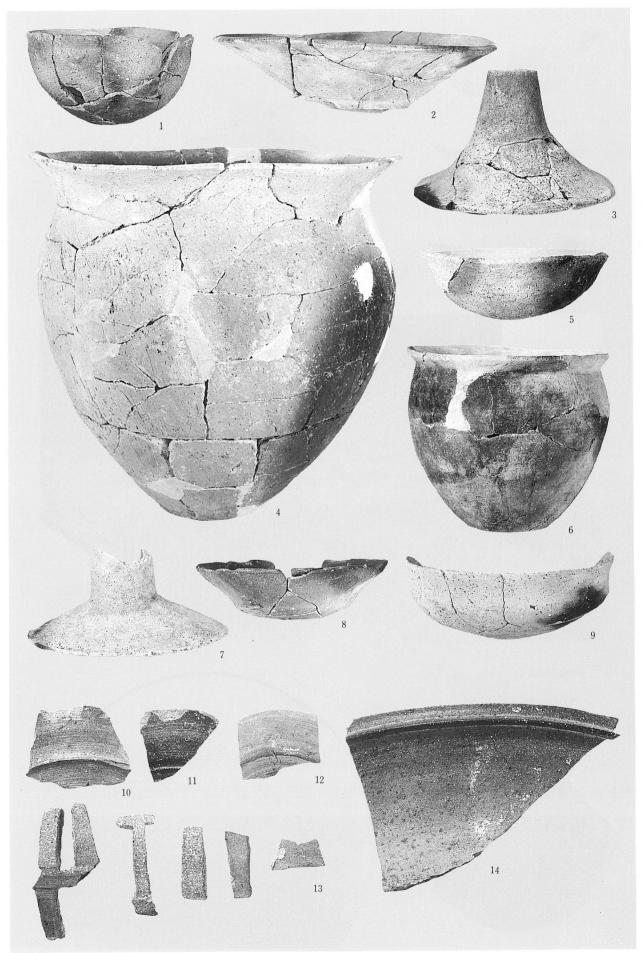


写真79 土師器・須恵器

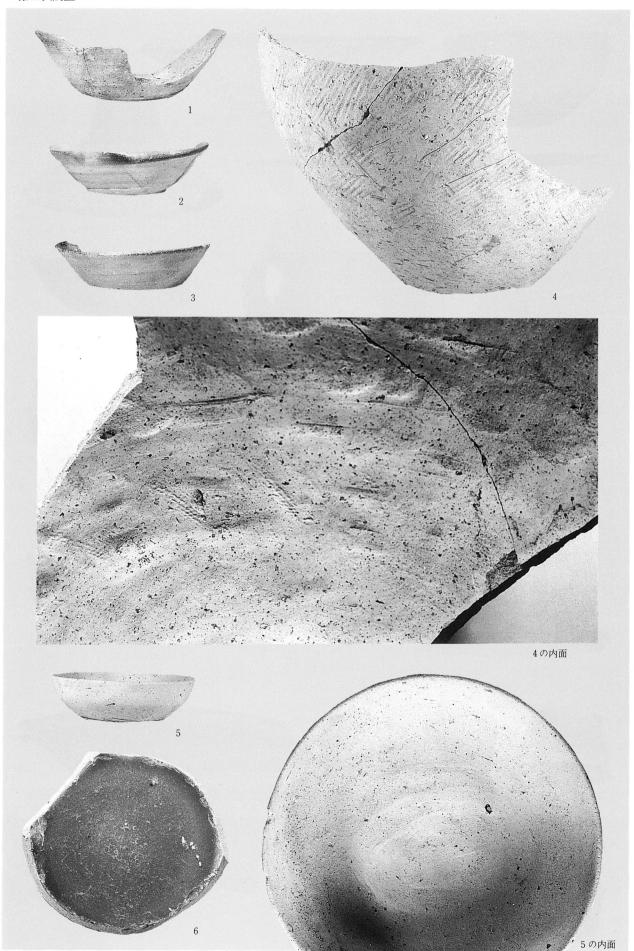


写真80 須恵器・土師質土器・磁器

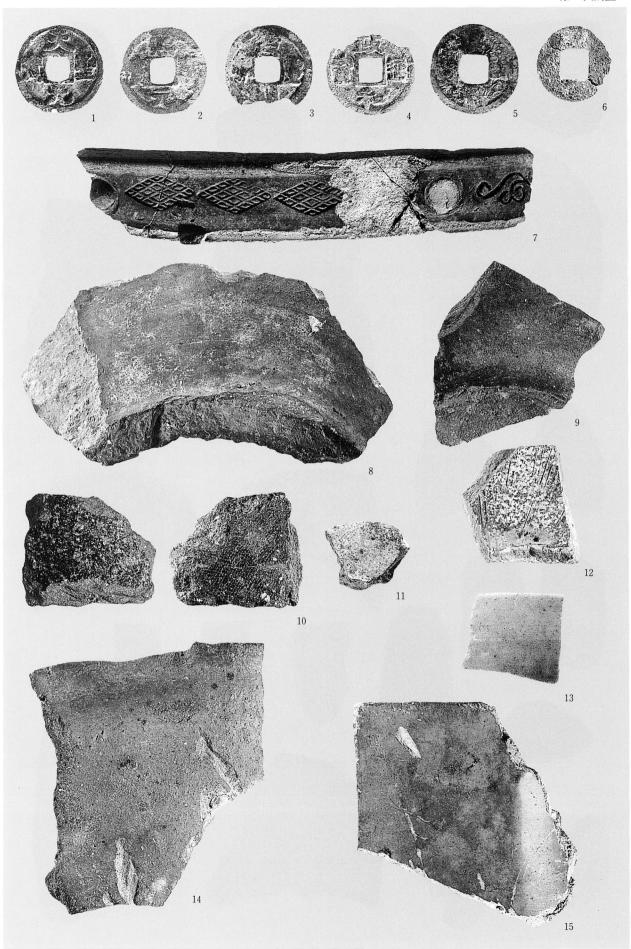


写真81 古銭・陶磁器・瓦

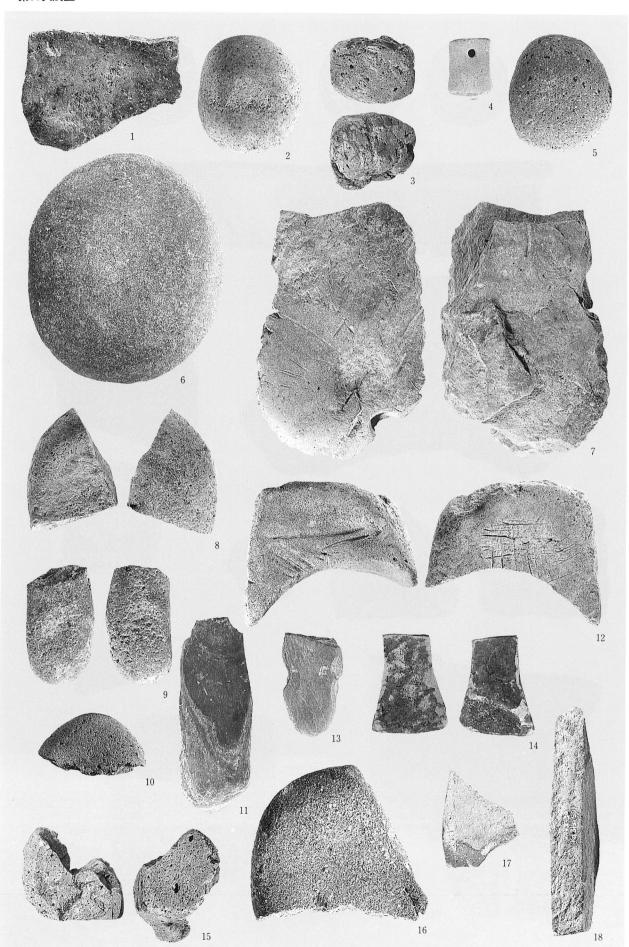


写真82 礫石器

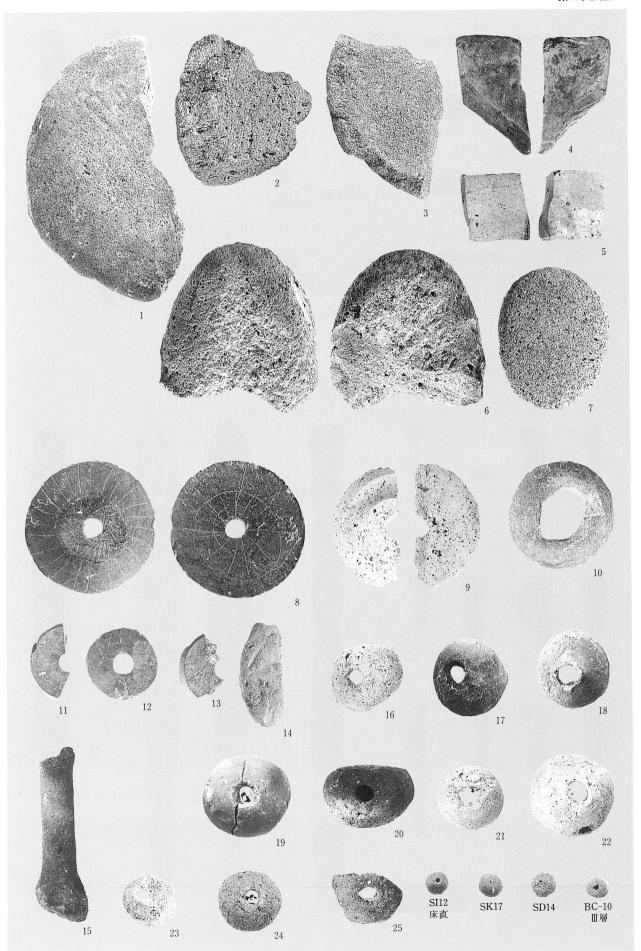


写真83 礫石器・石製品・土製品

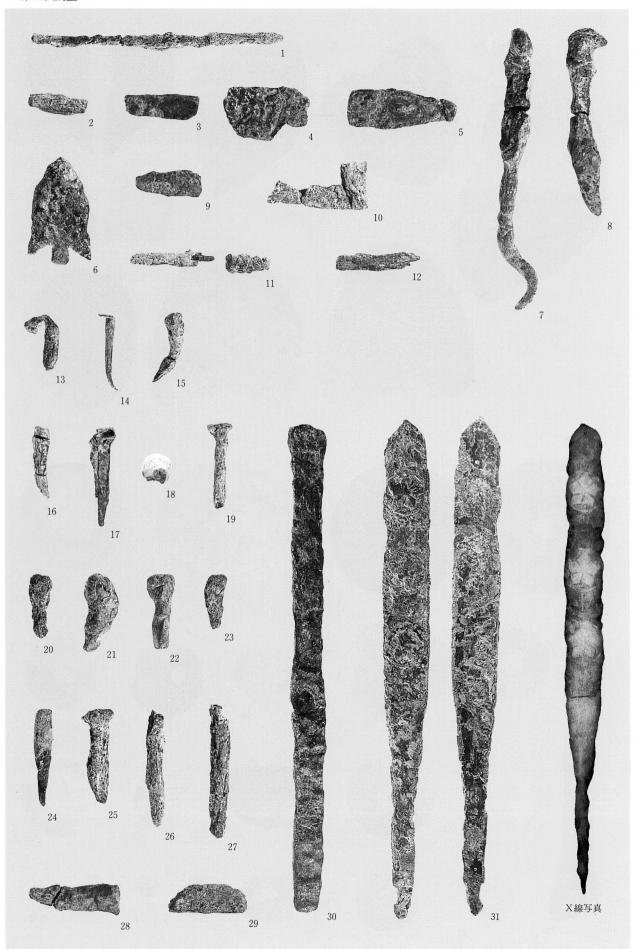


写真84 鉄製品

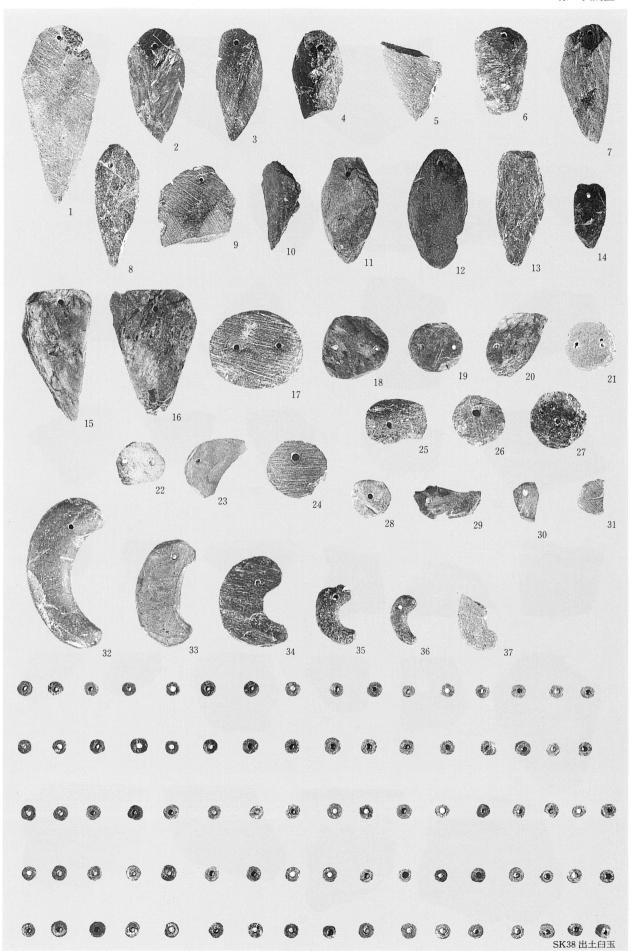


写真85 石製模造品

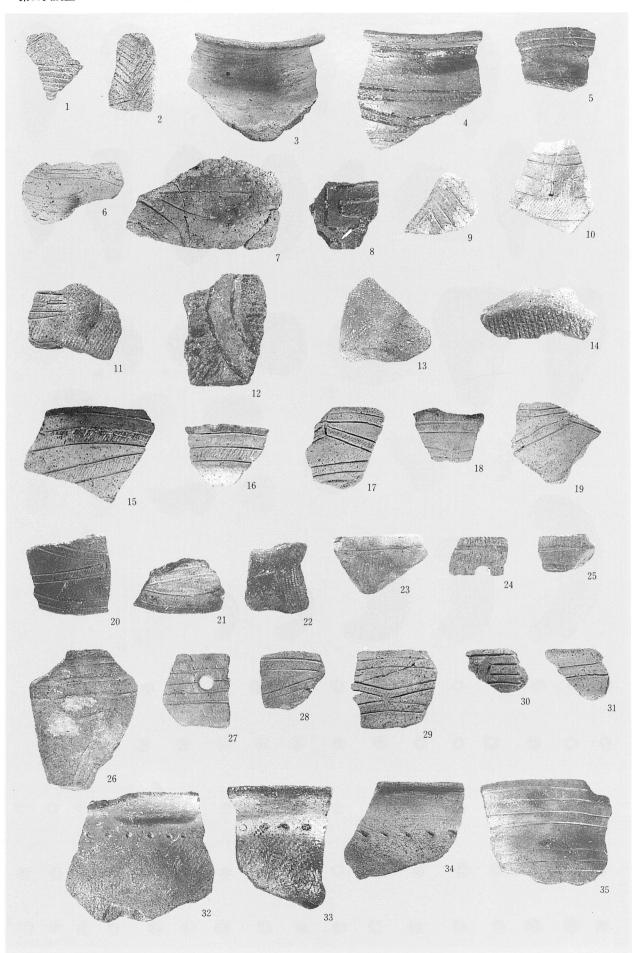


写真86 弥生土器

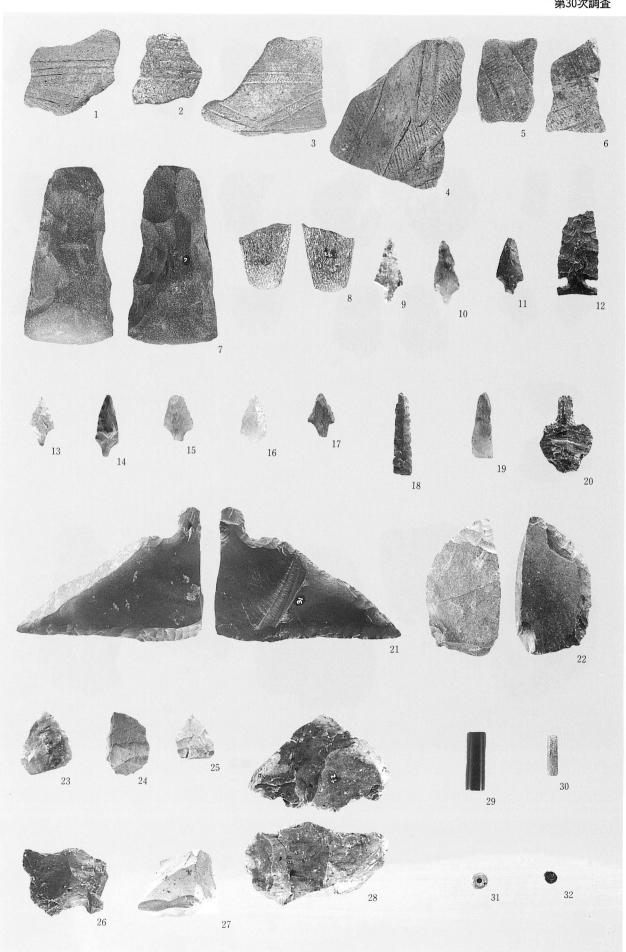


写真87 弥生土器・剝片石器・管玉・ガラス玉

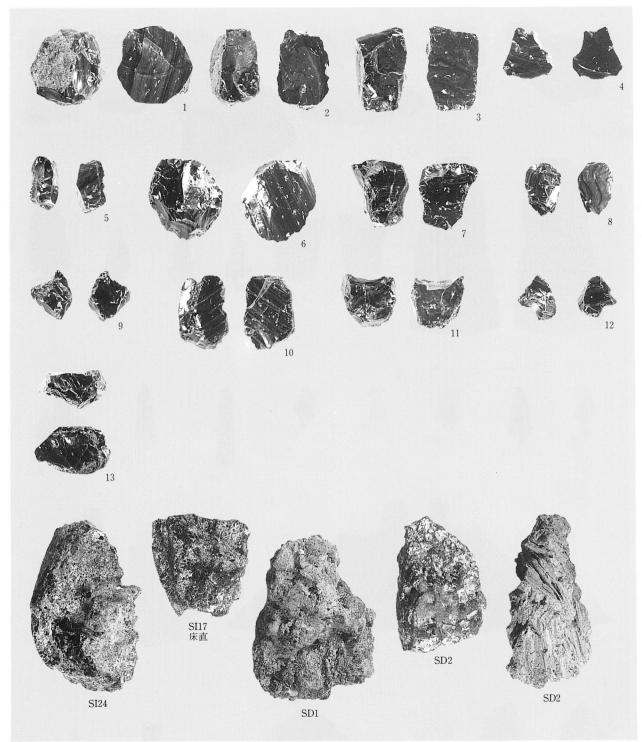


写真88 黒曜石の石器・鉄滓



写真89 II・III区中近世遺構全景(北から)



写真90 Ι・ΙΙ区住居跡群全景(南から)

#### 第31次調査

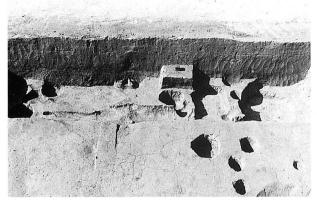


写真91 SI-02 全景(東から)

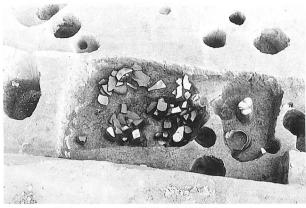


写真92 SI-02遺物出土状況(西から)



写真93 SI-02・SK-3 (北から)



写真94 SI-07 床面検出状況 (西から)

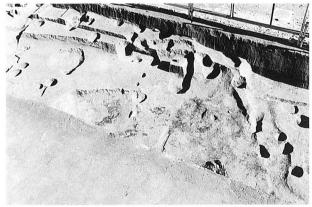


写真95 SI-11全景(西から)



写真96 SI-03 全景(西から)



写真97 SI-09 全景(西から)

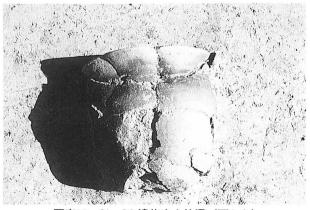


写真98 SI-09 遺物出土状況(西から)

#### 第31次調査

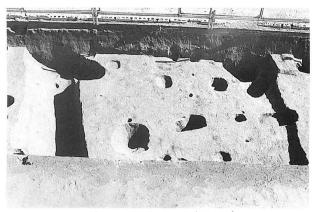


写真99 SI-04全景(西から)

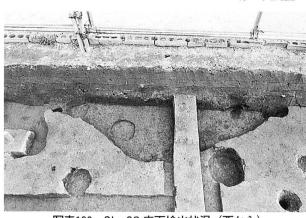


写真100 SI-08 床面検出状況(西から)

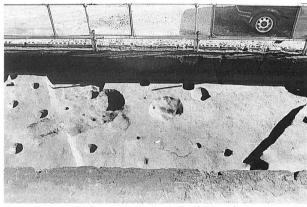


写真101 SI-05 全景(西から)

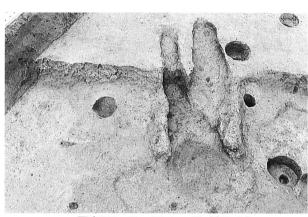


写真102 SI-05 カマド (南から)

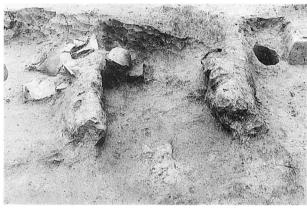


写真103 SI-05 カマド (南から)

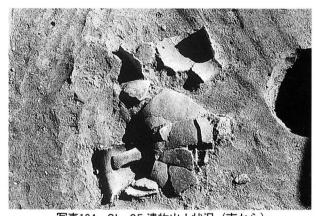


写真104 SI-05 遺物出土状況(南から)



写真105 SI-01全景(西から)

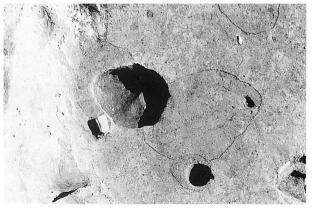


写真106 SI-01 遺物出土状況(西から)

### 第31次調査

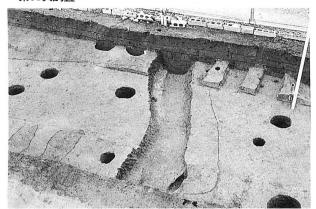


写真107 SD-02 全景 (西から)

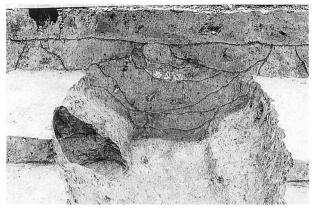


写真108 SD-02 西壁セクション(東から)

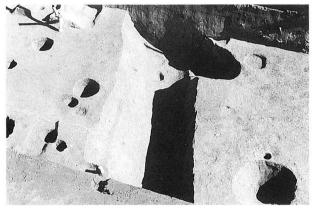


写真109 SD-16 全景 (西から)



写真110 SD-16 セクション(東から)



写真111 SD-03・11・12 全景(南から)

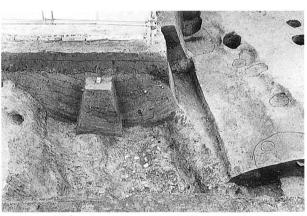


写真112 SD-03・11 全景 (西から)



写真113 SD-03・11 西壁セクション(東から)

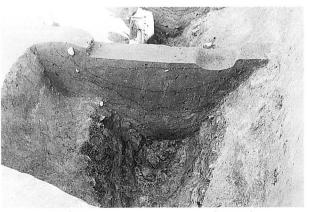


写真114 SD-12 セクション(西から)

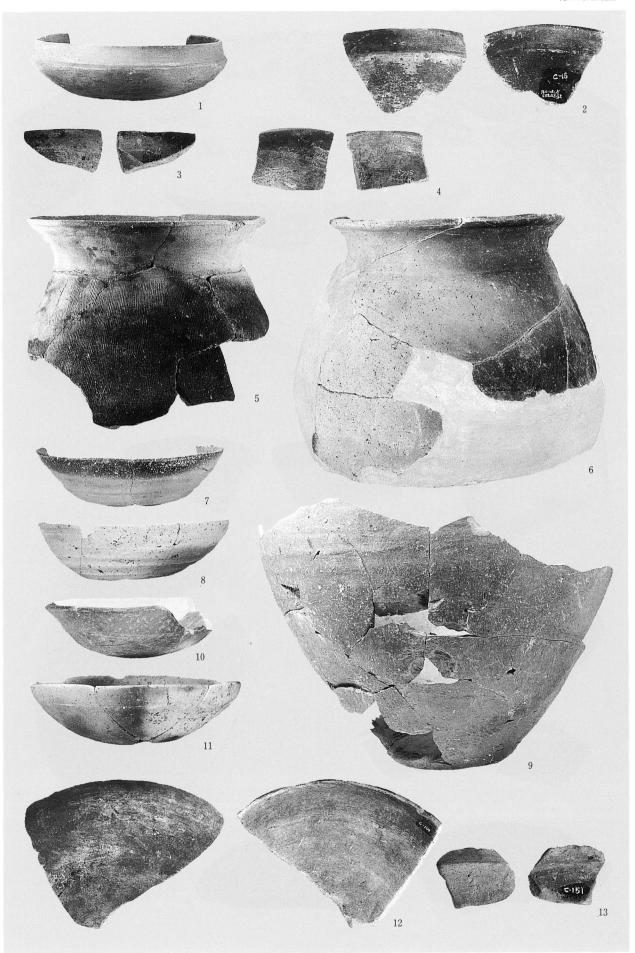


写真115 土師器・須恵器

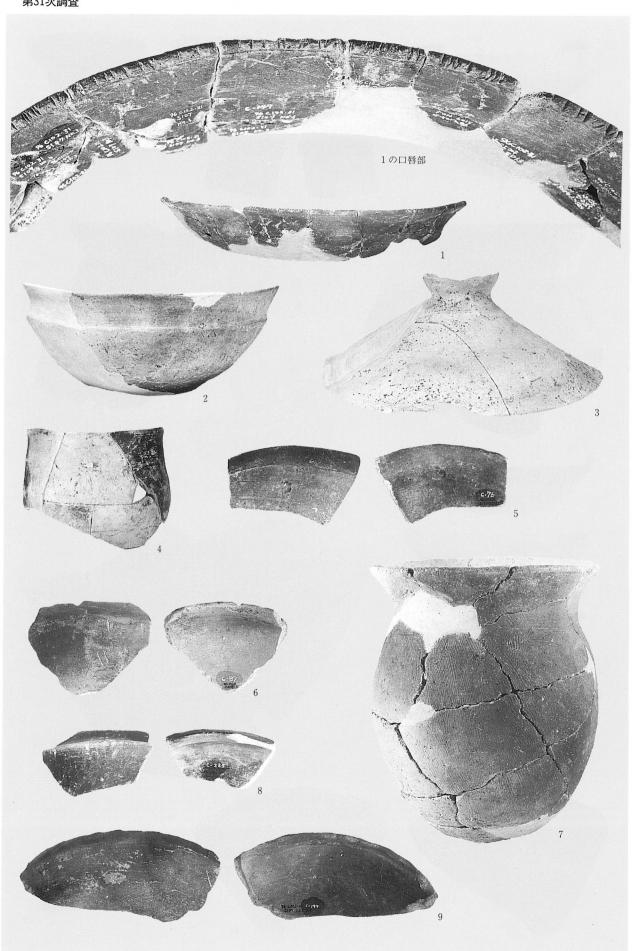


写真116 土師器 (2)



写真117 土師器 (3)

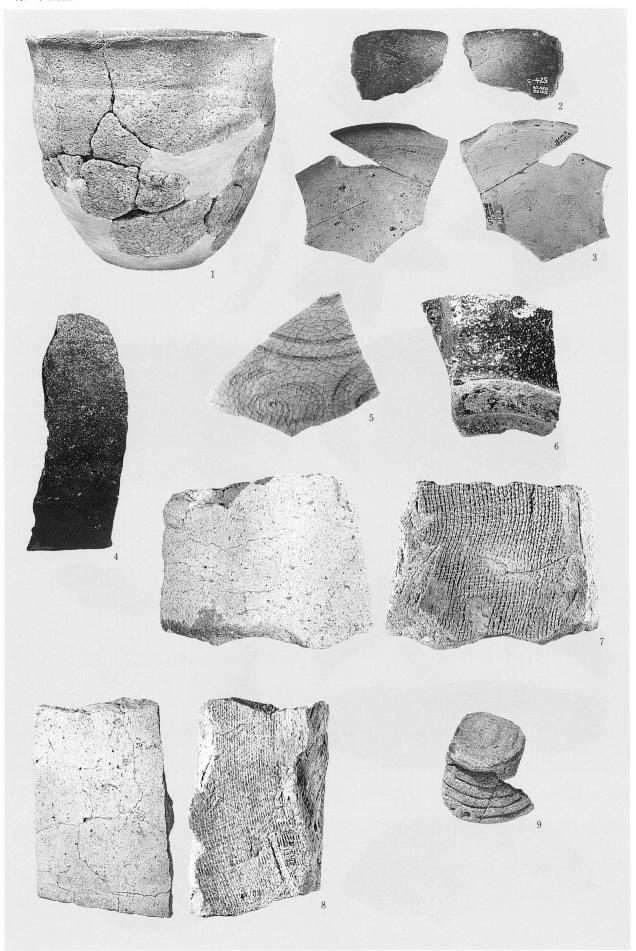


写真118 土師器・陶磁器・瓦・弥生土器

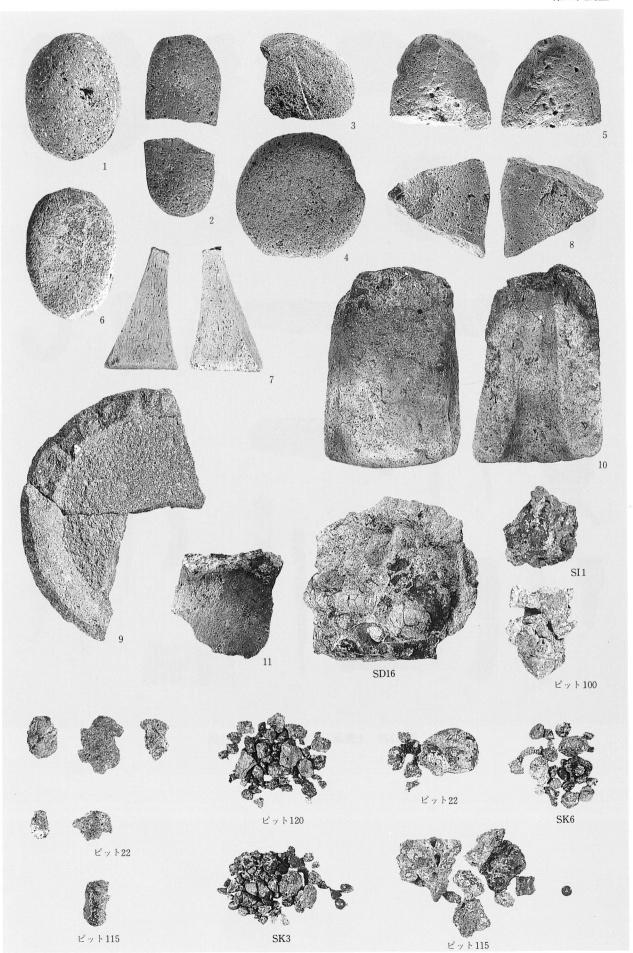


写真119 礫・石器・石臼・羽口・鉄滓など



写真120 土製品・石製品・鉄製品・古銭

# 報告書抄録

ふりがな	みなみこいずみいせき								
書名	南小	南 小 泉 遺 跡							
副書名	第30・31次	第30·31次発掘調査報告書							
巻次									
シリーズ名	仙台市文化	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第226集	第226集							
編著者名	工藤信一郎	工藤信一郎・渡部 紀・根本光一							
編集機関	仙台市教育	仙台市教育委員会							
所 在 地	<b>∓</b> 980-0803	〒980-0803 仙台市青葉区国分町三丁目 7 - 1 TEL 022-214-8893~8894							
発行年月日	1998年 3 月31日								
ふりがな	ふりがな	ふりがな コ		北緯	東経	調査期間	調査面積m²	国本百日	
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	一 イレ 不年	木 莊	明日 分刊	明旦 III作II	調査原因	
	みや ぎ けんせんだい し 宮城県仙台市 おかばやしく とお み づか 若 林区遠見塚 一丁目242-4		01021	38°14′10″	140°54′50″	1996. 5. 7 \$ 1996. 9.13	400	宅地造成工 事に伴う事 前調査	
Micos N. Serreto	宮城県仙台市 おかばやしくみなみといず。 若林区南小寿 四丁目27-1他		01021	38°14′ 5″	140°54′20″	1996. 9.17 \$ 1996.11.14	150	集合住宅建 設工事に伴 う事前調査	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な	な遺構	主な遺物		特記事項		
南小泉遺跡 第30次調査	集落跡	古墳時代	古墳時代中 中世の屋敷		土師器・須恵器・石器 石製品・土製品		階段付地下式坑 2 基 黒曜石石器出土		
南小泉遺跡第31次調査	集落跡	小 古墳時代		ち墳時代後期の集落跡 8治関連遺構		土師器・須恵器・石器		関東系土師器出土	

仙台市文化財調查報告書第226集

# 南小泉遺跡

-第30・31次発掘調査報告書-1998年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会 仙台市青葉区国分町三丁目7-1 文化財課 022(214)8893 発行

株式会社 東北プリント 仙台市青葉区立町24-24 印刷

TEL 263-1166

